

第 53 回ガンカモ類の生息調査
報 告 書
(令和 3 年度)

令和 5 (2023) 年 3 月

環 境 省
自 然 環 境 局

本報告書を英語で引用する場合、以下のとおり記述ください。

Biodiversity Center of Japan, Ministry of the Environment (2023). Annual report of Census on Anatidae Populations in FY2021. Biodiversity Center of Japan, Ministry of the Environment, Yamanashi. Japan

はじめに

我が国は、東アジア地域を季節移動するガン、カモ、ハクチョウ類のフライウェイの一部を構成し、主要な越冬地を提供している。しかしながら、越冬地として適した湖沼や河川、遊水池、干潟などの湿地は、経済の発展とともに環境変化や人為活動、水質汚濁等によって徐々に減少、悪化し、これまでガン、カモ、ハクチョウ類は大きな影響を受けてきた。例えば、かつて東京湾には広大な干潟が広がり、多くのガン、カモ、ハクチョウ類が生息する好適な環境であったが、埋め立てが進んだ現在、目にするのできる種は一部の限られたものとなってしまった。また、ガン類はかつて九州まで広く国内全域に渡来していたが、現在では極めて局所的な越冬地に集中する状態となっている。さらに、我が国への定期的な群れの渡来が見られなくなった種も複数存在する。

昨今のこのような状況から、越冬地の適切な管理や維持を通じたガン、カモ、ハクチョウ類の保全が求められている。我が国のガン、カモ、ハクチョウ類とその生息地を保全することは、フライウェイを介して東アジア地域のガン、カモ、ハクチョウ類保全につながる非常に重要な取り組みである。また、ガン、カモ、ハクチョウ類をはじめとする水鳥は、良好に保たれた水辺環境の指標種としての役割を持っている。そのため、ガン、カモ、ハクチョウ類を含む水鳥の保全が湿地生態系の保全にもつながることは、世界的にも認識されてきている。

本調査は、我が国におけるガン、カモ、ハクチョウ類の冬期の生息状況を把握し、野生生物保護行政に必要な資料を収集することを目的として、環境庁（当時）が発足する以前の昭和45年に、鳥獣行政が林野庁所管の時代に各都道府県の協力を得てスタートした。その後昭和47年からは、野生生物行政の一環として環境庁（当時）が取りまとめを担い、令和3年度調査で第53回を迎えた。本調査の成果として、ガン、カモ、ハクチョウ類の生息状況、渡来傾向、保護管理を図るべき生息地等に関する貴重な資料が得られており、各地の鳥獣保護区指定やラムサール条約湿地を選定するための候補抽出などに活用されている。

本調査の実施にあたっては、都道府県の職員や鳥獣保護管理員、公益財団法人日本野鳥の会、公益財団法人日本鳥類保護連盟及び一般社団法人大日本猟友会の会員の方々に、ご多忙の中、多大な尽力をいただいた。ここに厚く御礼申し上げますとともに、今後とも調査を継続し、さらに充実した資料とするために、より一層のご協力をお願いする次第である。

令和5年3月

環境省自然環境局 生物多様性センター

目 次

要 約 (Abstract)

第1章 調査状況	1
1. 調査目的	1
2. 調査方法	1
3. 調査期日	1
4. 調査規模	2
5. 調査結果の整理	7
6. 亜種の扱い	7
7. 調査成果の活用	7
第2章 令和3年度（第53回）調査結果	8
1. 結果概要	8
2. ハクチョウ類	12
2.1 観察個体数	12
2.2 分布状況	15
2.3 法指定区域別の観察状況	17
2.4 地況別の観察状況	21
3. ガン類	25
3.1 観察個体数	25
3.2 分布状況	29
3.3 法指定区域別の観察状況	31
3.4 地況別の観察状況	36
4. カモ類	40
4.1 観察個体数	40
4.2 分布状況	52
4.3 法指定区域別の観察状況	55
4.4 地況別の観察状況	65
5. 希少なガンカモ類の観察状況	75
5.1 選定基準	75
5.2 希少なガンカモ類の観察状況	76
6. 移入種の観察状況	78
6.1 コブハクチョウ	78
7. 飼養品種の観察状況	80
第3章 都道府県別の調査結果	81

(参考) 第53回ガンカモ類の生息調査実施要領

要 約

環境省は、ガン、カモ、ハクチョウ類の冬期の生息状況を把握し、野生生物保護管理行政に必要な情報を把握するため、都道府県の協力を得て、ガン、カモ、ハクチョウ類の生息状況の把握調査を、毎年1月中旬に全国一斉で実施している。

令和3年度の調査は、実施要領に基づき令和4年1月16日とその前後7日間（計15日間）を原則とし、全国8,795地点において、延べ13,465名の調査員により実施された。

ハクチョウ類は36都道府県の614地点において75,995羽、ガン類は29道府県の138地点において214,980羽、カモ類は47都道府県の6,232地点において1,504,611羽が観察された。観察総数は1,795,586羽であり、令和2年度の1,625,755羽と比べ169,831羽増加した。

観察個体数の多かった種を分類群別に示すと、ハクチョウ類はコハクチョウ（46,647羽）、ガン類はマガン（195,000羽）、カモ類はマガモ（426,378羽）であった。

Abstract

Ministry of the Environment has been conducting a waterfowl Anatidae population census during the winter each year in order to confirm the status of wintering swans, geese and ducks and to collect the information necessary for wildlife management. In cooperation with all prefectures, this census is carried out in January simultaneously throughout Japan.

The census of this year was carried out for 15 days in total before and after January 16th, 2022, at 8,795 observatory sites by a total of 13,465 participants.

75,995 swans were confirmed at 614 sites in 36 prefectures, 214,980 geese at 138 sites in 29 prefectures, 1,504,611 ducks at 6,232 sites in 47 prefectures. The total number of waterfowl counted this year has increased by 169,831 to 1,795,586 compared with the number last year 1,625,755.

The most abundant waterfowl was Tundra Swan (46,647) in swans, Greater White-fronted Goose (195,000) in geese, and Mallard (426,378) in ducks.

第1章 調査状況

1. 調査目的

本調査は国や自治体における野生動物保護管理行政（鳥獣の保護管理、希少種の保全、外来種・鳥インフルエンザ対策等）に効果的に活用されるよう、我が国におけるガン類、カモ類、ハクチョウ類の冬期の生息状況を把握することを目的とした。

2. 調査方法

調査実施に先立ち、過去の調査結果や鳥類保護団体等からの情報に基づいてガン類、カモ類、ハクチョウ類全ての渡来地を抽出し、その位置と地況等を整理した。次いでそれらの中から調査地点を選定した。その際、ハクチョウ類、あるいはガン類の見られる渡来地は全てを選定し、カモ類のみの渡来地については各都道府県の状況（調査体制、調査人数等）に応じて、各都道府県の飛来数を概ね把握できるよう、主要な渡来地を選定した。

現地調査では、調査地点ごとに1名以上の調査員を配置し、双眼鏡や望遠鏡を用いて種ごとに観察個体数を計数した。その他、調査地点での人工給餌の有無や工事の有無、天候なども併せて記録した。

なお、現地調査は各都道府県が主体となり、巻末に示した調査実施要領に従って実施した。

3. 調査期日

現地調査の実施期日は、原則として令和4年1月16日を基準日とした前後1週間（1月9日～23日）としており、都道府県ごとに集中調査日を設定し、天候等の状況によって実施不可能な場合には、その前後に実施することとした（表1-1）。実際は1月9日～23日に8,499地点（約96.6%）で調査が実施された。令和2年度の調査期間に調査された地点数8,311地点（96.2%）と比較すると、調査実施割合は高くなった。また、調査期間より前に調査を実施した地点は263地点（3.0%）、調査期間より後に実施された地点は33地点（0.4%）であった。

表 1-1 調査期日

調査期日	令和3年度		令和2年度	
	地点数	割合(%)	地点数	割合(%)
調査日から一週間以前	263	3.0	262	3.0
調査日の前後一週間 (令和3年度は1/9～1/23)	8,499	96.6	8,311	96.2
調査日から一週間以降	33	0.4	66	0.8
合計	8,795	100.0	8,639	100.0

4. 調査規模

令和3年度の調査は、47都道府県の計8,795地点、総面積378,291 haを対象として、総勢3,619名（延べ13,465名で複数地点を調査している場合がある）の調査員によって実施した。

表1-2に令和2年度からの調査継続状況別の調査地点数を示した。令和2年度から継続して実施されている地点は8,326地点、令和3年度新規に調査を行った地点及び令和2年度は調査を休止していたが令和3年度に調査を復活した地点は469地点であった。また、令和2年度は調査を実施したが、令和3年度は調査を休止した地点は705地点であった。

河川や湖沼等の地況別の調査地点数及び調査面積を表1-3に、都道府県別の調査地点数、調査面積、調査人数及び延べ調査人数を表1-4に、都道府県別の調査員の内訳を表1-5に、調査実施地点を図1-1(1)～(2)に示した。

表 1-2 令和2年度からの調査継続状況

調査継続状況		地点数	割合(%)
調査実施	前年度より調査継続	8,326	94.7
	今年度より調査開始・再開	469	5.3
	合計	8,795	100.0
今年度より調査休止		705	

表 1-3 地況別の調査地点数及び調査面積

地況	調査地点数		調査面積 (ha)	
	地点数	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)
海岸	816	9.3	118,254	31.3
河口	386	4.4	22,225	5.9
河川	3,028	34.4	69,630	18.4
自然湖沼	517	5.9	105,176	27.8
ダム湖	691	7.9	32,768	8.7
その他人造湖	3,087	35.1	16,078	4.3
その他	270	3.1	14,158	3.7
合計	8,795	100.0	378,291	100.0

【備考】割合は、総観察地点数及び総調査面積に対する、地況別の構成比を示す。

※注：小数以下を四捨五入して表示しているため内訳と合計にずれがある

表 1-4 都道府県別調査規模

都道府県	調査地点数	調査面積 (ha)	調査人数	延べ調査人数
北海道	151	11,940	82	333
青森県	235	11,893	56	326
岩手県	332	4,826	105	434
宮城県	515	17,535	104	544
秋田県	296	13,903	58	381
山形県	339	2,611	53	343
福島県	325	8,578	150	544
茨城県	42	21,813	87	118
栃木県	33	1,533	39	77
群馬県	81	1,726	51	83
埼玉県	163	8,405	186	335
千葉県	342	6,921	126	450
東京都	76	3,882	54	140
神奈川県	272	5,186	97	425
新潟県	22	3,142	58	61
富山県	17	1,055	22	26
石川県	10	10,919	56	54
福井県	17	9,944	53	84
山梨県	96	4,553	62	214
長野県	257	6,053	126	295
岐阜県	123	6,267	89	307
静岡県	140	6,026	111	252
愛知県	141	4,660	68	239
三重県	312	7,492	63	362
滋賀県	187	23,672	369	300
京都府	157	6,400	59	373
大阪府	463	4,879	82	634
兵庫県	243	4,378	135	557
奈良県	118	1,432	41	250
和歌山県	224	2,449	83	444
鳥取県	11	12,260	29	29
島根県	225	22,358	80	309
岡山県	15	6,898	51	51
広島県	313	6,553	86	515
山口県	235	5,185	56	287
徳島県	73	10,209	28	73
香川県	177	4,265	31	279
愛媛県	254	15,840	38	322
高知県	90	5,008	84	113
福岡県	287	3,936	66	334
佐賀県	134	4,238	28	695
長崎県	45	36,631	25	74
熊本県	196	2,303	56	217
大分県	439	5,198	66	484
宮崎県	103	5,020	50	226
鹿児島県	293	4,330	94	296
沖縄県	176	3,989	26	176
合 計	8,795	378,291	3,619	13,465

※注：小数以下を四捨五入して表示しているため内訳と合計にずれがある

表 1-5 都道府県別調査員の内訳

都道府県	調査員人数(人)									計
	都道府県 職員	鳥獣保護管理員				鳥獣保護管理員以外				
		保護団体 関係者	狩猟団体 関係者	両団体 関係者	その他	保護団体 関係者	狩猟団体 関係者	両団体 関係者	その他	
北海道	30	0	11	0	3	10	0	12	16	82
青森県	15	0	26	0	15	0	0	0	0	56
岩手県	2	0	21	7	3	11	30	31	0	105
宮城県	95	0	0	0	0	9	0	0	0	104
秋田県	17	0	0	0	0	0	24	0	17	58
山形県	2	0	0	46	1	0	1	0	3	53
福島県	8	9	52	0	2	77	0	0	2	150
茨城県	2	8	0	0	0	77	0	0	0	87
栃木県	20	7	0	0	2	10	0	0	0	39
群馬県	0	0	0	0	0	51	0	0	0	51
埼玉県	0	0	0	0	0	181	0	0	5	186
千葉県	16	4	69	19	7	2	4	1	4	126
東京都	16	0	0	0	38	0	0	0	0	54
神奈川県	33	3	56	0	5	0	0	0	0	97
新潟県	0	3	0	0	0	52	0	0	3	58
富山県	0	2	1	0	6	4	1	0	8	22
石川県	0	0	0	0	0	56	0	0	0	56
福井県	0	0	0	0	0	53	0	0	0	53
山梨県	12	0	38	0	3	8	0	0	1	62
長野県	18	5	67	6	23	2	0	0	5	126
岐阜県	0	0	0	0	0	89	0	0	0	89
静岡県	0	0	0	0	0	67	0	0	44	111
愛知県	20	5	31	0	4	1	4	0	3	68
三重県	15	1	3	0	11	33	0	0	0	63
滋賀県	0	0	0	0	0	369	0	0	0	369
京都府	0	2	0	0	0	57	0	0	0	59
大阪府	2	0	0	0	0	80	0	0	0	82
兵庫県	2	0	0	0	0	109	0	0	24	135
奈良県	0	1	0	0	0	40	0	0	0	41
和歌山県	1	2	12	9	7	39	0	0	13	83
鳥取県	0	0	0	0	0	29	0	0	0	29
島根県	19	1	29	0	4	2	0	0	25	80
岡山県	0	0	0	0	0	51	0	0	0	51
広島県	7	2	3	0	1	72	0	0	1	86
山口県	1	1	38	0	6	0	9	0	1	56
徳島県	0	0	0	0	0	28	0	0	0	28
香川県	0	4	0	0	0	27	0	0	0	31
愛媛県	0	0	0	0	0	38	0	0	0	38
高知県	4	0	0	38	0	0	0	42	0	84
福岡県	0	8	56	1	1	0	0	0	0	66
佐賀県	0	6	10	5	3	3	0	0	1	28
長崎県	0	0	0	0	0	23	2	0	0	25
熊本県	7	3	36	5	4	0	0	1	0	56
大分県	4	0	2	0	0	7	53	0	0	66
宮崎県	14	0	23	0	13	0	0	0	0	50
鹿児島県	2	0	84	0	8	0	0	0	0	94
沖縄県	0	8	6	2	10	0	0	0	0	26
合計	384	85	674	138	180	1,767	128	87	176	3,619

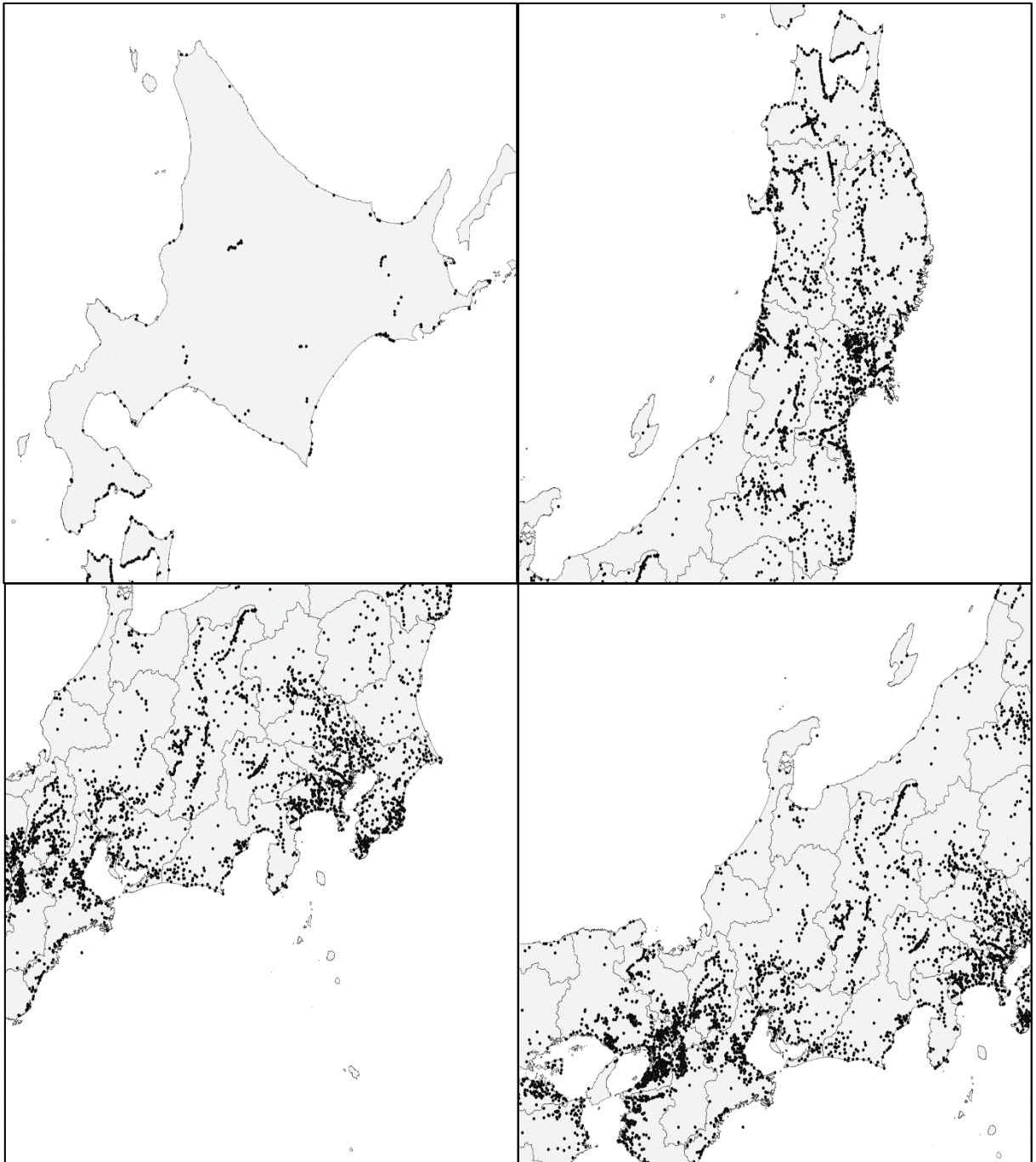


図 1-1(1) 調査実施地点

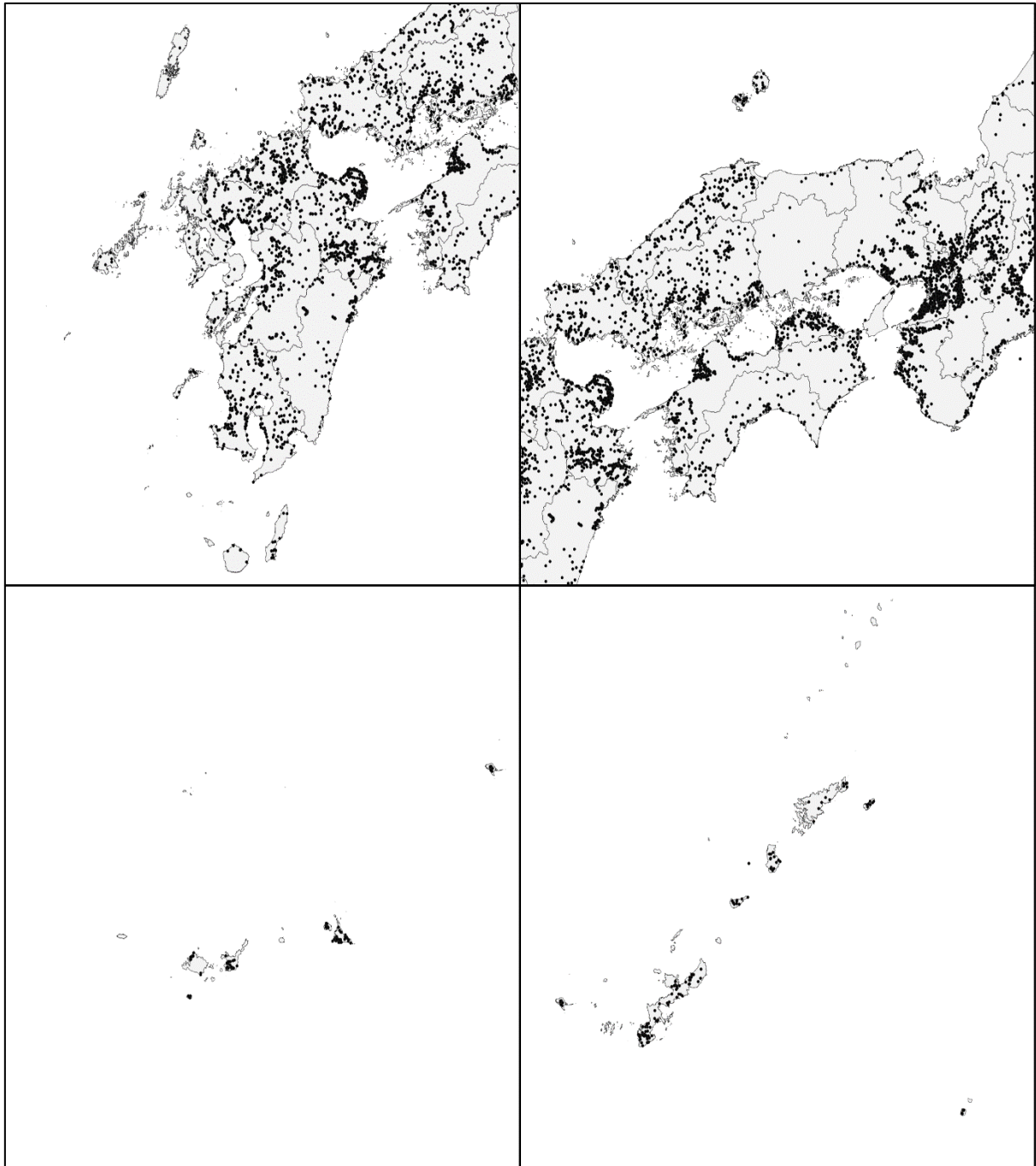


図 1-1(2) 調査実施地点

5. 調査結果の整理

各都道府県からの報告を受けた調査結果について、沿岸性の種の内陸部での記録や、希少種の大きな群れなどの生態学的に疑問のある観察記録（以下「生物学的チェック」という。）及び内訳と合計が一致しない箇所の確認（以下「論理的チェック」という。）を行い、これらの疑義について各都道府県に問い合わせを行った。本調査結果はこれらのチェックを経て得られたデータである。

なお、以下のとりまとめでは、調査地点のうち、実際にガン、カモ、ハクチョウ類が1羽でも観察された地点の数を「観察地点数」として示し、ガン、カモ、ハクチョウ類が観察されない地点を含む「調査地点数」と区別している。

6. 亜種の扱い

本報告書で用いているデータは、基本的に亜種を含む種を対象として整理を行っている。

ただし、コハクチョウは、単独で記載している場合は亜種を含む種コハクチョウを意味し、コハクチョウとアメリカコハクチョウを併記している場合は、コハクチョウは亜種コハクチョウを、アメリカコハクチョウは亜種アメリカコハクチョウを意味する。また、シジュウカラガンは、シジュウカラガンと記載している場合は亜種を含む種シジュウカラガン（カナダガンを除く。）を意味する。

7. 調査成果の活用

本調査の結果は、環境省生物多様性センターのウェブサイト (https://www.biodic.go.jp/gankamo/gankamo_top.html) で公開されており、年次報告書及び確定値（都道府県別、調査地点別）が公開されている。

調査成果は、下記のような施策や国際的枠組み等で活用されている。

- 施策への活用：二国間渡り鳥条約会議への情報提供
- 保護地域の見直し：鳥獣保護区更新にあたっての基礎資料として活用
- 国際協力：Asian Waterbird Census への情報提供
- 環境アセスメントへの活用：「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」で参照すべきデータとして引用

また、調査成果を利用した研究の報告や発表について生物多様性センターに報告があったものについても、上記 Web サイトで公表している。

第2章 令和3年度（第53回）調査結果

1. 結果概要

令和3年度の調査では、調査を行った8,795地点のうち6,351地点で、総計1,795,586羽のガン、カモ、ハクチョウ類が観察された。分類群別では、ハクチョウ類75,995羽、ガン類214,980羽、カモ類1,504,611羽であった（図2-1-1）。

都道府県別の観察個体数を表2-1-1に示した。ハクチョウ類が最も多く観察された都道府県は新潟県で、ハクチョウ類全体の28.1%にあたる21,365羽が観察され、次いで宮城県、山形県でそれぞれ16,241羽（21.4%）、10,479羽（13.8%）が観察された。ガン類が最も多く観察された都道府県は宮城県で、ガン類全体の87.1%にあたる187,189羽が観察され、次いで新潟県、島根県でそれぞれ14,348羽（6.7%）、3,187羽（1.5%）が観察された。また、カモ類が最も多く観察された都道府県は茨城県で、カモ類全体の9.8%にあたる147,950羽が観察され、次いで千葉県、新潟県でそれぞれ105,277羽（7.0%）、78,239羽（5.2%）が観察された。

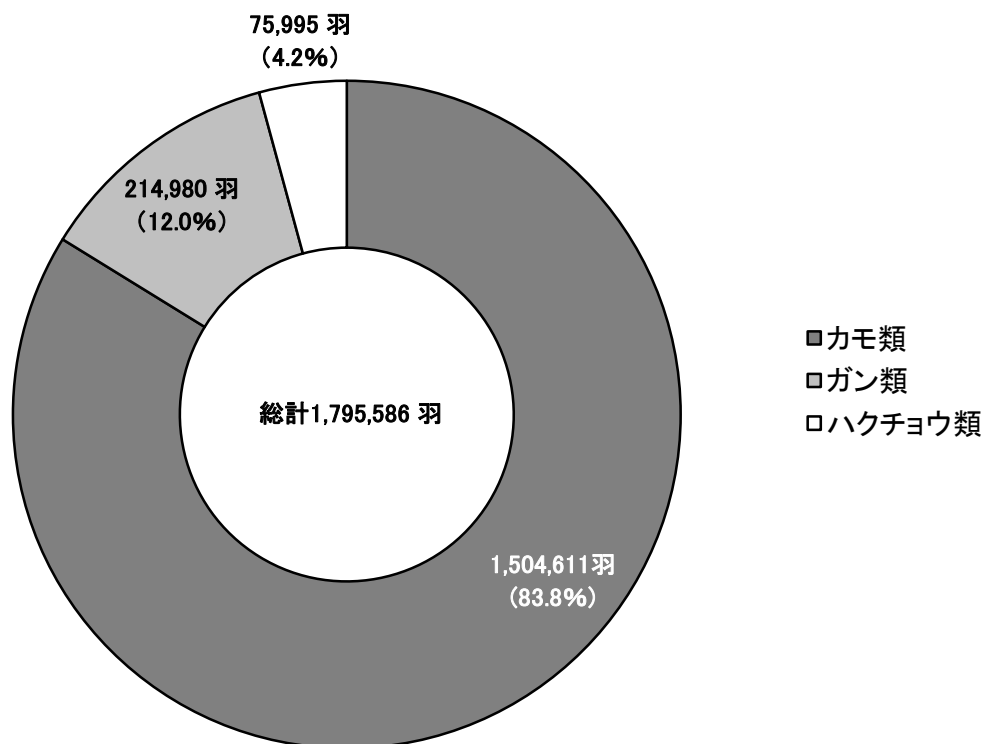


図 2-1-1 ガン、カモ、ハクチョウ類の観察個体数の内訳

表 2-1-1 都道府県別のガン、カモ、ハクチョウ類の観察個体数

都道府県	観察地点数	ハクチョウ類		ガン類		カモ類		合計	
		観察個体数 (羽)	国内割合 (%)	観察個体数 (羽)	国内割合 (%)	観察個体数 (羽)	国内割合 (%)	観察個体数 (羽)	国内割合 (%)
北海道	124	3,079	4.1	100	<0.05	6,905	0.5	10,084	0.6
青森県	156	1,809	2.4	684	0.3	6,417	0.4	8,910	0.5
岩手県	233	3,892	5.1	3,106	1.4	11,165	0.7	18,163	1.0
宮城県	303	16,241	21.4	187,189	87.1	53,768	3.6	257,198	14.3
秋田県	151	572	0.8	1,085	0.5	6,349	0.4	8,006	0.4
山形県	189	10,479	13.8	1,653	0.8	24,796	1.6	36,928	2.1
福島県	243	6,443	8.5	151	0.1	39,346	2.6	45,940	2.6
茨城県	42	1,020	1.3	216	0.1	147,950	9.8	149,186	8.3
栃木県	33	374	0.5	10	<0.05	17,909	1.2	18,293	1.0
群馬県	76	385	0.5	0	—	15,485	1.0	15,870	0.9
埼玉県	149	210	0.3	0	—	27,976	1.9	28,186	1.6
千葉県	253	1,351	1.8	29	<0.05	105,277	7.0	106,657	5.9
東京都	69	6	<0.05	0	—	23,032	1.5	23,038	1.3
神奈川県	175	2	<0.05	2	<0.05	9,449	0.6	9,453	0.5
新潟県	22	21,365	28.1	14,348	6.7	78,239	5.2	113,952	6.3
富山県	17	998	1.3	0	—	18,481	1.2	19,479	1.1
石川県	10	3,988	5.2	2,133	1.0	49,257	3.3	55,378	3.1
福井県	17	128	0.2	199	0.1	25,128	1.7	25,455	1.4
山梨県	47	61	0.1	0	—	2,830	0.2	2,891	0.2
長野県	140	749	1.0	0	—	11,205	0.7	11,954	0.7
岐阜県	118	63	0.1	5	<0.05	25,079	1.7	25,147	1.4
静岡県	129	8	<0.05	2	<0.05	24,615	1.6	24,625	1.4
愛知県	126	3	<0.05	0	—	36,013	2.4	36,016	2.0
三重県	235	0	—	15	<0.05	46,787	3.1	46,802	2.6
滋賀県	171	612	0.8	240	0.1	77,047	5.1	77,899	4.3
京都府	137	11	<0.05	6	<0.05	21,243	1.4	21,260	1.2
大阪府	385	0	—	0	—	35,832	2.4	35,832	2.0
兵庫県	210	44	0.1	31	<0.05	37,251	2.5	37,326	2.1
奈良県	114	0	—	0	—	16,553	1.1	16,553	0.9
和歌山県	126	0	—	0	—	11,180	0.7	11,180	0.6
鳥取県	11	455	0.6	456	0.2	19,369	1.3	20,280	1.1
島根県	154	1,585	2.1	3,187	1.5	47,589	3.2	52,361	2.9
岡山県	14	0	—	0	—	25,917	1.7	25,917	1.4
広島県	256	0	—	2	<0.05	38,831	2.6	38,833	2.2
山口県	192	1	<0.05	30	<0.05	23,604	1.6	23,635	1.3
徳島県	69	0	—	0	—	21,752	1.4	21,752	1.2
香川県	154	9	<0.05	0	—	21,159	1.4	21,168	1.2
愛媛県	191	0	—	0	—	29,824	2.0	29,824	1.7
高知県	52	1	<0.05	0	—	25,527	1.7	25,528	1.4
福岡県	213	19	<0.05	13	<0.05	29,717	2.0	29,749	1.7
佐賀県	105	0	—	0	—	49,634	3.3	49,634	2.8
長崎県	41	22	<0.05	46	<0.05	65,753	4.4	65,821	3.7
熊本県	142	4	<0.05	0	—	26,096	1.7	26,100	1.5
大分県	249	0	—	1	<0.05	21,153	1.4	21,154	1.2
宮崎県	68	0	—	0	—	18,970	1.3	18,970	1.1
鹿児島県	169	5	<0.05	3	<0.05	24,847	1.7	24,855	1.4
沖縄県	71	1	<0.05	38	<0.05	2,305	0.2	2,344	0.1
合計	6,351	75,995	100.0	214,980	100.0	1,504,611	100.0	1,795,586	100.0

【備考】 国内割合は、各都道府県の観察個体数の、全国合計に対する構成比を示す。
観察地点数は調査地点のうち、実際にガンカモ類が確認された地点の数を示す。

昭和44年度からの観察個体数の推移と調査地点数をそれぞれ図2-1-2、図2-1-3に示した。令和3年度は、ガン、カモ、ハクチョウ類全体の観察個体数は令和2年度と比べて10.4%増加した。分類群別に見ると、ハクチョウ類では10.9%増加、ガン類では89.0%増加、カモ類では4.2%の増加であった。

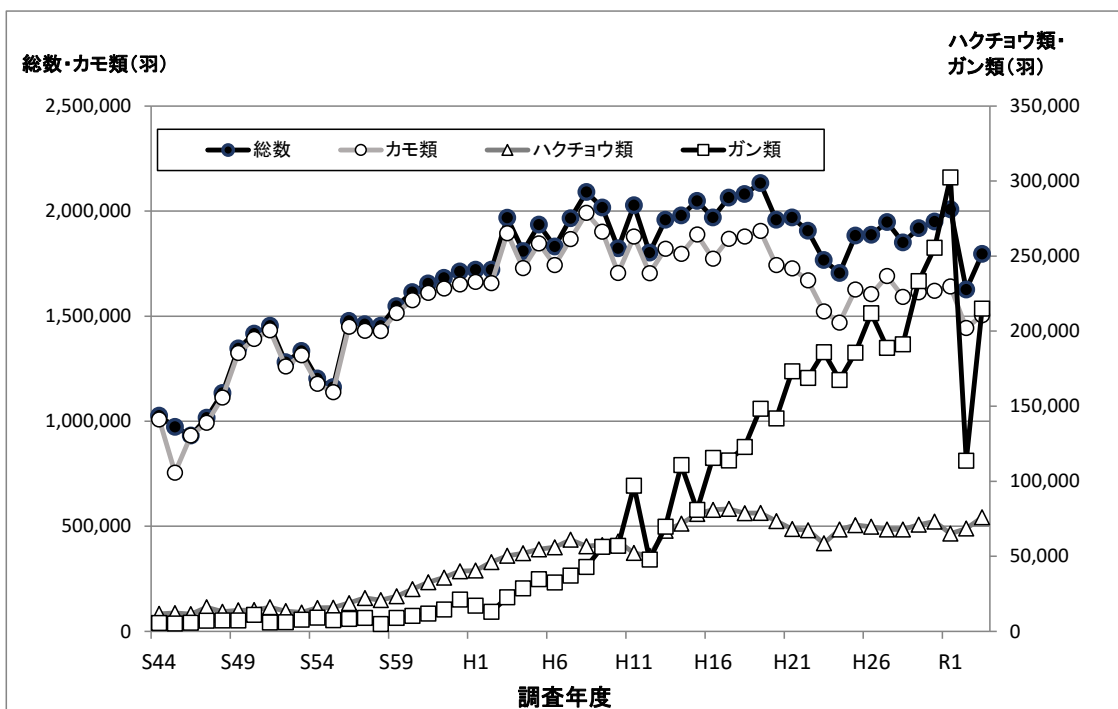


図 2-1-2 昭和 44 年度からのガン、カモ、ハクチョウ類観察個体数の推移

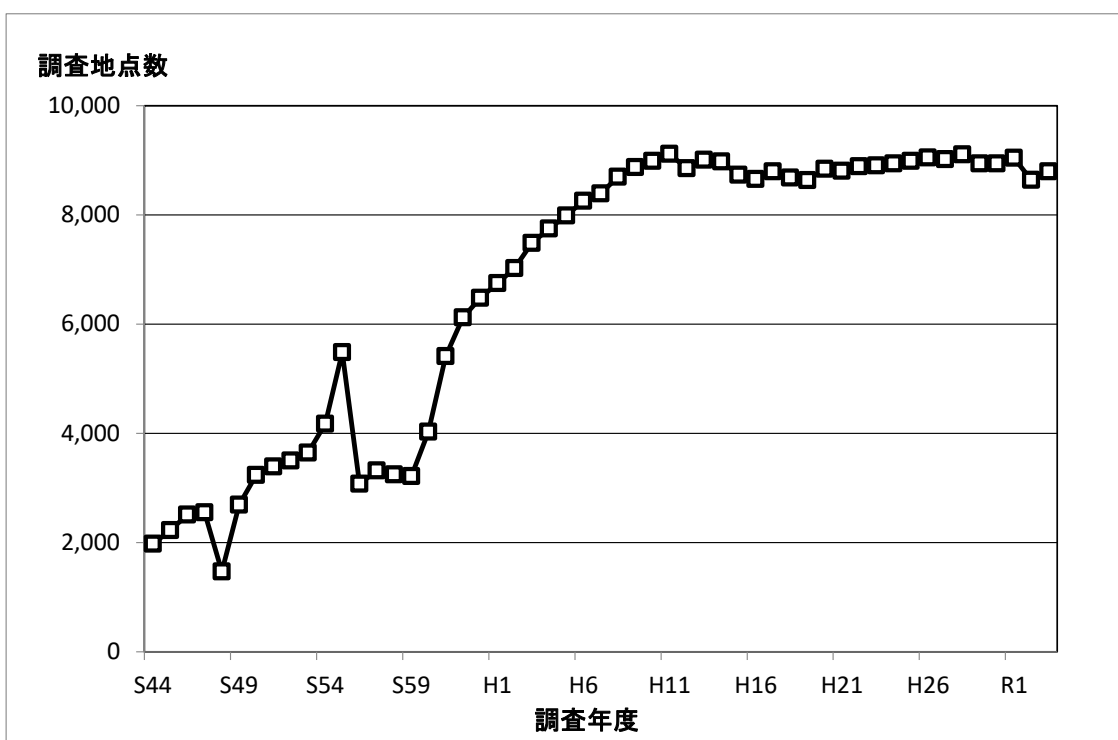


図 2-1-3 昭和 44 年度からの調査地点数の推移

令和3年度にガン、カモ、ハクチョウ類が観察されている調査地域のうち上位10地域を過去2か年度（令和2年度と令和元年度）の観察個体数とともに表2-1-2に示した（調査地域とは、都道府県担当者の視点で一体として扱うべき調査地点群であり、複数の調査地点から構成される場合がある。以降同様とする。）。

ラムサール条約湿地の水鳥類に関する登録基準の一つに「定期的に20,000羽以上の水鳥を支える」ことがあるが、令和3年度も含め3年連続で20,000羽以上のガン、カモ、ハクチョウ類が観察されている調査地域は、蕪栗沼、霞ヶ浦、伊豆沼・内沼、諫早湾、琵琶湖、宍道湖の6地域であった。このうち蕪栗沼、伊豆沼内沼、琵琶湖、宍道湖の4地域は既にラムサール条約湿地である。

表 2-1-2 ガン、カモ、ハクチョウ類観察個体数上位 10 地域

順位	地域名	所在地	観察個体数 (羽)	国内割合 (%)	過去の観察個体数(羽)	
					R2	R1
1	蕪栗沼*	宮城県大崎市田尻	113,245 *	6.3	41,080 *	144,519 *
2	霞ヶ浦*	茨城県行方市他	78,738 *	4.4	66,371 *	52,254 *
3	伊豆沼内沼*	宮城県登米市他	58,342 *	3.2	30,716 *	88,805 *
4	諫早湾*	長崎県諫早市	54,138 *	3.0	20,038 *	23,666 *
5	琵琶湖*	滋賀県野洲市他	52,510 *	2.9	63,036 *	68,999 *
6	宍道湖*	島根県松江市	27,333 *	1.5	34,657 *	67,346 *
7	佐潟・上佐潟・御手洗潟	新潟県新潟市西区	25,817 *	1.4	16,491	13,784
8	北浦	茨城県鉾田市他	22,273 *	1.2	19,921	31,816 *
9	河北潟	石川県金沢市	22,239 *	1.2	16,900	27,638 *
10	三番瀬	千葉県船橋市	19,412	1.1	44,656 *	24,132 *
—	その他	—	1,321,539	73.6	1,271,889	1,465,650
	全国計		1,795,586	100.0	1,625,755	2,008,609

【備考】20,000羽以上の記録とそれが最近3年間継続している地域名は*を付けて太字で示した。
国内割合は、各地域の観察個体数の、全国合計に対する構成比を示す。

2. ハクチョウ類

2.1 観察個体数

ハクチョウ類の令和3年度の観察個体数の種別割合を図2-2-1に示した。

令和3年度の調査では、36都道府県の614地点において75,995羽のハクチョウ類が観察された。主な種を見ると、オオハクチョウが27,156羽、コハクチョウ(アメリカコハクチョウを含む、以降同様)が46,647羽(うち、アメリカコハクチョウ21羽)観察された。また、その他として、移入種であるコブハクチョウ(詳細は、6. 移入種の観察状況を参照)が343羽、種不明が1,849羽観察された(計2,192羽)。令和3年度のハクチョウ類の観察個体数の種別割合は、令和2年度と比較してオオハクチョウは11.4%増加し、コハクチョウは7.7%増加した。

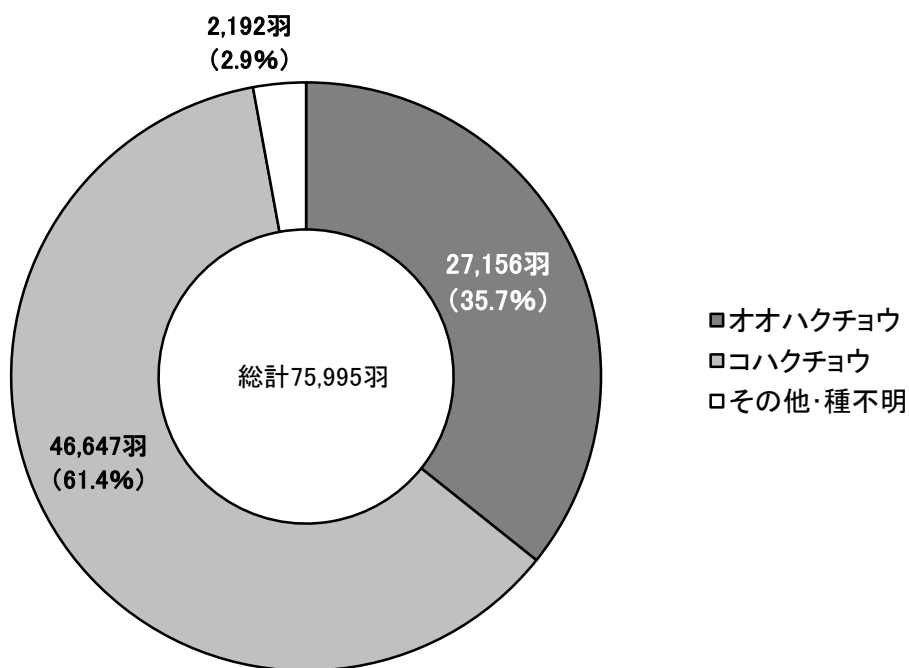


図 2-2-1 ハクチョウ類の観察個体数の内訳

(1) オオハクチョウ

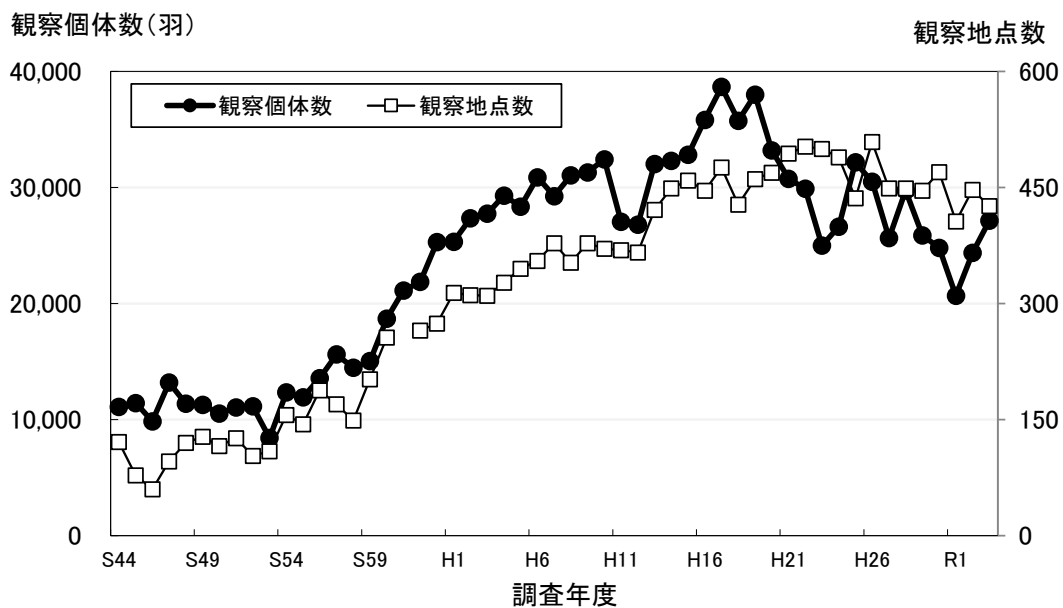
観察状況の最近20年間における経年的な変化を見ると、観察地点数については、概ね300～500地点で推移している。

観察個体数については、平成17年度に38,000羽程度まで増加した後、増減しつつもやや減少傾向が見られ、近年は概ね20,000～30,000羽で推移している（図2-2-2（1））。

(2) コハクチョウ

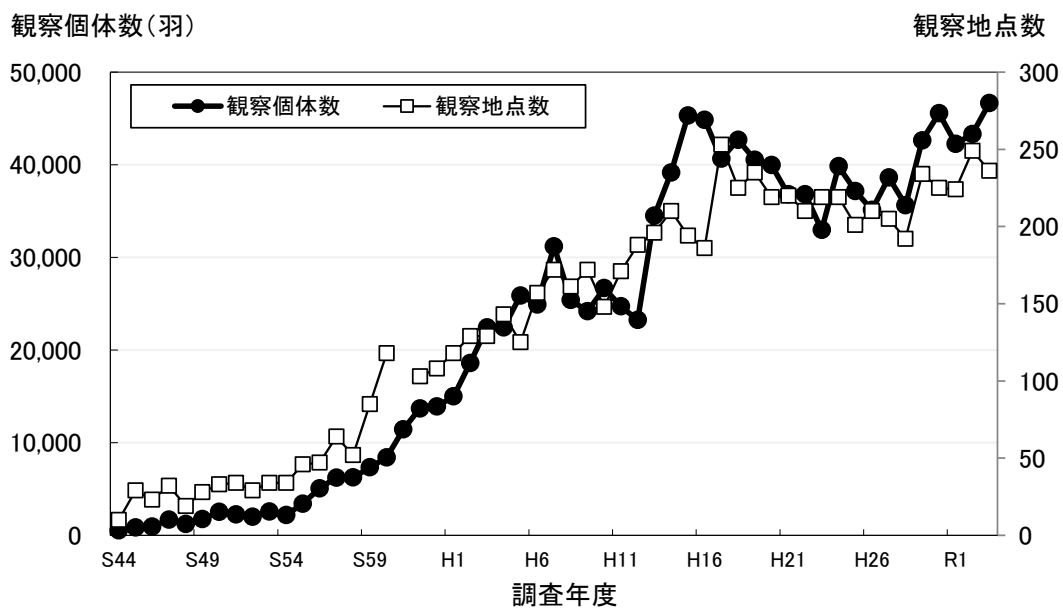
観察状況の最近 20 年間における経年的な変化を見ると、観察地点数については、概ね 150～250 地点で推移している。

観察個体数については、平成 15 年度の 45,000 羽程度から平成 23 年度にかけて減少傾向が見られたものの、平成 24 年度以降は増加傾向に転じ、近年は 40,000 羽以上で推移している（図 2-2-2（2））。



*昭和 61 年度は観測地点数を集計していない

図 2-2-2(1) オオハクチョウの観測状況の推移



*昭和 61 年度は観測地点数を集計していない。

図 2-2-2(2) コハクチョウの観測状況の推移

2.2 分布状況

ハクチョウ類について、令和3年度の都道府県別調査結果を表2-2-1に示した。

ハクチョウ類全体では、東北地方（39,436羽）、北陸（26,479羽）で観察個体数が多く、これら2つの地域で全国の86.7%にあたる65,915羽が観察された。都道府県別の観察個体数を見ると、特に新潟県、宮城県では観察個体数が15,000羽を越えており、2県のみで全体の49.5%にあたる37,606羽が観察された。ハクチョウ類における種毎の観察状況は以下のとおり。

(1) オオハクチョウ

北海道、東北地方（青森県、岩手県、宮城県、山形県、福島県）及び新潟県で観察個体数が多く、コハクチョウよりも高緯度寄りに分布している。都道府県別に観察個体数を見ると、宮城県が唯一10,000羽を超え、10,691羽観察された。

(2) コハクチョウ

全体的にオオハクチョウより低緯度まで分布しており、朝鮮半島方面から渡ってくるものが知られている島根県では1,554羽が観察された。都道府県別に観察個体数を見ると、新潟県が唯一10,000羽を超え18,993羽観察された。

表 2-2-1 都道府県別のハクチョウ類観察地点数及び観察個体数

都道府県	観察地点数	観察個体数（羽）			
		オオハクチョウ	コハクチョウ	その他・種不明	合計
北海道	34	2,879	180	20	3,079
青森県	76	1,582	193	34	1,809
岩手県	77	2,819	1,073	0	3,892
宮城県	123	10,691	5,395	155	16,241
秋田県	40	334	230	8	572
山形県	54	1,814	7,037	1,628	10,479
福島県	76	2,883	3,443	117	6,443
茨城県	17	732	225	63	1,020
栃木県	7	301	73	0	374
群馬県	4	119	266	0	385
埼玉県	7	6	203	1	210
千葉県	12	147	1,172	32	1,351
東京都	2	0	0	6	6
神奈川県	2	0	0	2	2
新潟県	16	2,372	18,993	0	21,365
富山県	5	408	590	0	998
石川県	6	1	3,987	0	3,988
福井県	4	1	125	2	128
山梨県	4	0	1	60	61
長野県	12	9	740	0	749
岐阜県	2	0	63	0	63
静岡県	3	4	3	1	8
愛知県	1	3	0	0	3
三重県	0	0	0	0	0
滋賀県	3	8	604	0	612
京都府	1	0	11	0	11
大阪府	0	0	0	0	0
兵庫県	3	14	30	0	44
奈良県	0	0	0	0	0
和歌山県	0	0	0	0	0
鳥取県	5	0	455	0	455
島根県	6	6	1,554	25	1,585
岡山県	0	0	0	0	0
広島県	0	0	0	0	0
山口県	1	0	0	1	1
徳島県	0	0	0	0	0
香川県	2	0	0	9	9
愛媛県	0	0	0	0	0
高知県	1	0	1	0	1
福岡県	3	0	0	19	19
佐賀県	0	0	0	0	0
長崎県	1	22	0	0	22
熊本県	1	0	0	4	4
大分県	0	0	0	0	0
宮崎県	0	0	0	0	0
鹿児島県	2	0	0	5	5
沖縄県	1	1	0	0	1
観察 都道府県数		24	26	20	36
合計	614	27,156	46,647	2,192	75,995

2.3 法指定区域別の観察状況

「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律（平成14年法律第88号）」（以下「鳥獣保護管理法」）によって、鳥獣保護区や休猟区などに指定されている区域別のハクチョウ類観察状況を、表2-2-2～表2-2-5及び図2-2-3に示した。

ハクチョウ類の観察地点のうち、鳥獣保護区に該当する地点は全体の26.1%にあたる160地点であり、これらの地点では全観察個体数の51.6%にあたる39,219羽が観察された。また、鳥獣保護区に、休猟区、鳥獣保護管理法施行規則第7条第1項第7号ハからチに該当する区域（公道、墓地など）、特定猟具使用禁止区域及び特定猟具使用制限区域を加えた、狩猟または銃猟が禁止・制限された区域に該当する地点については、341地点（55.5%）で52,358羽（68.9%）が観察された。狩猟または銃猟の制限されていない猟区とその他の区域については、273地点（44.5%）で、23,637羽（31.1%）が観察された。

表2-2-2 法指定区域別のハクチョウ類観察状況

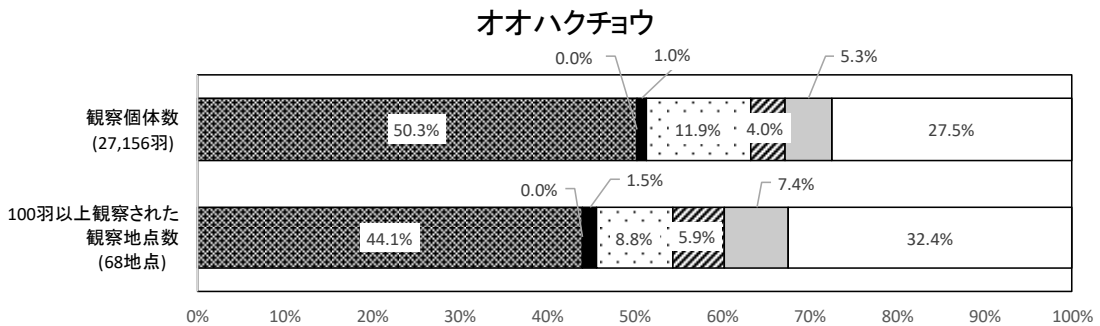
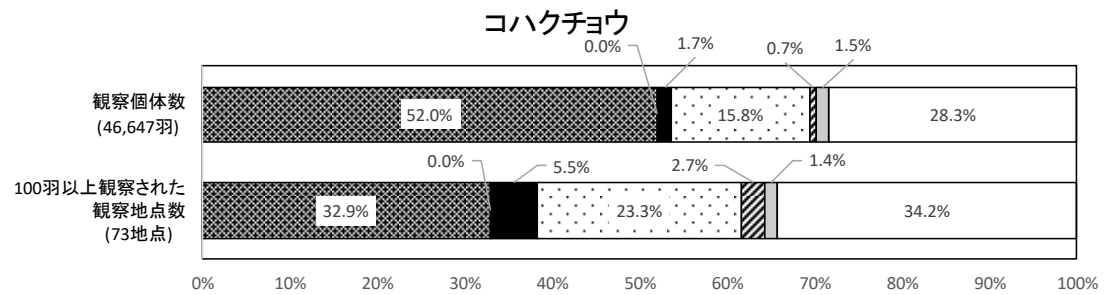
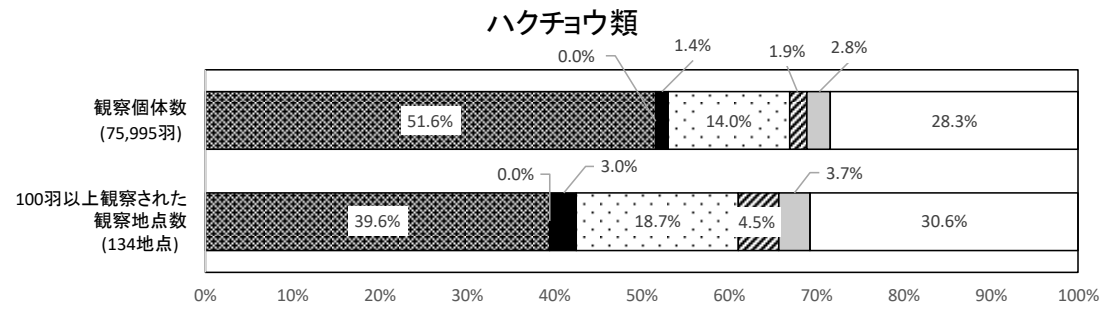
項目	鳥獣保護区		休猟区		施行規則第7条第1項第7号ハからチの区域		特定猟具使用禁止区域		特定猟具使用制限区域		猟区		その他の区域		合計		
	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	
調査地点数(箇所)	1,692	19.2	87	1.0	155	1.8	2,803	31.9	59	0.7	174	2.0	3,825	43.5	8,795	100.0	
調査地点面積(ha)	185,237	49.0	1,340	0.4	3,144	0.8	73,842	19.5	1,813	0.5	6,746	1.8	106,170	28.1	378,291	100.0	
観察地点数(箇所)	オオハクチョウ	116	27.2	0	—	9	2.1	93	21.8	9	2.1	15	3.5	184	43.2	426	100.0
	コハクチョウ	62	26.3	0	—	12	5.1	65	27.5	4	1.7	4	1.7	89	37.7	236	100.0
	コブハクチョウ	20	54.1	0	—	2	5.4	11	29.7	0	—	0	—	4	10.8	37	100.0
	その他・種不明	1	5.9	0	—	0	—	2	11.8	0	—	1	5.9	13	76.5	17	100.0
	合計	160	26.1	0	—	18	2.9	150	24.4	13	2.1	16	2.6	257	41.9	614	100.0
観察個体数(羽)	オオハクチョウ	13,655	50.3	0	—	278	1.0	3,243	11.9	1,091	4.0	1,429	5.3	7,460	27.5	27,156	100.0
	コハクチョウ	24,255	52.0	0	—	779	1.7	7,358	15.8	349	0.7	692	1.5	13,214	28.3	46,647	100.0
	コブハクチョウ	281	81.9	0	—	6	1.7	33	9.6	0	—	0	—	23	6.7	343	100.0
	その他・種不明	1,028	55.6	0	—	0	—	2	0.1	0	—	40	2.2	779	42.1	1,849	100.0
	合計	39,219	51.6	0	—	1,063	1.4	10,636	14.0	1,440	1.9	2,161	2.8	21,476	28.3	75,995	100.0

【備考】項目内割合は、各行の項目の合計に対する法指定区域別の構成比を示す。
観察地点数の合計は、種別の観察地点数の単純合計ではない(重複地点を除いている)。

表2-2-3 法指定区域別のハクチョウ類観察状況（個体数の下限有）

項目	観察個体数下限値(羽) *注	鳥獣保護区		休猟区		施行規則第7条第1項第7号ハからチの区域		特定猟具使用禁止区域		特定猟具使用制限区域		猟区		その他の区域		合計		
		項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	
調査地点数(箇所)		1,692	18.9	87	0.9	155	1.7	2,803	31.5	59	0.7	174	2.8	3,825	43.5	8,795	100.0	
調査地点面積(ha)		185,237	48.7	1,340	0.4	3,144	0.8	73,842	18.9	1,813	0.5	6,746	2.8	106,170	27.9	378,291	100.0	
観察地点数	オオハクチョウ	100	30	44.1	0	—	1	1.5	6	8.8	4	5.9	5	7.4	22	32.4	68	100.0
	コハクチョウ	100	24	32.9	0	—	4	5.5	17	23.3	2	2.7	1	1.4	25	34.2	73	100.0
	ハクチョウ類合計	100	53	39.6	0	—	4	3.0	25	18.7	6	4.5	5	3.7	41	30.6	134	100.0

*注：各項目別の観察個体数に下限を設定した観察地点数を表す。
【備考】項目内割合は、各行の項目の合計に対する法指定区域別の構成比を示す。



- 鳥獣保護区
- 施行規則第7条第1項第7号ハからチの区域
- ▨ 特定猟具使用制限区域
- その他
- 休猟区
- 特定猟具使用禁止区域
- 猟区

図 2-2-3 法指定区域別のハクチョウ類観測状況

表2-2-4 法指定区域別のハクチョウ類観察地点数（都道府県別）

都道府県	法指定区域等														合計
	鳥獣保護区		休猟区		施行規則第7条 第1項第7号ハ からの区域		特定猟具使用 禁止区域		特定猟具使用 制限区域		猟区		その他の区域		
	観察地点 数	都道府 県内割 合(%)	観察地点 数	都道府 県内割 合(%)	観察地点 数	都道府 県内割 合(%)	観察地点 数	都道府 県内割 合(%)	観察地点 数	都道府 県内割 合(%)	観察地点 数	都道府 県内割 合(%)	観察地点 数	都道府 県内割 合(%)	
北海道	10	29.4	0	—	3	8.8	5	14.7	0	—	0	—	16	47.1	34
青森県	18	23.7	0	—	1	1.3	8	10.5	0	—	1	1.3	48	63.2	76
岩手県	7	9.1	0	—	0	—	38	49.4	0	—	0	—	32	41.6	77
宮城県	32	26.0	0	—	0	—	17	13.8	10	8.1	9	7.3	55	44.7	123
秋田県	9	22.5	0	—	0	—	3	7.5	0	—	3	7.5	25	62.5	40
山形県	8	14.8	0	—	0	—	18	33.3	0	—	1	1.9	27	50.0	54
福島県	15	19.7	0	—	12	15.8	20	26.3	1	1.3	1	1.3	27	35.5	76
茨城県	14	82.4	0	—	0	—	3	17.6	0	—	0	—	0	—	17
栃木県	3	42.9	0	—	0	—	1	14.3	1	14.3	1	14.3	1	14.3	7
群馬県	2	50.0	0	—	0	—	2	50.0	0	—	0	—	0	—	4
埼玉県	3	42.9	0	—	0	—	3	42.9	1	14.3	0	—	0	—	7
千葉県	3	25.0	0	—	0	—	6	50.0	0	—	0	—	3	25.0	12
東京都	0	—	0	—	2	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	2
神奈川県	0	—	0	—	0	—	2	100.0	0	—	0	—	0	—	2
新潟県	9	56.3	0	—	0	—	2	12.5	0	—	0	—	5	31.3	16
富山県	2	40.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	3	60.0	5
石川県	4	66.7	0	—	0	—	2	33.3	0	—	0	—	0	—	6
福井県	2	50.0	0	—	0	—	1	25.0	0	—	0	—	1	25.0	4
山梨県	3	75.0	0	—	0	—	1	25.0	0	—	0	—	0	—	4
長野県	1	8.3	0	—	0	—	3	25.0	0	—	0	—	8	66.7	12
岐阜県	1	50.0	0	—	0	—	1	50.0	0	—	0	—	0	—	2
静岡県	1	33.3	0	—	0	—	1	33.3	0	—	0	—	1	33.3	3
愛知県	0	—	0	—	0	—	1	100.0	0	—	0	—	0	—	1
三重県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
滋賀県	1	33.3	0	—	0	—	2	66.7	0	—	0	—	0	—	3
京都府	1	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1
大阪府	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
兵庫県	1	33.3	0	—	0	—	2	66.7	0	—	0	—	0	—	3
奈良県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
和歌山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
鳥取県	2	40.0	0	—	0	—	3	60.0	0	—	0	—	0	—	5
島根県	4	66.7	0	—	0	—	2	33.3	0	—	0	—	0	—	6
岡山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
広島県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
山口県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	100.0	1
徳島県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
香川県	1	50.0	0	—	0	—	1	50.0	0	—	0	—	0	—	2
愛媛県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
高知県	1	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1
福岡県	1	33.3	0	—	0	—	1	33.3	0	—	0	—	1	33.3	3
佐賀県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
長崎県	1	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1
熊本県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	100.0	1
大分県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
宮崎県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
鹿児島県	0	—	0	—	0	—	1	50.0	0	—	0	—	1	50.0	2
沖縄県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	100.0	1
合計	160	26.1	0	0.0	18	2.9	150	24.4	13	2.1	16	2.6	257	41.9	614

【備考】都道府県内割合は、各都道府県内での観察地点数の、法指定区域別の構成比を示す。
観察地点数の合計は、種別の観察地点数の単純合計ではない(重複地点を除いている)。

表 2-2-5 法指定区域別のハクチョウ類観察個体数（都道府県別）

都道府県	法指定区域等														合計
	鳥獣保護区		休猟区		施行規則第7条 第1項第7号ハ からチの区域		特定猟具使用 禁止区域		特定猟具使用 制限区域		猟区		その他の区域		
	観察個体 数(羽)	都道府 県内割 合(%)	観察個体 数(羽)	都道府 県内割 合(%)	観察個体 数(羽)	都道府 県内割 合(%)	観察個体 数(羽)	都道府 県内割 合(%)	観察個体 数(羽)	都道府 県内割 合(%)	観察個体 数(羽)	都道府 県内割 合(%)	観察個体 数(羽)	都道府 県内割 合(%)	
北海道	2,428	78.9	0	—	28	0.9	185	6.0	0	—	0	—	438	14.2	3,079
青森県	868	48.0	0	—	76	4.2	226	12.5	0	—	6	0.3	633	35.0	1,809
岩手県	741	19.0	0	—	0	—	1,894	48.7	0	—	0	—	1,257	32.3	3,892
宮城県	5,888	36.3	0	—	0	—	1,267	7.8	1,051	6.5	1,798	11.1	6,237	38.4	16,241
秋田県	272	47.6	0	—	0	—	21	3.7	0	—	100	17.5	179	31.3	572
山形県	6,808	65.0	0	—	0	—	730	7.0	0	—	8	0.1	2,933	28.0	10,479
福島県	1,497	23.2	0	—	953	14.8	1,313	20.4	277	4.3	24	0.4	2,379	36.9	6,443
茨城県	963	94.4	0	—	0	—	57	5.6	0	—	0	—	0	—	1,020
栃木県	32	8.6	0	—	0	—	17	4.5	2	0.5	225	60.2	98	26.2	374
群馬県	267	69.4	0	—	0	—	118	30.6	0	—	0	—	0	—	385
埼玉県	19	9.0	0	—	0	—	81	38.6	110	52.4	0	—	0	—	210
千葉県	73	5.4	0	—	0	—	978	72.4	0	—	0	—	300	22.2	1,351
東京都	0	—	0	—	6	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	6
神奈川県	0	—	0	—	0	—	2	100.0	0	—	0	—	0	—	2
新潟県	15,297	71.6	0	—	0	—	594	2.8	0	—	0	—	5,474	25.6	21,365
富山県	137	13.7	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	861	86.3	998
石川県	2,930	73.5	0	—	0	—	1,058	26.5	0	—	0	—	0	—	3,988
福井県	54	42.2	0	—	0	—	12	9.4	0	—	0	—	62	48.4	128
山梨県	60	98.4	0	—	0	—	1	1.6	0	—	0	—	0	—	61
長野県	103	13.8	0	—	0	—	38	5.1	0	—	0	—	608	81.2	749
岐阜県	43	68.3	0	—	0	—	20	31.7	0	—	0	—	0	—	63
静岡県	4	50.0	0	—	0	—	3	37.5	0	—	0	—	1	12.5	8
愛知県	0	—	0	—	0	—	3	100.0	0	—	0	—	0	—	3
三重県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
滋賀県	31	5.1	0	—	0	—	581	94.9	0	—	0	—	0	—	612
京都府	11	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	11
大阪府	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
兵庫県	17	38.6	0	—	0	—	27	61.4	0	—	0	—	0	—	44
奈良県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
和歌山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
鳥取県	118	25.9	0	—	0	—	337	74.1	0	—	0	—	0	—	455
島根県	523	33.0	0	—	0	—	1,062	67.0	0	—	0	—	0	—	1,585
岡山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
広島県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
山口県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	100.0	1
徳島県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
香川県	2	22.2	0	—	0	—	7	77.8	0	—	0	—	0	—	9
愛媛県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
高知県	1	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1
福岡県	10	52.6	0	—	0	—	1	5.3	0	—	0	—	8	42.1	19
佐賀県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
長崎県	22	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	22
熊本県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	4	100.0	4
大分県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
宮崎県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
鹿児島県	0	—	0	—	0	—	3	60.0	0	—	0	—	2	40.0	5
沖縄県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	100.0	1
合計	39,219	51.6	0	—	1,063	1.4	10,636	14.0	1,440	1.9	2,161	2.8	21,476	28.3	75,995

【備考】都道府県内割合は、各都道府県内での観察個体数の、法指定区域別の構成比を示す。

2.4 地況別の観察状況

河川や湖沼等の地況別の観察状況を表2-2-6～表2-2-8及び図2-2-4に示した。ハクチョウ類は海岸、河口やダム湖での観察個体数は少なく、河川、自然湖沼、その他の人造湖で多かった。また、オオハクチョウは河川で最も多く（9,707羽）観察され、コハクチョウは自然湖沼で最も多く（18,478羽）観察された。

表 2-2-6 地況別のハクチョウ類観察状況

項目	区域区分		海岸		河口		河川		自然湖沼		ダム湖		その他人造湖		その他		合計	
	調査地点数(箇所)	項目内割合(%)	調査地点数(箇所)	項目内割合(%)	調査地点数(箇所)	項目内割合(%)	調査地点数(箇所)	項目内割合(%)	調査地点数(箇所)	項目内割合(%)	調査地点数(箇所)	項目内割合(%)	調査地点数(箇所)	項目内割合(%)	調査地点数(箇所)	項目内割合(%)	調査地点数(箇所)	項目内割合(%)
調査地点数(箇所)	816	9.3	386	4.4	3,028	34.4	517	5.9	691	7.9	3,087	35.1	270	3.1	8,795	100.0		
調査地点面積 (ha)	118,254	31.3	22,225	5.9	69,630	18.4	105,176	27.8	32,768	8.7	16,078	4.3	14,159	3.7	378,291	100.0		
観察地点数 (箇所)	オオハクチョウ	47	11.0	15	3.5	206	48.4	57	13.4	4	0.9	71	16.7	26	6.1	426	100.0	
	コハクチョウ	4	1.7	5	2.1	107	45.3	50	21.2	5	2.1	32	13.6	33	14.0	236	100.0	
	コブハクチョウ	1	2.7	2	5.4	4	10.8	18	48.6	3	8.1	9	24.3	0	—	37	100.0	
	その他・種不明	1	5.9	2	11.8	8	47.1	4	23.5	0	—	1	5.9	1	5.9	17	100.0	
	合計	53	8.6	21	3.4	289	47.1	93	15.1	11	1.8	99	16.1	48	7.8	614	100.0	
観察個体数 (羽)	オオハクチョウ	929	3.4	462	1.7	9,707	35.7	7,873	29.0	132	0.5	6,038	22.2	2,015	7.4	27,156	100.0	
	コハクチョウ	306	0.7	2,281	4.9	14,747	31.6	18,478	39.6	264	0.6	5,364	11.5	5,207	11.2	46,647	100.0	
	コブハクチョウ	102	29.7	15	4.4	16	4.7	177	51.6	13	3.8	20	5.8	0	—	343	100.0	
	その他・種不明	4	0.2	1,030	55.7	736	39.8	38	2.1	0	—	1	0.1	40	2.2	1,849	100.0	
	合計	1,341	1.8	3,788	5.0	25,206	33.2	26,566	35.0	409	0.5	11,423	15.0	7,262	9.6	75,995	100.0	

【備考】項目内割合は、各行の項目の合計に対する地況別の構成比を示す。
観察地点数の合計は、種別の観察地点数の単純合計ではない(重複地点を除いている)。

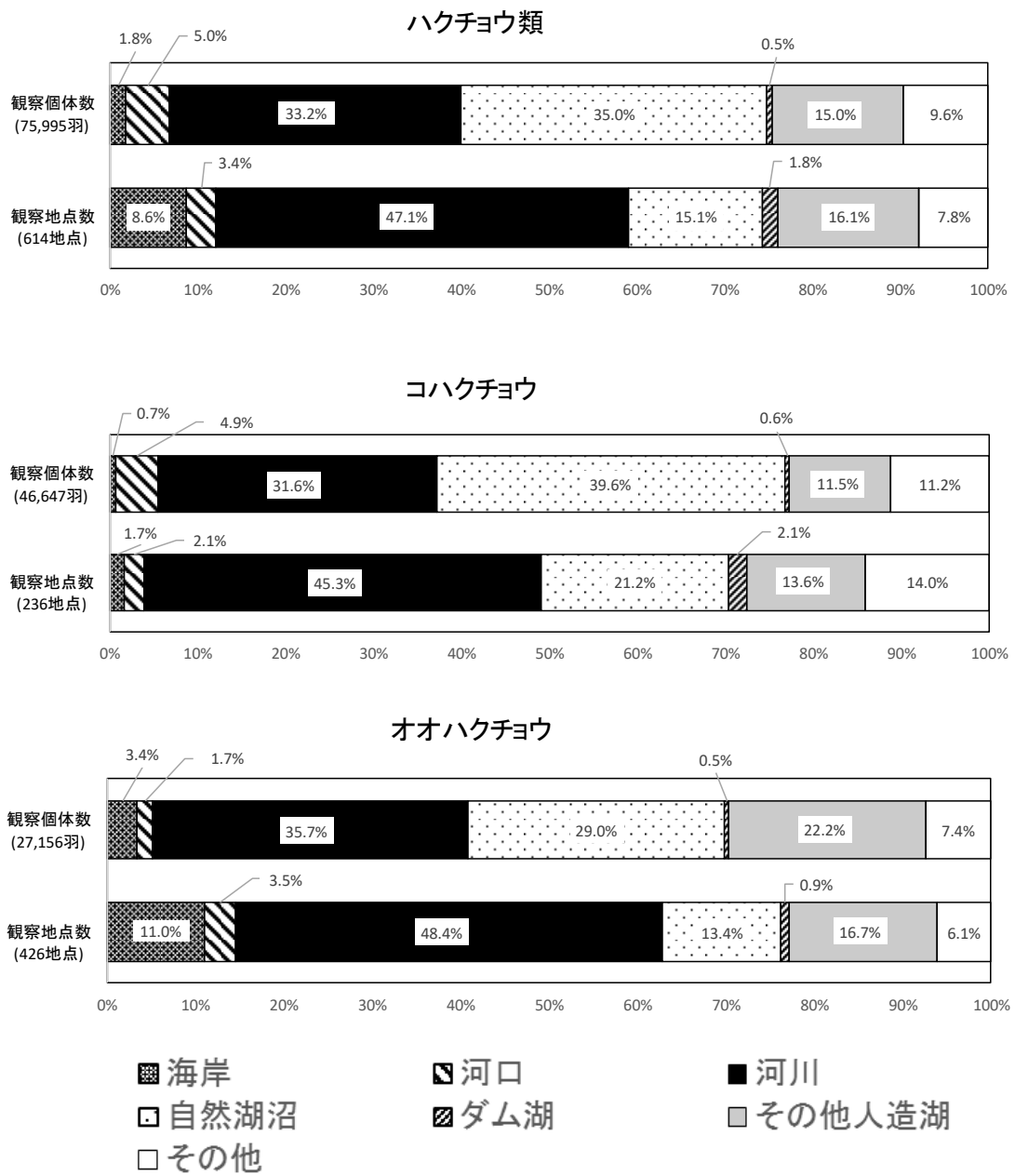


図 2-2-4 地況別のハクチョウ類観察状況

表 2-2-7 地況別のハクチョウ類観察地点数（都道府県別）

都道府県	地況														合計
	海岸		河口		河川		自然湖沼		ダム湖		その他人造湖		その他		
	観察地点数	都道府県内割合(%)	観察地点数	都道府県内割合(%)	観察地点数	都道府県内割合(%)	観察地点数	都道府県内割合(%)	観察地点数	都道府県内割合(%)	観察地点数	都道府県内割合(%)	観察地点数	都道府県内割合(%)	
北海道	4	11.8	4	11.8	13	38.2	12	35.3	0	—	0	—	1	2.9	34
青森県	41	53.9	3	3.9	19	25.0	11	14.5	0	—	2	2.6	0	—	76
岩手県	1	1.3	4	5.2	58	75.3	2	2.6	0	—	6	7.8	6	7.8	77
宮城県	1	0.8	1	0.8	60	48.8	12	9.8	2	1.6	24	19.5	23	18.7	123
秋田県	0	—	1	2.5	30	75.0	5	12.5	0	—	4	10.0	0	—	40
山形県	0	—	1	1.9	40	74.1	2	3.7	3	5.6	4	7.4	4	7.4	54
福島県	1	1.3	6	7.9	31	40.8	11	14.5	1	1.3	20	26.3	6	7.9	76
茨城県	0	—	1	5.9	1	5.9	7	41.2	0	—	8	47.1	0	—	17
栃木県	0	—	0	—	1	14.3	1	14.3	0	—	4	57.1	1	14.3	7
群馬県	0	—	0	—	1	25.0	2	50.0	0	—	1	25.0	0	—	4
埼玉県	0	—	0	—	5	71.4	0	—	0	—	2	28.6	0	—	7
千葉県	0	—	0	—	2	16.7	2	16.7	1	8.3	5	41.7	2	16.7	12
東京都	0	—	0	—	0	—	0	—	1	50.0	1	50.0	0	—	2
神奈川県	0	—	0	—	1	50.0	0	—	0	—	1	50.0	0	—	2
新潟県	0	—	0	—	5	31.3	6	37.5	0	—	4	25.0	1	6.3	16
富山県	0	—	0	—	1	20.0	1	20.0	0	—	2	40.0	1	20.0	5
石川県	1	16.7	0	—	0	—	5	83.3	0	—	0	—	0	—	6
福井県	0	—	0	—	1	25.0	2	50.0	0	—	0	—	1	25.0	4
山梨県	0	—	0	—	1	25.0	2	50.0	0	—	1	25.0	0	—	4
長野県	0	—	0	—	9	75.0	1	8.3	1	8.3	1	8.3	0	—	12
岐阜県	0	—	0	—	2	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	2
静岡県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	3	100.0	0	—	3
愛知県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	100.0	0	—	1
三重県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
滋賀県	0	—	0	—	0	—	2	66.7	0	—	1	33.3	0	—	3
京都府	1	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1
大阪府	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
兵庫県	0	—	0	—	1	33.3	0	—	0	—	2	66.7	0	—	3
奈良県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
和歌山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
鳥取県	1	20.0	0	—	3	60.0	1	20.0	0	—	0	—	0	—	5
島根県	0	—	0	—	2	33.3	3	50.0	0	—	0	—	1	16.7	6
岡山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
広島県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
山口県	0	—	0	—	1	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	1
徳島県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
香川県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	2	100.0	0	—	2
愛媛県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
高知県	0	—	0	—	0	—	1	100.0	0	—	0	—	0	—	1
福岡県	0	—	0	—	1	33.3	0	—	2	66.7	0	—	0	—	3
佐賀県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
長崎県	1	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1
熊本県	1	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1
大分県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
宮崎県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
鹿児島県	0	—	0	—	0	—	2	100.0	0	—	0	—	0	—	2
沖縄県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	100.0	1
合計	53	8.6	21	3.4	289	47.1	93	15.1	11	1.8	99	16.1	48	7.8	614

【備考】都道府県内割合は、各都道府県内での観察地点数の、地況別の構成比を示す。
観察地点数の合計は、種別の観察地点数の単純合計ではない(重複地点を除いている)。

表 2-2-8 地況別のハクチョウ類観察個体数（都道府県別）

都道府県	地況														合計
	海岸		河口		河川		自然湖沼		ダム湖		その他人造湖		その他		
	観察 個体数 (羽)	都道府 県内割 合(%)	観察 個体数 (羽)	都道府 県内割 合(%)	観察 個体数 (羽)	都道府 県内割 合(%)	観察 個体数 (羽)	都道府 県内割 合(%)	観察 個体数 (羽)	都道府 県内割 合(%)	観察 個体数 (羽)	都道府 県内割 合(%)	観察 個体数 (羽)	都道府 県内割 合(%)	
北海道	74	2.4	263	8.5	292	9.5	2,410	78.3	0	—	0	—	40	1.3	3,079
青森県	792	43.8	79	4.4	402	22.2	215	11.9	0	—	321	17.7	0	—	1,809
岩手県	23	0.6	111	2.9	2,063	53.0	15	0.4	0	—	888	22.8	792	20.3	3,892
宮城県	25	0.2	4	0.0	6,706	41.3	4,201	25.9	114	0.7	2,452	15.1	2,739	16.9	16,241
秋田県	0	—	12	2.1	315	55.1	105	18.4	0	—	140	24.5	0	—	572
山形県	0	—	2,957	28.2	4,808	45.9	2,458	23.5	13	0.1	143	1.4	100	1.0	10,479
福島県	102	1.6	359	5.6	3,247	50.4	901	14.0	29	0.5	1,430	22.2	375	5.8	6,443
茨城県	0	—	3	0.3	11	1.1	608	59.6	0	—	398	39.0	0	—	1,020
栃木県	0	—	0	—	98	26.2	5	1.3	0	—	46	12.3	225	60.2	374
群馬県	0	—	0	—	109	28.3	267	69.4	0	—	9	2.3	0	—	385
埼玉県	0	—	0	—	204	97.1	0	—	0	—	6	2.9	0	—	210
千葉県	0	—	0	—	28	2.1	29	2.1	137	10.1	92	6.8	1,065	78.8	1,351
東京都	0	—	0	—	0	—	0	—	2	33.3	4	66.7	0	—	6
神奈川県	0	—	0	—	1	50.0	0	—	0	—	1	50.0	0	—	2
新潟県	0	—	0	—	5,920	27.7	10,581	49.5	0	—	4,837	22.6	27	0.1	21,365
富山県	0	—	0	—	47	4.7	70	7.0	0	—	105	10.5	776	77.8	998
石川県	188	4.7	0	—	0	—	3,800	95.3	0	—	0	—	0	—	3,988
福井県	0	—	0	—	12	9.4	54	42.2	0	—	0	—	62	48.4	128
山梨県	0	—	0	—	1	1.6	59	96.7	0	—	1	1.6	0	—	61
長野県	0	—	0	—	616	82.2	25	3.3	103	13.8	5	0.7	0	—	749
岐阜県	0	—	0	—	63	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	63
静岡県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	8	100.0	0	—	8
愛知県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	3	100.0	0	—	3
三重県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
滋賀県	0	—	0	—	0	—	114	18.6	0	—	498	81.4	0	—	612
京都府	11	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	11
大阪府	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
兵庫県	0	—	0	—	17	38.6	0	—	0	—	27	61.4	0	—	44
奈良県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
和歌山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
鳥取県	100	22.0	0	—	228	50.1	127	27.9	0	—	0	—	0	—	455
島根県	0	—	0	—	9	0.6	516	32.6	0	—	0	—	1,060	66.9	1,585
岡山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
広島県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
山口県	0	—	0	—	1	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	1
徳島県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
香川県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	9	100.0	0	—	9
愛媛県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
高知県	0	—	0	—	0	—	1	100.0	0	—	0	—	0	—	1
福岡県	0	—	0	—	8	42.1	0	—	11	57.9	0	—	0	—	19
佐賀県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
長崎県	22	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	22
熊本県	4	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	4
大分県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
宮崎県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
鹿児島県	0	—	0	—	0	—	5	100.0	0	—	0	—	0	—	5
沖縄県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	100.0	1
合計	1,341	1.8	3,788	5.0	25,206	33.2	26,566	35.0	409	0.5	11,423	15.0	7,262	9.6	75,995

【備考】 都道府県内割合は、各都道府県内での観察地点数の、地況別の構成比を示す。

3. ガン類

3.1 観察個体数

ガン類の令和3年度の観察個体数の種別割合を図2-3-1に示した。

令和3年度の調査では、29道府県の138地点において214,980羽のガン類が観察された。主な種を見ると、コクガンが1,171羽、マガンが195,000羽、ヒシクイが15,856羽、その他・種不明が2,953羽観察された。その他・種不明の内訳は、シジュウカラガン1,508羽、ハクガン166羽、カリガネ21羽、ハイイロガン7羽、種不明1,251羽である。なお、シジュウカラガンは、近年増加傾向にあるが、ごく限られた地域でのみの確認であるため、その他に含めて整理している。

令和3年度のガン類の観察個体数の種別割合は、令和2年度と比較してコクガンは24.5%減少、マガンは89.2%増加、ヒシクイは126.2%増加した。

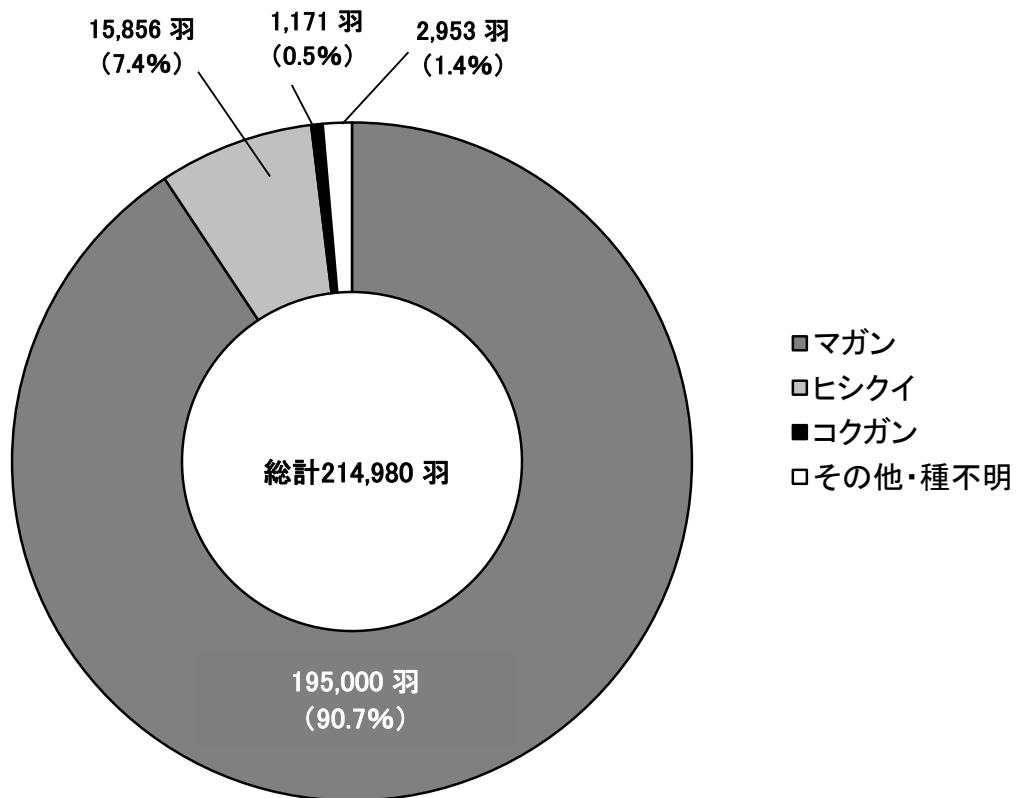


図 2-3-1 ガン類観察個体数の内訳

(1) コクガン

観察状況の最近20年間における経年的な変化を見ると、観察地点数については、30～60地点で推移している。

観察個体数については、増減しつつも増加傾向が見られ、令和元年度は過去最大の1,562羽となり、令和2年度も1,552羽であったが、令和3年度は1,171羽と減少した（図2-3-2（1））。

(2) マガン

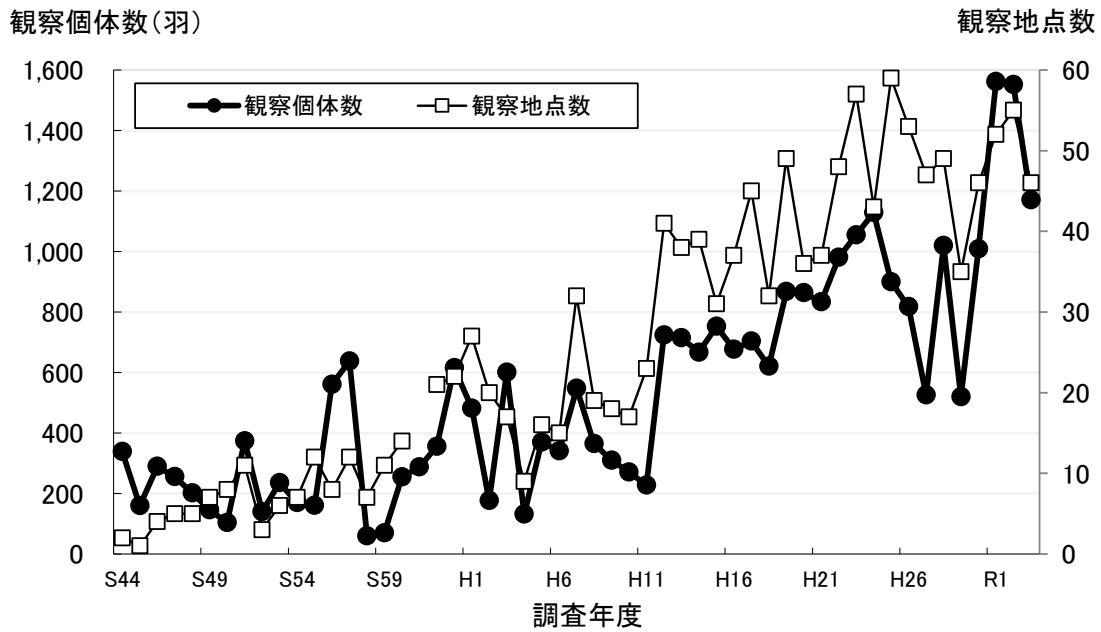
観察状況の最近20年間における経年的な変化を見ると、観察地点数については、概ね30～70地点で推移している。

観察個体数については増加傾向が見られ、平成29年度以降は200,000羽を超えており、令和元年度は過去最大の280,316羽となったが、令和2年度103,056羽に減少し、令和3年度は195,000羽に増加した（図2-3-2（2））。

(3) ヒシクイ

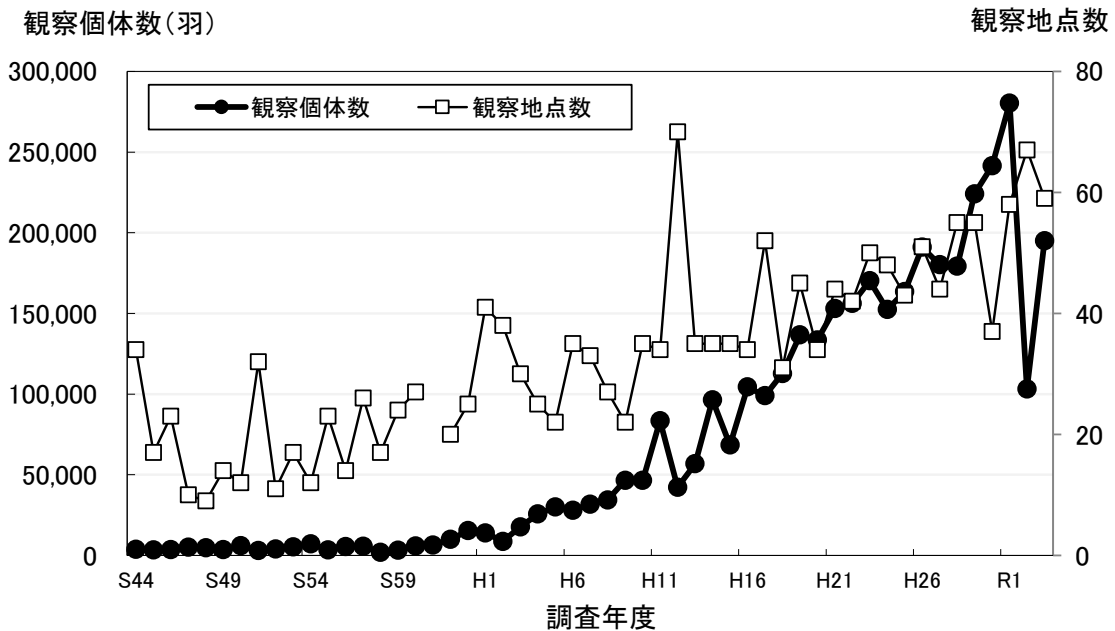
観察状況の最近20年間における経年的な変化を見ると、観察地点数については、平成30年度までは20～40地点で推移していたが、令和元年度以降は50地点前後で推移している。

観察個体数については、平成21年度、平成25年度、平成26年度、令和元年度及び令和3年度は15,000羽以上見られるものの、その他の年度は、15,000羽以下で推移している（図2-3-2（3））。



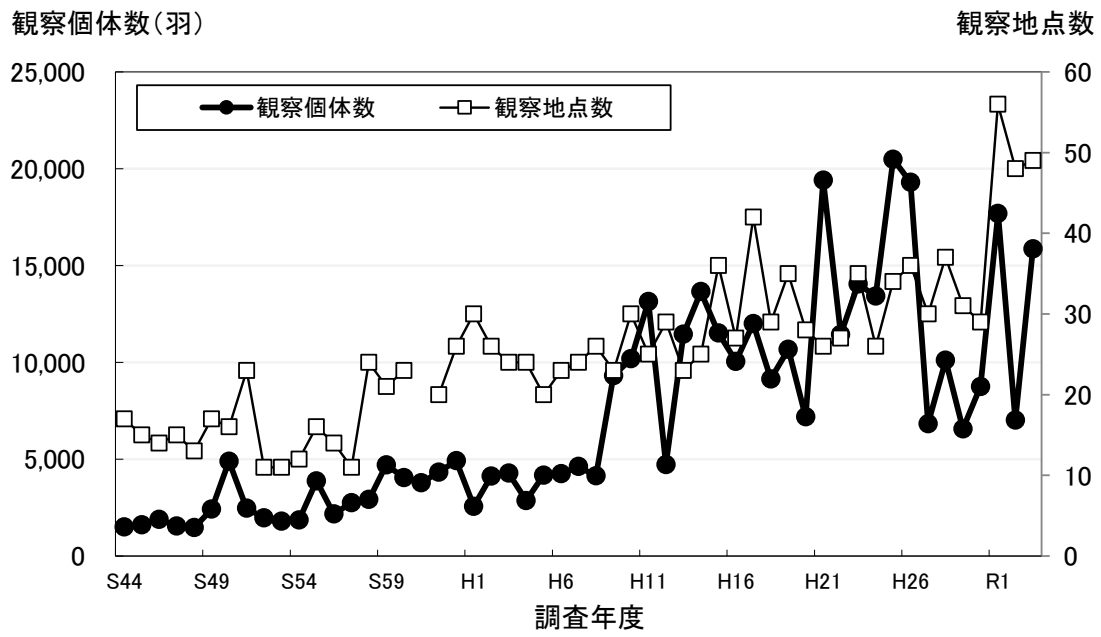
*昭和 61 年度は観察地点数を集計していない。

図 2-3-2(1) コクガンの観察状況の推移



*昭和 61 年度は観察地点数を集計していない。

図 2-3-2(2) マガン観察状況の推移



*昭和 61 年度は観察地点数を集計していない。

図 2-3-2(3) ヒシクイ観察状況の推移

3.2 分布状況

令和3年度の都道府県別調査結果を表2-3-1に示した。

ガン類は分布が限定的であり、主に観察されたのは東北地方（193,868羽）、北陸（16,680羽）、島根県（3,187羽）であった。種毎の観察状況は以下のとおり。

(1) コクガン

北海道及び東北地方での観察数が多い。都道府県別に見ると、北海道、青森県、宮城県、岩手県で全体の98.6%にあたる1,155羽が観察された。

(2) マガン

宮城県で全体の93.1%にあたる181,510羽が観察された。それ以外の地域では岩手県で3,083羽、日本海側でも新潟県で5,418羽、石川県で1,143羽、島根県で2,891羽が観察された。

(3) ヒシクイ

宮城県、秋田県、新潟県及び石川県で全体の92.1%にあたる14,599羽が観察された。その他、100羽以上観察されたのは、山形県、茨城県、滋賀県、島根県であった。

(4) その他

シジュウカラガンは宮城県で全体の99.8%にあたる1,505羽が観察された。

ハクガンは宮城県で82羽（全体の49.4%）、秋田県で20羽（全体の12.0%）、新潟県で61羽（全体の36.7%）が観察された。

表 2-3-1 都道府県別のガン類観察地点数及び観察個体数

都道府県	観察 地点数	観察個体数(羽)				合計
		コクガン	マガン	ヒシクイ	その他・種不明	
北海道	10	94	0	1	5	100
青森県	23	681	0	0	3	684
岩手県	10	17	3,083	5	1	3,106
宮城県	24	363	181,510	3,729	1,587	187,189
秋田県	7	2	1	1,030	52	1,085
山形県	5	0	92	414	1,147	1,653
福島県	4	0	150	1	0	151
茨城県	4	0	2	214	0	216
栃木県	1	0	0	10	0	10
群馬県	0	0	0	0	0	0
埼玉県	0	0	0	0	0	0
千葉県	3	0	0	0	29	29
東京都	0	0	0	0	0	0
神奈川県	1	0	0	0	2	2
新潟県	7	0	5,418	8,867	63	14,348
富山県	0	0	0	0	0	0
石川県	6	0	1,143	973	17	2,133
福井県	2	0	199	0	0	199
山梨県	0	0	0	0	0	0
長野県	0	0	0	0	0	0
岐阜県	1	0	0	5	0	5
静岡県	1	0	0	2	0	2
愛知県	0	0	0	0	0	0
三重県	2	14	1	0	0	15
滋賀県	3	0	21	219	0	240
京都府	1	0	0	5	1	6
大阪府	0	0	0	0	0	0
兵庫県	6	0	8	15	8	31
奈良県	0	0	0	0	0	0
和歌山県	0	0	0	0	0	0
鳥取県	4	0	419	37	0	456
島根県	1	0	2,891	296	0	3,187
岡山県	0	0	0	0	0	0
広島県	2	0	1	1	0	2
山口県	1	0	0	0	30	30
徳島県	0	0	0	0	0	0
香川県	0	0	0	0	0	0
愛媛県	0	0	0	0	0	0
高知県	0	0	0	0	0	0
福岡県	2	0	12	1	0	13
佐賀県	0	0	0	0	0	0
長崎県	1	0	23	23	0	46
熊本県	0	0	0	0	0	0
大分県	1	0	1	0	0	1
宮崎県	0	0	0	0	0	0
鹿児島県	1	0	0	0	3	3
沖縄県	4	0	25	8	5	38
観察 都道府県数		6	19	21	15	29
合計	138	1,171	195,000	15,856	2,953	214,980

3.3 法指定区域別の観察状況

鳥獣保護管理法によって、鳥獣保護区や休猟区などに指定されている区域別の観察状況を、表2-3-2～表2-3-5及び図2-3-3に示した。

(1) コクガン

観察地点のうち、鳥獣保護区に該当する地点は全体の17.4%にあたる8地点であり、これらの地点ではコクガンの全観察個体数の17.9%にあたる210羽が観察された。また、鳥獣保護区に、休猟区、鳥獣保護法施行規則第7条第1項第7号ハからチに該当する区域、特定猟具使用禁止区域、及び特定猟具使用制限区域を加えた、狩猟または銃猟が禁止・制限された区域に該当する地点については、11地点（23.9%）で316羽（27.0%）が観察された。一方、銃猟の制限されていない猟区とその他の区域については、35地点（76.1%）で855羽（73.0%）が観察された。

(2) マガン

観察地点のうち、鳥獣保護区に該当する地点は全体の47.5%にあたる28地点であり、これらの地点ではマガンの全観察個体数の95.8%にあたる186,899羽が観察された。また、鳥獣保護区に、休猟区、鳥獣保護法施行規則第7条第1項第7号ハからチに該当する区域、特定猟具使用禁止区域、及び特定猟具使用制限区域を加えた、狩猟または銃猟が禁止・制限された区域に該当する地点については、42地点（71.2%）で188,990羽（96.9%）が観察された。一方、銃猟の制限されていない猟区とその他の区域については、17地点（28.8%）で6,010羽（3.1%）が観察された。

(3) ヒシクイ

観察地点のうち、鳥獣保護区に該当する地点は全体の63.3%にあたる31地点であり、これらの地点ではヒシクイの全観察個体数の90.6%にあたる14,359羽が観察された。また、鳥獣保護区に、休猟区、鳥獣保護管理法施行規則第7条第1項第7号ハからチに該当する区域、特定猟具使用禁止区域、及び特定猟具使用制限区域を加えた、狩猟または銃猟が禁止・制限された区域に該当する地点については、39地点（79.6%）で14,707羽（92.8%）が観察された。一方、銃猟の制限されていない猟区とその他の区域については、10地点（20.4%）で1,149羽（7.2%）が観察された。

表2-3-2 法指定区域別のガン類観察状況

区域区分 項目	鳥獣保護区		休猟区		施行規則第7条 第1項第7号ハ からチの区域		特定猟具使用 禁止区域		特定猟具使用 制限区域		猟区		その他の区域		合計		
	項目内 割合(%)	項目内 割合(%)	項目内 割合(%)	項目内 割合(%)	項目内 割合(%)	項目内 割合(%)	項目内 割合(%)	項目内 割合(%)	項目内 割合(%)	項目内 割合(%)	項目内 割合(%)	項目内 割合(%)	項目内 割合(%)	項目内 割合(%)	項目内 割合(%)	項目内 割合(%)	
調査地点数(箇所)	1,692	19.2	87	1.0	155	1.8	2,803	31.9	59	0.7	174	2.0	3,825	43.5	8,795	100.0	
調査地点面積(ha)	185,237	49.0	1,340	0.4	3,144	0.8	73,842	19.5	1,813	0.5	6,746	1.8	106,170	28.1	378,291	100.0	
観察地点数 (箇所)	コクガン	8	17.4	0	—	0	—	3	6.5	0	—	0	—	35	76.1	46	100.0
	マガン	28	47.5	0	—	1	1.7	13	22.0	0	—	1	1.7	16	27.1	59	100.0
	ヒシクイ	31	63.3	0	—	0	—	7	14.3	1	2.0	0	—	10	20.4	49	100.0
	その他・種不明	17	54.8	0	—	1	3.2	4	12.9	0	—	1	3.2	8	25.8	31	100.0
	合計	51	37.0	0	—	2	1.4	20	14.5	1	0.7	2	1.4	62	44.9	138	100.0
観察個体数 (羽)	コクガン	210	17.9	0	—	0	—	106	9.1	0	—	0	—	855	73.0	1,171	100.0
	マガン	186,899	95.8	0	—	22	0.0	2,069	1.1	0	—	1	0.0	6,009	3.1	195,000	100.0
	ヒシクイ	14,359	90.6	0	—	0	—	347	2.2	1	0.0	0	—	1,149	7.2	15,856	100.0
	その他・種不明	2,683	90.9	0	—	30	1.0	83	2.8	0	—	1	0.0	156	5.3	2,953	100.0
	合計	204,151	95.0	0	—	52	0.0	2,605	1.2	1	0.0	2	0.0	8,169	3.8	214,980	100.0

【備考】 項目内割合は、各行の項目の合計に対する法指定区域別の構成比を示す。
観察地点数の合計は、種別の観察地点数の単純合計ではない(重複地点を除いている)。

表 2-3-3 法指定区域別のガン類観察状況 (個体数の下限有)

区域区分 項目	観察 個体数 下限値 (羽) *注	鳥獣保護区		休猟区		施行規則第7条 第1項第7号ハ からチの区域		特定猟具使用 禁止区域		特定猟具使用 制限区域		猟区		その他の区域		合計		
		項目内 割合(%)	項目内 割合(%)	項目内 割合(%)	項目内 割合(%)	項目内 割合(%)	項目内 割合(%)	項目内 割合(%)	項目内 割合(%)	項目内 割合(%)	項目内 割合(%)	項目内 割合(%)	項目内 割合(%)	項目内 割合(%)	項目内 割合(%)	項目内 割合(%)		
調査地点数(箇所)		1,692	18.9	87	0.9	155	1.7	2,803	31.5	59	0.7	174	2.8	3,825	43.5	8,795	100.0	
調査地点面積(ha)		185,237	48.7	1,340	0.4	3,144	0.8	73,842	18.9	1,813	0.5	6,746	2.8	106,170	27.9	378,291	100.0	
観察地点数 (箇所)	コクガン	10	4	13.3	0	—	0	—	2	6.7	0	—	0	—	24	80.0	30	100.0
	マガン	100	15	62.5	0	—	0	—	3	12.5	0	—	0	—	6	25.0	24	100.0
	ヒシクイ	100	13	76.5	0	—	0	—	1	5.9	0	—	0	—	3	17.6	17	100.0
	ガン類合計	100	20	60.6	0	—	0	—	3	9.1	0	—	0	—	10	30.3	33	100.0

*注：各項目別の観察個体数に下限を設定した観察地点数を表す。

【備考】 項目内割合は、各行の項目の合計に対する法指定区域別の構成比を示す。

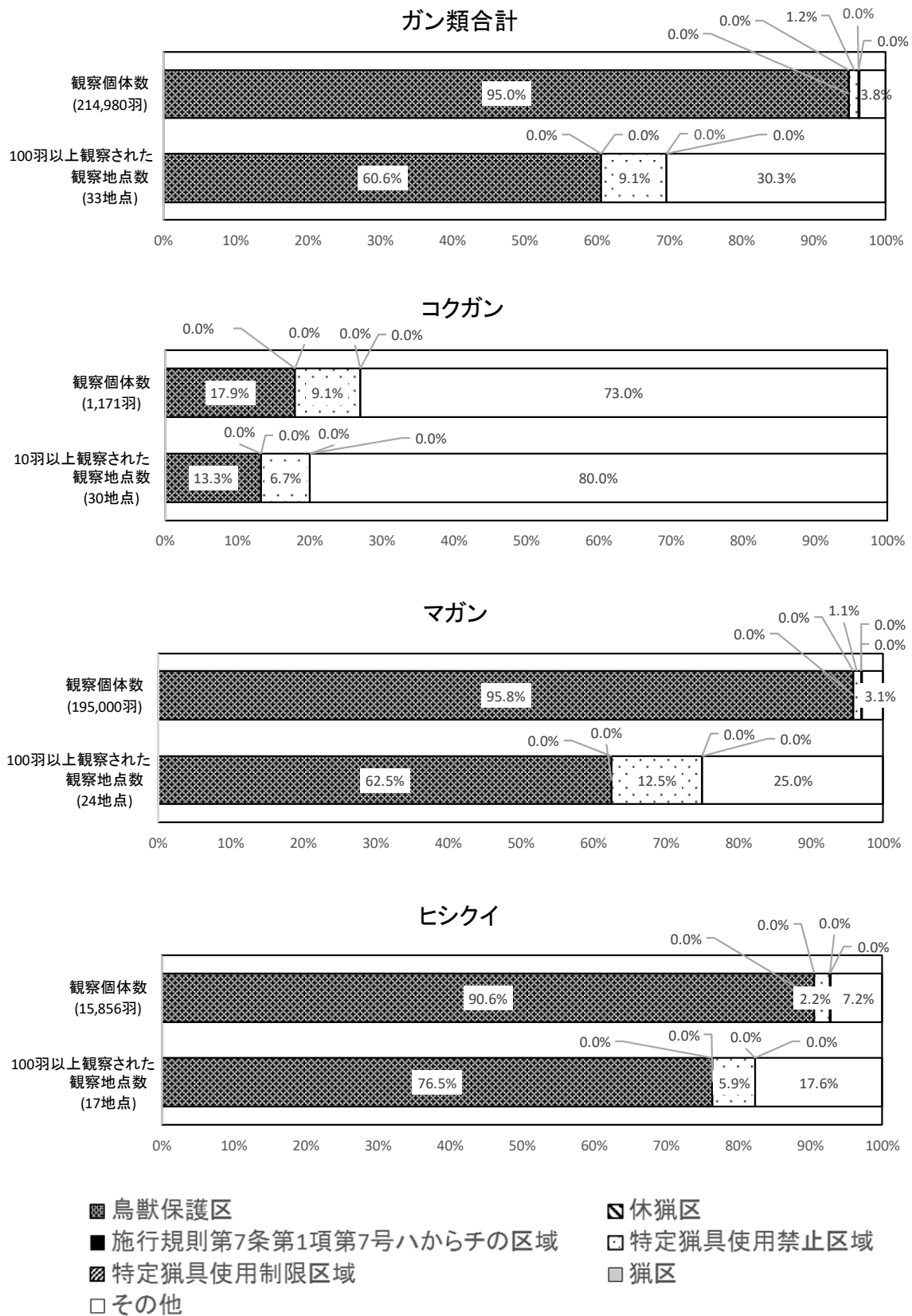


図 2-3-3 法指定区域別のガン類観察状況

表 2-3-4 法指定区域別のガン類観察地点数（都道府県別）

都道府県	法指定区域等														観察地点数
	鳥獣保護区		休猟区		施行規則第7条第1項第7号ハからチの区域		特定猟具使用禁止区域		特定猟具使用制限区域		猟区	その他の区域		観察地点数	
	観察地点数	都道府県内割合(%)	観察地点数	都道府県内割合(%)	観察地点数	都道府県内割合(%)	観察地点数	都道府県内割合(%)	観察地点数	都道府県内割合(%)	観察地点数	都道府県内割合(%)	観察地点数		
北海道	1	10.0	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	9	90.0	10
青森県	3	13.0	0	-	0	-	2	8.7	0	-	0	-	18	78.3	23
岩手県	0	-	0	-	0	-	3	30.0	0	-	0	-	7	70.0	10
宮城県	13	54.2	0	-	0	-	1	4.2	0	-	1	4.2	9	37.5	24
秋田県	2	28.6	0	-	0	-	0	-	0	-	1	14.3	4	57.1	7
山形県	3	60.0	0	-	0	-	1	20.0	0	-	0	-	1	20.0	5
福島県	2	50.0	0	-	1	25.0	0	-	0	-	0	-	1	25.0	4
茨城県	4	100.0	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	4
栃木県	1	100.0	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	1
群馬県	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0
埼玉県	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0
千葉県	1	33.3	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	2	66.7	3
東京都	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0
神奈川県	1	100.0	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	1
新潟県	3	42.9	0	-	0	-	1	14.3	0	-	0	-	3	42.9	7
富山県	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0
石川県	4	66.7	0	-	0	-	2	33.3	0	-	0	-	0	-	6
福井県	1	50.0	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	1	50.0	2
山梨県	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0
長野県	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0
岐阜県	0	-	0	-	0	-	1	100.0	0	-	0	-	0	-	1
静岡県	1	100.0	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	1
愛知県	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0
三重県	0	-	0	-	0	-	1	50.0	0	-	0	-	1	50.0	2
滋賀県	2	66.7	0	-	0	-	1	33.3	0	-	0	-	0	-	3
京都府	1	100.0	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	1
大阪府	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0
兵庫県	3	50.0	0	-	0	-	3	50.0	0	-	0	-	0	-	6
奈良県	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0
和歌山県	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0
鳥取県	1	25.0	0	-	0	-	3	75.0	0	-	0	-	0	-	4
島根県	1	100.0	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	1
岡山県	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0
広島県	0	-	0	-	0	-	1	50.0	1	50.0	0	-	0	-	2
山口県	0	-	0	-	1	100.0	0	-	0	-	0	-	0	-	1
徳島県	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0
香川県	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0
愛媛県	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0
高知県	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0
福岡県	1	50.0	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	1	50.0	2
佐賀県	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0
長崎県	1	100.0	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	1
熊本県	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0
大分県	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	1	100.0	1
宮崎県	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0
鹿児島県	1	100.0	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	1
沖縄県	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	4	100.0	4
合計	51	37.0	0	-	2	1.4	20	14.5	1	0.7	2	1.4	62	44.9	138

【備考】都道府県内割合は、各都道府県内での観察地点数の、法指定区域別の構成比を示す。
観察地点数の合計は、種別の観察地点数の単純合計ではない(重複地点を除いている)。

表 2-3-5 法指定区域別のガン類観察個体数（都道府県別）

都道府県	法指定区域等														合計
	鳥獣保護区		休猟区		施行規則第7条 第1項第7号ハ からチの区域		特定猟具使用 禁止区域		特定猟具使用 制限区域		猟区		その他の区域		
	観察個体 数(羽)	都道府 県内割 合(%)	観察個体 数(羽)	都道府 県内割 合(%)	観察個体 数(羽)	都道府 県内割 合(%)	観察個体 数(羽)	都道府 県内割 合(%)	観察個体 数(羽)	都道府 県内割 合(%)	観察個体 数(羽)	都道府 県内割 合(%)	観察個体 数(羽)	都道府 県内割 合(%)	
北海道	1	1.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	99	99.0	100
青森県	135	19.7	0	—	0	—	89	13.0	0	—	0	—	460	67.3	684
岩手県	0	—	0	—	0	—	273	8.8	0	—	0	—	2,833	91.2	3,106
宮城県	182,481	97.5	0	—	0	—	1,598	0.9	0	—	1	0.0	3,109	1.7	187,189
秋田県	62	5.7	0	—	0	—	0	—	0	—	1	0.1	1,022	94.2	1,085
山形県	1,537	93.0	0	—	0	—	45	2.7	0	—	0	—	71	4.3	1,653
福島県	7	4.6	0	—	22	14.6	0	—	0	—	0	—	122	80.8	151
茨城県	216	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	216
栃木県	10	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	10
群馬県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
埼玉県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
千葉県	3	10.3	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	26	89.7	29
東京都	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
神奈川県	2	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	2
新潟県	13,700	95.5	0	—	0	—	473	3.3	0	—	0	—	175	1.22	14,348
富山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
石川県	2,058	96.5	0	—	0	—	75	3.5	0	—	0	—	0	—	2,133
福井県	1	0.5	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	198	99.5	199
山梨県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
長野県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
岐阜県	0	—	0	—	0	—	5	100.0	0	—	0	—	0	—	5
静岡県	2	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	2
愛知県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
三重県	0	—	0	—	0	—	1	6.7	0	—	0	—	14	93.3	15
滋賀県	221	92.1	0	—	0	—	19	7.9	0	—	0	—	0	—	240
京都府	6	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	6
大阪府	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
兵庫県	22	71.0	0	—	0	—	9	29.0	0	—	0	—	0	—	31
奈良県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
和歌山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
鳥取県	439	96.3	0	—	0	—	17	3.7	0	—	0	—	0	—	456
島根県	3,187	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	3,187
岡山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
広島県	0	—	0	—	0	—	1	50.0	1	50.0	0	—	0	—	2
山口県	0	—	0	—	30	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	30
徳島県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
香川県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
愛媛県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
高知県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
福岡県	12	92.3	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	7.7	13
佐賀県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
長崎県	46	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	46
熊本県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
大分県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	100.0	1
宮崎県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
鹿児島県	3	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	3
沖縄県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	38	100.0	38
合計	204,151	95.0	0	—	52	0.024	2,605	1.2	1	0.0	2	0.001	8,169	3.8	214,980

【備考】都道府県内割合は、各都道府県内での観察個体数の、法指定区域別の構成比を示す。

3.4 地況別の観察状況

河川や湖沼等の地況別の観察状況を表2-3-6～表2-3-8及び図2-3-4に示した。

(1) コクガン

主に海岸及び河口で観察され、観察地点数は計46地点（100.0%）であった。
また、観察個体数は、それぞれ1,153羽（98.5%）及び18羽（1.5%）であった。

(2) マガン

自然湖沼で最も多く観察され、観察地点数は計22地点（37.3%）、観察個体数は176,341羽（90.4%）であった。

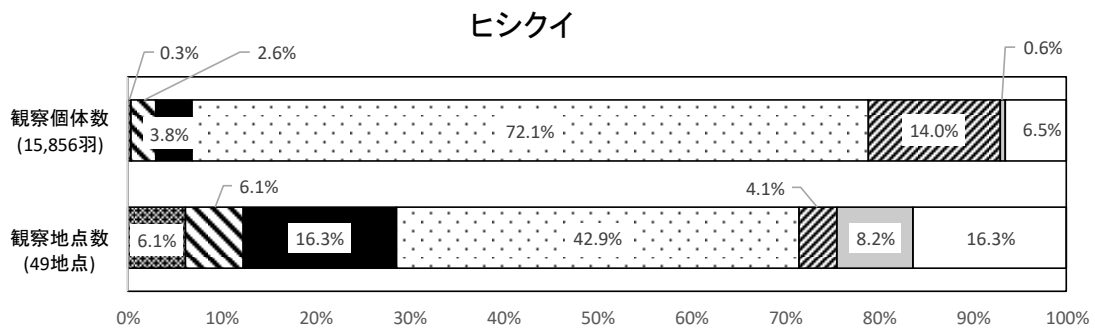
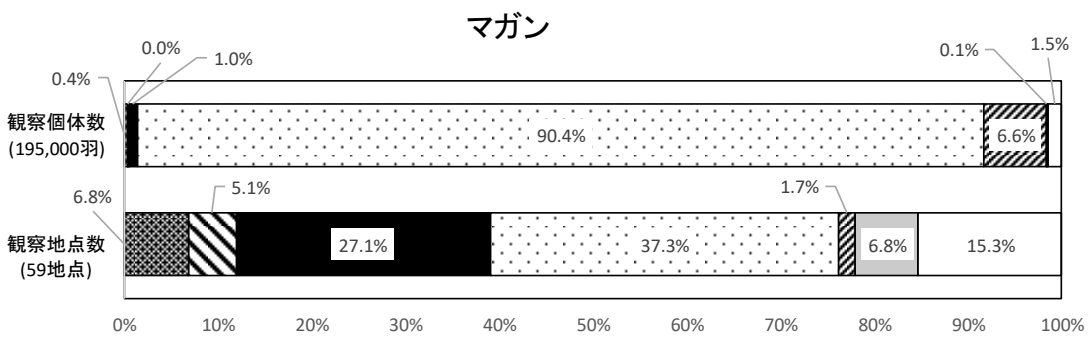
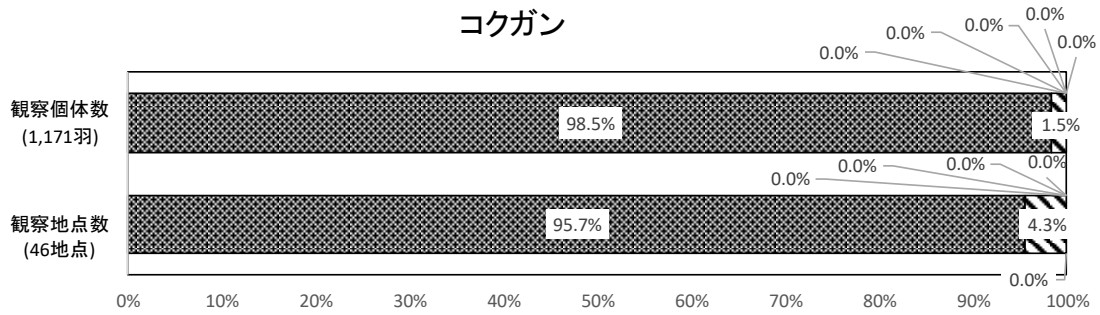
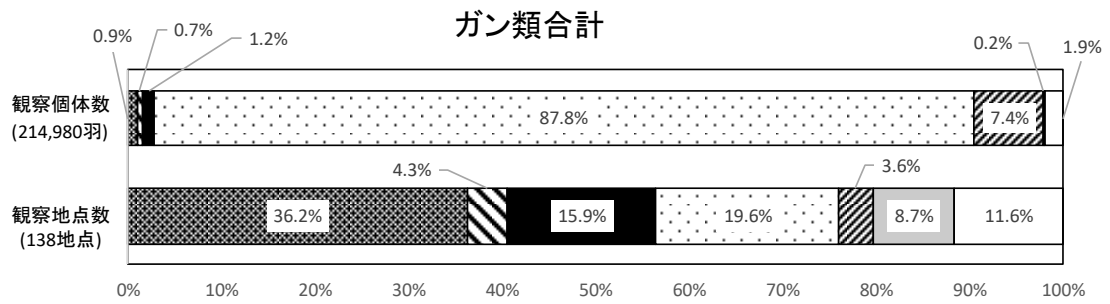
(3) ヒシクイ

自然湖沼で最も多く観察され、観察地点数は21地点（42.9%）、観察個体数は11,438羽（72.1%）であった。

表 2-3-6 地況別のガン類観察状況

項目	海岸		河口		河川		自然湖沼		ダム湖		その他人造湖		その他		合計		
	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	項目内割合(%)	
調査地点数(箇所)	816	9.3	386	4.4	3,028	34.4	517	5.9	691	7.9	3,087	35.1	270	3.1	8,795	100.0	
調査地点面積(ha)	118,254	31.3	22,225	5.9	69,630	18.4	105,176	27.8	32,768	8.7	16,078	4.3	14,159	3.7	378,291	100.0	
観察地点数(箇所)	コクガン	44	95.7	2	4.3	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	46	100.0
	マガン	4	6.8	3	5.1	16	27.1	22	37.3	1	1.7	4	6.8	9	15.3	59	100.0
	ヒシクイ	3	6.1	3	6.1	8	16.3	21	42.9	2	4.1	4	8.2	8	16.3	49	100.0
	その他・種不明	3	9.7	1	3.2	5	16.1	10	32.3	4	12.9	4	12.9	4	12.9	31	100.0
	合計	50	36.2	6	4.3	22	15.9	27	19.6	5	3.6	12	8.7	16	11.6	138	100.0
観察個体数(羽)	コクガン	1,153	98.5	18	1.5	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1,171	100.0
	マガン	716	0.4	17	0.0	1,894	1.0	176,341	90.4	12,797	6.6	237	0.1	2,998	1.5	195,000	100.0
	ヒシクイ	51	0.3	410	2.6	604	3.8	11,438	72.1	2,227	14.0	92	0.6	1,034	6.5	15,856	100.0
	その他・種不明	9	0.3	1,035	35.0	175	5.9	901	30.5	789	26.7	16	0.5	28	0.9	2,953	100.0
	合計	1,929	0.9	1,480	0.7	2,673	1.2	188,680	87.8	15,813	7.4	345	0.2	4,060	1.9	214,980	100.0

【備考】項目内割合は、各行の項目の合計に対する地況別の構成比を示す。



- 海岸
- 河口
- 河川
- 自然湖沼
- ダム湖
- その他人造湖
- その他

図 2-3-4 地況別のガン類観察状況

表 2-3-7 地況別のガン類観察地点数（都道府県別）

都道府県	地況														合計
	海岸		河口		河川		自然湖沼		ダム湖		その他人造湖		その他		
	観察地点数	都道府県内割合(%)	観察地点数	都道府県内割合(%)	観察地点数	都道府県内割合(%)	観察地点数	都道府県内割合(%)	観察地点数	都道府県内割合(%)	観察地点数	都道府県内割合(%)	観察地点数	都道府県内割合(%)	
北海道	8	80.0	1	10.0	0	—	1	10.0	0	—	0	—	0	—	10
青森県	23	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	23
岩手県	1	10.0	0	—	2	20.0	0	—	0	—	1	10.0	6	60.0	10
宮城県	13	54.2	0	—	1	4.2	8	33.3	1	4.2	0	—	1	4.2	24
秋田県	1	14.3	0	—	2	28.6	0	—	0	—	1	14.3	3	42.9	7
山形県	0	—	1	20.0	3	60.0	0	—	0	—	1	20.0	0	—	5
福島県	0	—	0	—	2	50.0	1	25.0	0	—	1	25.0	0	—	4
茨城県	0	—	0	—	1	25.0	3	75.0	0	—	0	—	0	—	4
栃木県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	100.0	0	—	1
群馬県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
埼玉県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
千葉県	0	—	0	—	0	—	0	—	1	33.3	1	33.3	1	33.3	3
東京都	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
神奈川県	0	—	0	—	0	—	0	—	1	100.0	0	—	0	—	1
新潟県	0	—	0	—	3	42.9	3	42.9	0	—	0	—	1	14.3	7
富山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
石川県	1	16.7	0	—	1	16.7	4	66.7	0	—	0	—	0	—	6
福井県	0	—	0	—	0	—	1	50.0	0	—	0	—	1	50.0	2
山梨県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
長野県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
岐阜県	0	—	0	—	1	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	1
静岡県	0	—	1	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1
愛知県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
三重県	0	—	2	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	2
滋賀県	0	—	0	—	0	—	2	66.7	0	—	1	33.3	0	—	3
京都府	1	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1
大阪府	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
兵庫県	0	—	0	—	2	33.3	0	—	0	—	4	66.7	0	—	6
奈良県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
和歌山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
鳥取県	1	25.0	0	—	1	25.0	2	50.0	0	—	0	—	0	—	4
島根県	0	—	0	—	0	—	1	100.0	0	—	0	—	0	—	1
岡山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
広島県	0	—	0	—	1	50.0	0	—	1	50.0	0	—	0	—	2
山口県	0	—	0	—	0	—	0	—	1	100.0	0	—	0	—	1
徳島県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
香川県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
愛媛県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
高知県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
福岡県	0	—	1	50.0	1	50.0	0	—	0	—	0	—	0	—	2
佐賀県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
長崎県	1	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1
熊本県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
大分県	0	—	0	—	1	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	1
宮崎県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
鹿児島県	0	—	0	—	0	—	1	100.0	0	—	0	—	0	—	1
沖縄県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	1	25.0	3	75.0	4
合計	50	36.2	6	4.3	22	15.9	27	19.6	5	3.6	12	8.7	16	11.6	138

【備考】 都道府県内割合は、各都道府県内での観察地点数の、地況別の構成比を示す。
観察地点数の合計は、種別の観察地点数の単純合計ではない(重複地点を除いている)。

表 2-3-8 地況別のガン類観察個体数（都道府県別）

都道府県	地況														
	海岸		河口		河川		自然湖沼		ダム湖		その他人造湖		その他		合計
	観察個体数(羽)	都道府県内割合(%)	観察個体数(羽)	都道府県内割合(%)	観察個体数(羽)	都道府県内割合(%)	観察個体数(羽)	都道府県内割合(%)	観察個体数(羽)	都道府県内割合(%)	観察個体数(羽)	都道府県内割合(%)	観察個体数(羽)	都道府県内割合(%)	
北海道	95	95.0	4	4.0	0	—	1	1.0	0	—	0	—	0	—	100
青森県	684	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	684
岩手県	239	7.7	0	—	47	1.5	0	—	0	—	95	3.1	2,725	87.7	3,106
宮城県	363	0.2	0	—	1,598	0.9	169,467	90.5	15,760	8.4	0	—	1	0.0	187,189
秋田県	2	0.2	0	—	33	3.0	0	—	0	—	60	5.5	990	91.2	1,085
山形県	0	—	1,447	87.5	199	12.0	0	—	0	—	7	0.4	0	—	1,653
福島県	0	—	0	—	7	4.6	22	14.6	0	—	122	80.8	0	—	151
茨城県	0	—	0	—	212	98.1	4	1.9	0	—	0	—	0	—	216
栃木県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	10	100.0	0	—	10
群馬県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
埼玉県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
千葉県	0	—	0	—	0	—	0	—	20	69.0	3	10.3	6	20.7	29
東京都	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
神奈川県	0	—	0	—	0	—	0	—	2	100.0	0	—	0	—	2
新潟県	0	—	0	—	541	3.8	13,700	95.5	0	—	0	—	107	0.7	14,348
富山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
石川県	55	2.6	0	—	20	0.9	2,058	96.5	0	—	0	—	0	—	2,133
福井県	0	—	0	—	0	—	1	0.5	0	—	0	—	198	99.5	199
山梨県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
長野県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
岐阜県	0	—	0	—	5	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	5
静岡県	0	—	2	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	2
愛知県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
三重県	0	—	15	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	15
滋賀県	0	—	0	—	0	—	221	92.1	0	—	19	7.9	0	—	240
京都府	6	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	6
大阪府	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
兵庫県	0	—	0	—	7	22.6	0	—	0	—	24	77.4	0	—	31
奈良県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
和歌山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
鳥取県	439	96.3	0	—	1	0.2	16	3.5	0	—	0	—	0	—	456
島根県	0	—	0	—	0	—	3,187	100.0	0	—	0	—	0	—	3,187
岡山県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
広島県	0	—	0	—	1	50.0	0	—	1	50.0	0	—	0	—	2
山口県	0	—	0	—	0	—	0	—	30	100.0	0	—	0	—	30
徳島県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
香川県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
愛媛県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
高知県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
福岡県	0	—	12	92.3	1	7.7	0	—	0	—	0	—	0	—	13
佐賀県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
長崎県	46	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	46
熊本県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
大分県	0	—	0	—	1	100.0	0	—	0	—	0	—	0	—	1
宮崎県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
鹿児島県	0	—	0	—	0	—	3	100.0	0	—	0	—	0	—	3
沖縄県	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	5	13.2	33	86.8	38
合計	1,929	0.9	1,480	0.7	2,673	1.2	188,680	87.8	15,813	7.4	345	0.2	4,060	1.9	214,980

【備考】 都道府県内割合は、各都道府県内での観察個体数の、地況別の構成比を示す。

4. カモ類

4.1 観察個体数

カモ類の令和3年度の観察個体数の種別割合を図2-4-1に示した。

令和3年度は、47都道府県において、6,232地点で1,504,611羽のカモ類が観察された。令和3年度は前年度から61,125羽の増加であった。一方、観察地点数はここ数年6,000地点前後で推移している。種類別の観察個体数の内訳で見ると、最も多いのはマガモ426,378羽（28.3%）であり、次いでカルガモ190,110羽（12.6%）、オナガガモ152,000羽（10.1%）、ヒドリガモ146,500羽（9.7%）、コガモ139,887羽（9.3%）、スズガモ134,079羽（8.9%）であった。

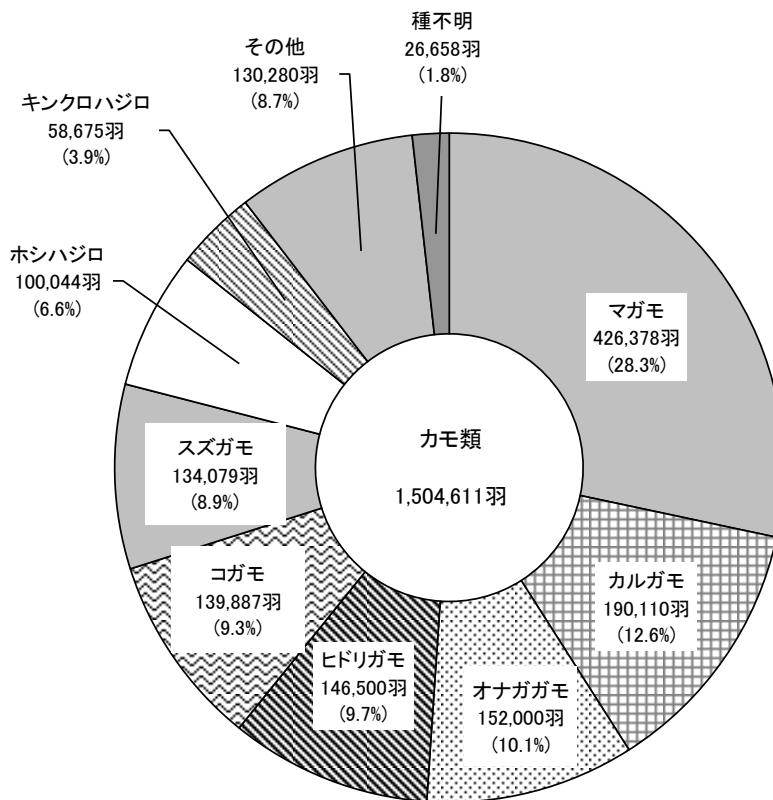


図 2-4-1 カモ類観察個体数の内訳

注) 淡水ガモ：本調査の対象種は、オシドリ、マガモ、カルガモ、コガモ、トモエガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、アメリカヒドリ、シマアジである。
海ガモ：本調査の対象種は、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、クロガモ、ピロードキンクロ、シノリガモ、コオリガモ、ホオジロガモ、ミコアイサ、ウミアイサ、カワアイサ、アカハシハジロ、オオホシハジロ、メジロガモ、アカハジロ、ケワタガモ、コケワタガモ、アラナミキンクロ、ヒメハジロ、クビワキンクロ、コウライアイサである。
ツクシガモ等：本調査の対象種は、ツクシガモ、アカツクシガモ、リュウキュウガモである。

カモ類における種毎の観察状況は以下のとおり。

(1) オシドリ

観察地点数は概ね 600～700 地点程度で推移している。観察個体数は、昭和 50 年代後半から増減しつつも全体としては増加傾向にある。平成 26 年度 32,000 羽程度まで増加した後、増減しつつも減少傾向にあり、令和 3 年度は 24,000 羽程度まで減少した。



図2-4-2 (1) オシドリの観察状況の推移

(2) マガモ

観察地点数は概ね3,000～3,500地点を推移している。観察個体数は、調査開始当初は200,000羽程度であったものが、昭和56年頃から増加に転じ、平成8～11年度に500,000羽前後でピークに達した。その後平成24年度まで減少傾向にあり、近年は400,000羽程度で推移している。

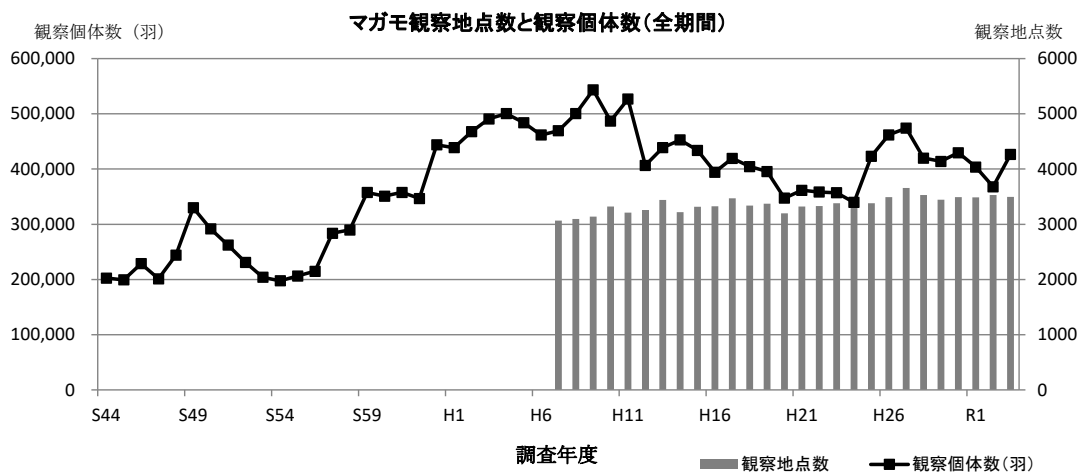


図 2-4-2 (2) マガモの観察状況の推移

(5) トモエガモ

観察地点数は増減しているが、令和2年度は200地点を上回り、過去最大となった。近年の観察個体数について、平成27年度、平成28年度、令和元年度は5,000羽を下回り、平成29年度、平成30年度は10,000羽を、令和2年度、令和3年度は20,000羽を超えた。

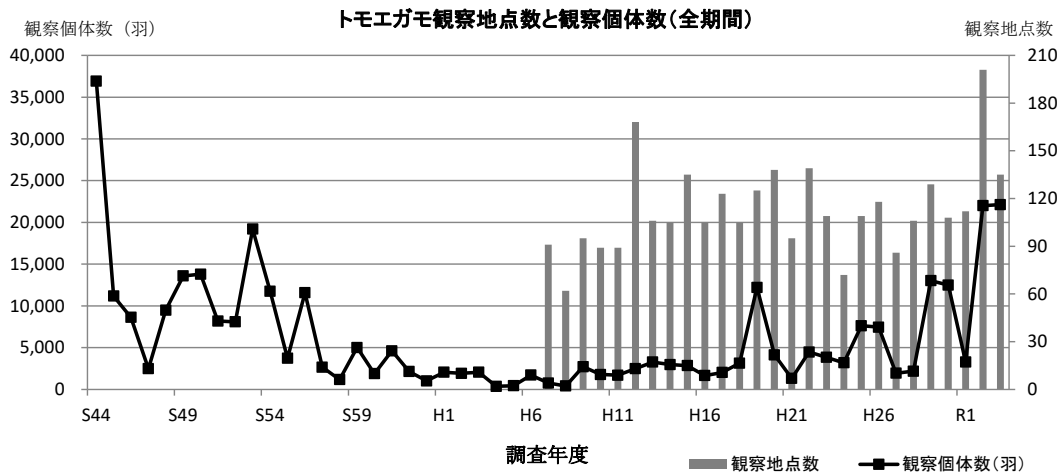


図2-4-2 (5) トモエガモの観察状況の推移

(6) ヨシガモ

観察地点数はやや増加傾向にあり、最近10年間は400地点以上で推移している。観察個体数は、最近10年間は概ね11,000～15,000羽で推移している。

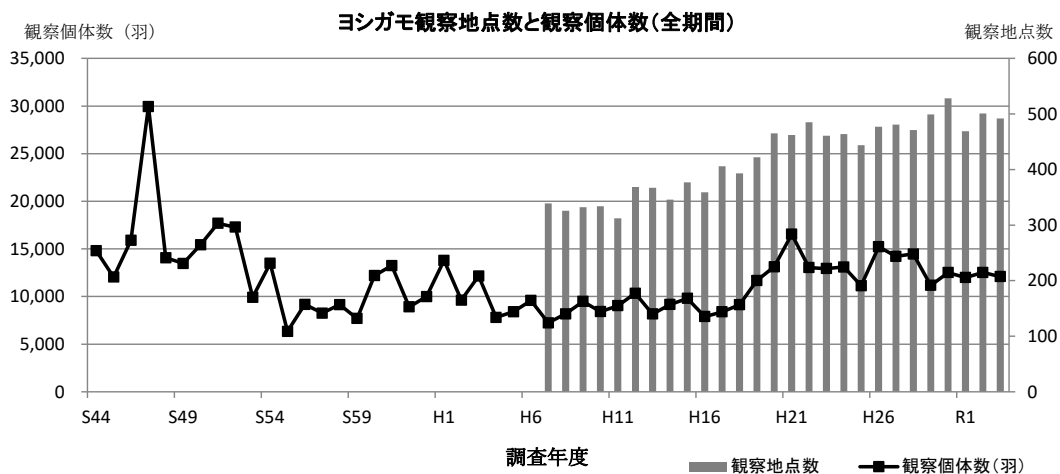


図 2-4-2 (6) ヨシガモの観察状況の推移

(7) オカヨシガモ

観察地点数は増加傾向にあり、平成28年度より700地点を越えている。観察個体数は、昭和55年度頃から増加傾向にあり、近年は20,000羽程度で推移していたが、令和3年度は過去最高の26,000羽を超えた。

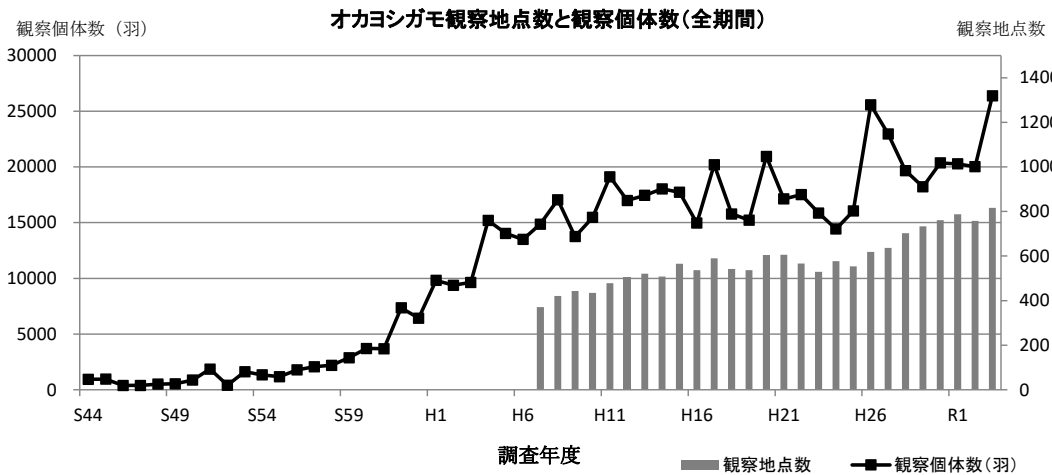


図2-4-2 (7) オカヨシガモの観察状況の推移

(8) ヒドリガモ

観察地点数は増加傾向であったが令和元年度をピークに減少している。観察個体数は昭和44年度の40,000羽以下からほぼ直線的に増加し、平成19年度には200,000羽以上が観察されたが、以降は減少傾向にある。

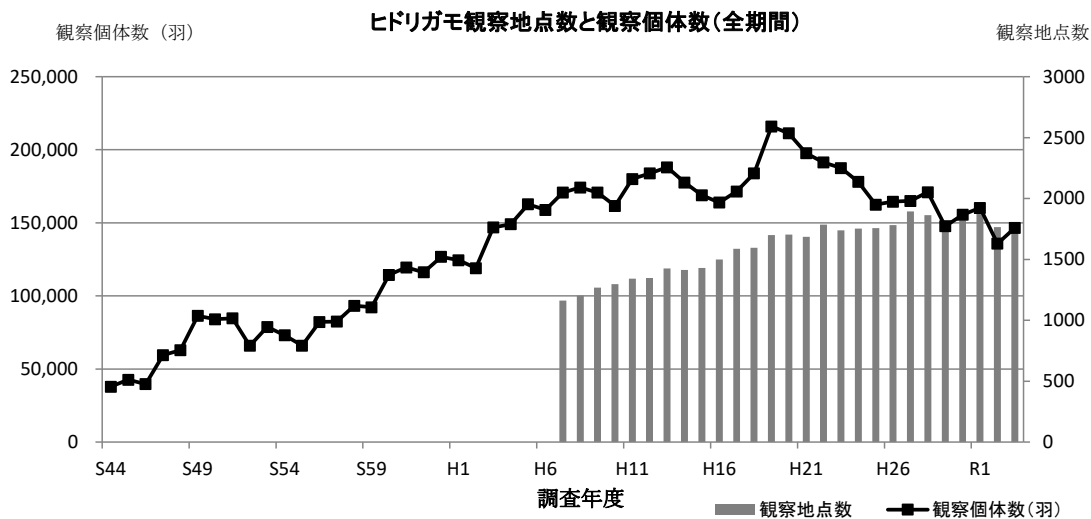


図 2-4-2 (8) ヒドリガモの観察状況の推移

(9) オナガガモ

観察地点数は1,000地点前後で推移している。観察個体数は平成19年度に220,000羽程度となって以降減少傾向に転じたが、平成24年以降は150,000～200,000羽で推移している。

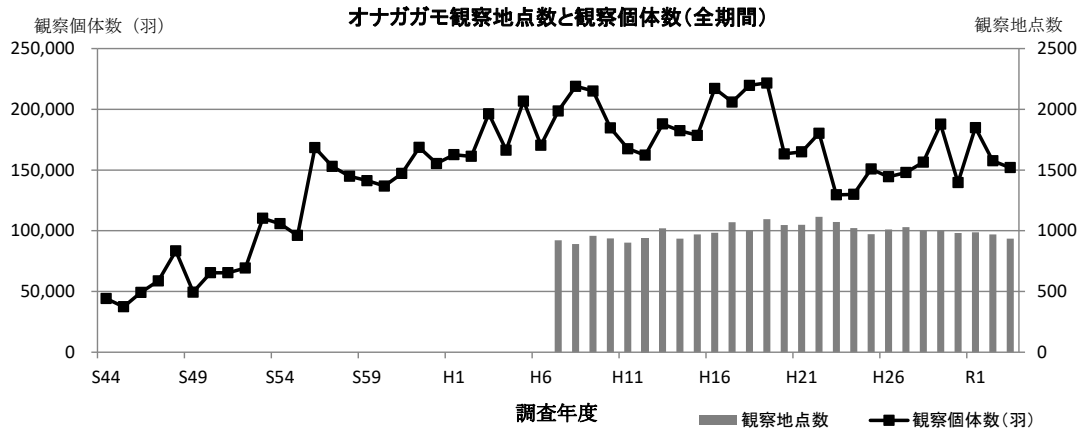


図 2-4-2 (9) オナガガモの観察状況の推移

(10) ハシビロガモ

観察地点数は、やや増加傾向にある。観察個体数は、平成4年度から減少傾向にあったが、最近20年間は概ね15,000～20,000羽で推移している。



図 2-4-2 (10) ハシビロガモの観察状況の推移

(11) ホシハジロ

観察地点数は増加傾向にあったが、平成26年度以降1,400～1,600地点で推移している。一方で、観察個体数は平成11年度に200,000羽程度となって以降減少傾向にあり、平成28年度以降80,000～100,000羽で推移している。

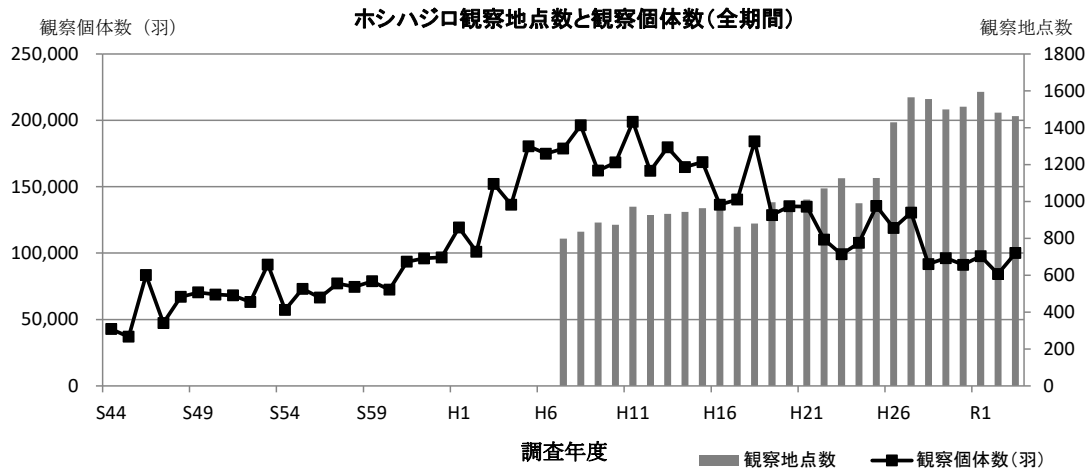


図 2-4-2 (11) ホシハジロの観察状況の推移

(12) キンクロハジロ

観察地点数は増加傾向にあったが、平成23年度以降は増減しつつも1,300～1,500地点で推移している。観察個体数は平成15年度から平成21年度まで100,000羽以上を推移していたが、平成22年度からは減少傾向にあり、令和3年度は約60,000羽を下回った。

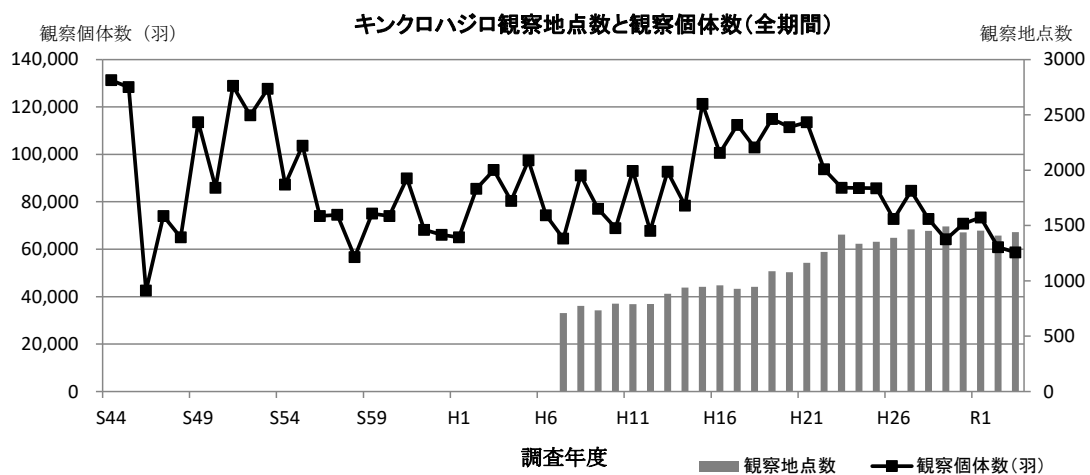


図 2-4-2 (12) キンクロハジロの観察状況の推移

(13) スズガモ

観察地点数は増加傾向であったが、平成28年度以降は増減しつつも減少傾向にある。観察个体数は昭和51年度に200,000羽を越えて以降、100,000～270,000羽程度の間で増減を繰り返していたが、平成17年度をピークに増減しつつも減少傾向となり、令和元年度以降は150,000羽を下回っている。

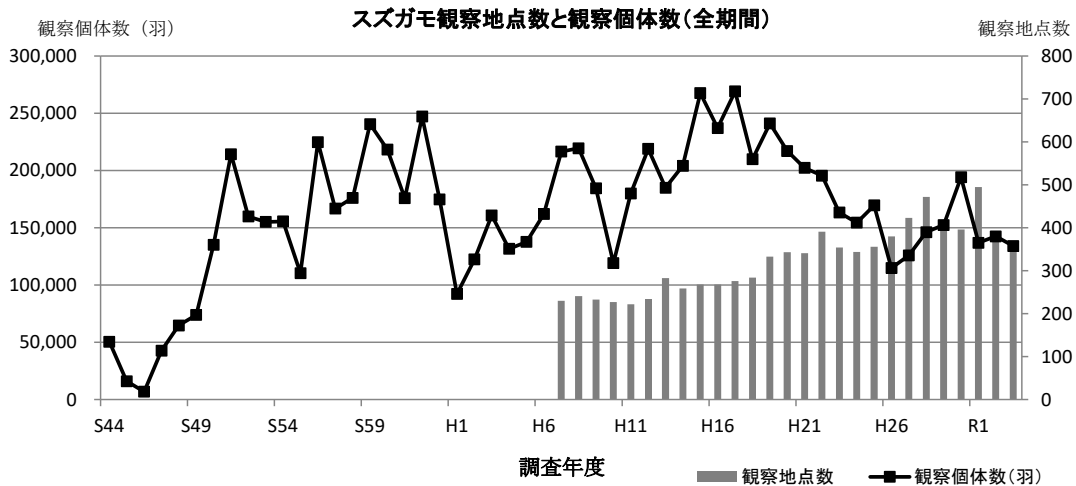


図 2-4-2 (13) スズガモの観察状況の推移

(14) クロガモ

観察地点数は平成19年度まで減少傾向にあり、以降は70～110地点の間を推移しているが、令和元年度は131地点と多かった。観察个体数は減少傾向にあり、平成13年度に15,000羽を観察して以降は10,000羽を下回り、さらに平成27年度以降は5,000羽を下回っている。

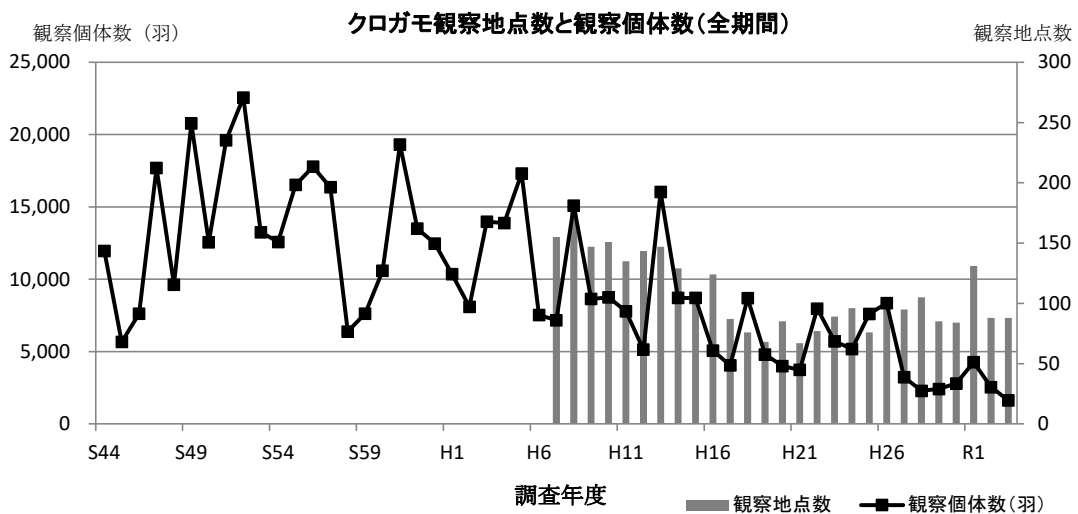


図 2-4-2 (14) クロガモの観察状況の推移

(15) ビロードキンクロ

観察地点数は全国的に少なく、平成28年度以降、10地点以下で推移している。観察個体数については、平成22年度以降10年間は100羽を下回っている年度が多かったが、平成29年度以降は50羽を下回り、令和3年度は6羽であった。

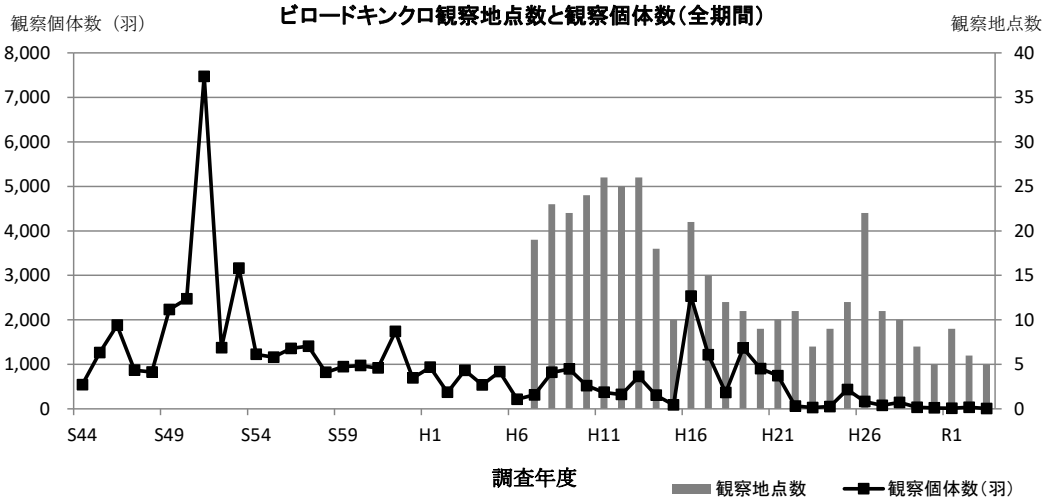


図 2-4-2 (15) ビロードキンクロの観察状況の推移

(16) シノリガモ

観察個体数は平成5年度から減少傾向にあったが、近年は500～1,000羽で推移している。観察地点数も同様に減少傾向にあったが、平成20年度以降は60～80地点で推移している。これらは、本種が主に観察される東北以北沿岸の調査地点数が減少したことが要因の可能性がある。

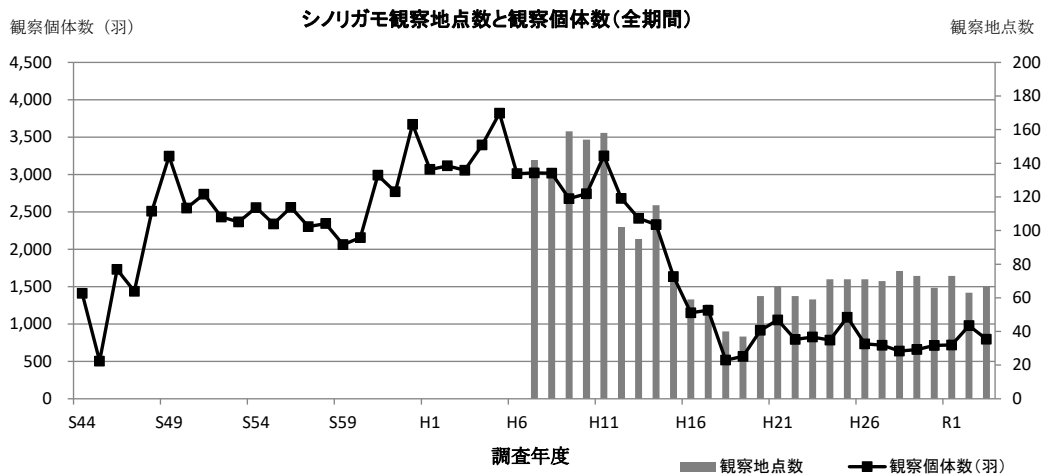


図 2-4-2 (16) シノリガモの観察状況の推移

(17) コオリガモ

調査開始初期においては、観察個体数が12,000羽を超えた年度もあるが、継続的に減少傾向にあり、近年は50羽以下にまで減少している。観察地点数も減少傾向にあり、本種が主に観察される北海道沿岸の調査地点数が平成18年以降減少したことが観察個体数減少につながった可能性がある。令和元年度は、北海道及び青森県の観察地点が増加した。

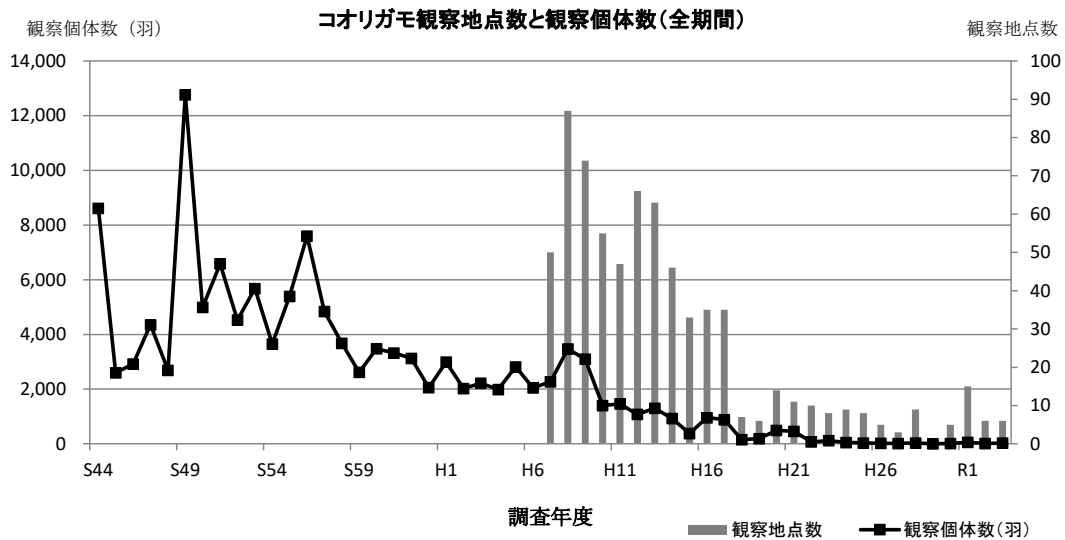


図2-4-2 (17) コオリガモの観察状況の推移

(18) ホオジロガモ

観察地点数は平成19年度からやや増加し、近年は200～250地点で推移している。観察個体数は年による増減があるものの、最近10年間は2,000～4,000羽で推移している。

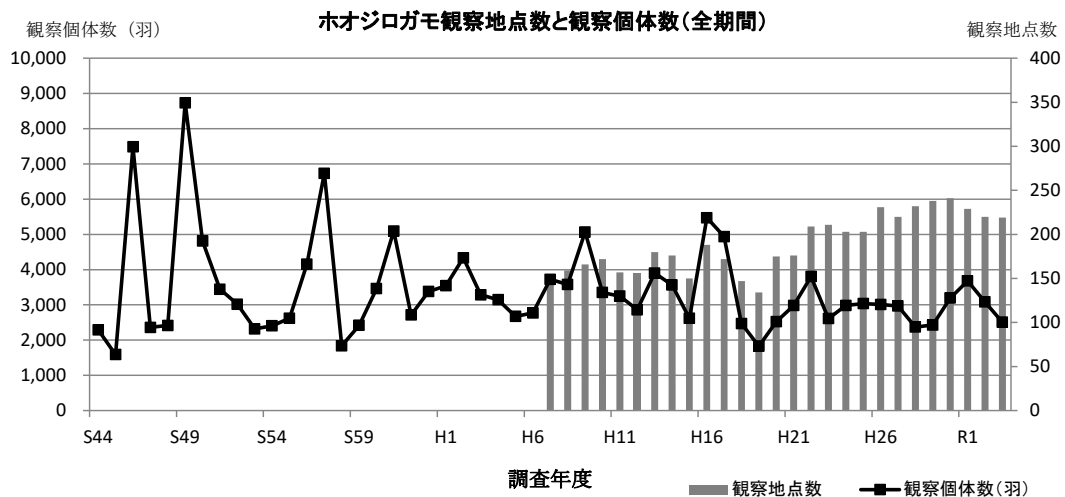


図 2-4-2 (18) ホオジロガモの観察状況の推移

(19) ミコアイサ

観察地点数は増加傾向にあり、平成30年度及び令和元年度は400地点を越えた。観察個体数は昭和46年度以降増加傾向であったが、平成20年度以降は3,000羽～5,000羽程度の間で増減しながら推移している。

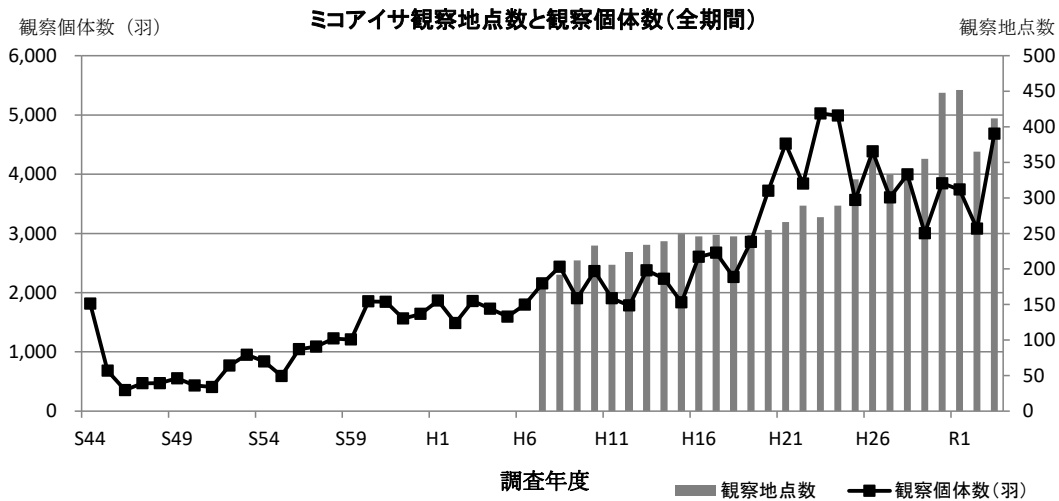


図 2-4-2 (19) ミコアイサの観察状況の推移

(20) ウミアイサ

観察地点数は平成15年度以降、概ね200～250地点で推移している。観察個体数は調査開始当初は大きく増減していたが、最近20年間は減少傾向にあり、平成15年度以降は3,000羽以下で推移している。

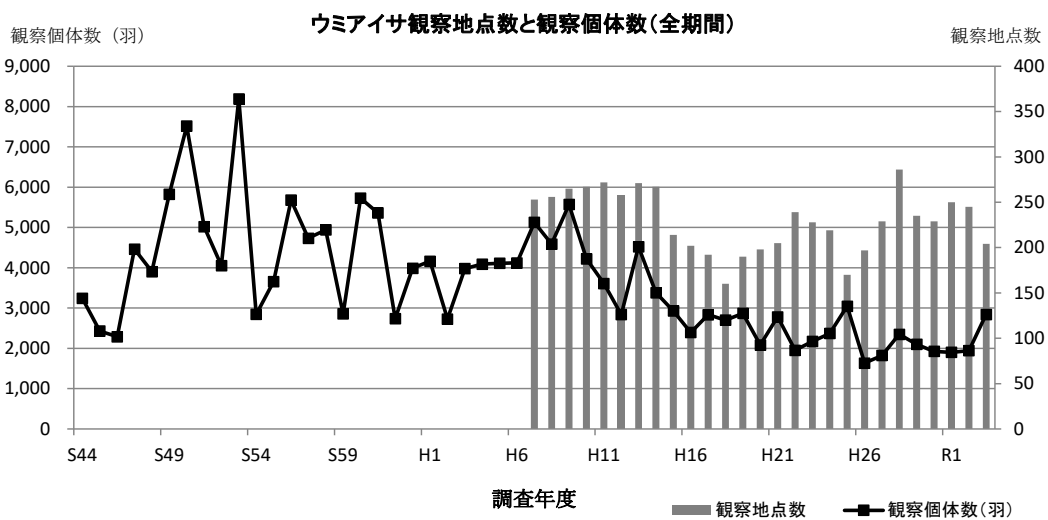


図 2-4-2 (20) ウミアイサの観察状況の推移

(21) カワアイサ

観察地点数は増加傾向であったが、平成21年度以降400～500地点で推移している。観察個体数も同様に増加傾向であったが、平成18年度以降5,000～7,000羽で推移していたものの、令和2年度は5,000羽を下回った。

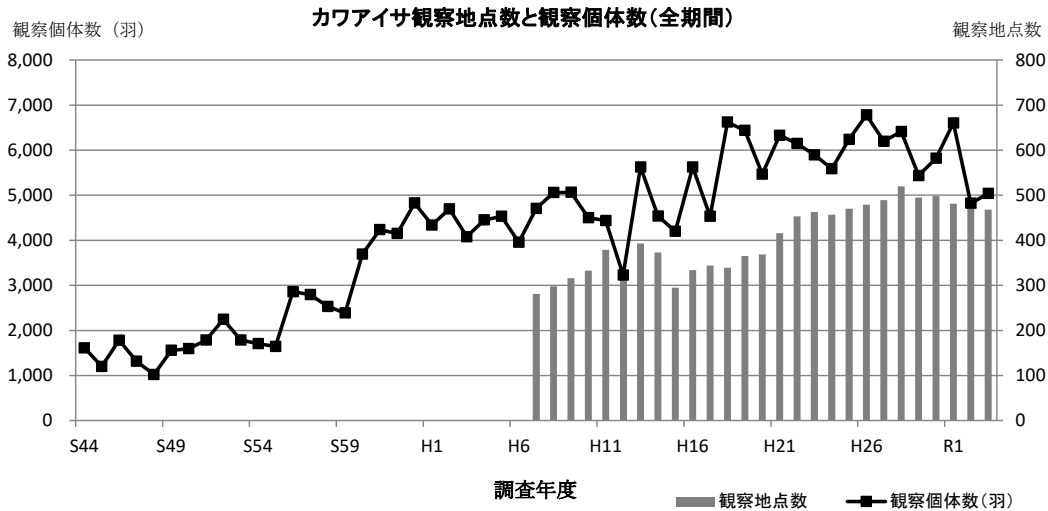


図 2-4-2 (21) カワアイサの観察状況の推移

(22) ツクシガモ

観察地点数は 20～70 地点で推移している。観察個体数は増減があるものの、平成 21 年度から増加傾向にあり、令和 3 年度は 6,000 羽を超えた。

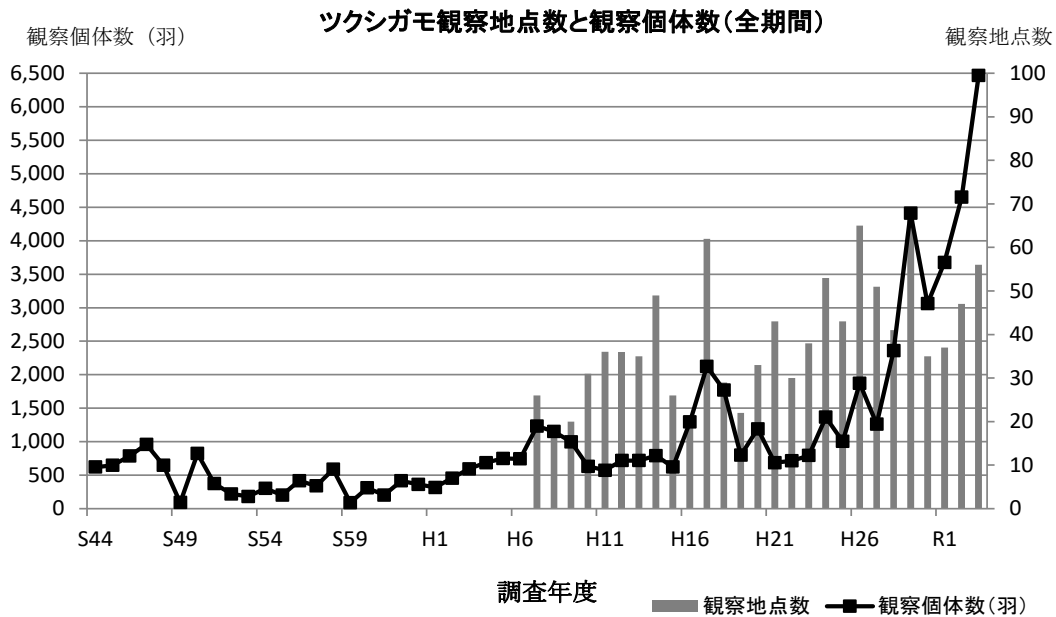


図 2-4-2 (22) ツクシガモの観察状況の推移

4.2 分布状況

令和3年度の都道府県別調査結果を表2-4-1(1)～(3)に示した。

表2-4-1(1) 都道府県別のカモ類観察地点数及び観察個体数

都道府県	観察地点数	観察個体数(羽)								
		淡水ガモ類								
		オシドリ	マガモ	カルガモ	コガモ	トモエガモ	ヨシガモ	オカヨシガモ	ヒドリガモ	オナガガモ
北海道	120	0	1,196	176	66	0	13	1	370	393
青森県	139	27	1,023	1,475	480	13	100	12	107	471
岩手県	218	6	3,066	3,916	831	4	20	5	454	997
宮城県	266	54	15,202	4,573	2,764	4	170	27	1,104	25,915
秋田県	135	2	2,040	1,834	345	0	21	3	191	96
山形県	179	19	13,699	4,805	3,104	5	24	4	207	1,717
福島県	234	77	12,381	5,808	3,503	7	86	121	924	12,720
茨城県	42	209	61,399	9,567	9,631	28	2,734	6,663	10,852	29,839
栃木県	33	187	7,613	2,456	2,362	27	84	173	1,688	2,690
群馬県	76	112	3,451	3,009	4,078	4	65	210	1,434	1,857
埼玉県	149	188	5,266	7,028	6,949	11	169	317	3,542	1,121
千葉県	251	594	26,375	16,899	8,203	1	448	170	7,115	15,484
東京都	69	19	706	1,206	1,452	0	54	364	1,817	289
神奈川県	174	1,218	1,110	1,436	1,208	0	62	197	1,075	506
新潟県	21	0	48,511	3,219	13,915	479	151	29	1,585	8,207
富山県	17	0	7,921	1,821	3,348	2	172	131	1,932	2,216
石川県	10	5	21,508	4,162	10,690	1,249	163	77	5,069	4,950
福井県	16	33	14,330	2,651	2,899	356	394	33	1,622	333
山梨県	46	99	861	342	639	0	1	12	284	13
長野県	138	130	2,844	2,748	1,481	5	2	18	966	976
岐阜県	118	565	4,132	5,182	6,278	4	451	1,079	4,821	312
静岡県	129	274	5,148	3,748	3,834	2	409	852	3,443	1,506
愛知県	126	389	4,808	2,778	2,619	0	70	696	1,783	3,296
三重県	235	700	8,765	4,862	3,783	84	422	1,971	7,583	2,842
滋賀県	171	354	17,134	8,050	8,185	641	1,658	2,421	11,817	1,790
京都府	137	640	5,880	3,714	3,721	45	246	772	2,396	382
大阪府	385	851	2,435	2,654	2,551	38	381	1,219	6,198	514
兵庫県	210	861	4,615	3,069	3,453	42	231	2,163	5,807	1,760
奈良県	114	2,071	3,152	3,041	3,740	7	301	58	1,709	44
和歌山県	126	392	2,820	2,159	831	5	111	464	3,029	127
鳥取県	11	942	8,051	3,040	833	0	124	181	1,404	968
島根県	154	894	13,236	6,060	1,029	3,010	127	358	2,343	1,754
岡山県	14	495	4,154	1,216	952	37	62	203	1,801	5,364
広島県	256	1,517	5,518	4,705	2,137	13	218	1,920	5,134	887
山口県	191	1,384	8,974	4,519	1,669	2	325	176	2,767	166
徳島県	69	507	6,081	3,600	1,427	0	123	1,460	4,992	90
香川県	154	304	3,894	2,183	2,149	3	299	322	4,057	799
愛媛県	191	927	10,337	4,686	2,351	422	135	482	4,445	4,008
高知県	52	974	10,220	5,483	1,142	93	144	74	4,893	2,391
福岡県	213	609	5,929	5,835	1,245	45	50	101	3,005	2,410
佐賀県	105	275	3,886	2,785	2,441	6	47	38	2,218	6,408
長崎県	41	1,294	5,314	4,196	464	15,239	284	66	2,260	228
熊本県	142	437	11,786	5,136	1,157	0	54	302	5,280	1,256
大分県	249	2,151	5,075	4,229	1,733	191	442	396	3,720	1,061
宮崎県	68	1,403	7,329	3,479	241	0	3	0	5,763	391
鹿児島県	168	289	7,123	10,295	1,791	0	420	0	1,175	330
沖縄県	70	0	80	275	183	0	23	34	319	126
観察都道府県数		43	47	47	47	35	47	45	47	47
合計	6,232	24,478	426,378	190,110	139,887	22,124	12,093	26,375	146,500	152,000

表 2-4-1 (2) 都道府県別のカモ類観察地点数及び観察個体数

都道府県	観察個体数(羽)									
	淡水ガモ類			海ガモ類						
	ハシビロガモ	その他	合計	ホシハジロ	キンクロハジロ	スズガモ	クロガモ	ビロードキンクロ	シノリガモ	コオリガモ
北海道	8	0	2,223	29	181	416	652	1	555	21
青森県	0	0	3,708	118	194	989	55	0	11	2
岩手県	0	4	9,303	489	342	474	54	0	59	5
宮城県	561	0	50,374	778	344	787	168	0	6	0
秋田県	4	0	4,536	19	73	106	17	0	10	0
山形県	1	0	23,585	442	566	33	0	0	0	0
福島県	45	0	35,672	739	1,179	194	258	1	29	0
茨城県	781	8	131,711	1,531	1,464	11,088	212	0	90	0
栃木県	73	1	17,354	89	200	0	0	0	0	0
群馬県	228	6	14,454	362	534	0	0	0	0	0
埼玉県	552	6	25,149	1,882	866	1	0	0	0	0
千葉県	1,099	0	76,388	2,738	1,130	22,172	6	2	0	0
東京都	176	3	6,086	888	1,084	14,870	0	0	0	0
神奈川県	83	0	6,895	962	818	492	4	0	0	0
新潟県	34	2	76,132	1,045	803	67	1	0	1	0
富山県	161	0	17,704	417	311	14	0	0	0	0
石川県	229	6	48,108	669	225	1	0	0	0	0
福井県	61	0	22,712	795	868	634	0	0	0	0
山梨県	6	0	2,257	134	208	0	94	0	0	0
長野県	0	0	9,170	461	627	0	0	0	0	0
岐阜県	230	3	23,057	341	1,047	0	0	0	0	0
静岡県	203	2	19,421	1,352	800	2,691	0	0	0	0
愛知県	591	1	17,031	8,905	1,911	5,575	16	0	0	0
三重県	1,118	0	32,130	4,406	1,377	8,413	0	0	0	0
滋賀県	704	5	52,759	3,449	12,479	1,770	0	0	0	0
京都府	270	3	18,069	1,560	952	371	0	0	27	0
大阪府	2,931	6	19,778	10,505	3,403	1,601	0	0	0	0
兵庫県	1,724	3	23,728	9,838	1,622	961	0	0	0	0
奈良県	1,457	0	15,580	393	376	1	0	0	0	0
和歌山県	58	0	9,996	691	200	0	0	0	0	0
鳥取県	20	1	15,564	444	742	2,172	0	0	0	0
島根県	1,185	1	29,997	1,681	8,148	6,995	11	0	9	0
岡山県	336	2	14,622	3,604	1,076	5,931	0	2	0	0
広島県	1,189	1	23,239	6,251	686	7,789	0	0	0	0
山口県	51	0	20,033	1,026	819	144	0	0	0	0
徳島県	242	1	18,523	1,635	369	1,149	0	0	0	0
香川県	3,180	0	17,190	2,973	545	2	0	0	0	0
愛媛県	505	1	28,299	1,117	229	17	0	0	0	0
高知県	20	0	25,434	62	6	6	3	0	0	0
福岡県	298	0	19,527	3,281	880	3,694	4	0	0	0
佐賀県	96	4	18,204	17,240	7,557	47	50	0	0	0
長崎県	18	1	29,364	3,691	384	32,037	0	0	0	0
熊本県	50	0	25,458	297	27	202	17	0	0	0
大分県	68	1	19,067	492	206	154	0	0	0	0
宮崎県	40	0	18,649	30	10	2	0	0	0	0
鹿児島県	9	0	21,432	4	187	0	0	0	0	0
沖縄県	428	0	1,468	189	620	17	3	0	0	0
観察都道府県数	44	24	47	47	47	40	18	4	10	3
合計	21,123	72	1,161,140	100,044	58,675	134,079	1,625	6	797	28

※ 淡水ガモ類のその他はアメリカヒドリ、シマアジの合計である。

表 2-4-1 (3) 都道府県別のカモ類観察地点数及び観察個体数

都道府県	観察個体数(羽)											
	海ガモ類						種不明 ・雑種	ツクシガモ類			リュウキュウガモ	合計
	ホオジロ ガモ	ミコアイサ	ウミアイサ	カワアイサ	その他	合計		ツクシガモ	アカツクシ ガモ	合計		
北海道	755	12	1,040	478	0	4,140	542	0	0	0	0	6,905
青森県	63	1	174	102	0	1,709	1,000	0	0	0	0	6,417
岩手県	107	37	70	165	0	1,802	60	0	0	0	0	11,165
宮城県	31	317	28	57	0	2,516	878	0	0	0	0	53,768
秋田県	4	13	50	95	0	387	1,426	0	0	0	0	6,349
山形県	0	9	0	78	2	1,130	81	0	0	0	0	24,796
福島県	207	71	17	93	0	2,788	886	0	0	0	0	39,346
茨城県	127	108	20	8	0	14,648	1,591	0	0	0	0	147,950
栃木県	5	133	0	128	0	555	0	0	0	0	0	17,909
群馬県	40	60	0	35	0	1,031	0	0	0	0	0	15,485
埼玉県	36	30	0	12	0	2,827	0	0	0	0	0	27,976
千葉県	70	23	22	20	0	26,183	2,706	0	0	0	0	105,277
東京都	2	1	1	0	0	16,846	100	0	0	0	0	23,032
神奈川県	30	6	0	22	0	2,334	220	0	0	0	0	9,449
新潟県	30	94	33	31	1	2,106	0	1	0	1	0	78,239
富山県	3	8	1	23	0	777	0	0	0	0	0	18,481
石川県	26	82	0	127	0	1,130	18	1	0	1	0	49,257
福井県	32	37	1	48	1	2,416	0	0	0	0	0	25,128
山梨県	6	12	0	115	0	569	4	0	0	0	0	2,830
長野県	27	71	0	620	0	1,806	229	0	0	0	0	11,205
岐阜県	38	96	1	489	0	2,012	10	0	0	0	0	25,079
静岡県	114	14	30	192	0	5,193	0	1	0	1	0	24,615
愛知県	1	79	159	44	0	16,690	2,288	4	0	4	0	36,013
三重県	16	88	92	27	2	14,421	236	0	0	0	0	46,787
滋賀県	304	1,399	140	591	3	20,135	4,153	0	0	0	0	77,047
京都府	14	16	33	187	3	3,163	11	0	0	0	0	21,243
大阪府	15	320	71	22	1	15,938	21	95	0	95	0	35,832
兵庫県	4	649	137	281	1	13,493	28	2	0	2	0	37,251
奈良県	0	201	0	1	0	972	0	1	0	1	0	16,553
和歌山県	0	9	0	69	0	969	214	1	0	1	0	11,180
鳥取県	96	31	13	87	0	3,585	214	6	0	6	0	19,369
島根県	270	15	30	115	0	17,274	313	5	0	5	0	47,589
岡山県	5	68	2	7	0	10,695	385	215	0	215	0	25,917
広島県	5	96	146	613	2	15,588	0	4	0	4	0	38,831
山口県	5	12	197	9	0	2,212	1,359	0	0	0	0	23,604
徳島県	0	2	33	0	1	3,189	13	27	0	27	0	21,752
香川県	0	370	69	0	0	3,959	4	6	0	6	0	21,159
愛媛県	5	5	117	0	2	1,492	1	32	0	32	0	29,824
高知県	0	0	0	1	0	78	15	0	0	0	0	25,527
福岡県	13	72	13	37	0	7,994	1,321	875	0	875	0	29,717
佐賀県	0	0	8	0	0	24,902	1,486	5,039	3	5,042	0	49,634
長崎県	2	9	37	2	0	36,162	201	26	0	26	0	65,753
熊本県	0	0	0	2	0	545	68	25	0	25	0	26,096
大分県	0	6	55	4	2	919	1,072	95	0	95	0	21,153
宮崎県	0	0	0	0	0	42	279	0	0	0	0	18,970
鹿児島県	0	0	0	0	0	191	3,224	0	0	0	0	24,847
沖縄県	0	0	0	0	1	830	1	5	1	6	0	2,305
観察 都道府県数	35	41	32	39	13	47	38	21	2	21	0	47
合計	2,508	4,682	2,840	5,037	22	310,343	26,658	6,466	4	6,470	0	1,504,611

※ 海ガモ類のその他はアカハシハジロ、オオホシハジロ、メジロガモ、アカハジロ、ケワタガモ、コケワタガモ、アラナミキンクロ、ヒメハジロ、クビワキンクロ、コウライアイサの合計である（今年度はオオホシハジロ、ケワタガモ、コケワタガモ、アラナミキンクロ、ヒメハジロは観察されなかった）。

4.3 法指定区域別の観察状況

鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律（以下、鳥獣保護管理法）によって鳥獣保護区や休猟区などに指定されている区域別の観察状況を、表2-4-2～表2-4-5及び図2-4-3(1)～(5)に示した。

カモ類の観察地点のうち、鳥獣保護区に該当する地点は、全体の20.8%にあたる1,298地点であり、これらの地点ではカモ類の全観察個体数の47.0%にあたる706,868羽が観察された。また、鳥獣保護区に、休猟区、鳥獣保護管理法施行規則第7条第1項第7号ハからチに該当する区域、特定猟具使用禁止区域及び特定猟具使用制限区域を加えた、狩猟または銃猟が禁止・制限された区域に該当する地点については、3,787地点（60.8%）で、1,239,984羽（82.4%）が観察された。一方、銃猟の制限されていない猟区及びその他の区域に該当する地点については、2,445地点（39.2%）で264,627羽（17.6%）が観察された。

カモ類は、ハクチョウ類及びガン類と比較して、狩猟または銃猟が禁止・制限された区域に該当する地点での観察割合が高かった。

表 2-4-2 法指定区域別のカモ類の観察状況

項目	区域区分		鳥獣保護区		休猟区		施行規則第7条 第1項第7号ハ から子の区域		特定猟具使用 禁止区域		特定猟具使用 制限区域		猟区		その他の区域		合計	
		項目内 割合 (%)		項目内 割合 (%)		項目内 割合 (%)		項目内 割合 (%)		項目内 割合 (%)		項目内 割合 (%)		項目内 割合 (%)		項目内 割合 (%)		項目内 割合 (%)
	調査地点数 (箇所)	1,692	19.2	87	1.0	155	1.8	2,803	31.9	59	0.7	174	2.0	3,825	43.5	8,795	100.0	
	調査地点面積 (ha)	185,237	49.0	1,340	0.4	3,144	0.8	73,842	19.5	1,813	0.5	6,746	1.8	106,170	28.1	378,291	100.0	
観察地点数 (箇所)	マガモ	842	24.1	23	0.7	80	2.3	1,266	36.2	28	0.8	41	1.2	1,216	34.8	3,496	100.0	
	カルガモ	796	22.1	27	0.7	91	2.5	1,473	40.8	24	0.7	62	1.7	1,135	31.5	3,608	100.0	
	コガモ	553	21.5	12	0.5	43	1.7	1,111	43.1	23	0.9	31	1.2	803	31.2	2,576	100.0	
	ヨシガモ	153	31.1	2	0.4	9	1.8	198	40.2	1	0.2	2	0.4	127	25.8	492	100.0	
	ヒドリガモ	475	27.1	8	0.5	44	2.5	702	40.0	11	0.6	18	1.0	498	28.4	1,756	100.0	
	オナガガモ	296	31.6	3	0.3	15	1.6	342	36.5	11	1.2	7	0.7	262	28.0	936	100.0	
	ハンビロガモ	183	22.0	7	0.8	29	3.5	397	47.7	4	0.5	5	0.6	208	25.0	833	100.0	
	ホシハジロ	416	28.4	6	0.4	45	3.1	565	38.6	7	0.5	6	0.4	418	28.6	1,463	100.0	
	キンクロハジロ	400	27.8	6	0.4	43	3.0	574	39.9	11	0.8	11	0.8	395	27.4	1,440	100.0	
	スズガモ	129	37.4	1	0.3	5	1.4	77	22.3	1	0.3	2	0.6	130	37.7	345	100.0	
	クロガモ	16	18.2	0	—	2	2.3	14	15.9	2	2.3	2	2.3	52	59.1	88	100.0	
	狩猟対象種合計	1,253	21.1	46	0.8	133	2.2	2,198	36.9	47	0.8	94	1.6	2,180	36.6	5,951	100.0	
	オシドリ	160	25.2	5	0.8	8	1.3	163	25.7	4	0.6	13	2.1	281	44.3	634	100.0	
	トモエガモ	56	41.5	0	—	3	2.2	49	36.3	2	1.5	1	0.7	24	17.8	135	100.0	
	オカヨシガモ	232	28.4	2	0.2	23	2.8	352	43.1	6	0.7	3	0.4	198	24.3	816	100.0	
	ビロードキンクロ	0	—	0	—	0	—	4	80.0	0	—	0	—	1	20.0	5	100.0	
	シノリガモ	9	13.4	0	—	0	—	12	17.9	0	—	0	—	46	68.7	67	100.0	
	コオリガモ	2	33.3	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	4	66.7	6	100.0	
	ホオジロガモ	101	46.1	1	0.5	5	2.3	62	28.3	0	—	0	—	50	22.8	219	100.0	
ミコアイサ	140	34.0	0	—	14	3.4	198	48.1	3	0.7	2	0.5	55	13.3	412	100.0		
ウミアイサ	59	28.9	1	0.5	1	0.5	46	22.5	0	—	4	2.0	93	45.6	204	100.0		
カワアイサ	140	29.9	3	0.6	2	0.4	150	32.1	3	0.6	7	1.5	163	34.8	468	100.0		
その他	36	29.8	1	0.8	2	1.7	43	35.5	0	—	1	0.8	38	31.4	121	100.0		
狩猟対象外合計	576	25.7	12	0.5	44	2.0	784	35.0	14	0.6	28	1.2	785	35.0	2,243	100.0		
種不明	119	26.2	3	0.7	6	1.3	131	28.9	7	1.5	4	0.9	184	40.5	454	100.0		
総計	1,298	20.8	48	0.8	134	2.2	2,257	36.2	50	0.8	101	1.6	2,344	37.6	6,232	100.0		
観察個体数 (羽)	マガモ	235,466	55.2	441	0.1	2,998	0.7	124,827	29.3	3,157	0.7	1,000	0.2	58,489	13.7	426,378	100.0	
	カルガモ	71,016	37.4	560	0.3	2,608	1.4	77,996	41.0	1,322	0.7	2,645	1.4	33,963	17.9	190,110	100.0	
	コガモ	54,101	38.7	316	0.2	1,256	0.9	60,003	42.9	681	0.5	572	0.4	22,958	16.4	139,887	100.0	
	ヨシガモ	6,285	52.0	31	0.3	135	1.1	3,839	31.7	6	0.0	12	0.1	1,785	14.8	12,093	100.0	
	ヒドリガモ	62,476	42.6	329	0.2	2,131	1.5	55,325	37.8	383	0.3	489	0.3	25,367	17.3	146,500	100.0	
	オナガガモ	69,189	45.5	56	0.0	4,325	2.8	45,343	29.8	12,265	8.1	1,013	0.7	19,809	13.0	152,000	100.0	
	ハンビロガモ	4,698	22.2	36	0.2	1,109	5.3	10,438	49.4	19	0.1	20	0.1	4,803	22.7	21,123	100.0	
	ホシハジロ	29,017	29.0	510	0.5	963	1.0	32,109	32.1	76	0.1	60	0.1	37,309	37.3	100,044	100.0	
	キンクロハジロ	31,055	52.9	122	0.2	818	1.4	11,416	19.5	188	0.3	70	0.1	15,006	25.6	58,675	100.0	
	スズガモ	79,268	59.1	1,020	0.8	39	0.0	43,454	32.4	32	0.0	36	0.0	10,230	7.6	134,079	100.0	
	クロガモ	307	18.9	0	—	22	1.4	403	24.8	29	1.8	19	1.2	845	52.0	1,625	100.0	
	狩猟対象種計	642,878	46.5	3,421	0.2	16,404	1.2	465,153	33.6	18,158	1.3	5,936	0.4	230,564	16.7	1,382,514	100.0	
	オシドリ	7,960	32.5	131	0.5	42	0.2	8,161	33.3	193	0.8	278	1.1	7,713	31.5	24,478	100.0	
	トモエガモ	21,565	97.5	0	—	7	0.0	431	1.9	7	0.0	6	0.0	108	0.5	22,124	100.0	
	オカヨシガモ	12,972	49.2	115	0.4	561	2.1	8,997	34.1	47	0.2	374	1.4	3,309	12.5	26,375	100.0	
	ビロードキンクロ	0	—	0	—	0	—	5	83.3	0	—	0	—	1	16.7	6	100.0	
	シノリガモ	57	7.2	0	—	0	—	95	11.9	0	—	0	—	645	80.9	797	100.0	
	コオリガモ	14	50.0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	14	50.0	28	100.0	
	ホオジロガモ	1,311	52.3	1	0.0	13	0.5	758	30.2	0	—	0	—	425	16.9	2,508	100.0	
ミコアイサ	2,607	55.7	0	—	122	2.6	1,503	32.1	41	0.9	7	0.1	402	8.6	4,682	100.0		
ウミアイサ	766	27.0	2	0.1	6	0.2	847	29.8	0	—	26	0.9	1,193	42.0	2,840	100.0		
カワアイサ	2,012	39.9	44	0.9	6	0.1	1,714	34.0	44	0.9	18	0.4	1,199	23.8	5,037	100.0		
その他	241	3.7	1	0.0	2	0.0	1,162	17.7	0	—	1	0.0	5,157	78.6	6,564	100.0		
狩猟対象外計	49,505	51.9	294	0.3	759	0.8	23,673	24.8	332	0.3	710	0.7	20,166	21.1	95,439	100.0		
種不明	14,485	54.3	42	0.2	16	0.1	4,699	17.6	165	0.6	27	0.1	7,224	27.1	26,658	100.0		
総計	706,868	47.0	3,757	0.2	17,179	1.1	493,525	32.8	18,655	1.2	6,673	0.4	257,954	17.1	1,504,611	100.0		

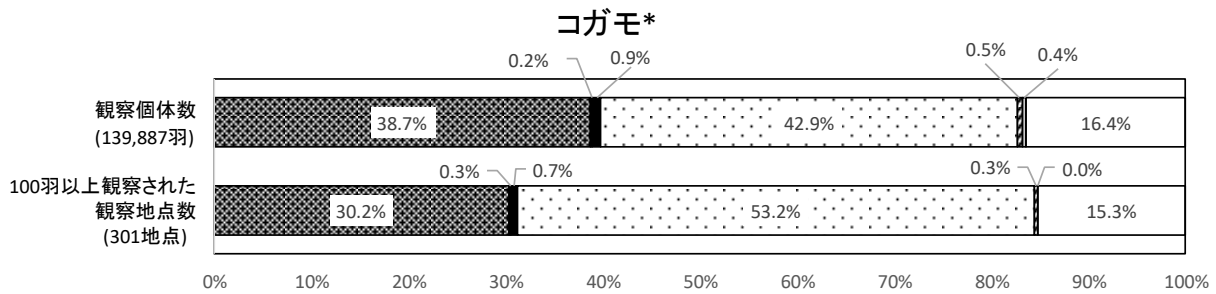
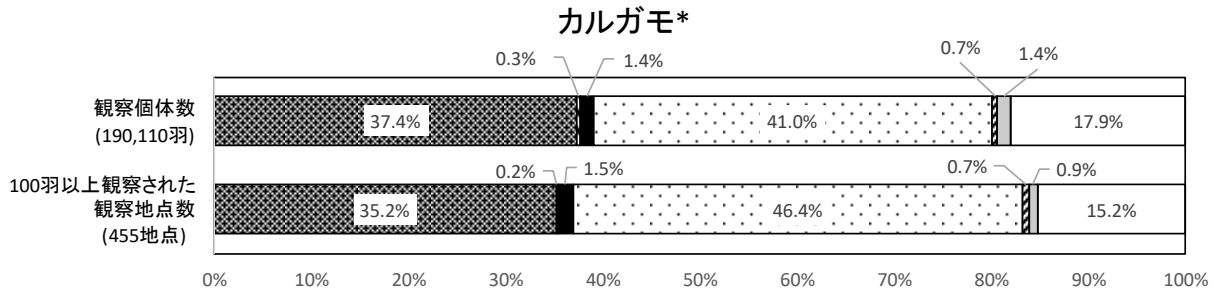
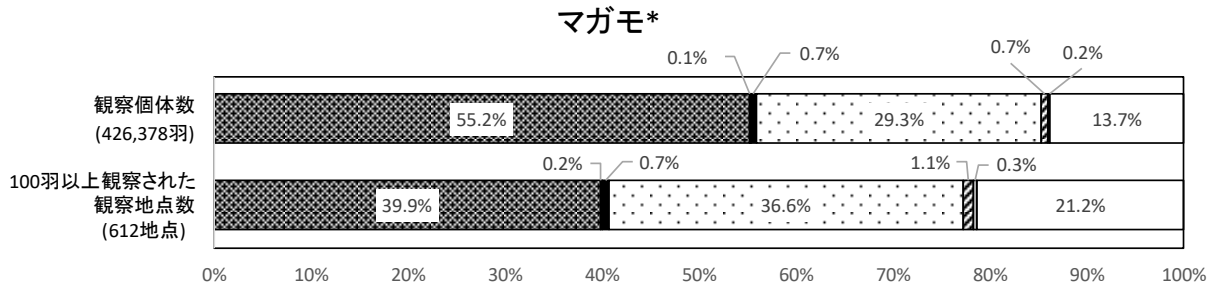
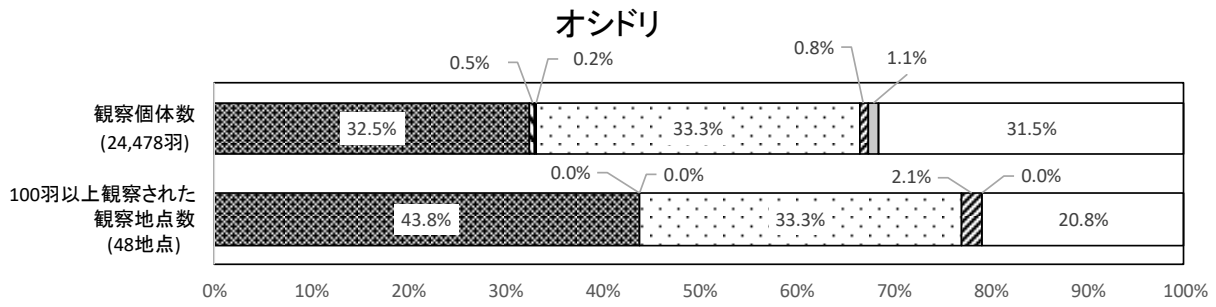
【備考】 項目内割合は、各行の項目の合計に対する法指定区域別の構成比を示す。
観察地点数の合計は、種別の観察地点数の単純合計ではない(重複地点を除いている)。

表 2-4-3 法指定区域別のカモ類観察状況（個体数の下限有）

項目	区域区分	観察個体数 下限値 *注	鳥獣保護区		休猟区		施行規則第7条 第1項第7号ハ からチの区域		特定猟具使用 禁止区域		特定猟具使用 制限区域		猟区		その他の区域		合計		
			項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)	項目内 割合 (%)		
調査地点数 (箇所)			1,692	18.9	87	0.9	155	1.7	2,803	31.5	59	0.7	174	2.8	3,825	43.5	8,795	100.0	
調査地点面積 (ha)			185,237	48.7	1,340	0.4	3,144	0.8	73,842	18.9	1,813	0.5	6,746	2.8	106,170	27.9	378,291	100.0	
観察地点数 (箇所)	狩猟対象	マガモ	100	244	39.9	1	0.2	4	0.7	224	36.6	7	1.1	2	0.3	130	21.2	612	100.0
		カルガモ	100	160	35.2	1	0.2	7	1.5	211	46.4	3	0.7	4	0.9	69	15.2	455	100.0
		コガモ	100	91	30.2	1	0.3	2	0.7	160	53.2	1	0.3	0	—	46	15.3	301	100.0
		ヨシガモ	100	13	61.9	0	—	0	—	6	28.6	0	—	0	—	2	9.5	21	100.0
		ヒドリガモ	100	132	37.4	2	0.6	8	2.3	141	39.9	1	0.3	1	0.3	68	19.3	353	100.0
		オナガガモ	100	91	42.1	0	—	5	2.3	70	32.4	6	2.8	1	0.5	43	19.9	216	100.0
		ハンビロガモ	100	7	15.6	0	—	4	8.9	23	51.1	0	—	0	—	11	24.4	45	100.0
		ホシハジロ	100	52	32.3	1	0.6	2	1.2	56	34.8	0	—	0	—	50	31.1	161	100.0
		キンクロハジロ	100	57	56.4	0	—	2	2.0	24	23.8	0	—	0	—	18	17.8	101	100.0
		スズガモ	100	34	50.0	1	1.5	0	—	23	33.8	0	—	0	—	10	14.7	68	100.0
	クロガモ	100	0	—	0	—	0	—	1	50.0	0	—	0	—	1	50.0	2	100.0	
	狩猟対象外	オシドリ	100	21	43.8	0	—	0	—	16	33.3	1	2.1	0	—	10	20.8	48	100.0
		トモエガモ	10	24	68.6	0	—	0	—	8	22.9	0	—	0	—	3	8.6	35	100.0
		オカヨシガモ	100	13	38.2	0	—	1	2.9	16	47.1	0	—	1	2.9	3	8.8	34	100.0
		ビロードキンクロ	1	0	—	0	—	0	—	4	80.0	0	—	0	—	1	20.0	5	100.0
		シノリガモ	20	0	—	0	—	0	—	1	12.5	0	—	0	—	7	87.5	8	100.0
		コオリガモ	1	2	33.3	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	4	66.7	6	100.0
		ホオジロガモ	1	101	46.1	1	0.5	5	2.3	62	28.3	0	—	0	—	50	22.8	219	100.0
		ミコアイサ	10	38	40.0	0	—	3	3.2	40	42.1	1	1.1	0	—	13	13.7	95	100.0
		ウミアイサ	1	59	28.9	1	0.5	1	0.5	46	22.5	0	—	4	2.0	93	45.6	204	100.0
カワアイサ		10	46	38.0	1	0.8	0	—	40	33.1	1	0.8	0	—	33	27.3	121	100.0	
カモ類合計		1	1,298	20.8	48	0.8	134	2.2	2,257	36.2	50	0.8	101	1.6	2,344	37.6	6,232	100.0	

*注：各項目別の観察個体数に下限を設定した観察地点数を表す。

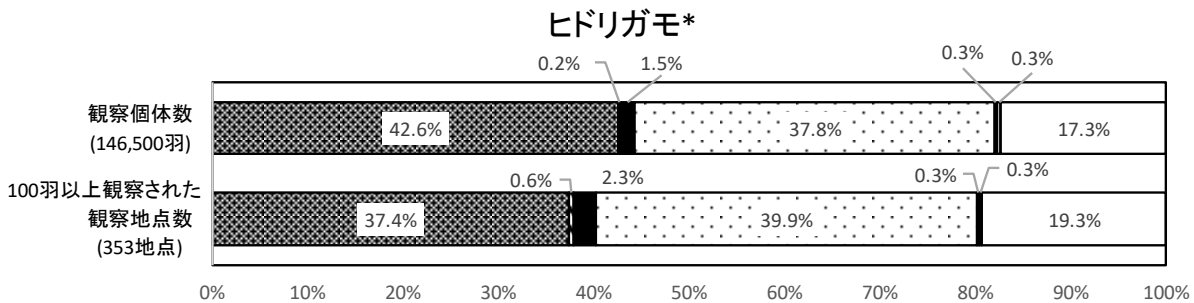
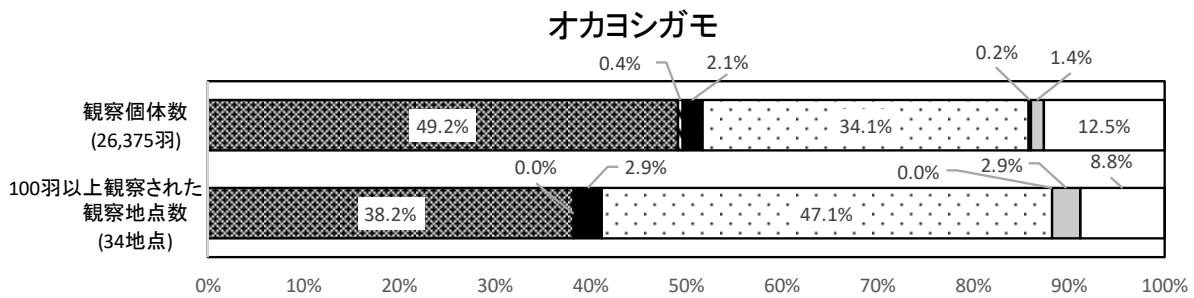
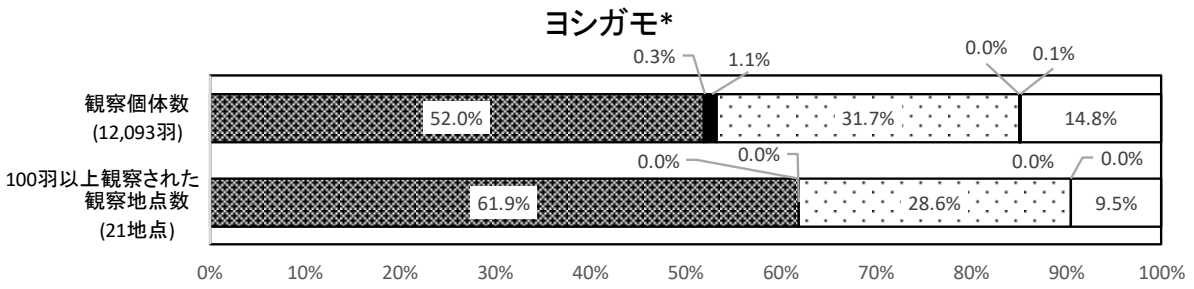
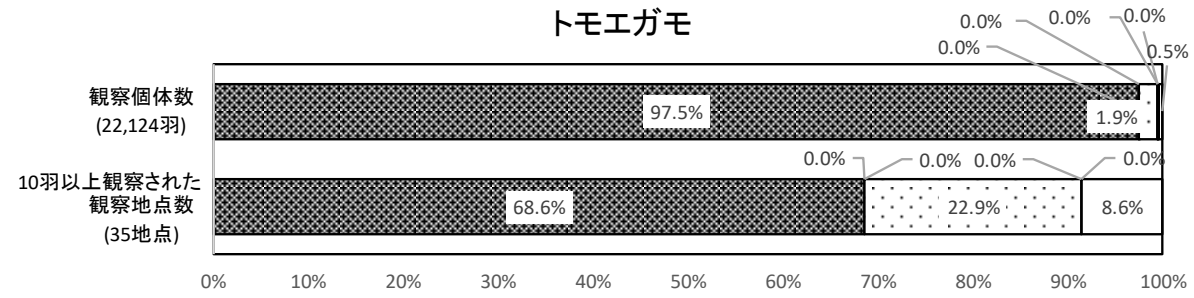
【備考】項目内割合は、各行の項目の合計に対する法指定区域別の構成比を示す。



- 鳥獣保護区
- 施行規則第7条第1項第7号ハからチの区域
- ▨ 特定猟具使用制限区域
- その他
- 休猟区
- 特定猟具使用禁止区域
- 猟区

* : 狩猟鳥獣に指定された種を示す

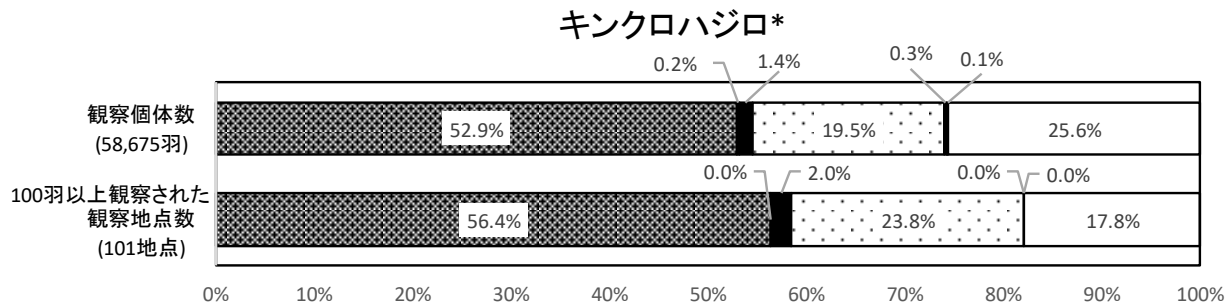
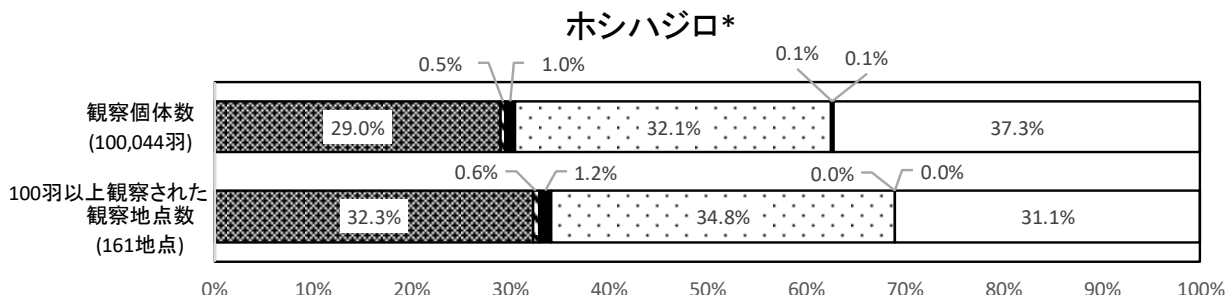
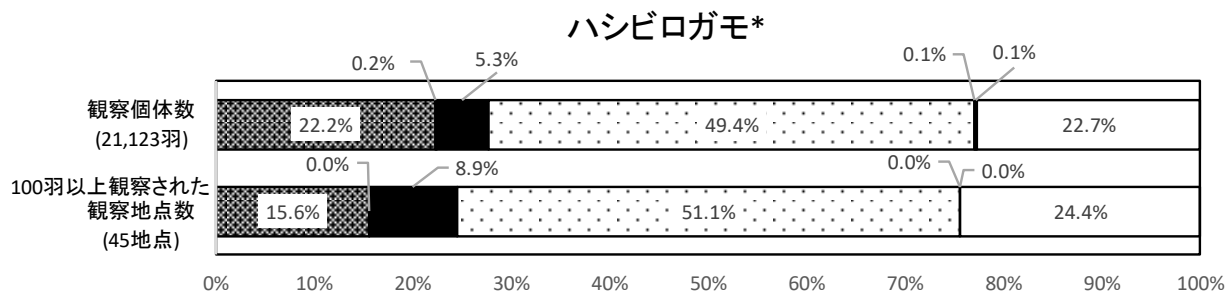
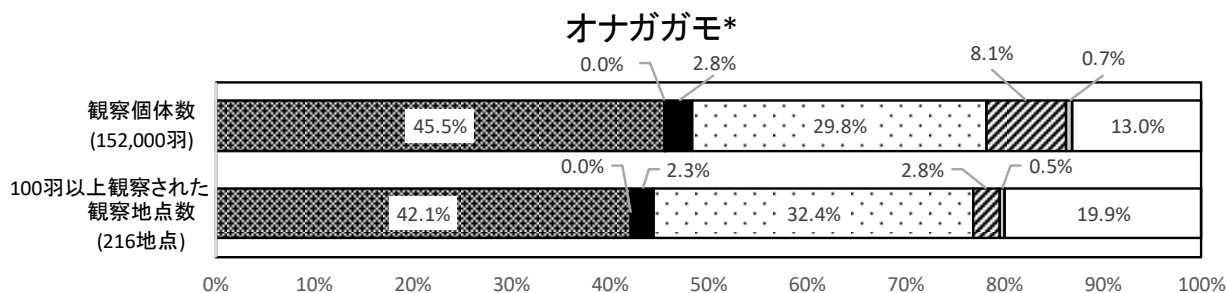
図 2-4-3(1) 法指定区域別のカモ類の観測状況



- 鳥獣保護区
- 休猟区
- 施行規則第7条第1項第7号ハからチの区域
- 特定猟具使用制限区域
- 特定猟具使用禁止区域
- 猟区
- その他

* : 狩猟鳥獣に指定された種を示す

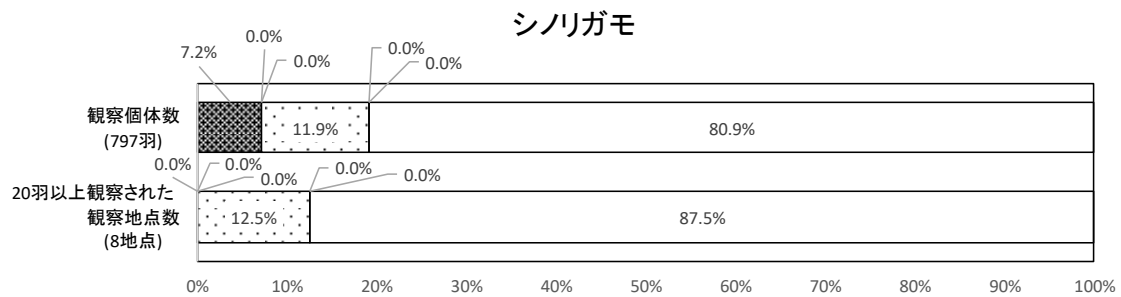
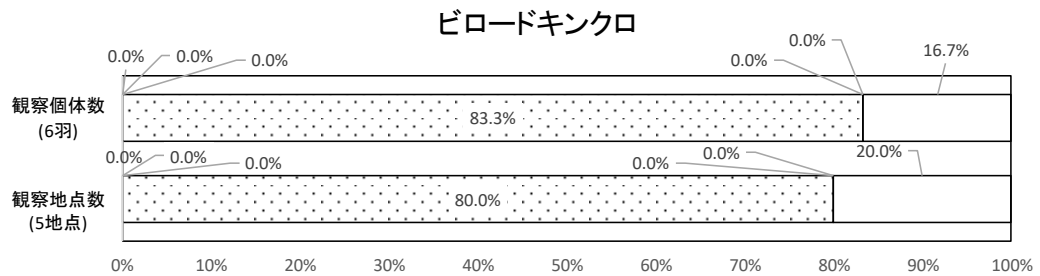
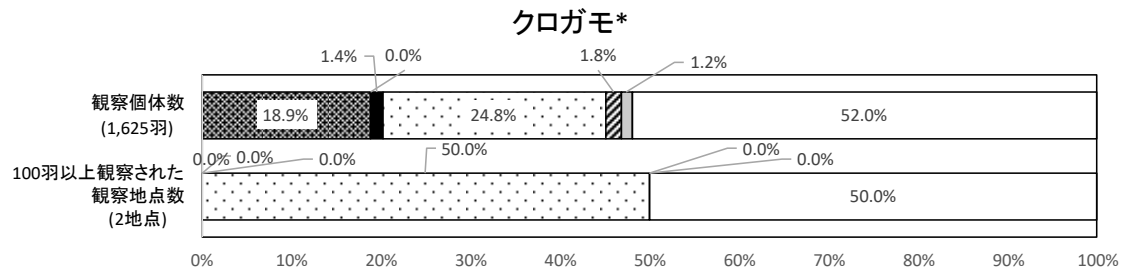
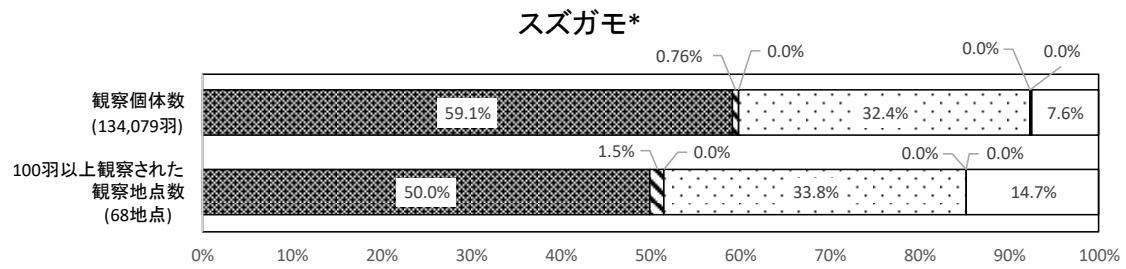
図 2-4-3(2) 法指定区域別のカモ類の観測状況



- 鳥獣保護区
- 施行規則第7条第1項第7号ハからチの区域
- ▨ 特定猟具使用制限区域
- その他
- 休猟区
- 特定猟具使用禁止区域
- 猟区

* : 狩猟鳥獣に指定された種を示す

図 2-4-3(3) 法指定区域別のカモ類の観測状況



- 鳥獣保護区
- 休猟区
- 施行規則第7条第1項第7号ハからチの区域
- 特定猟具使用禁止区域
- 特定猟具使用制限区域
- 猟区
- その他

*：狩猟鳥獣に指定された種を示す

図 2-4-3(4) 法指定区域別のカモ類の観測状況

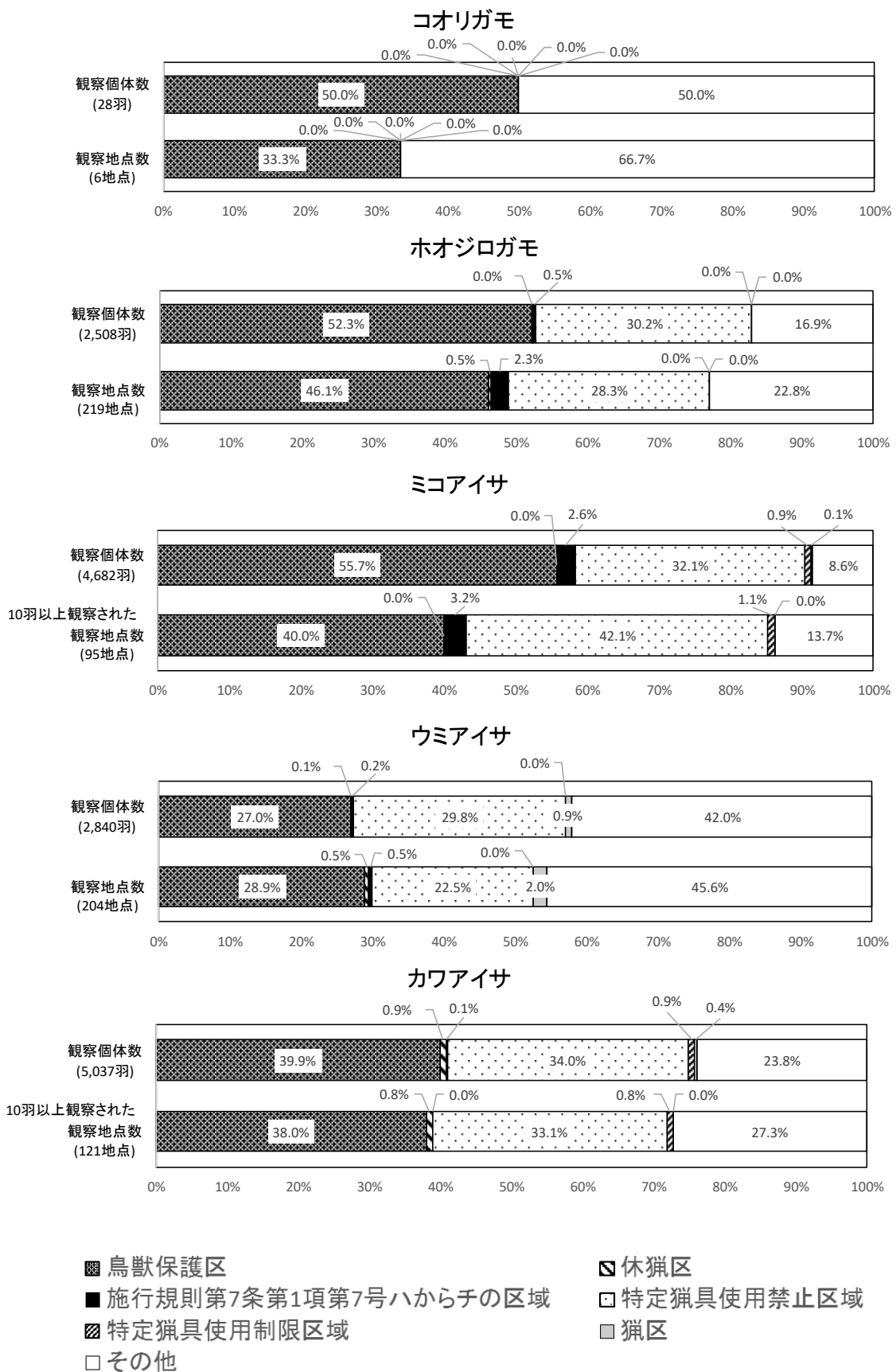


図 2-4-3(5) 法指定区域別のカモ類の観察状況

表 2-4-4 法指定区域別のカモ類の観察地点数（都道府県別）

都道府県	法指定区域等														合計
	鳥獣保護区		休猟区		施行規則第7条 第1項第7号ハ からチの区域		特定猟具使用 禁止区域		特定猟具使用 制限区域		猟区		その他の区域		
	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	観察 地点数	都道府 県内割 合(%)	
北海道	17	14.2	0	—	4	3.3	19	15.8	0	—	0	—	80	66.7	120
青森県	39	28.1	0	—	2	1.4	20	14.4	0	—	1	0.7	77	55.4	139
岩手県	22	10.1	0	—	0	—	96	44.0	1	0.5	0	—	99	45.4	218
宮城県	84	31.6	4	1.5	0	—	45	16.9	25	9.4	7	2.6	101	38.0	266
秋田県	32	23.7	1	0.7	0	—	22	16.3	0	—	16	11.9	64	47.4	135
山形県	17	9.5	0	—	3	1.7	63	35.2	0	—	6	3.4	90	50.3	179
福島県	42	17.9	0	—	21	9.0	68	29.1	2	0.9	0	—	101	43.2	234
茨城県	28	66.7	0	—	0	—	10	23.8	0	—	0	—	4	9.5	42
栃木県	15	45.5	0	—	0	—	12	36.4	3	9.1	1	3.0	2	6.1	33
群馬県	17	22.4	2	2.6	0	—	49	64.5	0	—	0	—	8	10.5	76
埼玉県	28	18.8	0	—	1	0.7	114	76.5	2	1.3	0	—	4	2.7	149
千葉県	51	20.3	0	—	1	0.4	145	57.8	0	—	19	7.6	35	13.9	251
東京都	38	55.1	0	—	16	23.2	15	21.7	0	—	0	—	0	—	69
神奈川県	53	30.5	0	—	1	0.6	95	54.6	0	—	4	2.3	21	12.1	174
新潟県	12	57.1	0	—	0	—	3	14.3	0	—	0	—	6	28.6	21
富山県	6	35.3	0	—	0	—	6	35.3	0	—	0	—	5	29.4	17
石川県	4	40.0	0	—	0	—	6	60.0	0	—	0	—	0	—	10
福井県	9	56.3	0	—	0	—	6	37.5	0	—	0	—	1	6.3	16
山梨県	8	17.4	1	2.2	0	—	23	50.0	0	—	0	—	14	30.4	46
長野県	14	10.1	0	—	4	2.9	30	21.7	2	1.4	0	—	88	63.8	138
岐阜県	24	20.3	1	0.8	0	—	59	50.0	0	—	0	—	34	28.8	118
静岡県	40	31.0	0	—	0	—	29	22.5	0	—	0	—	60	46.5	129
愛知県	24	19.0	0	—	3	2.4	83	65.9	0	—	0	—	16	12.7	126
三重県	72	30.6	3	1.3	2	0.9	64	27.2	0	—	0	—	94	40.0	235
滋賀県	82	48.0	0	—	0	—	50	29.2	0	—	0	—	39	22.8	171
京都府	39	28.5	0	—	0	—	74	54.0	0	—	1	0.7	23	16.8	137
大阪府	13	3.4	0	—	59	15.3	260	67.5	10	2.6	1	0.3	42	10.9	385
兵庫県	37	17.6	0	—	0	—	159	75.7	0	—	0	—	14	6.7	210
奈良県	3	2.6	0	—	7	6.1	102	89.5	0	—	0	—	2	1.8	114
和歌山県	42	33.3	0	—	0	—	27	21.4	0	—	0	—	57	45.2	126
鳥取県	4	36.4	0	—	0	—	7	63.6	0	—	0	—	0	—	11
島根県	32	20.8	2	1.3	0	—	46	29.9	0	—	0	—	74	48.1	154
岡山県	5	35.7	0	—	0	—	6	42.9	0	—	0	—	3	21.4	14
広島県	40	15.6	2	0.8	0	—	32	12.5	2	0.8	1	0.4	179	69.9	256
山口県	20	10.5	5	2.6	0	—	58	30.4	0	—	1	0.5	107	56.0	191
徳島県	20	29.0	0	—	0	—	36	52.2	0	—	13	18.8	0	—	69
香川県	12	7.8	0	—	0	—	69	44.8	0	—	0	—	73	47.4	154
愛媛県	13	6.8	2	1.0	0	—	58	30.4	0	—	0	—	118	61.8	191
高知県	17	32.7	0	—	0	—	21	40.4	0	—	0	—	14	26.9	52
福岡県	40	18.8	1	0.5	3	1.4	41	19.2	1	0.5	2	0.9	125	58.7	213
佐賀県	18	17.1	0	—	2	1.9	20	19.0	0	—	0	—	65	61.9	105
長崎県	18	43.9	1	2.4	0	—	10	24.4	0	—	0	—	12	29.3	41
熊本県	35	24.6	3	2.1	1	0.7	26	18.3	0	—	0	—	77	54.2	142
大分県	43	17.3	8	3.2	0	—	27	10.8	0	—	5	2.0	166	66.7	249
宮崎県	35	51.5	0	—	0	—	16	23.5	0	—	0	—	17	25.0	68
鹿児島県	26	15.5	3	1.8	4	2.4	30	17.9	2	1.2	23	13.7	80	47.6	168
沖縄県	8	11.4	9	12.9	0	—	0	—	0	—	0	—	53	75.7	70
合計	1,298	20.8	48	0.8	134	2.2	2,257	36.2	50	0.8	101	1.6	2,344	37.6	6,232

【備考】 都道府県内割合は、各都道府県内での観察地点数の、法指定区域別の構成比を示す。
観察地点数の合計は、種別の観察地点数の単純合計ではない(重複地点を除いている)。

表 2-4-5 法指定区域別のカモ類の観察個体数（都道府県別）

都道府県	法指定区域等														合計
	鳥獣保護区		休猟区		施行規則第7条 第1項第7号ハ からの区域		特定猟具使用 禁止区域		特定猟具使用 制限区域		猟区		その他の区域		
	観察個体 数(羽)	都道府 県内割 合(%)	観察個体 数(羽)	都道府 県内割 合(%)	観察個体 数(羽)	都道府 県内割 合(%)	観察個体 数(羽)	都道府 県内割 合(%)	観察個体 数(羽)	都道府 県内割 合(%)	観察個体 数(羽)	都道府 県内割 合(%)	観察個体 数(羽)	都道府 県内割 合(%)	
北海道	2,117	30.7	0	—	87	1.3	1,261	18.3	0	—	0	—	3,440	49.8	6,905
青森県	2,022	31.5	0	—	245	3.8	840	13.1	0	—	109	1.7	3,201	49.9	6,417
岩手県	2,401	21.5	0	—	0	—	4,750	42.5	57	0.5	0	—	3,957	35.4	11,165
宮城県	14,713	27.4	158	0.3	0	—	13,666	25.4	16,266	30.3	106	0.2	8,859	16.5	53,768
秋田県	3,452	54.4	3	0.0	0	—	1,145	18.0	0	—	481	7.6	1,268	20.0	6,349
山形県	10,052	40.5	0	—	683	2.8	10,851	43.8	0	—	284	1.1	2,926	11.8	24,796
福島県	9,277	23.6	0	—	5,093	12.9	14,333	36.4	82	0.2	0	—	10,561	26.8	39,346
茨城県	125,680	84.9	0	—	0	—	19,751	13.3	0	—	0	—	2,519	1.7	147,950
栃木県	11,801	65.9	0	—	0	—	4,373	24.4	625	3.5	907	5.1	203	1.1	17,909
群馬県	5,255	33.9	33	0.2	0	—	7,850	50.7	0	—	0	—	2,347	15.2	15,485
埼玉県	6,855	24.5	0	—	642	2.3	18,662	66.7	837	3.0	0	—	980	3.5	27,976
千葉県	35,033	33.3	0	—	380	0.4	62,294	59.2	0	—	580	0.6	6,990	6.6	105,277
東京都	19,833	86.1	0	—	1,478	6.4	1,721	7.5	0	—	0	—	0	—	23,032
神奈川県	4,641	49.1	0	—	55	0.6	3,420	36.2	0	—	109	1.2	1,224	13.0	9,449
新潟県	59,147	75.6	0	—	0	—	16,708	21.4	0	—	0	—	2,384	3.0	78,239
富山県	7,377	39.9	0	—	0	—	7,778	42.1	0	—	0	—	3,326	18.0	18,481
石川県	31,112	63.2	0	—	0	—	18,145	36.8	0	—	0	—	0	—	49,257
福井県	13,853	55.1	0	—	0	—	11,142	44.3	0	—	0	—	133	0.5	25,128
山梨県	858	30.3	9	0.3	0	—	1,351	47.7	0	—	0	—	612	21.6	2,830
長野県	745	6.6	0	—	470	4.2	3,475	31.0	93	0.8	0	—	6,422	57.3	11,205
岐阜県	3,292	13.1	26	0.1	0	—	16,915	67.4	0	—	0	—	4,846	19.3	25,079
静岡県	11,849	48.1	0	—	0	—	7,144	29.0	0	—	0	—	5,622	22.8	24,615
愛知県	12,153	33.7	0	—	230	0.6	18,764	52.1	0	—	0	—	4,866	13.5	36,013
三重県	10,891	23.3	131	0.3	520	1.1	13,618	29.1	0	—	0	—	21,627	46.2	46,787
滋賀県	65,741	85.3	0	—	0	—	8,513	11.0	0	—	0	—	2,793	3.6	77,047
京都府	8,410	39.6	0	—	0	—	9,581	45.1	0	—	9	0.0	3,243	15.3	21,243
大阪府	6,604	18.4	0	—	5,476	15.3	16,037	44.8	427	1.2	41	0.1	7,247	20.2	35,832
兵庫県	7,509	20.2	0	—	0	—	26,559	71.3	0	—	0	—	3,183	8.5	37,251
奈良県	468	2.8	0	—	838	5.1	14,814	89.5	0	—	0	—	433	2.6	16,553
和歌山県	5,569	49.8	0	—	0	—	3,536	31.6	0	—	0	—	2,075	18.6	11,180
鳥取県	11,459	59.2	0	—	0	—	7,910	40.8	0	—	0	—	0	—	19,369
島根県	41,119	86.4	94	0.2	0	—	3,681	7.7	0	—	0	—	2,695	5.7	47,589
岡山県	6,338	24.5	0	—	0	—	15,569	60.1	0	—	0	—	4,010	15.5	25,917
広島県	7,873	20.3	1,676	4.3	0	—	15,608	40.2	202	0.5	59	0.2	13,413	34.5	38,831
山口県	2,652	11.2	118	0.5	0	—	12,125	51.4	0	—	9	0.0	8,700	36.9	23,604
徳島県	5,931	27.3	0	—	0	—	14,231	65.4	0	—	1,590	7.3	0	—	21,752
香川県	1,360	6.4	0	—	0	—	10,418	49.2	0	—	0	—	9,381	44.3	21,159
愛媛県	10,430	35.0	31	0.1	0	—	5,853	19.6	0	—	0	—	13,510	45.3	29,824
高知県	14,278	55.9	0	—	0	—	10,354	40.6	0	—	0	—	895	3.5	25,527
福岡県	7,549	25.4	11	0.0	199	0.7	12,067	40.6	35	0.1	74	0.2	9,782	32.9	29,717
佐賀県	1,519	3.1	0	—	271	0.5	6,601	13.3	0	—	0	—	41,243	83.1	49,634
長崎県	57,654	87.7	417	0.6	0	—	2,667	4.1	0	—	0	—	5,015	7.6	65,753
熊本県	10,387	39.8	558	2.1	172	0.7	699	2.7	0	—	0	—	14,280	54.7	26,096
大分県	6,213	29.4	212	1.0	0	—	6,341	30.0	0	—	145	0.7	8,242	39.0	21,153
宮崎県	13,943	73.5	0	—	0	—	3,166	16.7	0	—	0	—	1,861	9.8	18,970
鹿児島県	8,644	34.8	164	0.7	340	1.4	7,238	29.1	31	0.1	2,170	8.7	6,260	25.2	24,847
沖縄県	809	35.1	116	5.0	0	—	0	—	0	—	0	—	1,380	59.9	2,305
合計	706,868	47.0	3,757	0.2	17,179	1.1	493,525	32.8	18,655	1.2	6,673	0.4	257,954	17.1	1,504,611

【備考】都道府県内割合は、各都道府県内での観察個体数の、法指定区域別の構成比を示す。

4.4 地況別の観察状況

河川や湖沼等の地況別の観察状況を表2-4-6～表2-4-8及び図2-4-4(1)～(6)に示した。

地況別の観察個体数のうち、海岸で観察された割合が多かったのは、淡水ガモのトモエガモ、海ガモ類のスズガモ、クロガモ、シノリガモ、コオリガモ、ウミアイサとツクシガモで、いずれも50.0%以上の割合であった。

河川で観察された割合が多かったのは、淡水ガモ類のカルガモ、コガモで、いずれも30.0%以上の割合であった。また、海ガモ類ではカワアイサが51.4%であった。

自然湖沼で観察された割合が多かったのは、淡水ガモ類のヨシガモが44.2%であった。また、海ガモではホオジロガモ、ミコアイサで、いずれも40.0%以上の割合であった。

ダム湖で観察された割合が多かったのは、淡水ガモ類のオシドリで、56.3%であった。他の種はいずれも10.0%以下の割合であった。

その他人造湖で観察された割合が多かったのは、淡水ガモ類のハシビロガモで、69.3%であった。また、海ガモ類ではミコアイサが48.0%であった。

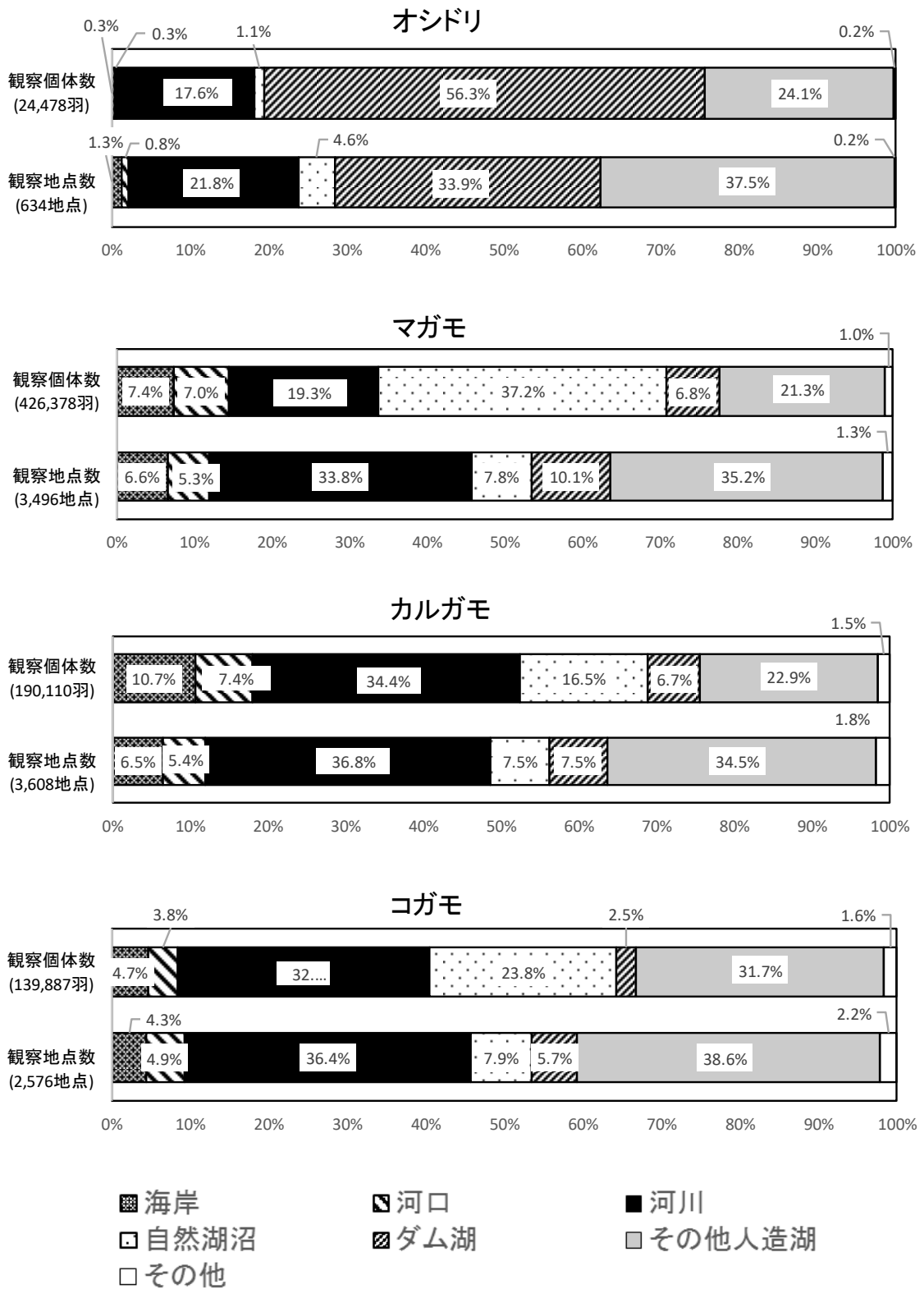


図 2-4-4(1) 地況別のカモ類の観察状況

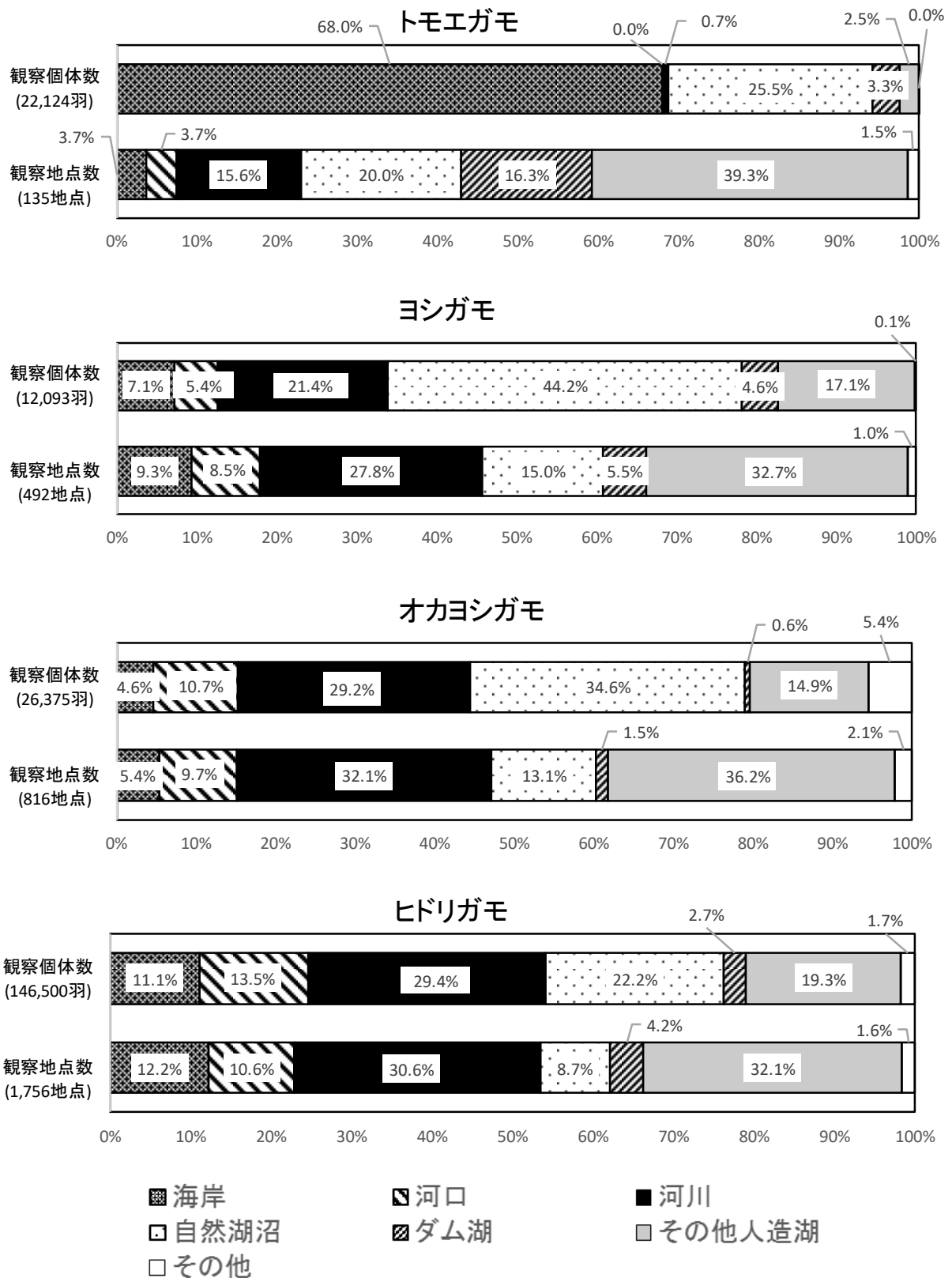


図 2-4-4(2) 地況別のカモ類の観察状況

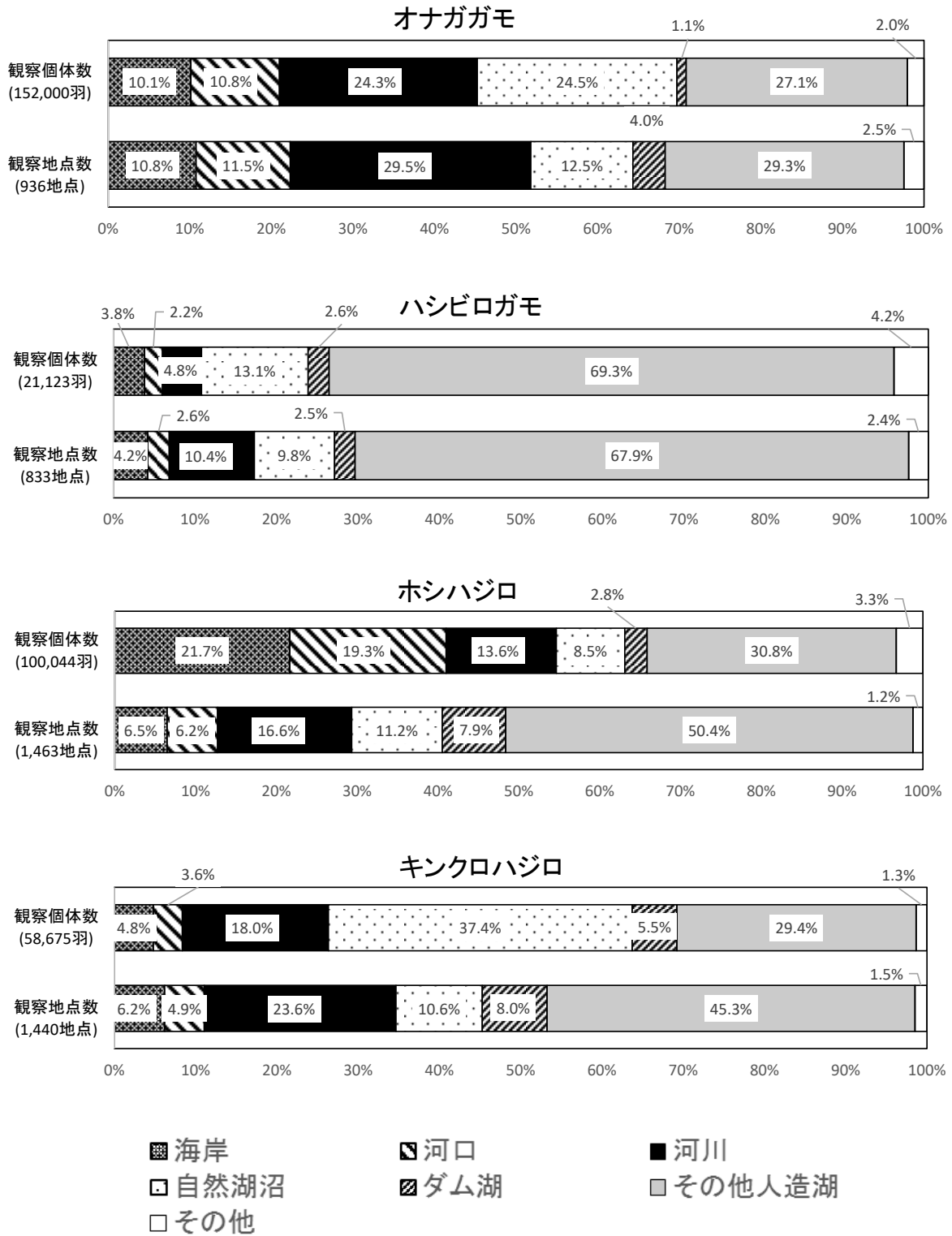


図 2-4-4(3) 地況別のカモ類の観察状況

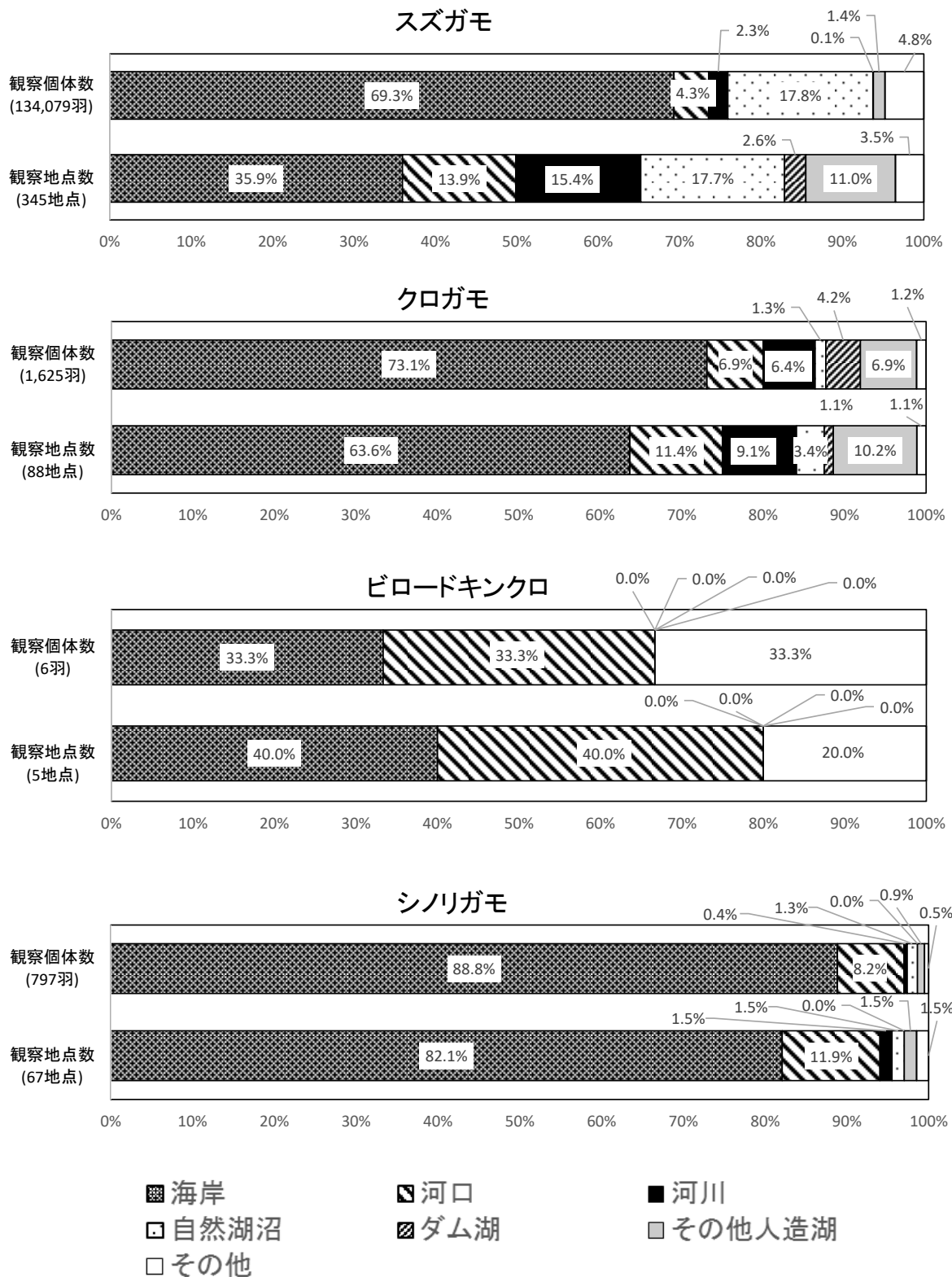


図 2-4-4(4) 地況別のカモ類の観察状況

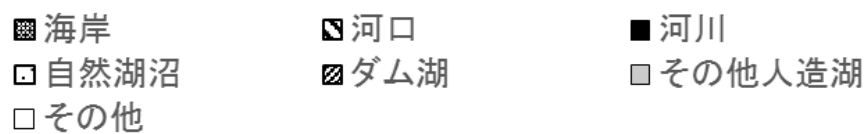
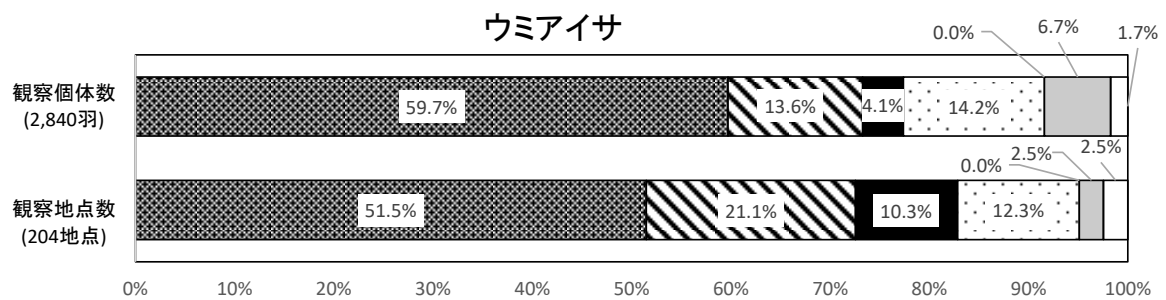
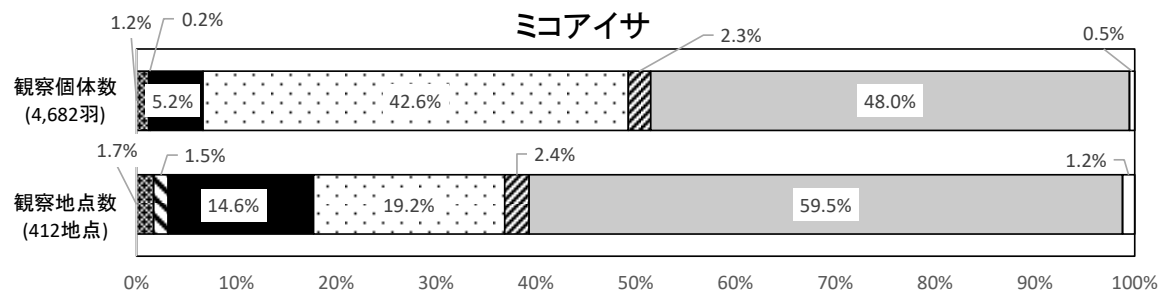
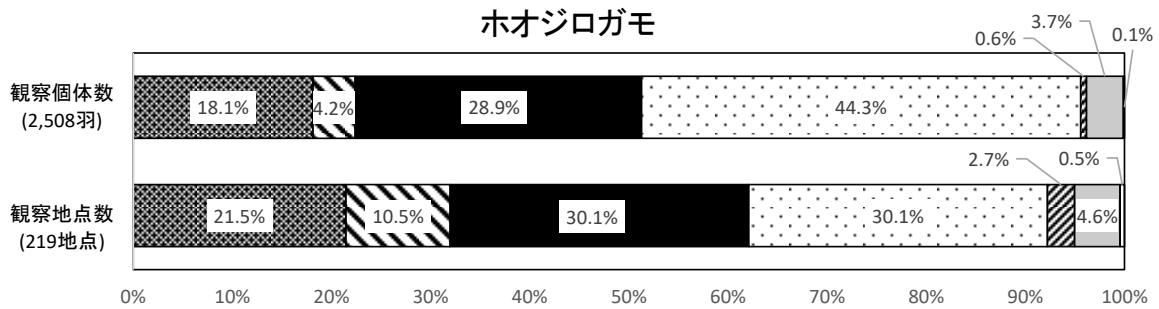
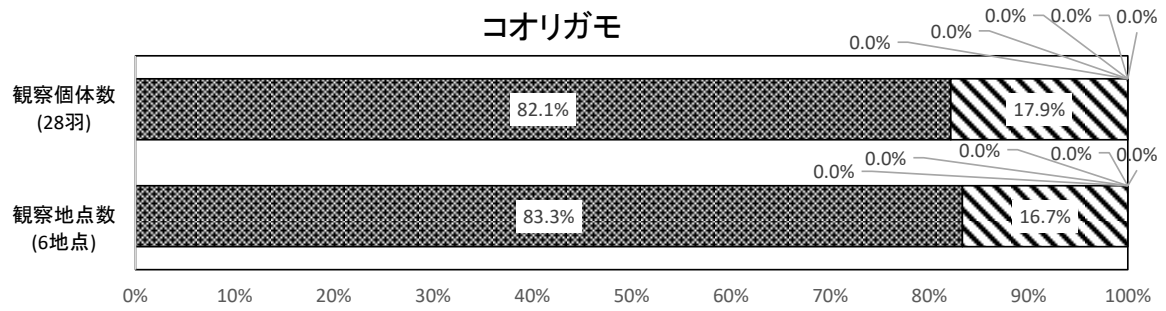


図 2-4-4(5) 地況別のカモ類の観察状況

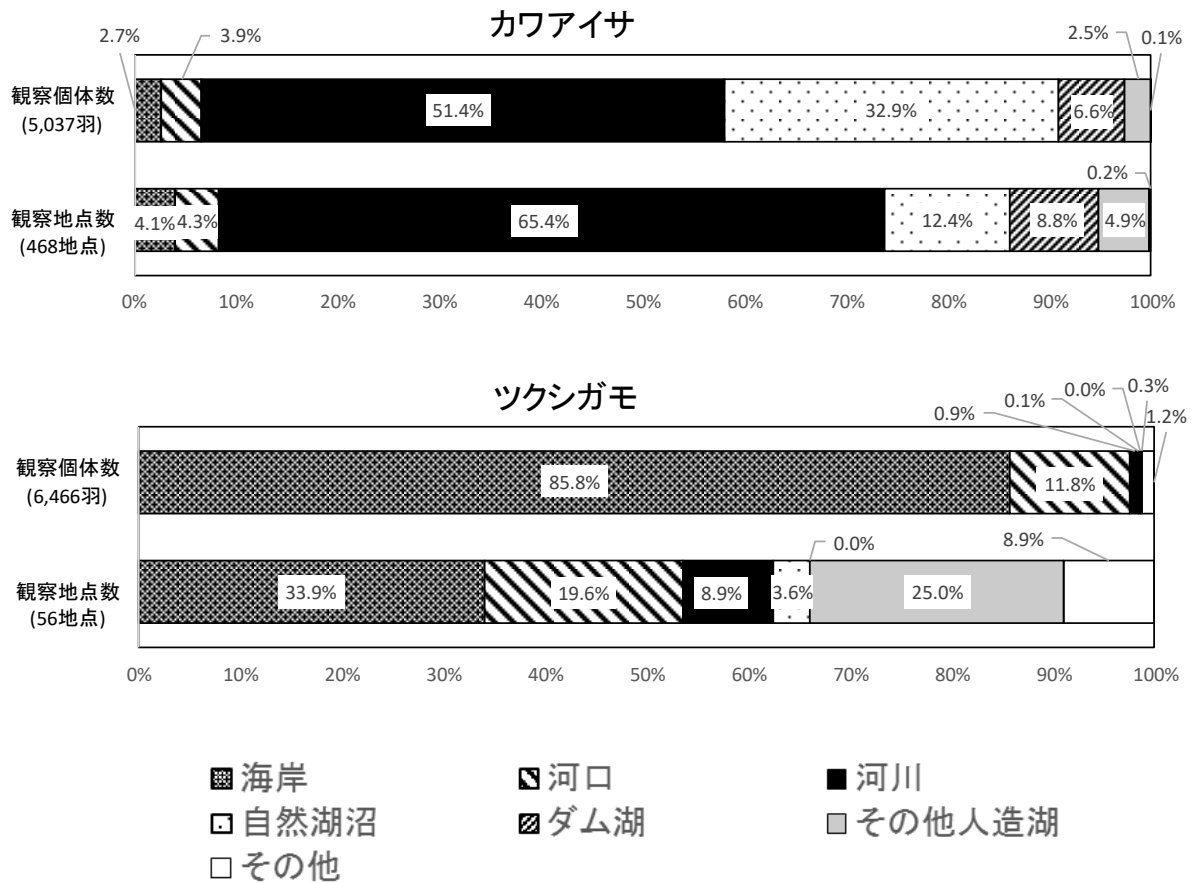


図 2-4-4(6) 地況別のカモ類の観察状況

表 2-4-7 地況別のカモ類観察地点数（都道府県別）

都道府県	地況														合計
	海岸		河口		河川		自然湖沼		ダム湖		その他人造湖		その他		
	観察地点数	都道府県内割合(%)	観察地点数	都道府県内割合(%)	観察地点数	都道府県内割合(%)	観察地点数	都道府県内割合(%)	観察地点数	都道府県内割合(%)	観察地点数	都道府県内割合(%)	観察地点数	都道府県内割合(%)	
北海道	74	61.7	8	6.7	22	18.3	15	12.5	0	—	0	—	1	0.8	120
青森県	78	56.1	6	4.3	40	28.8	11	7.9	0	—	4	2.9	0	—	139
岩手県	16	7.3	22	10.1	151	69.3	4	1.8	11	5.0	10	4.6	4	1.8	218
宮城県	52	19.5	8	3.0	118	44.4	17	6.4	16	6.0	41	15.4	14	5.3	266
秋田県	22	16.3	4	3.0	91	67.4	7	5.2	2	1.5	6	4.4	3	2.2	135
山形県	3	1.7	4	2.2	147	82.1	4	2.2	10	5.6	10	5.6	1	0.6	179
福島県	7	3.0	6	2.6	103	44.0	25	10.7	24	10.3	65	27.8	4	1.7	234
茨城県	4	9.5	1	2.4	4	9.5	11	26.2	6	14.3	16	38.1	0	—	42
栃木県	0	—	0	—	2	6.1	2	6.1	7	21.2	21	63.6	1	3.0	33
群馬県	0	—	0	—	30	39.5	9	11.8	15	19.7	21	27.6	1	1.3	76
埼玉県	0	—	0	—	63	42.3	6	4.0	6	4.0	74	49.7	0	—	149
千葉県	7	2.8	13	5.2	47	18.7	8	3.2	31	12.4	128	51.0	17	6.8	251
東京都	4	5.8	1	1.4	32	46.4	3	4.3	5	7.2	24	34.8	0	—	69
神奈川県	18	10.3	9	5.2	101	58.0	2	1.1	5	2.9	38	21.8	1	0.6	174
新潟県	1	4.8	0	—	7	33.3	6	28.6	0	—	6	28.6	1	4.8	21
富山県	1	5.9	3	17.6	4	23.5	1	5.9	0	—	5	29.4	3	17.6	17
石川県	2	20.0	0	—	2	20.0	6	60.0	0	—	0	—	0	—	10
福井県	2	12.5	0	—	5	31.3	7	43.8	0	—	2	12.5	0	—	16
山梨県	0	—	0	—	23	50.0	5	10.9	5	10.9	13	28.3	0	—	46
長野県	0	—	0	—	92	66.7	6	4.3	21	15.2	18	13.0	1	0.7	138
岐阜県	0	—	0	—	68	57.6	1	0.8	18	15.3	30	25.4	1	0.8	118
静岡県	8	6.2	13	10.1	45	34.9	22	17.1	6	4.7	35	27.1	0	—	129
愛知県	10	7.9	6	4.8	34	27.0	1	0.8	6	4.8	68	54.0	1	0.8	126
三重県	17	7.2	34	14.5	36	15.3	6	2.6	12	5.1	128	54.5	2	0.9	235
滋賀県	0	—	2	1.2	17	9.9	93	54.4	7	4.1	52	30.4	0	—	171
京都府	9	6.6	2	1.5	73	53.3	6	4.4	4	2.9	43	31.4	0	—	137
大阪府	8	2.1	8	2.1	48	12.5	16	4.2	1	0.3	301	78.2	3	0.8	385
兵庫県	6	2.9	16	7.6	23	11.0	0	—	10	4.8	154	73.3	1	0.5	210
奈良県	0	—	0	—	8	7.0	0	—	11	9.6	95	83.3	0	—	114
和歌山県	8	6.3	12	9.5	36	28.6	8	6.3	7	5.6	54	42.9	1	0.8	126
鳥取県	1	9.1	0	—	4	36.4	6	54.5	0	—	0	—	0	—	11
島根県	0	—	10	6.5	79	51.3	24	15.6	21	13.6	18	11.7	2	1.3	154
岡山県	0	—	2	14.3	3	21.4	0	—	3	21.4	3	21.4	3	21.4	14
広島県	32	12.5	10	3.9	60	23.4	0	—	23	9.0	128	50.0	3	1.2	256
山口県	29	15.2	14	7.3	51	26.7	0	—	22	11.5	73	38.2	2	1.0	191
徳島県	13	18.8	3	4.3	31	44.9	3	4.3	8	11.6	11	15.9	0	—	69
香川県	17	11.0	14	9.1	13	8.4	0	—	10	6.5	98	63.6	2	1.3	154
愛媛県	18	9.4	13	6.8	27	14.1	3	1.6	9	4.7	118	61.8	3	1.6	191
高知県	5	9.6	12	23.1	13	25.0	6	11.5	10	19.2	6	11.5	0	—	52
福岡県	11	5.2	17	8.0	39	18.3	17	8.0	33	15.5	93	43.7	3	1.4	213
佐賀県	23	21.9	12	11.4	12	11.4	0	—	10	9.5	43	41.0	5	4.8	105
長崎県	9	22.0	1	2.4	0	—	0	—	19	46.3	12	29.3	0	—	41
熊本県	22	15.5	11	7.7	61	43.0	11	7.7	16	11.3	18	12.7	3	2.1	142
大分県	21	8.4	8	3.2	99	39.8	6	2.4	26	10.4	85	34.1	4	1.6	249
宮崎県	5	7.4	8	11.8	28	41.2	3	4.4	17	25.0	7	10.3	0	—	68
鹿児島県	10	6.0	21	12.5	64	38.1	22	13.1	30	17.9	18	10.7	3	1.8	168
沖縄県	2	2.9	2	2.9	7	10.0	0	—	11	15.7	38	54.3	10	14.3	70
合計	575	9.2	336	5.4	2,063	33.1	409	6.6	514	8.2	2,231	35.8	104	1.7	6,232

【備考】都道府県内割合は、各都道府県内での観察地点数の、地況別の構成比を示す。
観察地点数の合計は、種別の観察地点数の単純合計ではない(重複地点を除いている)。

表 2-4-8 地況別のカモ類観察個体数（都道府県別）

都道府県	地況															
	海岸		河口		河川		自然湖沼		ダム湖		その他人造湖		その他		合計	
	観察個体数(羽)	都道府県内割合(%)	観察個体数(羽)	都道府県内割合(%)	観察個体数(羽)	都道府県内割合(%)	観察個体数(羽)	都道府県内割合(%)	観察個体数(羽)	都道府県内割合(%)	観察個体数(羽)	都道府県内割合(%)	観察個体数(羽)	都道府県内割合(%)		
北海道	3,396	49.2	570	8.3	1,008	14.6	1,890	27.4	0	—	0	—	41	0.6	6,905	
青森県	3,153	49.1	92	1.4	1,221	19.0	1,267	19.7	0	—	684	10.7	0	—	6,417	
岩手県	739	6.6	1,606	14.4	6,529	58.5	140	1.3	766	6.9	1,324	11.9	61	0.5	11,165	
宮城県	3,321	6.2	4,004	7.4	24,683	45.9	4,368	8.1	3,033	5.6	13,310	24.8	1,049	2.0	53,768	
秋田県	2,421	38.1	212	3.3	2,117	33.3	831	13.1	16	0.3	472	7.4	280	4.4	6,349	
山形県	136	0.5	681	2.7	13,933	56.2	7,378	29.8	289	1.2	2,354	9.5	25	0.1	24,796	
福島県	2,028	5.2	844	2.1	16,577	42.1	4,524	11.5	3,587	9.1	11,463	29.1	323	0.8	39,346	
茨城県	1,054	0.7	420	0.3	7,463	5.0	112,997	76.4	4,044	2.7	21,972	14.9	0	—	147,950	
栃木県	0	—	0	—	71	0.4	36	0.2	1,557	8.7	15,338	85.6	907	5.1	17,909	
群馬県	0	—	0	—	4,751	30.7	3,247	21.0	3,050	19.7	4,251	27.5	186	1.2	15,485	
埼玉県	0	—	0	—	11,647	41.6	720	2.6	894	3.2	14,715	52.6	0	—	27,976	
千葉県	22,078	21.0	3,286	3.1	16,909	16.1	13,604	12.9	7,813	7.4	38,089	36.2	3,498	3.3	105,277	
東京都	14,064	61.1	67	0.3	5,248	22.8	137	0.6	384	1.7	3,132	13.6	0	—	23,032	
神奈川県	784	8.3	938	9.9	3,079	32.6	93	1.0	2,168	22.9	2,375	25.1	12	0.1	9,449	
新潟県	3,845	4.9	0	—	15,245	19.5	39,653	50.7	0	—	19,494	24.9	2	0.0	78,239	
富山県	2,550	13.8	2,754	14.9	2,407	13.0	989	5.4	0	—	7,223	39.1	2,558	13.8	18,481	
石川県	9,423	19.1	0	—	993	2.0	38,841	78.9	0	—	0	—	0	—	49,257	
福井県	3,577	14.2	0	—	7,487	29.8	12,226	48.7	0	—	1,838	7.3	0	—	25,128	
山梨県	0	—	0	—	551	19.5	493	17.4	605	21.4	1,181	41.7	0	—	2,830	
長野県	0	—	0	—	6,869	61.3	1,281	11.4	1,685	15.0	1,368	12.2	2	0.0	11,205	
岐阜県	0	—	0	—	19,854	79.2	15	0.1	1,554	6.2	3,504	14.0	152	0.6	25,079	
静岡県	452	1.8	4,640	18.9	5,928	24.1	8,216	33.4	981	4.0	4,398	17.9	0	—	24,615	
愛知県	11,071	30.7	3,748	10.4	6,101	16.9	1,039	2.9	537	1.5	13,270	36.8	247	0.7	36,013	
三重県	11,010	23.5	17,798	38.0	3,996	8.5	335	0.7	3,236	6.9	10,387	22.2	25	0.1	46,787	
滋賀県	0	—	347	0.5	4,476	5.8	66,209	85.9	546	0.7	5,469	7.1	0	—	77,047	
京都府	2,819	13.3	1,863	8.8	9,764	46.0	523	2.5	1,553	7.3	4,721	22.2	0	—	21,243	
大阪府	2,343	6.5	5,028	14.0	11,721	32.7	530	1.5	6	0.0	13,760	38.4	2,444	6.8	35,832	
兵庫県	4,118	11.1	9,352	25.1	9,654	25.9	0	—	1,057	2.8	12,923	34.7	147	0.4	37,251	
奈良県	0	—	0	—	2,215	13.4	0	—	2,406	14.5	11,932	72.1	0	—	16,553	
和歌山県	352	3.1	2,157	19.3	4,071	36.4	288	2.6	552	4.9	3,723	33.3	37	0.3	11,180	
鳥取県	4,106	21.2	0	—	6,699	34.6	8,564	44.2	0	—	0	—	0	—	19,369	
島根県	0	—	954	2.0	4,583	9.6	40,066	84.2	1,230	2.6	738	1.6	18	0.0	47,589	
岡山県	0	—	3,019	11.6	6,617	25.5	0	—	814	3.1	5,609	21.6	9,858	38.0	25,917	
広島県	12,751	32.8	2,409	6.2	12,244	31.5	0	—	1,951	5.0	7,051	18.2	2,425	6.2	38,831	
山口県	3,688	15.6	1,653	7.0	7,771	32.9	0	—	4,211	17.8	6,111	25.9	170	0.7	23,604	
徳島県	3,222	14.8	1,206	5.5	14,780	67.9	441	2.0	855	3.9	1,248	5.7	0	—	21,752	
香川県	1,051	5.0	1,635	7.7	1,954	9.2	0	—	430	2.0	15,513	73.3	576	2.7	21,159	
愛媛県	2,683	9.0	12,216	41.0	4,022	13.5	171	0.6	1,696	5.7	8,563	28.7	473	1.6	29,824	
高知県	4,596	18.0	8,429	33.0	4,956	19.4	1,919	7.5	4,253	16.7	1,374	5.4	0	—	25,527	
福岡県	8,841	29.8	5,779	19.4	3,082	10.4	1,106	3.7	2,851	9.6	7,867	26.5	191	0.6	29,717	
佐賀県	22,347	45.0	5,838	11.8	1,246	2.5	0	—	369	0.7	19,544	39.4	290	0.6	49,634	
長崎県	58,628	89.2	45	0.1	0	—	0	—	5,064	7.7	2,016	3.1	0	—	65,753	
熊本県	9,871	37.8	3,601	13.8	4,304	16.5	2,231	8.5	2,304	8.8	2,476	9.5	1,309	5.0	26,096	
大分県	1,973	9.3	3,651	17.3	8,049	38.1	528	2.5	2,822	13.3	3,654	17.3	476	2.3	21,153	
宮崎県	2,249	11.9	5,725	30.2	5,588	29.5	958	5.1	1,655	8.7	2,795	14.7	0	—	18,970	
鹿児島県	261	1.1	3,747	15.1	12,131	48.8	5,960	24.0	1,274	5.1	1,389	5.6	85	0.3	24,847	
沖縄県	148	6.4	41	1.8	79	3.4	0	—	949	41.2	601	26.1	487	21.1	2,305	
合計	241,149	16.0	120,355	8.0	324,673	21.6	383,814	25.5	75,047	5.0	331,219	22.0	28,354	1.9	1,504,611	

【備考】都道府県内割合は、各都道府県内での観察個体数の、地況別の構成比を示す。

5. 希少なガンカモ類の観察状況

5.1 選定基準

本調査で観察された種のうち、各種法律や資料によってその希少性や学術的な価値が指摘されている種を希少なガンカモ類とし、その観察状況を整理した。希少なガンカモ類の選定は、「文化財保護法」、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」、「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」、環境省の鳥類レッドリスト2020及び国際自然保護連合(IUCN)のレッドリスト(2021年1月現在)の掲載種を対象とした。詳細な選定基準を表2-5-1に示した。

表 2-5-1 希少なガンカモ類の選定基準

No.	選定基準
1	「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)における国指定の天然記念物・特別天然記念物
2	「絶滅の恐れのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律第75号)における国内希少野生動植物種・国際希少野生動植物種
3	「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」(平成4年法律第75号)における希少鳥獣
4	「[鳥類]環境省レッドリスト2020」の掲載種
5	「The IUCN Red List of Threatened Species」(www.iucnredlist.org)で指摘されている種のうち、絶滅危惧Ⅱ類(VU)以上に該当する種

5.2 希少なガンカモ類の観察状況

本調査で観察記録のある希少なガンカモ類と各カテゴリー及び令和3年度の調査での観察の有無を表2-5-2に示した。令和3年度の調査では、全国でガン類6種、カモ類9種の計15種の希少なガンカモ類が観察された。これらのうち、カリガネ、コオリガモ、ホシハジロ、コウライアイサは、世界的に個体数の減少が指摘されている種である。種別の観察個体数上位3地域を表2-5-3に示した。

表 2-5-2 日本産の希少なガンカモ類と令和3年度の観察種

種	確認 状況	選定基準					
		1	2	3	4	5	
ガン類	コクガン	●	国天		○	VU	
	マガン	●	国天			NT	
	カリガネ	●				EN	VU
	ヒシクイ	●	国天		○	VU/NT	
	ハクガン	●				CR	
	サカツラガン					DD	VU
	シジュウカラガン	●		国内	○	CR	
カモ類	アカツクシガモ	●				DD	
	ツクシガモ	●			○	VU	
	オシドリ	●				DD	
	トモエガモ	●			○	VU	
	ビロードキンクロ	●					VU
	コオリガモ	●					VU
	ホシハジロ	●					VU
	アカハジロ	●				DD	CR
	コケワタガモ	×					VU
	コウライアイサ	●		国際			EN

【備考】

- ・ 選定基準の1～5は表2-5-1のNo. 1～5に対応する。
- ・ 以下各基準のカテゴリー
 基準1 国天：国指定天然記念物 特天：国指定特別天然記念物
 基準2 国内：国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種
 基準4、5 EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 I A類 EN：絶滅危惧 I B類
 VU：絶滅危惧 II類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足
 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ・ 確認状況の●は本年度に観察された種、×は最近15年間に観察記録がない種を示す。
- ・ 注：ヒシクイはVU、オオヒシクイはNT

表 2-5-3 希少なガンカモ類の観察個体数上位 3 地域

分類群	種名	全国合計		観察個体数上位3地域	
		観察 地点数	観察個体数 (羽)	観察地域	観察個体数 (羽)
ガン類	シジュウカラガン	6	1,508	宮城県 化女沼	735
				宮城県 蕪栗沼	727
				宮城県 佳景山	30
	コクガン	46	1,171	青森県 清水川	127
				宮城県 松岩漁港～川原漁港	91
				青森県 野辺地湾	86
	マガン	59	195,000	宮城県 蕪栗沼	111,845
				宮城県 伊豆沼内沼	50,907
				宮城県 化女沼	12,797
	カリガネ	3	21	石川県 片野鴨池	14
				千葉県 いすみ市上布施・下布施	5
				石川県 雁の池	2
	ヒシクイ	49	15,856	新潟県 福島潟	8,004
宮城県 化女沼				2,226	
宮城県 伊豆沼内沼				1,146	
ハクガン	10	166	宮城県 伊豆沼内沼	77	
			新潟県 朝日池・鶴の池	60	
			秋田県 大潟村干拓地	20	
カモ類	アカツクシガモ	2	4	佐賀県 嘉瀬川河口	3
				沖縄県 川平・石垣車海老養殖場沿水田	1
	ツクシガモ	56	6,466	佐賀県 大授1区	3,000
				佐賀県 大授3区	1,000
				福岡県 中曽根	639
	オシドリ	634	24,478	奈良県 二津野ダム	1,230
				神奈川県 宮ヶ瀬湖	1,021
				鳥取県 日野川	916
	トモエガモ	135	22,124	長崎県 諫早湾	15,004
				島根県 宍道湖	3,000
				石川県 片野鴨池	1,094
	ホシハジロ	1,463	100,044	佐賀県 有明干拓地	7,250
				大阪府 淀川	3,197
				愛知県 神野三郷	3,099
	アカハジロ	5	7	山形県 日向川	2
				三重県 木曾川	2
				滋賀県 伊庭内湖	1
大阪府 河池				1	
ピロードキンクロ	5	6	兵庫県 善防池(両月町)	1	
			岡山県 寄島干拓	2	
			北海道 庶野海岸-8	1	
コオリガモ	6	28	福島県 夏井川	1	
			北海道 走古丹-1	12	
			北海道 稚内港	5	
コウライアイサ	2	3	岩手県 唐丹町下荒川	5	
			大分県 三隈川	2	
				京都府 宇治川	1

注)サカツラガン、コケワタガモは今年度の観察個体数がゼロである。

6. 移入種の観察状況

令和3年度観察されたガン、カモ、ハクチョウ類のうち、移入種であるハクチョウ類のコブハクチョウ (*Cygnus olor*) を対象に観察状況をまとめた。

6.1 コブハクチョウ

令和3年度の都道府県別分布状況を表2-6-1に、最近20年間の観察個体数を表2-6-2及び図2-6-1に示した。コブハクチョウは過去に野生個体とされる記録があるが、現在観察される個体はほとんどが人為的に移入されたものやその子孫と考えられる。令和3年度調査の観察個体数は15都道県で343羽と、令和2年度に比べて増加した。

表 2-6-1 コブハクチョウの分布状況（都道府県別個体数上位順）

No.	都道府県	観察個体数(羽)
1	福島県	114
2	茨城県	63
3	山梨県	60
4	千葉県	32
5	島根県	25
6	青森県	12
7	福岡県	11
8	香川県	9
9	東京都	6
10	北海道	3
11	鹿児島県	3
12	福井県	2
13	埼玉県	1
14	神奈川県	1
15	静岡県	1
	計	343

表 2-6-2 最近 20 年間の主要県別コブハクチョウ観察個体数

調査年度	観察地点数	観察個体数(羽)						
		総数	福島県	茨城県	山梨県	千葉県	島根県	その他
平成14年度	17	160	0	88	0	19	0	53
平成15年度	19	138	0	35	29	23	7	44
平成16年度	19	265	75	88	36	17	6	43
平成17年度	23	227	0	105	44	22	2	54
平成18年度	29	209	1	80	42	13	23	50
平成19年度	27	240	0	111	48	25	9	47
平成20年度	30	247	0	93	43	27	6	78
平成21年度	25	200	3	104	59	2	0	32
平成22年度	29	269	0	100	54	26	0	89
平成23年度	31	215	1	85	55	38	0	36
平成24年度	32	218	1	96	35	47	2	37
平成25年度	34	256	17	91	43	56	0	49
平成26年度	47	380	44	110	35	96	21	74
平成27年度	43	337	54	68	43	92	33	47
平成28年度	43	367	105	88	37	72	13	52
平成29年度	44	304	44	49	40	80	4	87
平成30年度	42	309	81	54	41	61	18	54
令和元年度	51	307	62	54	52	32	18	89
令和2年度	32	158	6	47	36	16	9	44
令和3年度	37	343	114	63	60	32	25	49

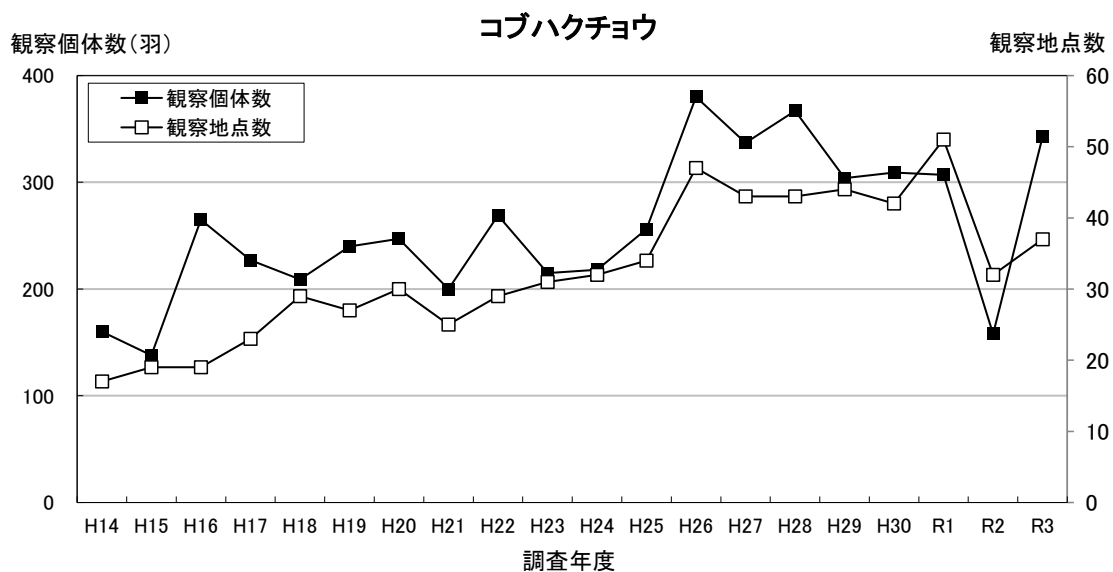


図 2-6-1 最近 20 年間のコブハクチョウ観察個体数と観察地点数

7. 飼養品種の観察状況

令和3年度調査中に観察された飼養品種の報告状況をまとめた。なお、飼養品種の観察状況は、任意報告があったデータのみをまとめている。

表 2-7-1 飼養品種の観察状況

種名	観察個体数(羽)	報告のあった都道府県
アイガモ	230	埼玉県、千葉県、長野県、三重県、京都府、島根県
アヒル	16	埼玉県、京都府
セイヨウガチョウ	1	千葉県

第3章 都道府県別の調査結果

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の各観察個体数、及び高病原性鳥インフルエンザ検査優先種[※]1、2の観察個体数の推移をグラフに示した。また類毎及び高病原性鳥インフルエンザの検査優先種1、2の分布について、47都道府県別に整理し図示した。

※ 検査優先種とは、「野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応技術マニュアル（令和4年10月改訂版）」における高病原性インフルエンザ検査優先種（旧：リスク種）である。

【検査優先種1、2のうち「ガンカモ類の生息調査」で対象となっているもの】

- 検査優先種1：ヒシクイ、マガン、シジュウカラガン、コブハクチョウ、コハクチョウ、オオハクチョウ、オシドリ、ヒドリガモ、キンクロハジロ
- 検査優先種2：マガモ、オナガガモ、トモエガモ、ホシハジロ、スズガモ

それぞれの図で用いたのは、次の結果である。

- ・図1 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の観察個体数の推移
平成14年度（第34回）から令和3年度（第53回）までの類別の観察個体数
- ・図2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の観察個体数の分布
令和3年度（第53回）調査結果
- ・図3 検査優先種1及び2の観察個体数の推移
平成14年度（第34回）から令和3年度（第53回）までの観察個体数の推移
- ・図4 検査優先種1及び2の分布
至近5年間の調査で観察された検査優先種1・2のうち、本調査の対象種の平均的な分布

なお、図4の検査優先種のうち平均個体数の種毎の内訳は、表3-1のとおりである。

【至近5年間の平均的な観察個体数の計算式】

$$Y = \frac{1}{5} \cdot \sum_{n=1}^5 Xn$$

- Y : 当該調査地点の至近5年間の平均観察個体数
- Xn : 当該調査地点の年度毎の観察個体数（当該地点で調査を行っていない場合は観察個体数を0とする。）
- n : 調査年度（1:H29、2:H30、3:R01、4:R02、5:R03）

また、この地図の作成に当たっては、以下の国土数値情報（行政区画、河川（一級河川及び二級河川）、湖沼、鳥獣保護区（都道府県指定））のほか、自然環境調査Web-GIS（環境省生物多様性センター：<http://gis.biodic.go.jp/webgis/>）の国指定鳥獣保護区データ(平成27年3月16日時点)を使用した。

【国土数値情報（<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/index.html>）】

- ・行政区画：令和4（2022）年1月1日時点
- ・河川（一級河川及び二級河川）：
 - 平成18年度：四国地方
 - 平成19年度：東北地方（北海道除く）、北陸地方、九州地方
 - 平成20年度：関東地方、中部地方、中国地方
 - 平成21年度：北海道、近畿地方
- ・湖沼：平成17（2005）年9月1日時点
- ・鳥獣保護区（都道府県指定）：平成27（2015）年3月16日時点※

※鳥取県と宮崎県は、平成27年データ未整備のため平成21（2009）年3月27日時点のデータを使用

表 3-1(1) 検査優先種 1 の至近 5 年間の平均観察個体数

都道府県	オオハク チョウ	コハク チョウ	アメリカ コハク チョウ	コブハク チョウ	シジュウ カラガン	マガン	ヒシクイ	オシドリ	ヒドリガ モ	キンクロ ハジロ	合計
1 北海道	2,524	228	0	3	1	42	1	0	322	222	3,343
2 青森県	1,390	243	0	21	0	1	0	20	154	359	2,189
3 岩手県	3,698	1,110	1	0	12	2,078	1	29	584	431	7,944
4 宮城県	9,657	3,674	1	2	1,949	197,140	3,004	26	1,896	473	217,822
5 秋田県	827	344	0	0	45	1,639	3,154	77	250	189	6,525
6 山形県	1,215	6,140	4	0	0	248	204	23	316	489	8,637
7 福島県	2,347	3,510	4	61	0	91	2	111	1,088	907	8,119
8 茨城県	619	286	0	53	0	3	173	243	11,276	1,362	14,015
9 栃木県	180	69	0	0	0	0	2	362	1,980	301	2,894
10 群馬県	78	216	3	0	0	0	0	163	1,401	552	2,414
11 埼玉県	3	198	0	1	0	0	0	126	4,051	1,076	5,454
12 千葉県	128	1,753	2	44	0	1	0	487	4,500	1,844	8,760
13 東京都	0	0	0	1	0	0	0	10	1,673	924	2,609
14 神奈川県	0	1	0	2	0	0	0	945	1,374	835	3,158
15 新潟県	1,566	18,890	1	2	1	3,147	3,563	1	1,737	675	29,581
16 富山県	277	332	0	0	0	1	1	3	1,877	308	2,799
17 石川県	9	3,310	0	0	13	754	549	4	5,198	333	10,170
18 福井県	1	78	0	0	0	808	36	45	1,548	850	3,367
19 山梨県	0	3	0	46	0	0	0	322	220	256	847
20 長野県	2	824	1	0	0	21	2	176	882	893	2,802
21 岐阜県	0	70	0	0	0	0	3	618	4,756	1,357	6,804
22 静岡県	2	4	0	3	0	0	1	347	3,840	1,103	5,299
23 愛知県	7	5	0	1	0	0	0	295	2,545	3,581	6,434
24 三重県	0	0	0	0	0	0	0	463	6,980	1,342	8,786
25 滋賀県	7	608	0	0	2	30	200	255	11,651	15,367	28,120
26 京都府	0	4	0	1	0	10	2	977	1,958	1,063	4,013
27 大阪府	0	0	0	1	0	0	0	783	6,116	3,033	9,933
28 兵庫県	3	15	0	2	0	2	11	969	5,499	1,595	8,096
29 奈良県	0	0	0	0	0	0	0	2,283	1,572	343	4,198
30 和歌山県	0	0	0	0	0	0	0	577	2,705	152	3,435
31 鳥取県	3	363	0	3	0	87	15	967	1,290	1,632	4,360
32 島根県	7	1,788	0	15	0	2,666	237	850	1,861	9,632	17,056
33 岡山県	0	0	0	0	0	1	1	474	1,691	1,274	3,440
34 広島県	0	0	0	0	0	1	0	2,091	6,043	682	8,817
35 山口県	1	0	0	0	0	0	0	1,652	3,757	627	6,037
36 徳島県	0	0	0	0	0	0	1	540	5,119	375	6,035
37 香川県	0	0	0	9	0	0	1	484	4,097	621	5,211
38 愛媛県	2	0	0	0	0	0	0	1,257	5,135	274	6,667
39 高知県	0	0	0	0	0	0	0	1,477	5,537	17	7,031
40 福岡県	0	0	0	9	0	3	0	607	2,892	729	4,239
41 佐賀県	0	0	0	0	0	10	0	653	3,064	5,526	9,253
42 長崎県	16	0	0	0	0	8	8	1,275	2,419	775	4,500
43 熊本県	0	1	0	0	0	0	0	444	4,893	24	5,361
44 大分県	5	0	0	0	0	0	0	1,579	3,548	118	5,251
45 宮崎県	0	0	0	0	0	0	0	852	5,137	74	6,064
46 鹿児島県	0	0	0	3	0	0	0	420	2,576	162	3,162
47 沖縄県	0	0	0	0	0	5	4	0	176	816	1,002
合計	24,575	44,065	17	284	2,024	208,797	11,176	26,360	149,186	65,570	532,055

※四捨五入の関係で内訳と合計は一致しない。

表 3-1(2) 検査優先種 2 の至近 5 年間の平均観察個体数

都道府県	マガモ	オナガガモ	ホシハジロ	スズガモ	トモエガモ	合計
1 北海道	1,702	425	39	789	1	2,955
2 青森県	783	920	255	1,182	5	3,144
3 岩手県	5,189	2,124	603	839	59	8,813
4 宮城県	18,867	22,933	669	2,381	39	44,889
5 秋田県	4,644	507	222	182	1	5,556
6 山形県	26,609	7,734	437	45	69	34,893
7 福島県	13,098	12,577	811	459	16	26,962
8 茨城県	45,913	28,832	1,503	12,458	159	88,865
9 栃木県	8,946	2,963	145	1	14	12,069
10 群馬県	3,132	2,213	330	1	3	5,679
11 埼玉県	5,451	1,753	1,349	15	9	8,577
12 千葉県	24,341	19,990	3,079	37,485	93	84,988
13 東京都	345	276	862	8,537	0	10,020
14 神奈川県	945	492	977	864	0	3,278
15 新潟県	37,970	11,069	1,101	166	161	50,468
16 富山県	6,510	1,539	395	8	4	8,456
17 石川県	18,360	5,256	748	123	1,957	26,443
18 福井県	15,025	472	541	690	466	17,194
19 山梨県	963	11	139	2	0	1,115
20 長野県	3,678	1,288	671	18	17	5,673
21 岐阜県	5,131	661	334	28	82	6,237
22 静岡県	5,848	1,546	1,344	4,599	11	13,348
23 愛知県	3,782	3,476	9,506	10,582	8	27,354
24 三重県	7,982	4,162	3,071	8,963	27	24,205
25 滋賀県	15,433	2,641	4,660	2,608	1,156	26,498
26 京都府	5,206	504	1,504	375	34	7,623
27 大阪府	2,122	623	10,433	1,277	36	14,491
28 兵庫県	3,524	1,680	9,502	3,216	61	17,983
29 奈良県	3,393	66	432	1	4	3,897
30 和歌山県	2,655	101	565	8	11	3,340
31 鳥取県	10,172	1,309	501	2,375	43	14,401
32 島根県	12,146	1,411	1,748	13,890	3,010	32,206
33 岡山県	3,553	3,412	2,983	1,809	194	11,951
34 広島県	5,012	959	5,422	5,468	191	17,053
35 山口県	6,366	243	1,002	275	84	7,970
36 徳島県	5,610	160	1,362	891	21	8,044
37 香川県	3,430	921	2,739	402	1	7,494
38 愛媛県	9,537	3,697	1,080	36	287	14,637
39 高知県	10,814	2,028	192	7	93	13,134
40 福岡県	5,711	1,513	2,175	1,161	31	10,591
41 佐賀県	4,715	6,463	10,790	49	22	22,039
42 長崎県	4,245	833	7,047	27,534	6,049	45,709
43 熊本県	8,503	947	104	46	0	9,601
44 大分県	4,715	868	326	145	61	6,115
45 宮崎県	7,579	403	70	6	0	8,059
46 鹿児島県	8,495	307	49	0	0	8,851
47 沖縄県	68	83	84	27	0	262
合計	408,215	164,392	93,904	152,026	14,590	833,126

※四捨五入の関係で内訳と合計は一致しない。

北海道のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の北海道での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

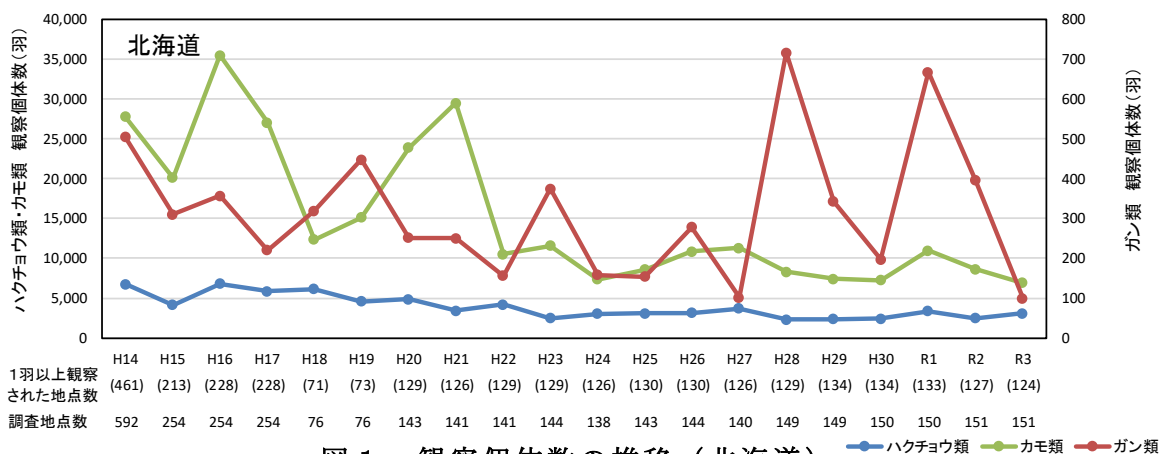


図 1 観察個体数の推移（北海道）

2. 道内における類ごとの分布

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。

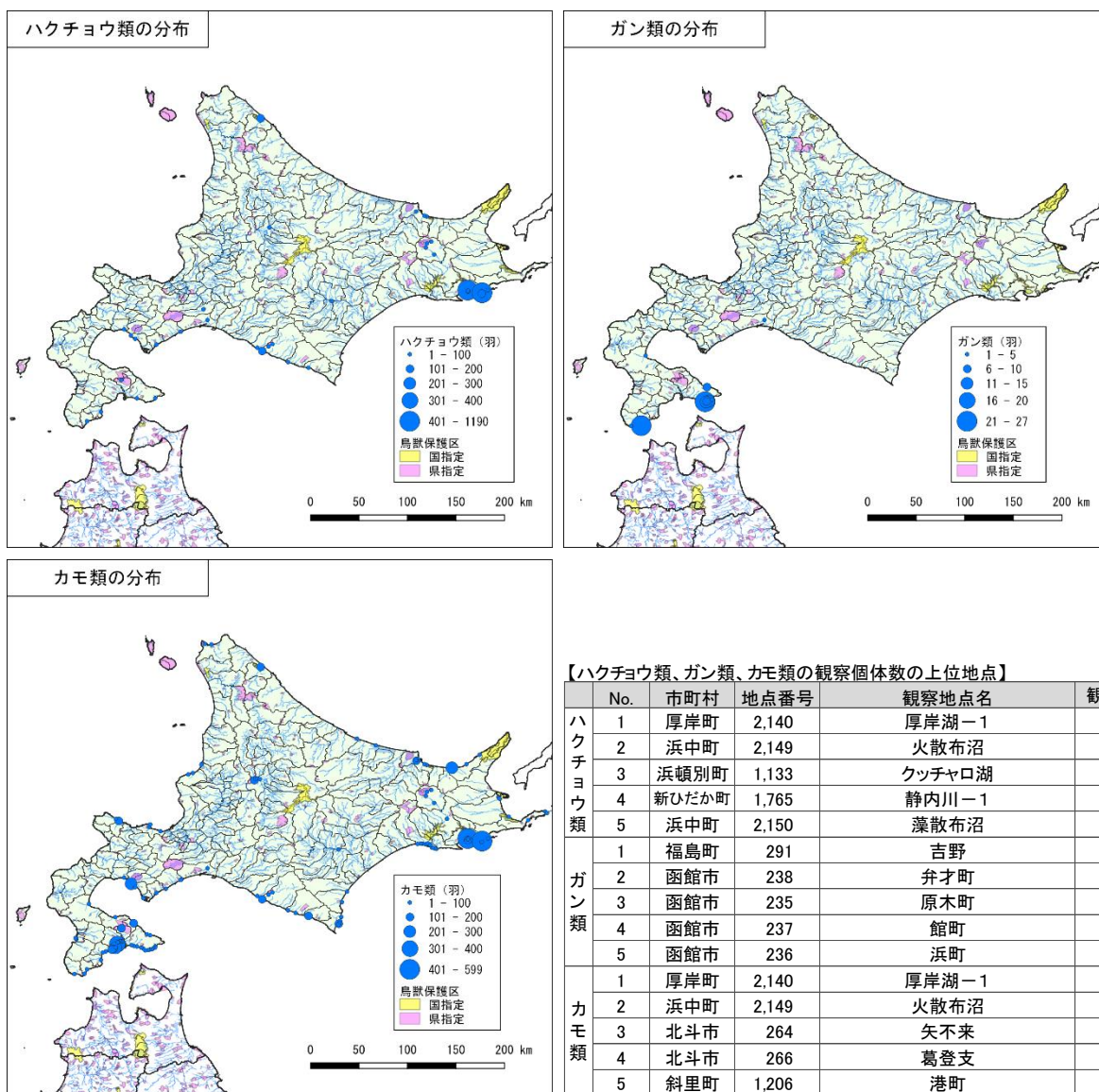


図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（北海道）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

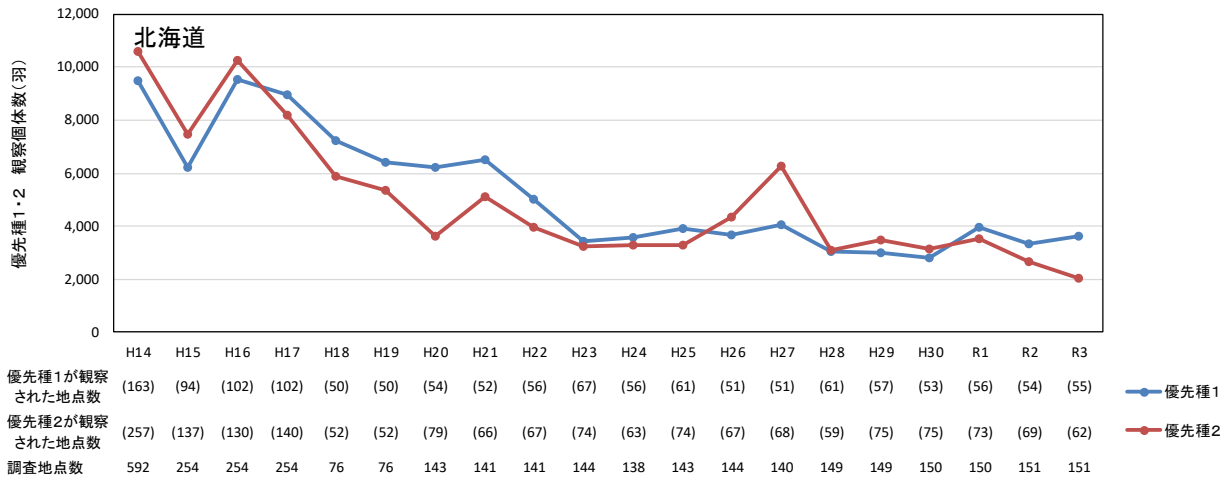
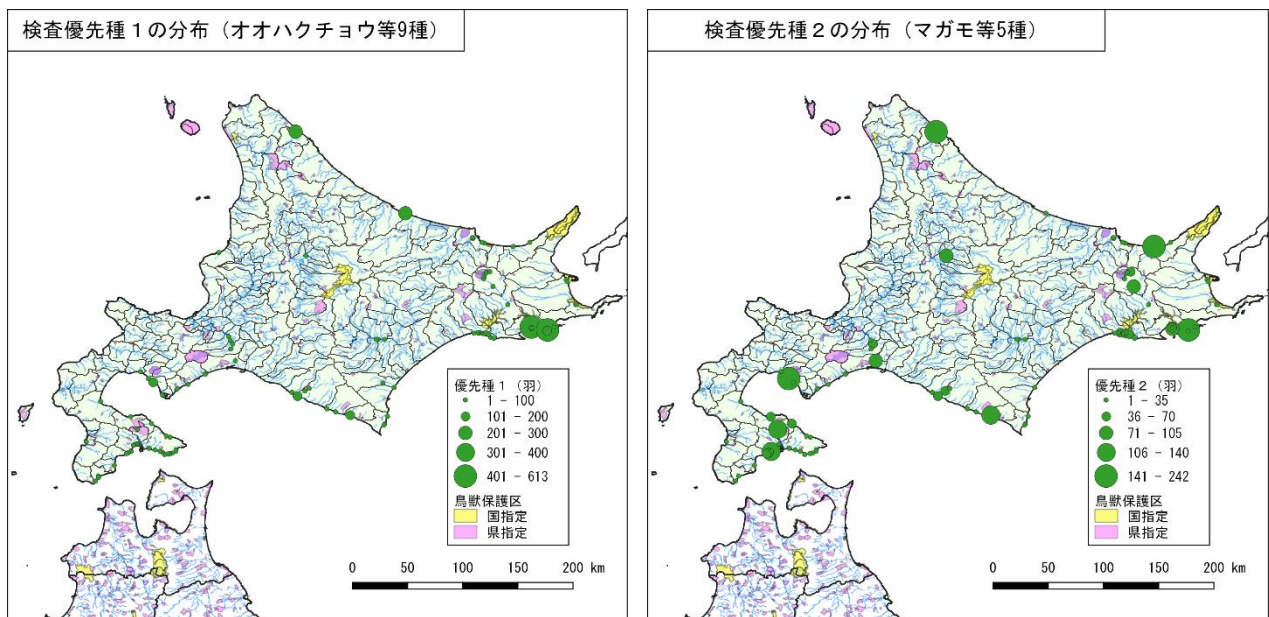


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（北海道）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	浜中町	2149	火散布沼	613
2	厚岸町	2140	厚岸湖-1	563
3	紋別市	1334	コムケ湖-1	272
4	浜頓別町	1133	クツチャロ湖	226
5	伊達市	1544	長流川河口	169

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	浜頓別町	1133	クツチャロ湖	242
2	伊達市	1547	有珠港	171
3	浜中町	2149	火散布沼	168
4	斜里町	1206	港町	157
5	七飯町	253	小沼	140

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（北海道）

青森県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の青森県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

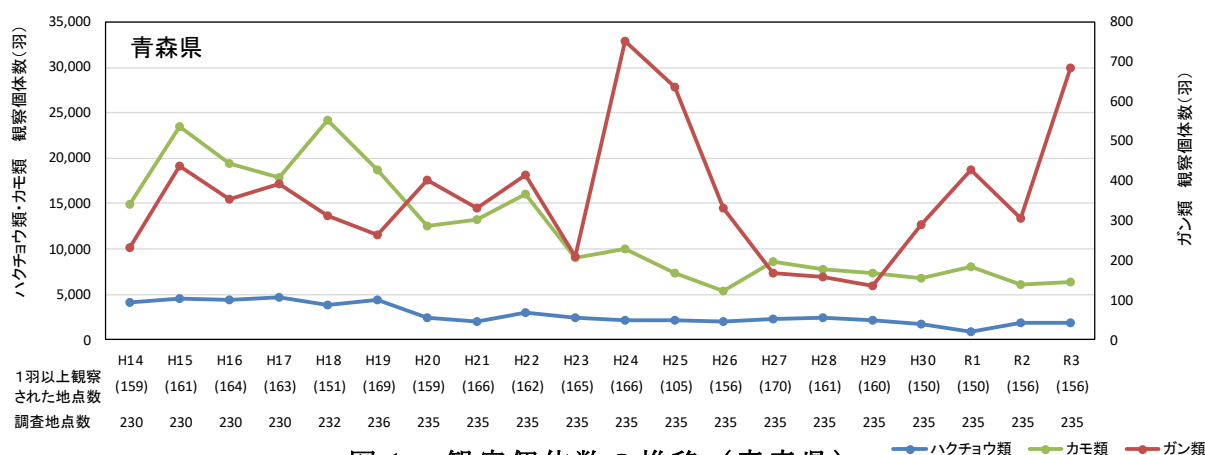


図 1 観察個体数の推移（青森県）

2. 県内における類ごとの分布図

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。

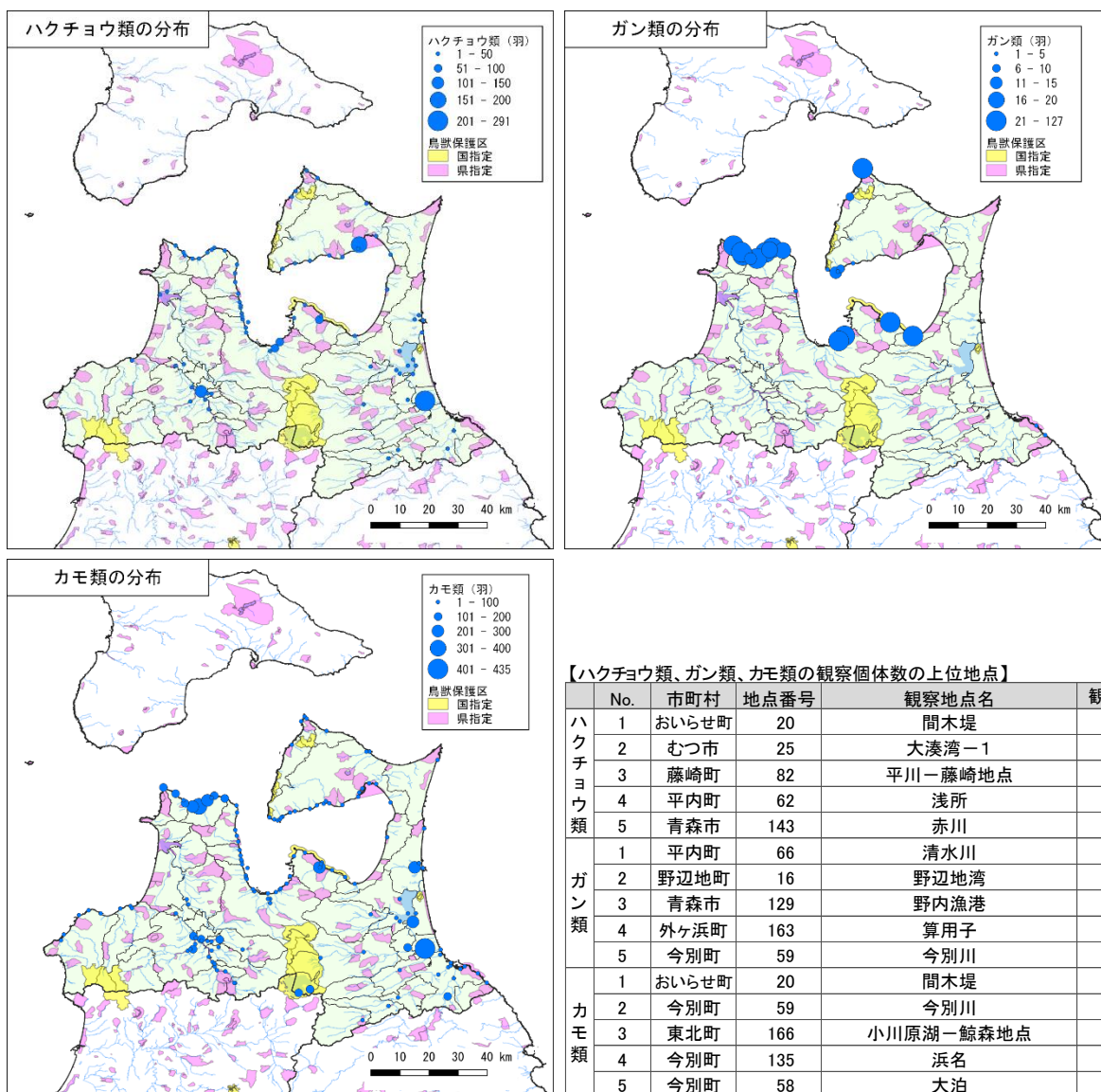


図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（青森県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

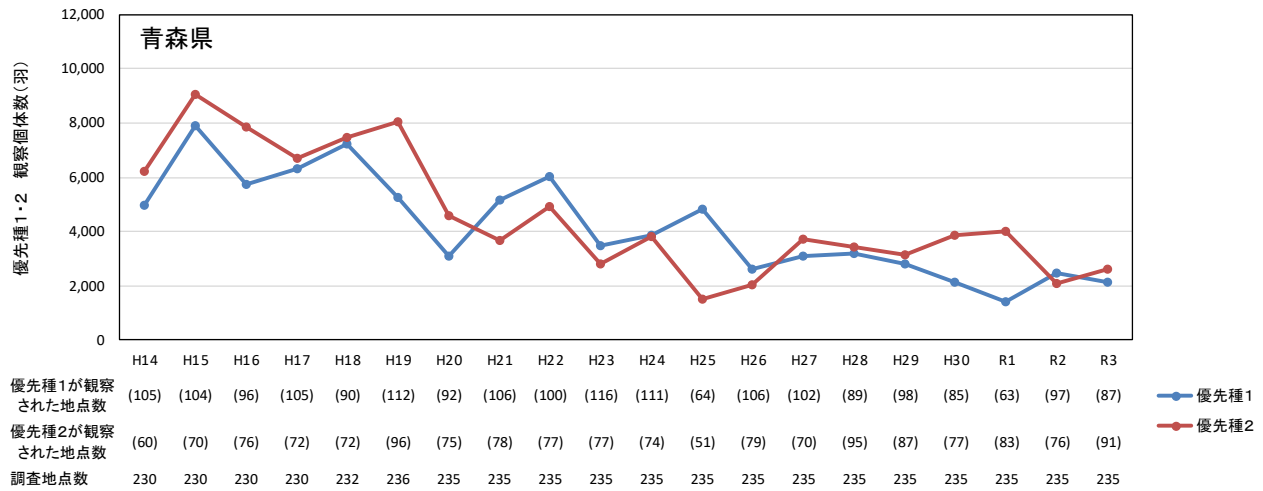
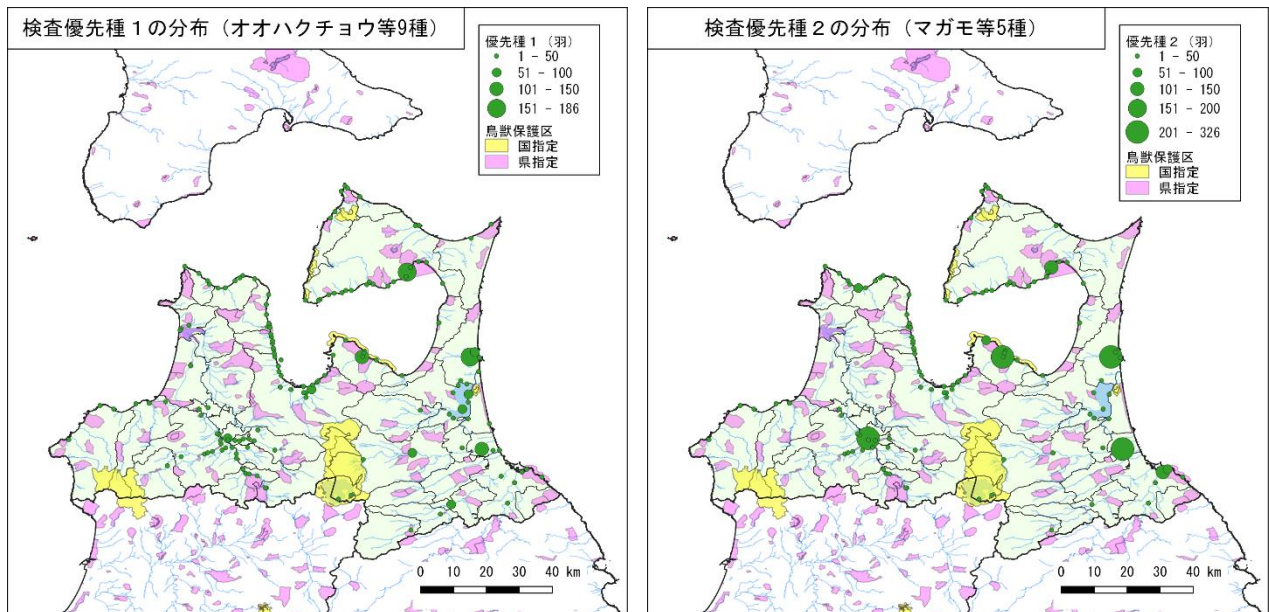


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（青森県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	六ヶ所村	148	鷹架沼	186
2	むつ市	25	大湊湾-1	163
3	おいらせ町	20	間木堤	142
4	平内町	62	浅所	131
5	藤崎町	82	平川-藤崎地点	90

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	おいらせ町	20	間木堤	326
2	藤崎町	82	平川-藤崎地点	306
3	六ヶ所村	148	鷹架沼	266
4	平内町	62	浅所	209
5	むつ市	183	大湊湾-2	130

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（青森県）

岩手県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の岩手県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

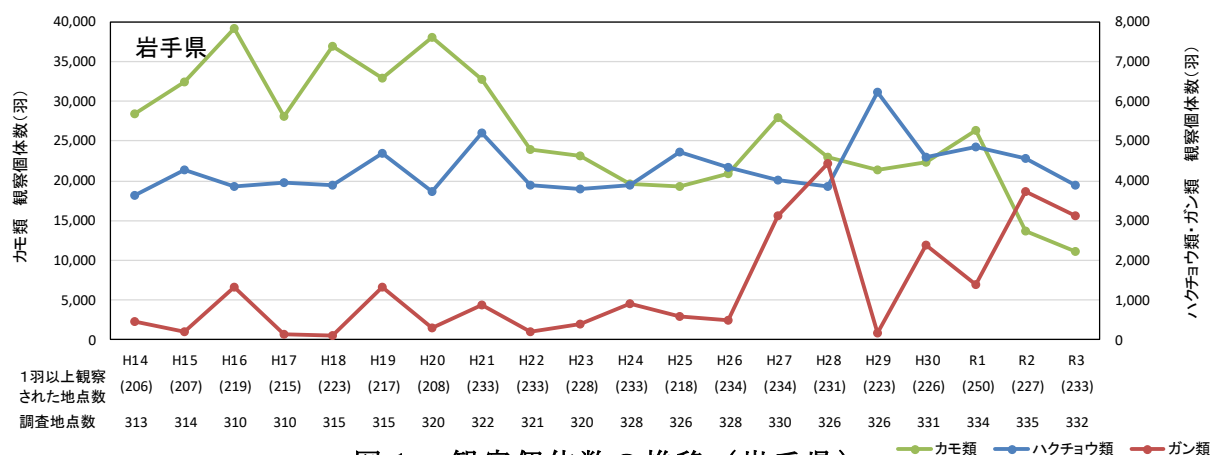


図 1 観察個体数の推移（岩手県）

2. 県内における類ごとの分布図

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。

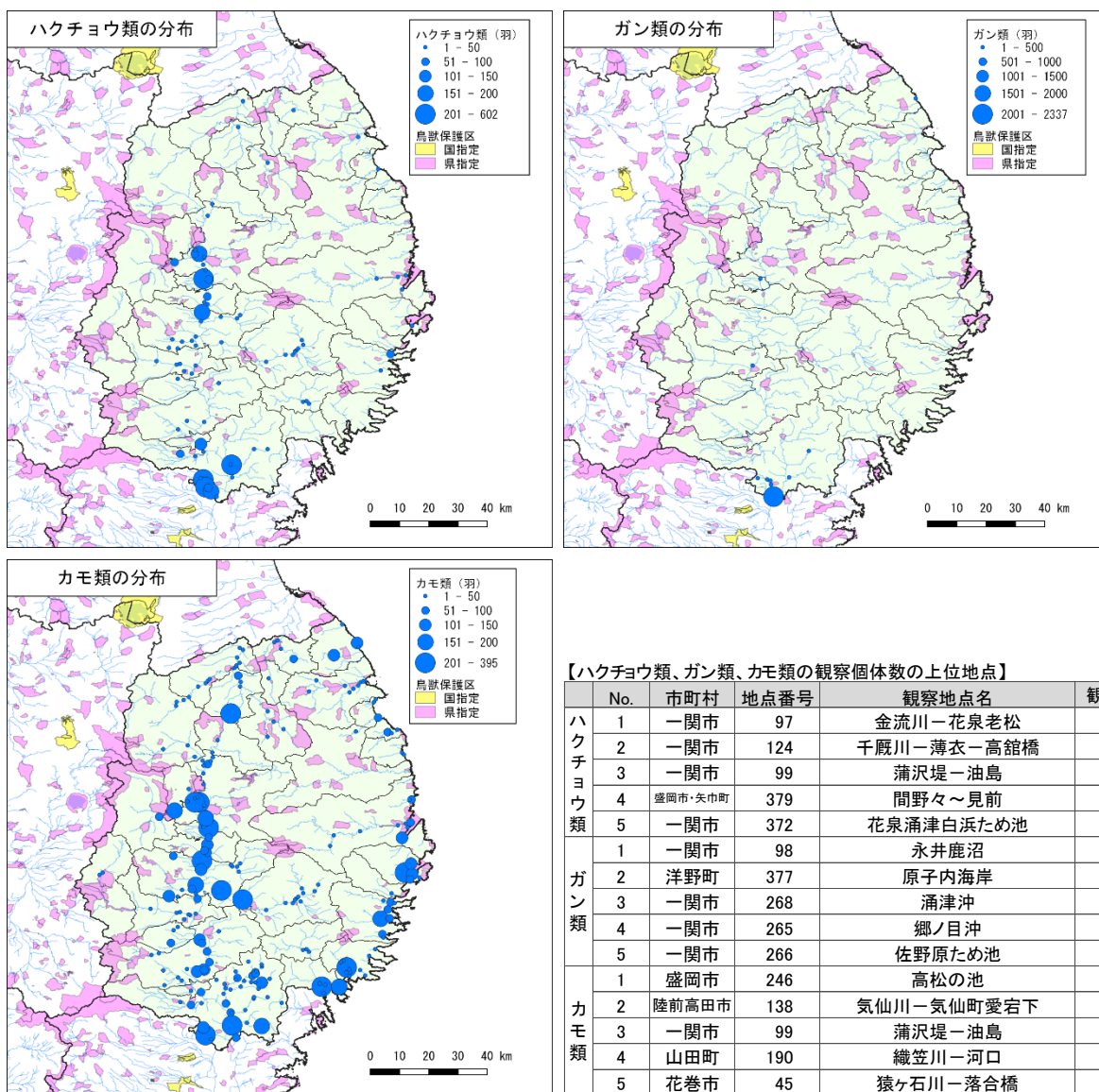


図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（岩手県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

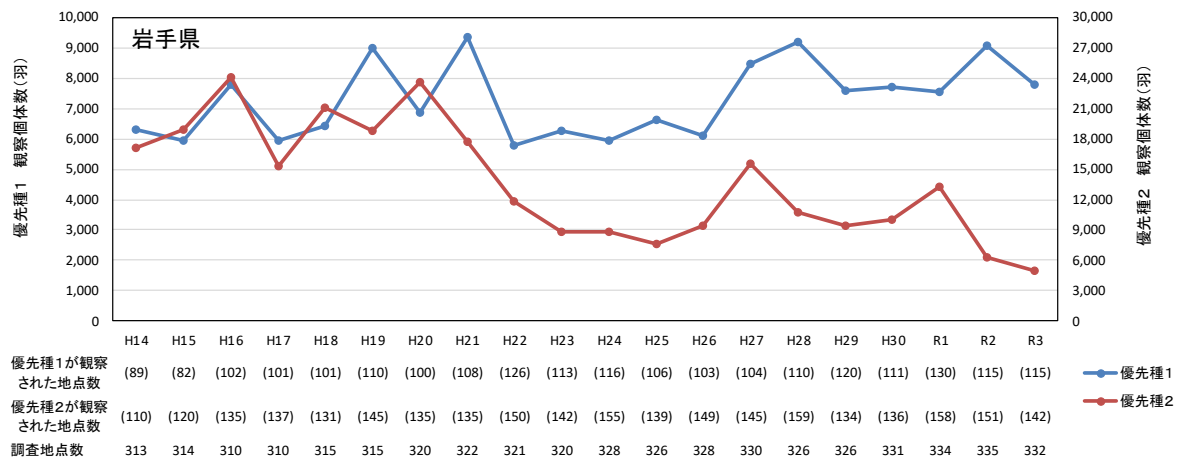
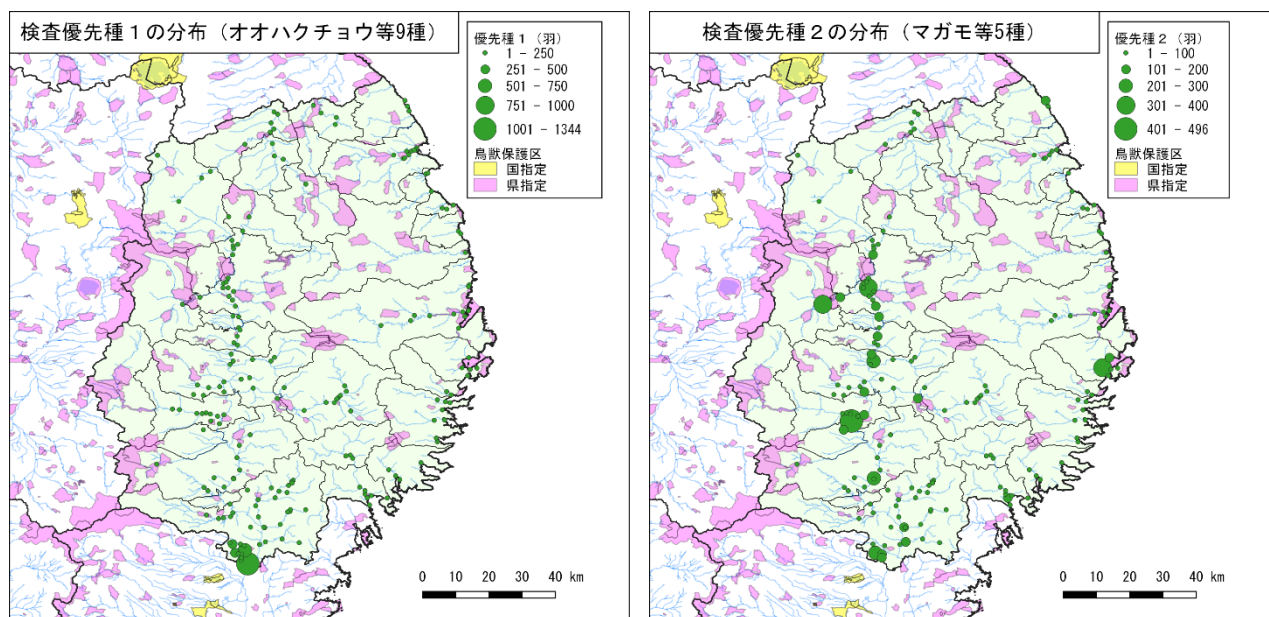


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（岩手県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	一関市	98	永井鹿沼	1,344
2	一関市	268	涌津沖	528
3	一関市	97	金流川－花泉老松	499
4	一関市	99	蒲沢堤－油島	451
5	盛岡市	246	高松の池	248

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	北上市	51	新堤	496
2	雫石町	12	御所湖	376
3	盛岡市	246	高松の池	357
4	山田町	190	織笠川－河口	304
5	花巻市	343	北上川－井戸向橋	250

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（岩手県）

宮城県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の宮城県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

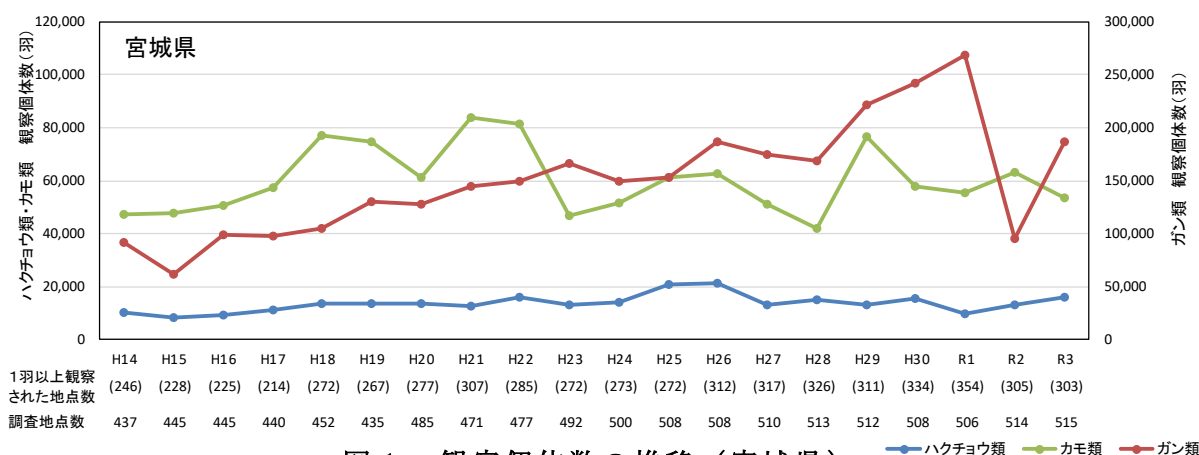


図 1 観察個体数の推移（宮城県）

2. 県内における類ごとの分布図

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。

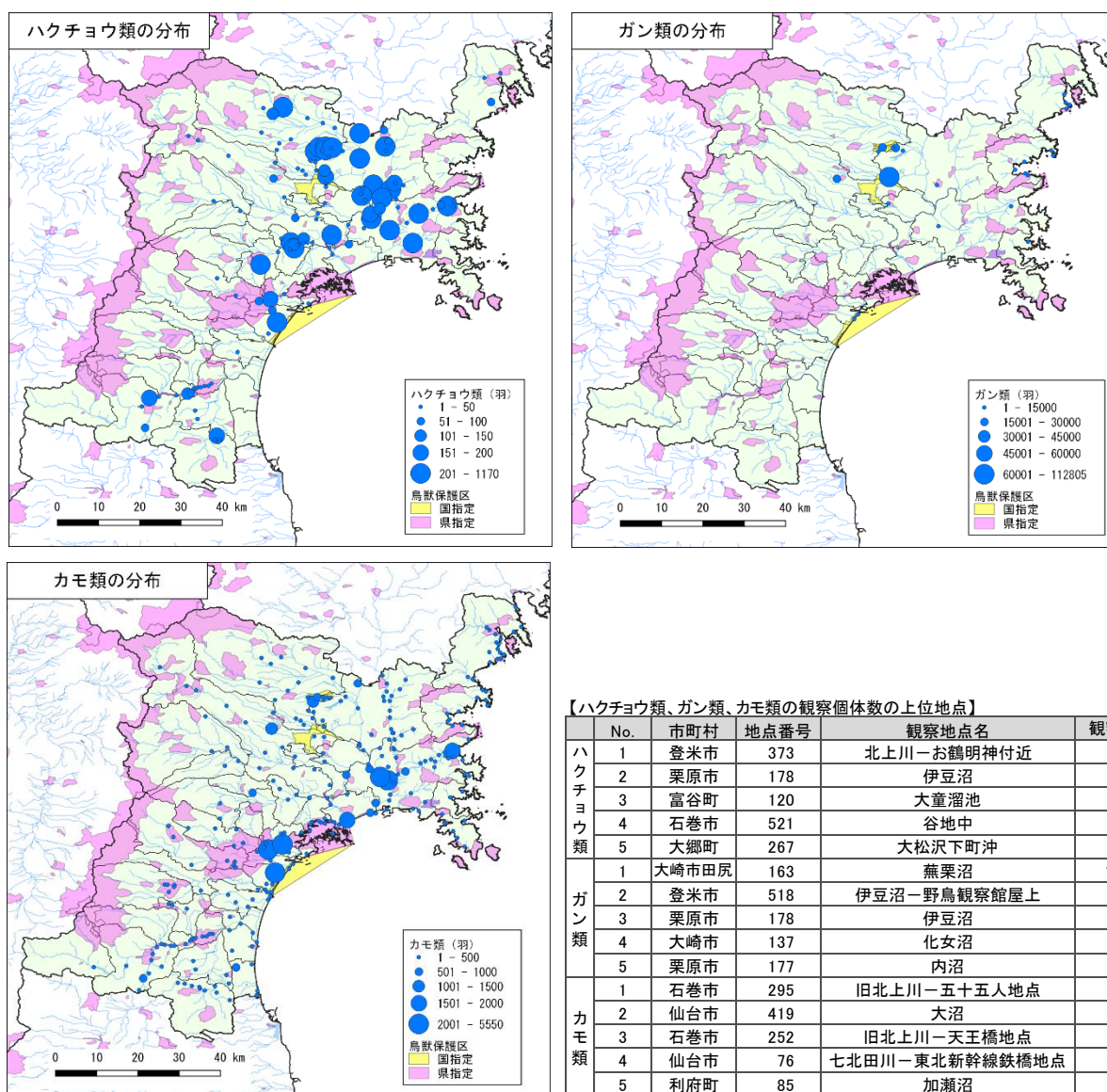


図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（宮城県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

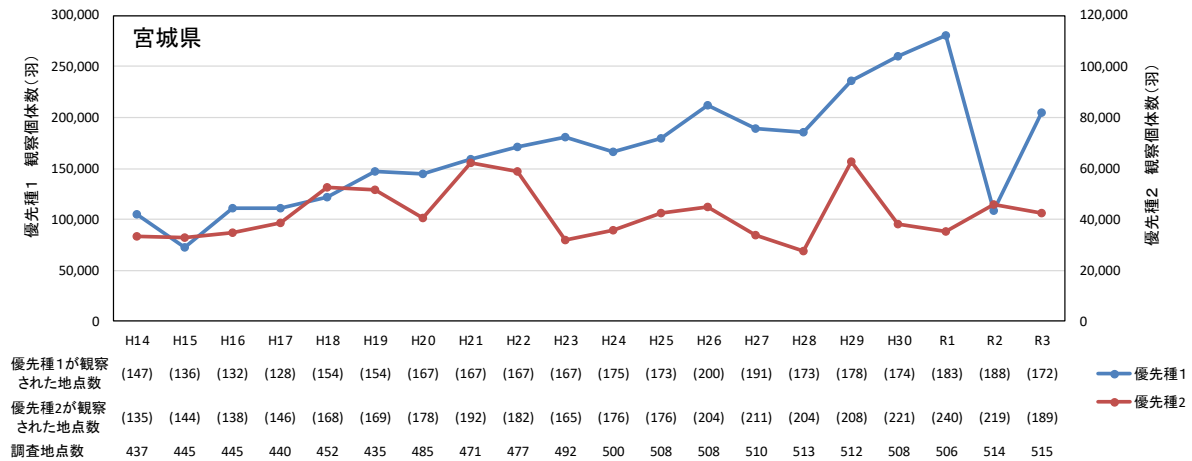
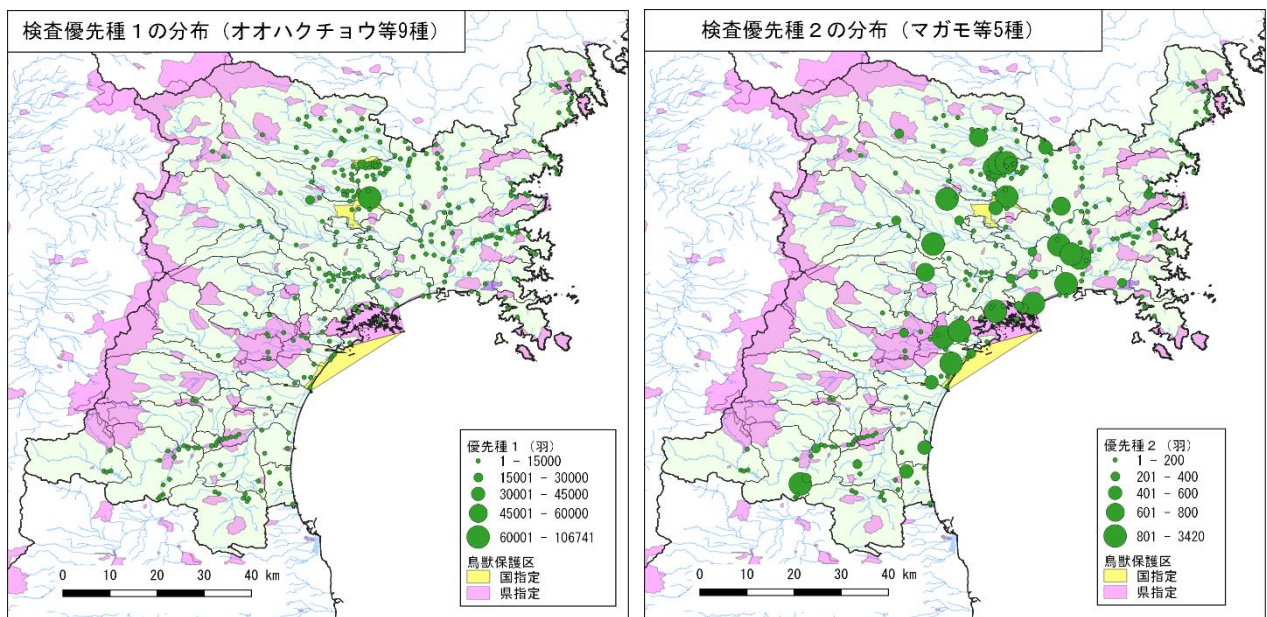


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（宮城県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種 1 のうち、合計 9 種の年平均個体数 (H28～R3 年) の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	大崎市田尻	163	蕪栗沼	106,741
2	登米市	518	伊豆沼-野鳥観察館屋上	25,023
3	大崎市	137	化女沼	17,854
4	登米市	235	伊豆沼-野鳥観察館北西部	17,485
5	栗原市	178	伊豆沼	15,296

【検査優先種 2 のうち、合計 5 種の年平均個体数 (H28～R3 年) の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	石巻市	252	旧北上川-天王橋地点	3,420
2	大崎市	137	化女沼	2,768
3	仙台市	419	大沼	2,314
4	石巻市	295	旧北上川-五十五人地点	1,780
5	登米市	236	伊豆沼-中央付近	1,730

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（宮城県）

秋田県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の秋田県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

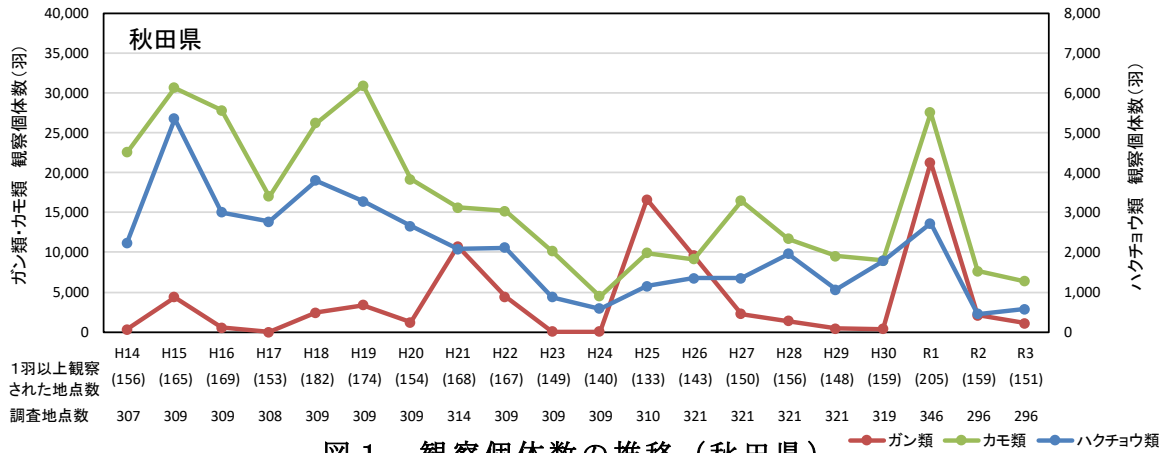


図 1 観察個体数の推移（秋田県）

2. 県内における類ごとの分布

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。

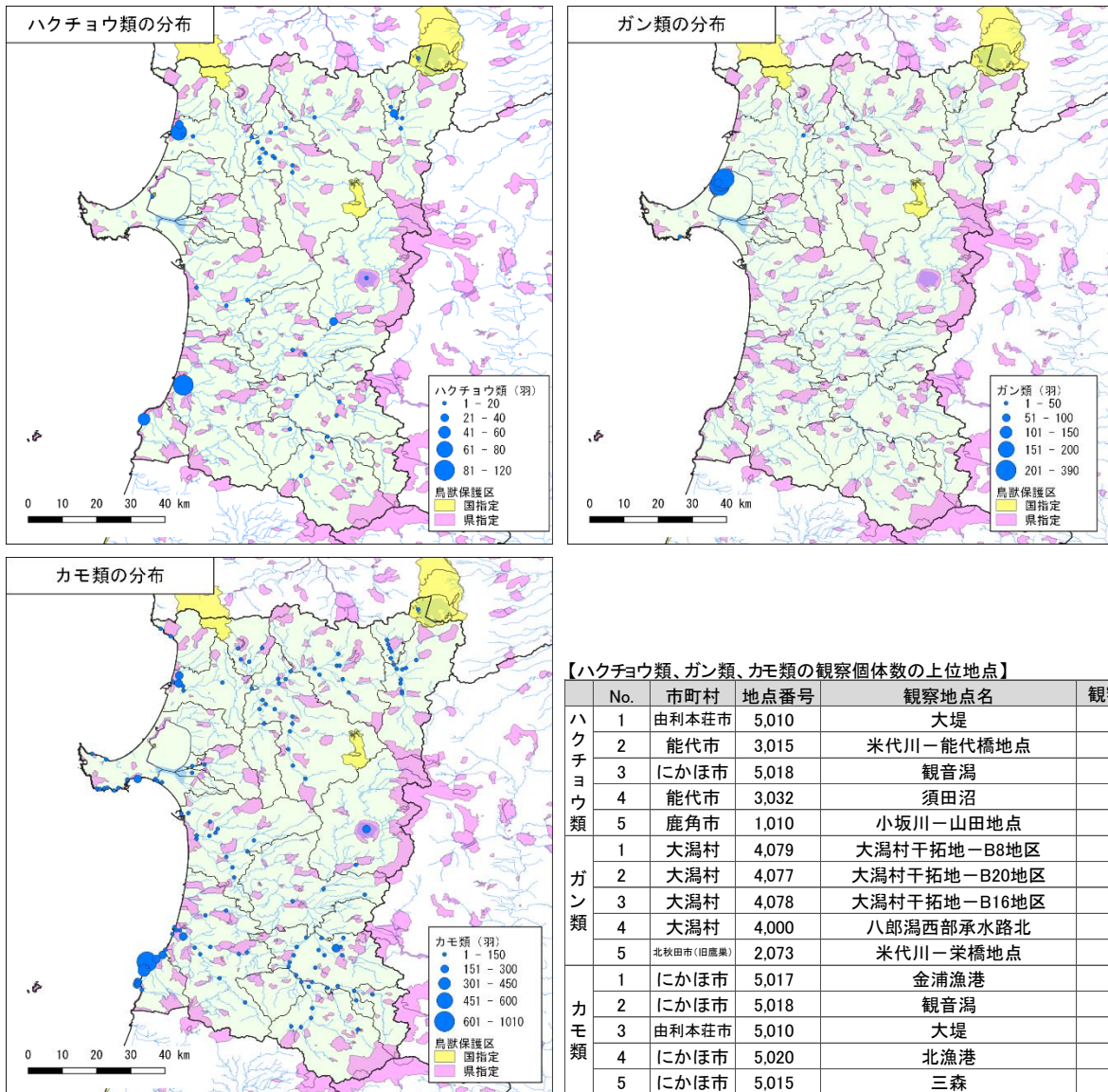


図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（秋田県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

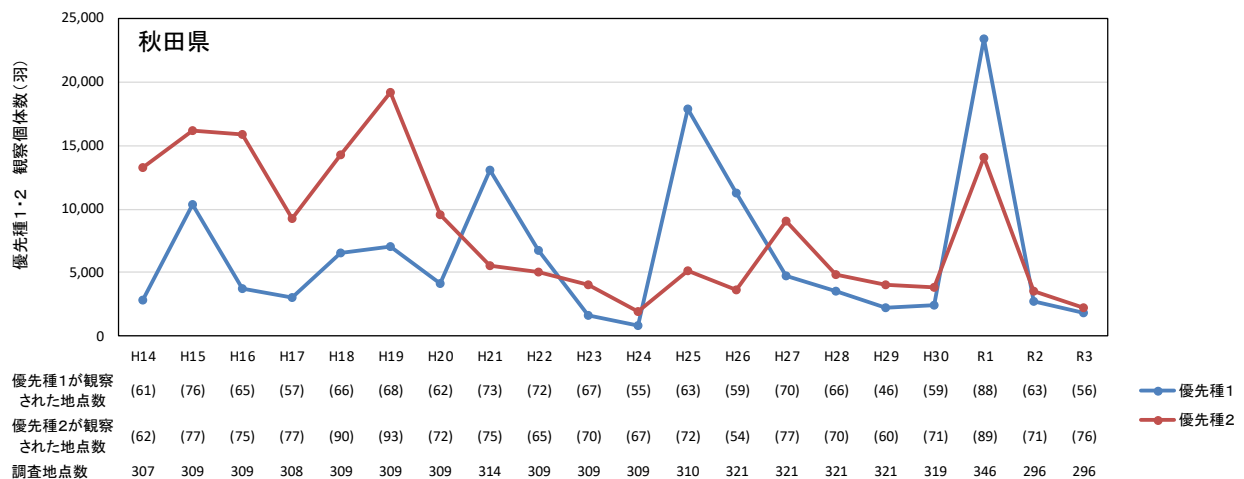
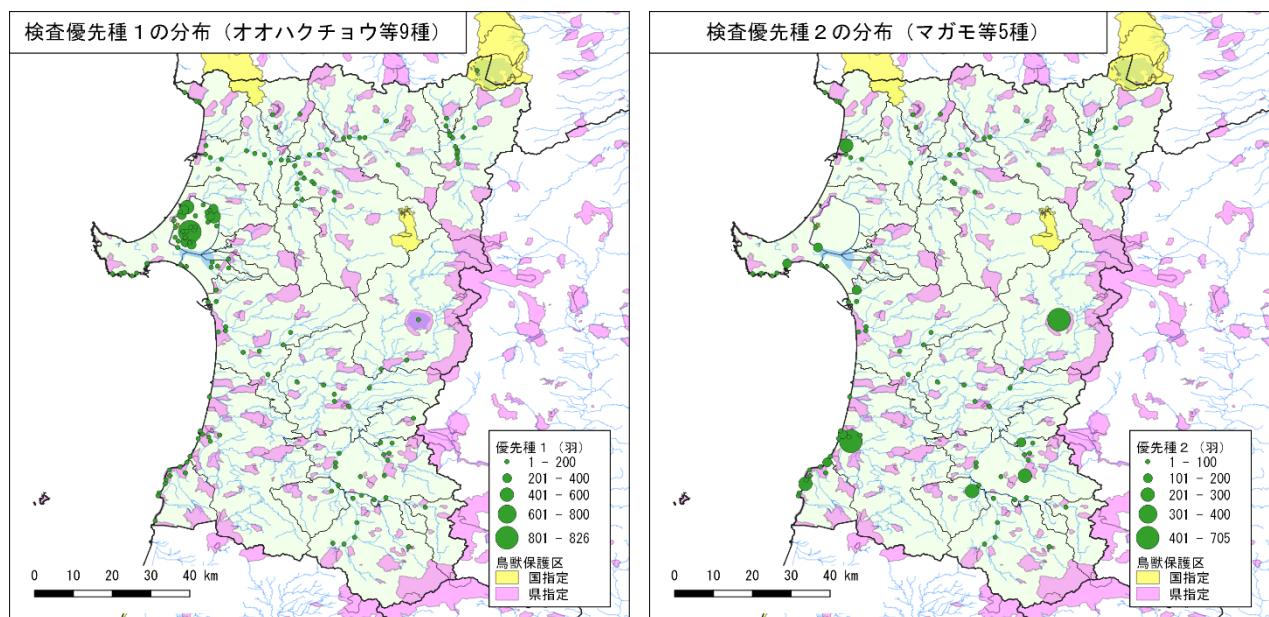


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（秋田県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	大潟村	4090	大潟村干拓地-H29地区	826
2	大潟村	4079	大潟村干拓地-B8地区	451
3	大潟村	4082	大潟村干拓地-C22地区	417
4	大潟村	4081	大潟村干拓地-C11地区	388
5	大潟村	4083	大潟村干拓地-C23地区	320

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	仙北市	6001	田沢湖	705
2	由利本荘市	5010	大堤	564
3	横手市	7017	櫛沢沼	300
4	能代市	3032	須田沼	289
5	にかほ市	5019	赤石	222

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（秋田県）

山形県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の山形県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

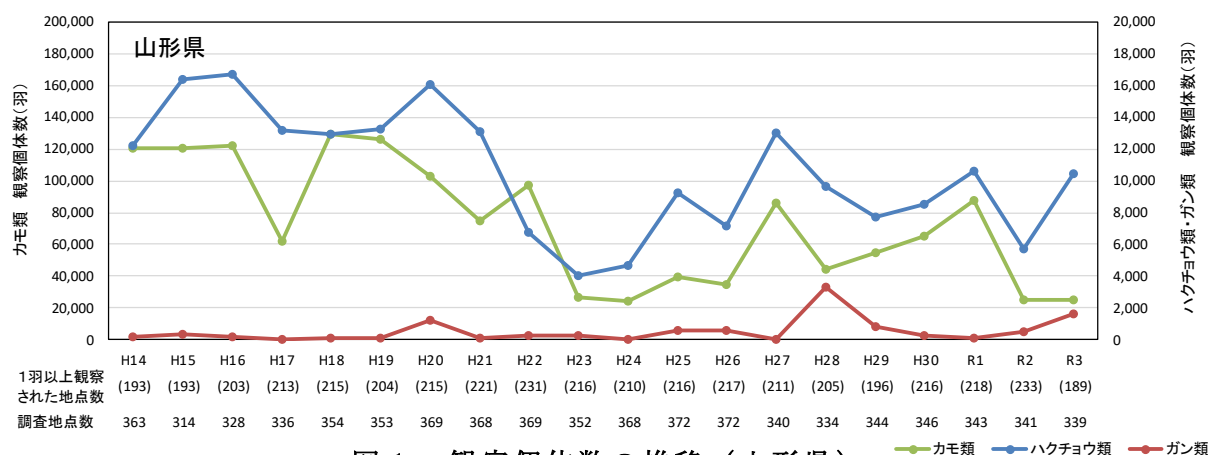


図 1 観察個体数の推移（山形県）

2. 県内における類ごとの分布図

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。

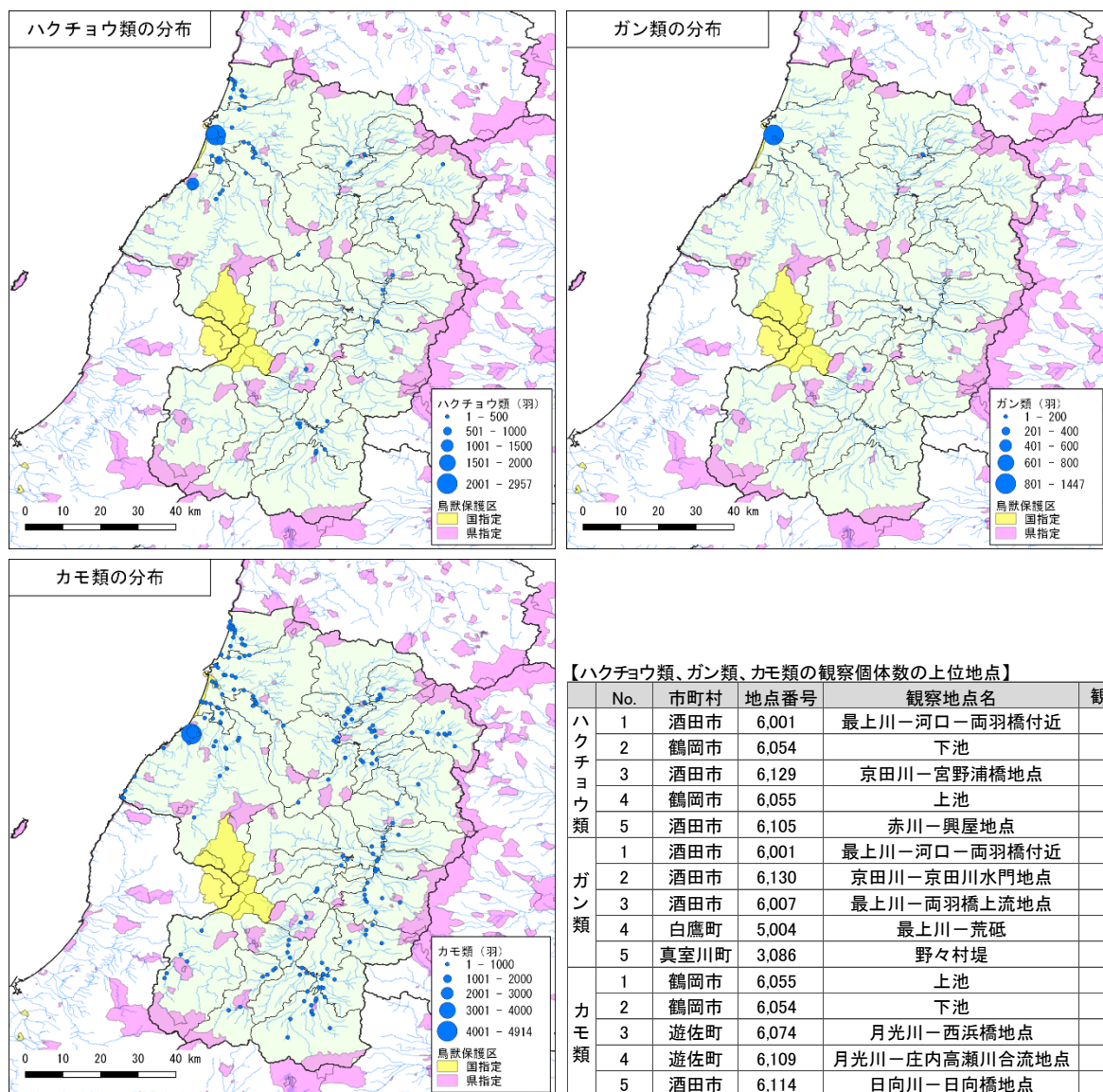


図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（山形県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

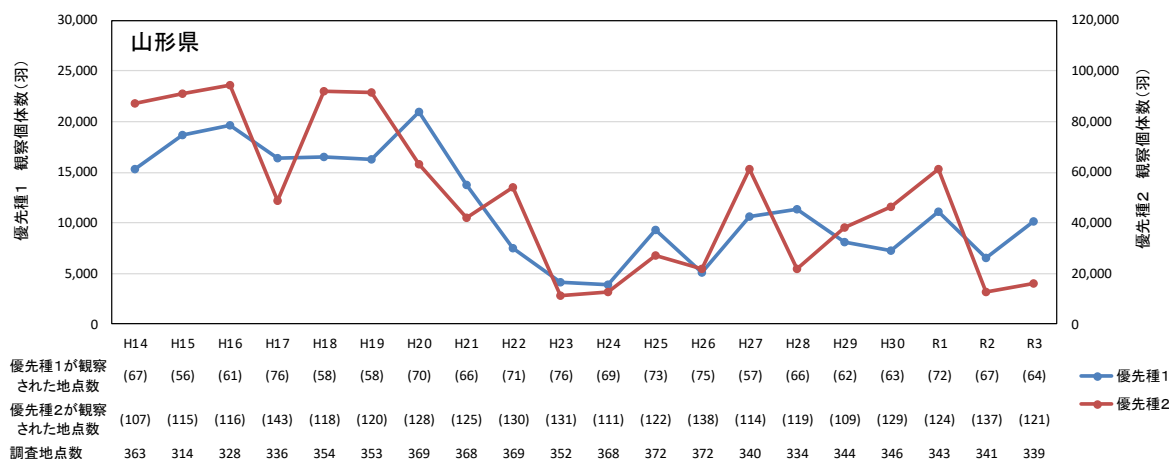
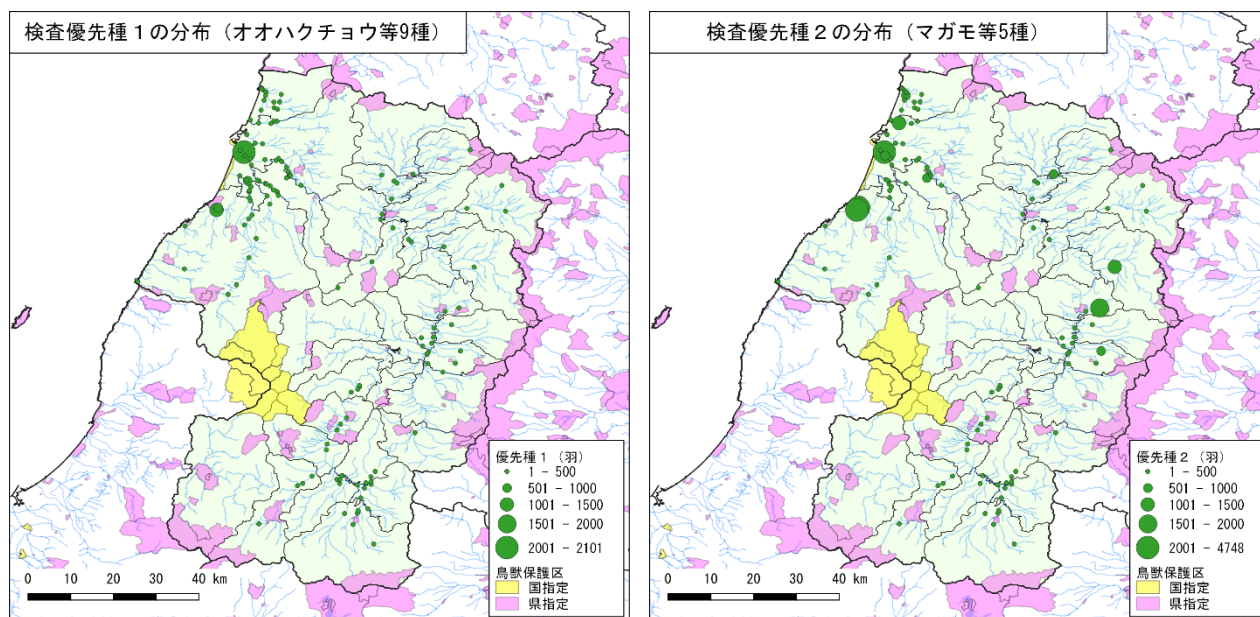


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（山形県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	酒田市	6001	最上川－河口－両羽橋付近	2,101
2	鶴岡市	6055	上池	1,450
3	鶴岡市	6054	下池	908
4	酒田市	6105	赤川－興屋地点	546
5	酒田市	6130	京田川－京田川水門地点	400

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	鶴岡市	6054	下池	4,748
2	鶴岡市	6055	上池	4,520
3	酒田市	6001	最上川－河口－両羽橋付近	4,202
4	酒田市	6091	赤川－袖浦橋新川橋中間地点	2,887
5	村山市	2002	湯沢沼	1,782

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（山形県）

福島県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の福島県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

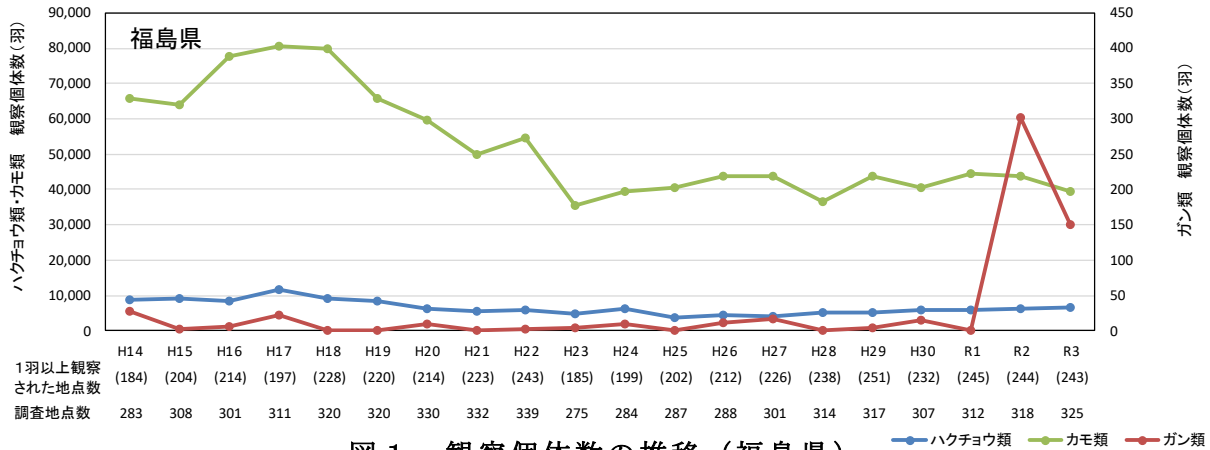


図 1 観察個体数の推移（福島県）

2. 県内における類ごとの分布図

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。

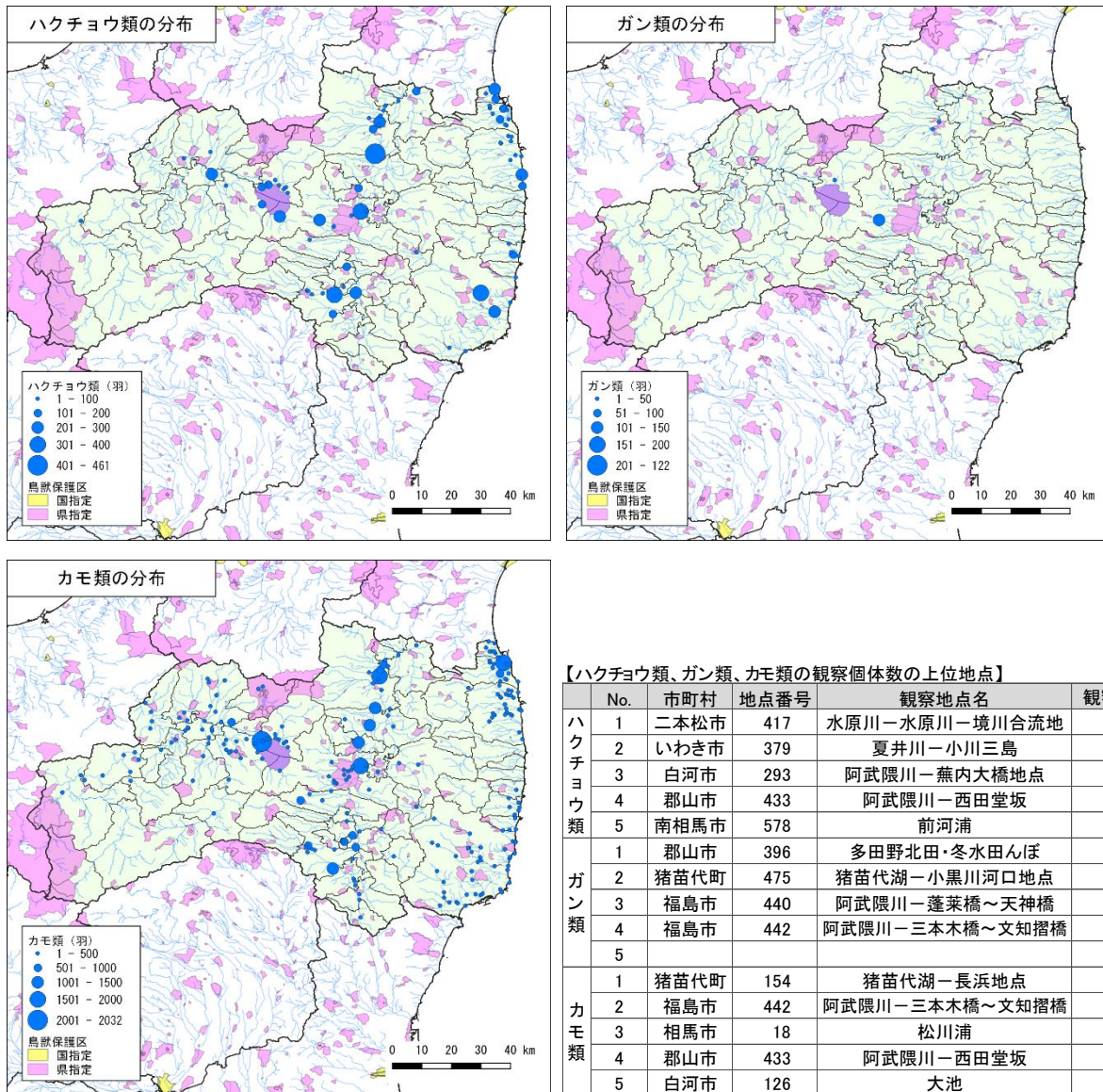


図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（福島県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

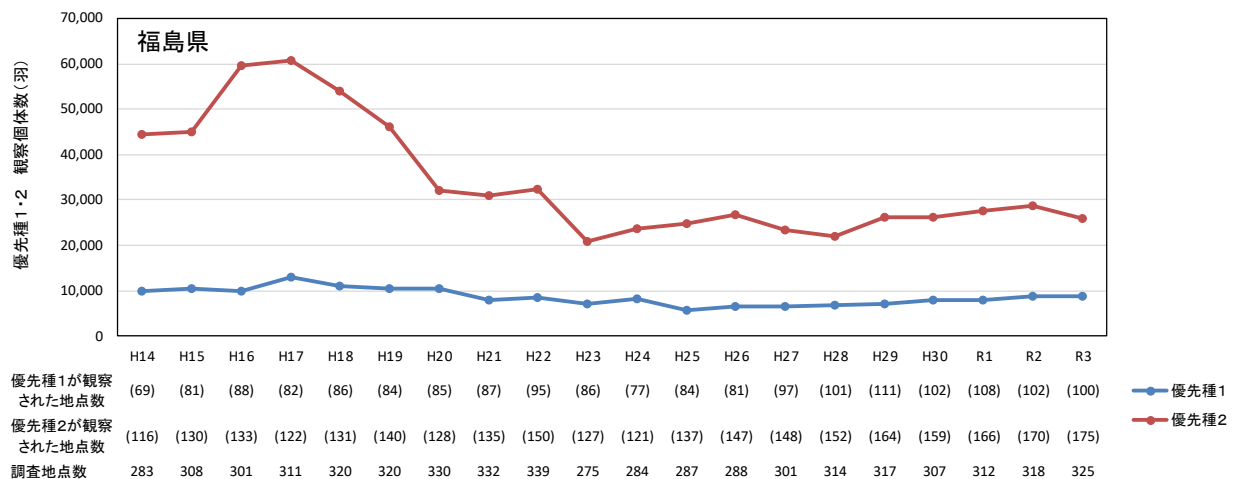
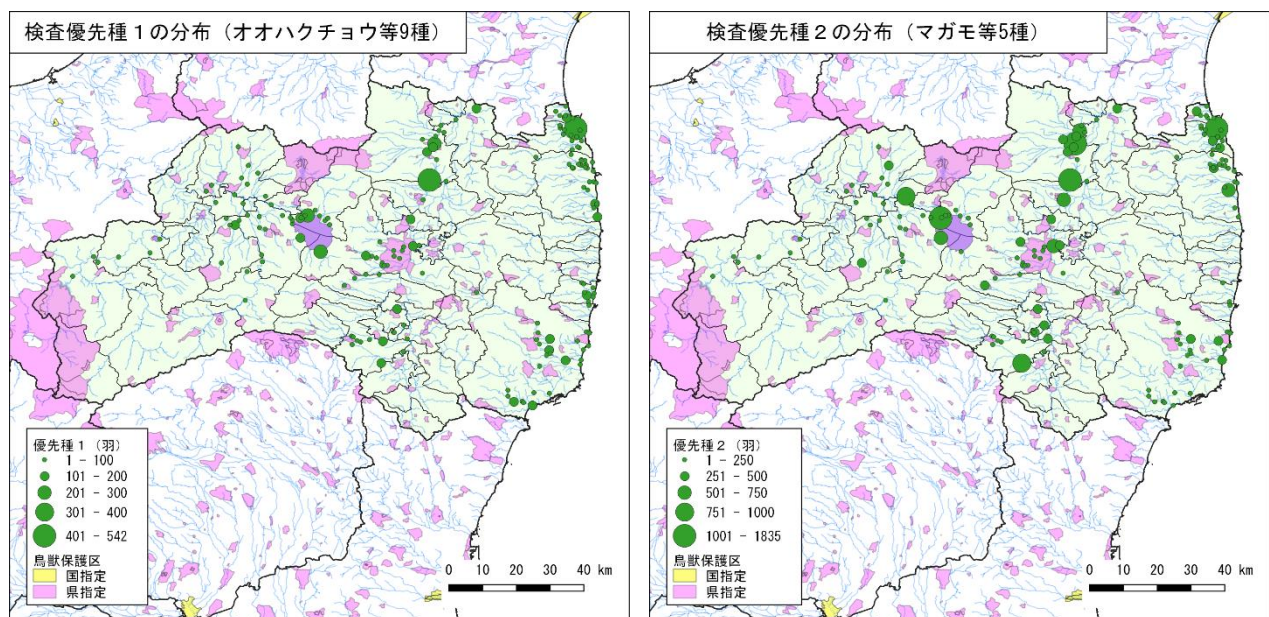


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（福島県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	二本松市	417	水原川－水原川－境川合流地	542
2	相馬市	18	松川浦	465
3	猪苗代町	151	猪苗代湖－三城湯浜地点	300
4	福島市	442	阿武隈川－三本木橋～文知摺橋	244
5	郡山市	111	猪苗代湖－小磯地点	222

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	相馬市	18	松川浦	1,835
2	猪苗代町	154	猪苗代湖－長浜地点	1,438
3	福島市	442	阿武隈川－三本木橋～文知摺橋	1,146
4	二本松市	417	水原川－水原川－境川合流地	1,037
5	喜多方市	295	深沢調整池	980

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（福島県）

茨城県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の茨城県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

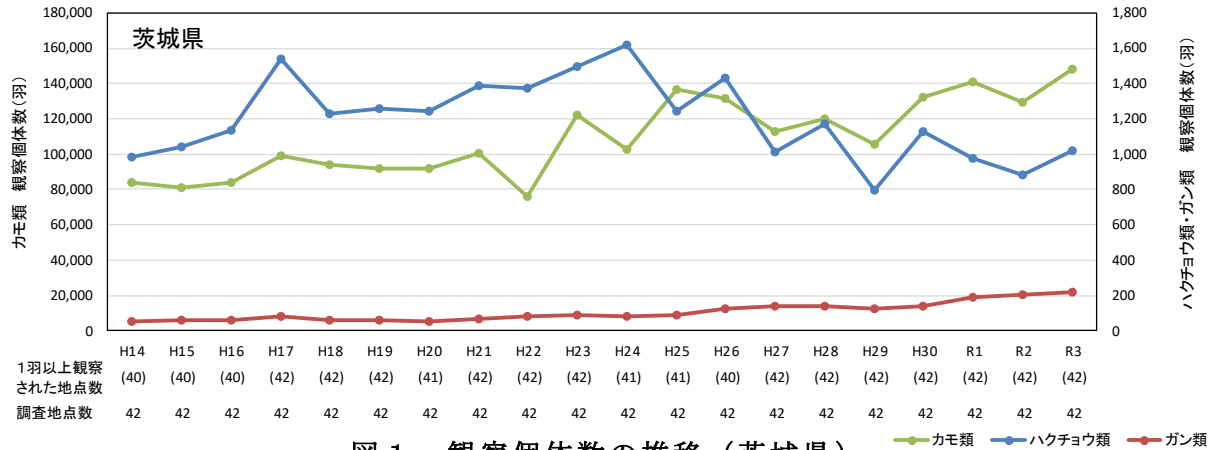


図 1 観察個体数の推移（茨城県）

2. 県内における類ごとの分布図

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。

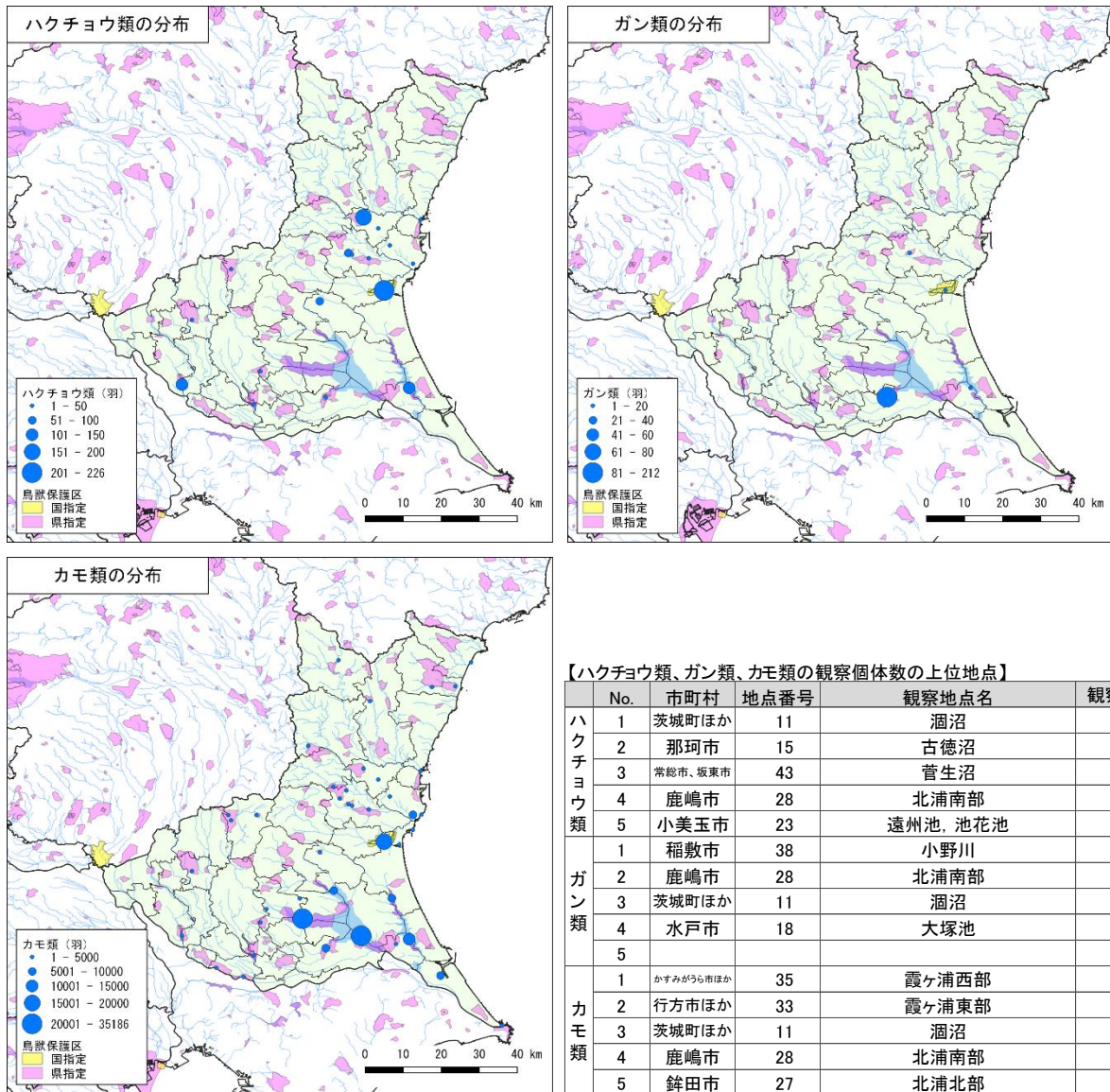


図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（茨城県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

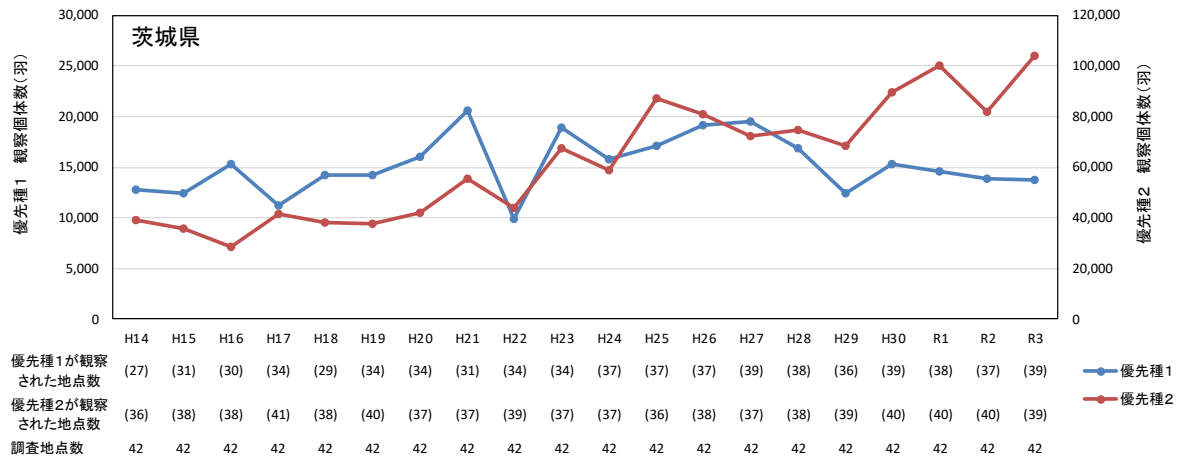
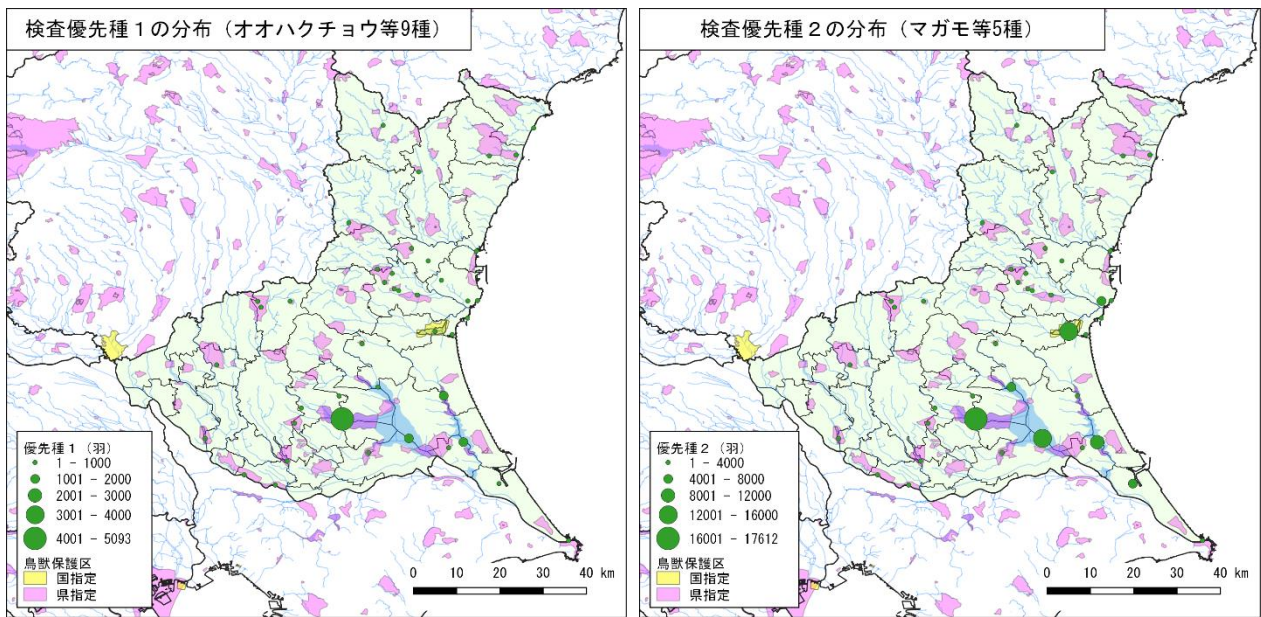


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（茨城県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	かすみがうら市ほか	35	霞ヶ浦西部	5,093
2	鹿嶋市	28	北浦南部	1,329
3	鉾田市	27	北浦北部	1,014
4	行方市ほか	33	霞ヶ浦東部	1,008
5	かすみがうら市ほか	34	霞ヶ浦北部	884

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	かすみがうら市ほか	35	霞ヶ浦西部	17,612
2	行方市ほか	33	霞ヶ浦東部	14,928
3	茨城町ほか	11	湊沼	14,329
4	鹿嶋市	28	北浦南部	11,409
5	ひたちなか市	8	名平洞・新堤	7,584

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（茨城県）

栃木県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の栃木県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

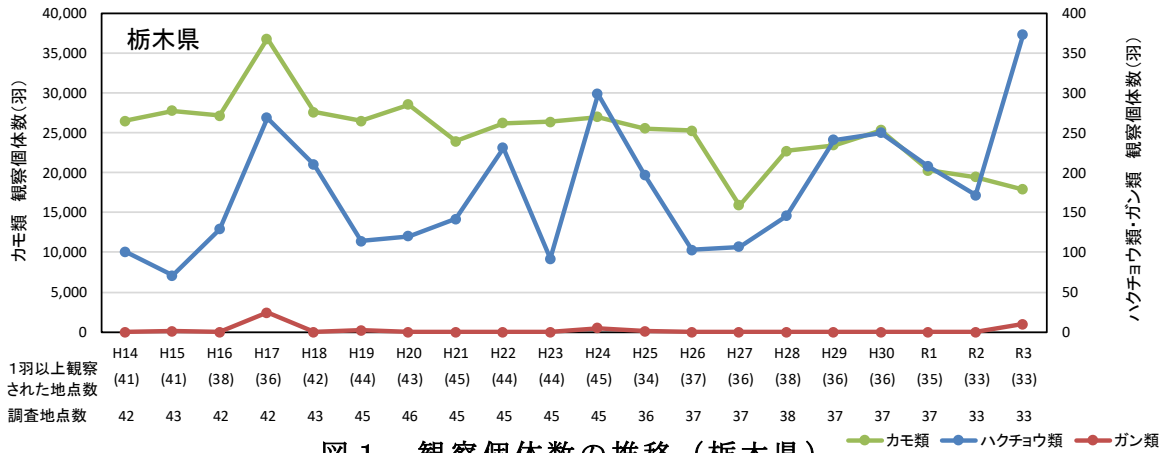


図 1 観察個体数の推移（栃木県）

2. 県内における類ごとの分布

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。

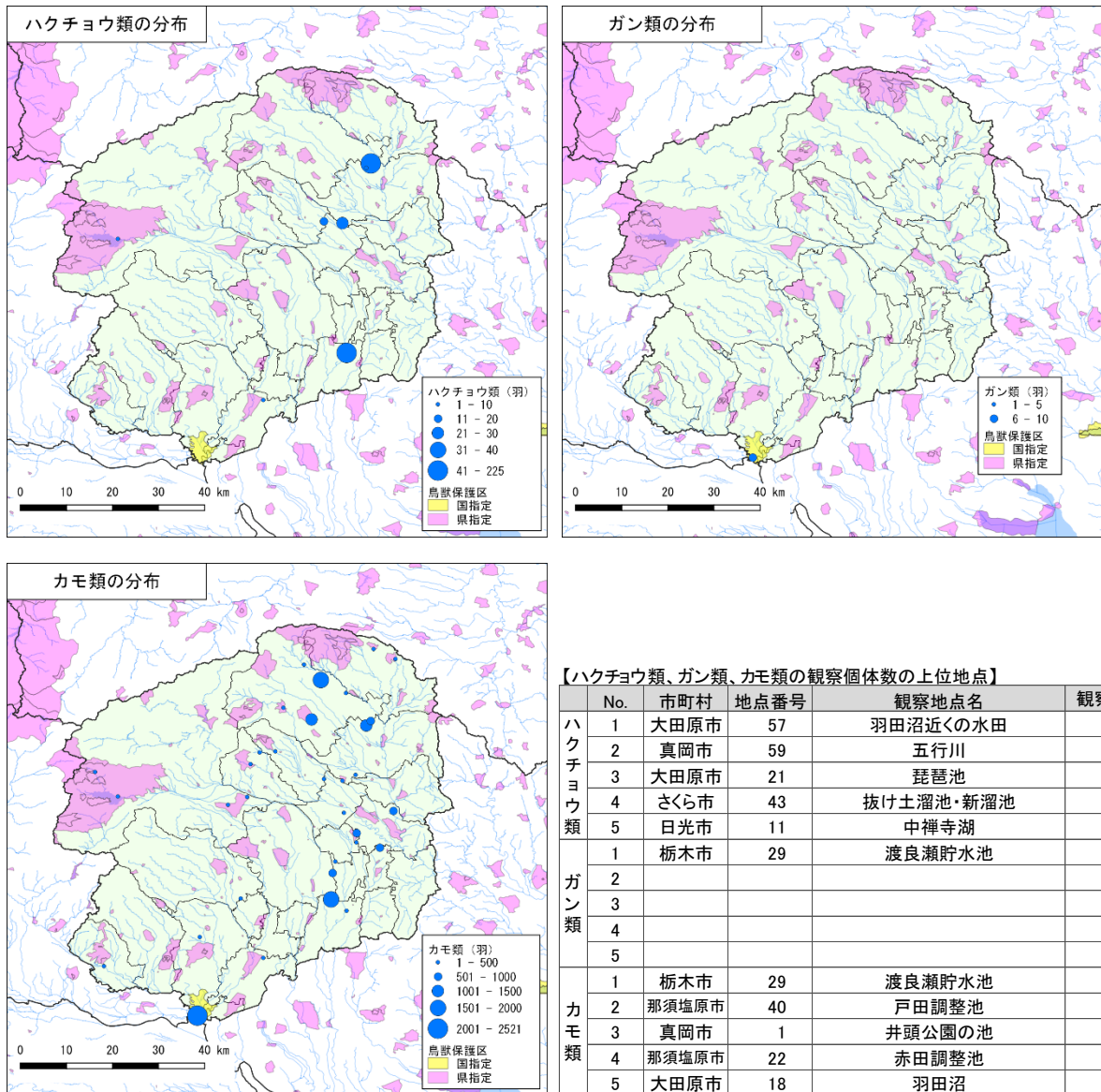


図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（栃木県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

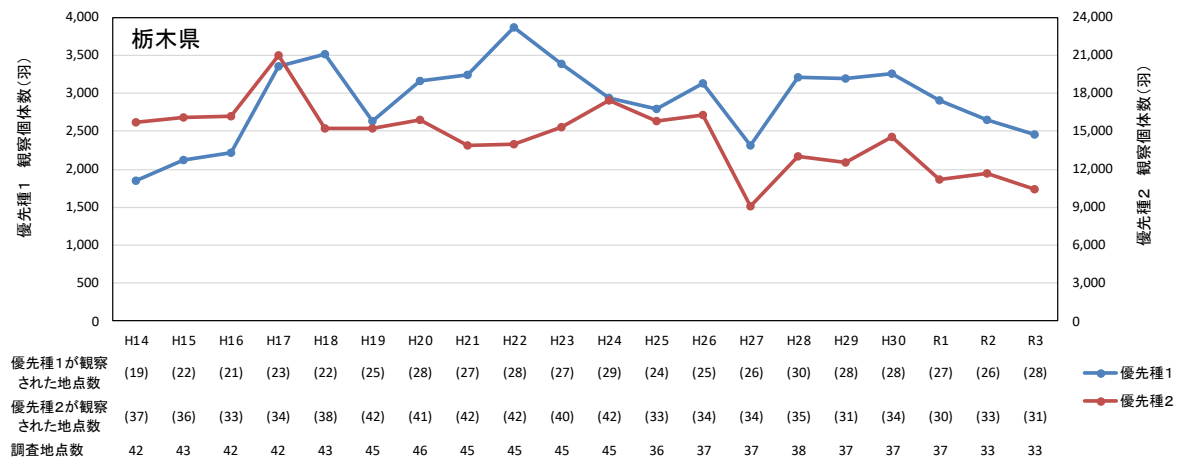
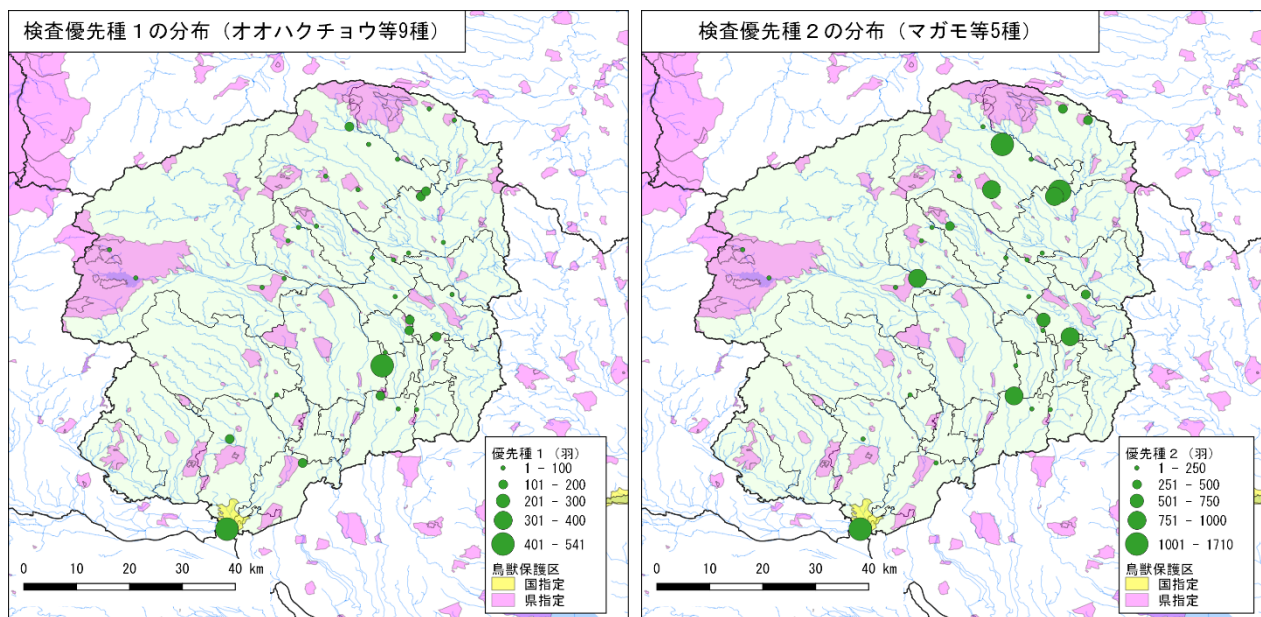


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（栃木県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種 1 のうち、合計 9 種の年平均個体数 (H28～R3 年) の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	栃木市	29	渡良瀬貯水池	541
2	芳賀町	4	唐桶溜	499
3	栃木市	35	皆川城CCの池	191
4	那須塩原市	47	板室ダム	187
5	大田原市	18	羽田沼	184

【検査優先種 2 のうち、合計 5 種の年平均個体数 (H28～R3 年) の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	栃木市	29	渡良瀬貯水池	1,710
2	大田原市	57	羽田沼近くの水田	1,378
3	那須塩原市	40	戸田調整池	1,197
4	大田原市	18	羽田沼	955
5	日光市	33	杉ノ郷CCの池	860

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（栃木県）

群馬県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の群馬県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

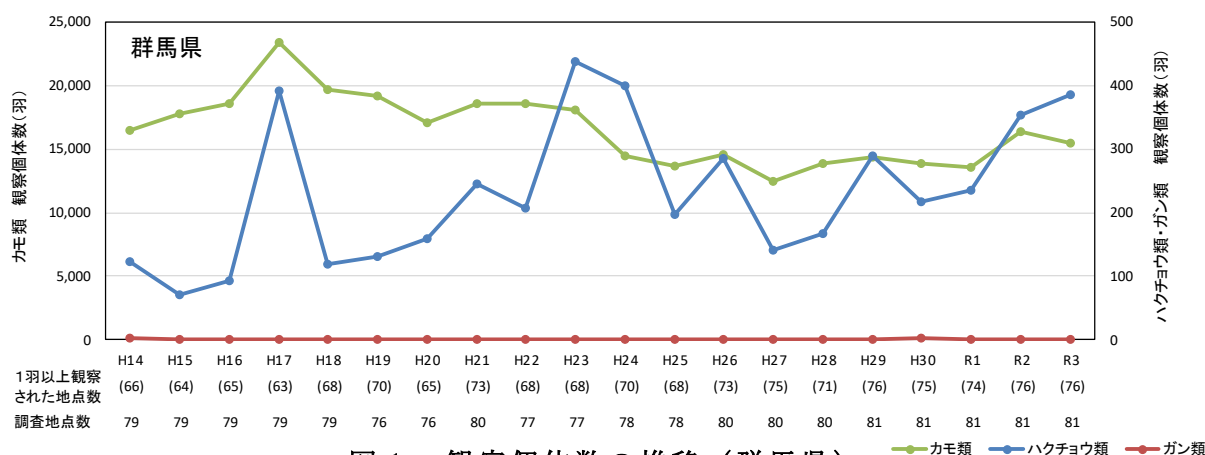
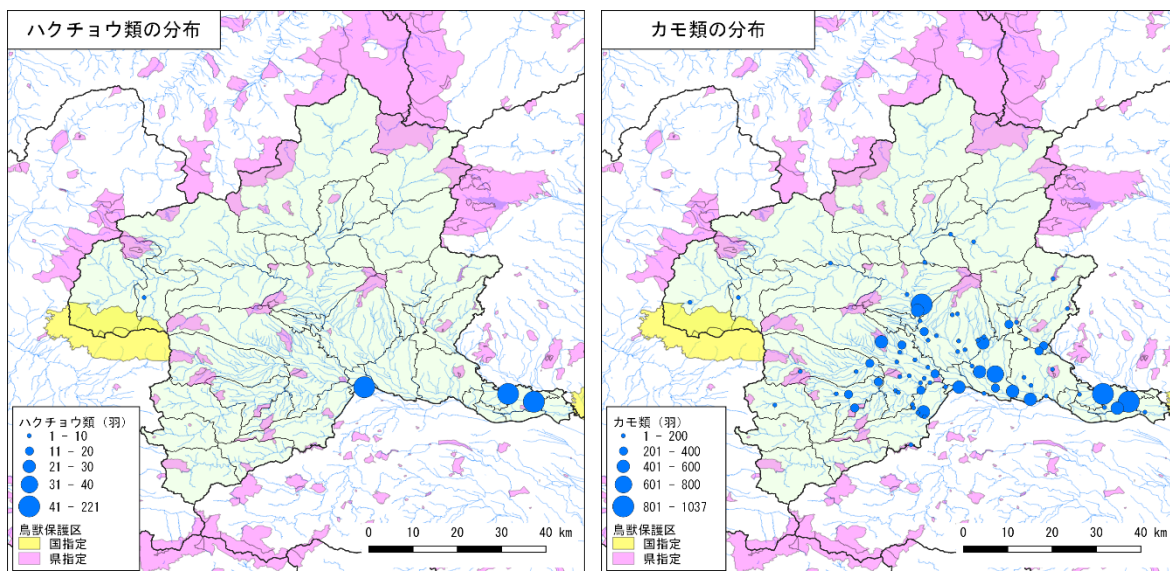


図 1 観察個体数の推移（群馬県）

2. 県内における類ごとの分布図

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。



【ハクチョウ類、カモ類の観察個体数の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数	No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数		
ハク チ ョ ウ 類	1	館林市	76	多々良沼	221	カ モ 類	1	館林市	76	多々良沼	1,037
	2	玉村町	136	烏川-岩倉橋上下流	109		2	渋川市	8	真壁ダム	1,031
	3	館林市	75	城沼	46		3	館林市	75	城沼	863
	4	長野原町	132	応桑貯水池	9		4	伊勢崎市	112	伊与久沼	696
	5						5	玉村町	136	烏川-岩倉橋上下流	588

図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（群馬県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

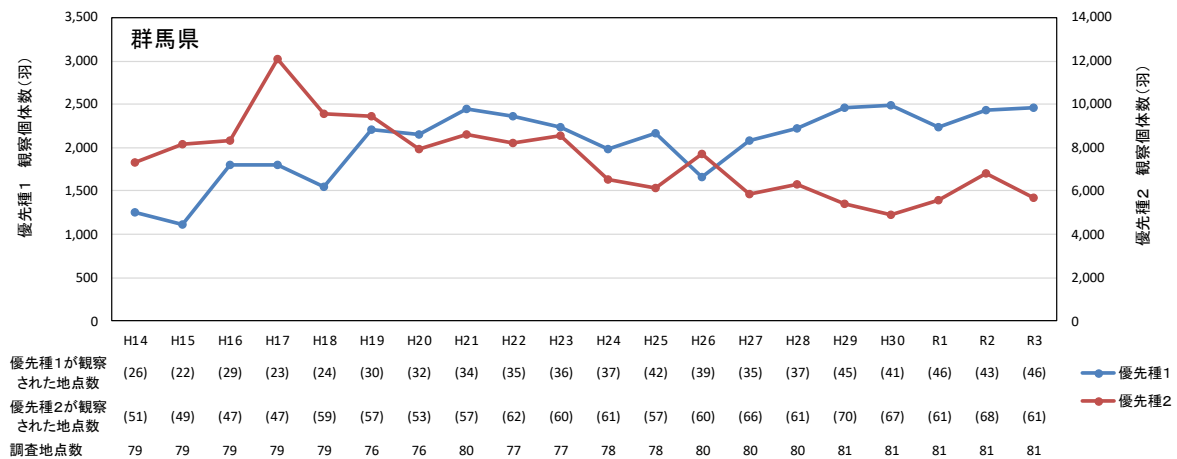
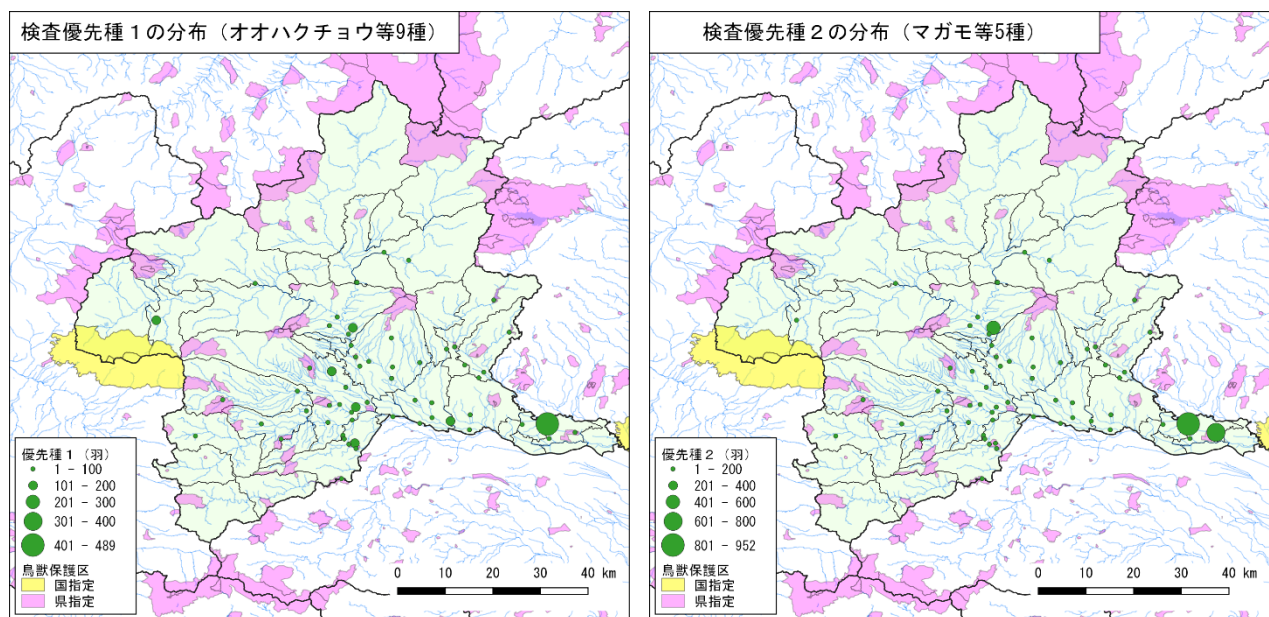


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（群馬県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	館林市	76	多々良沼	489
2	伊勢崎市	116	早川—東武鉄橋～徳川橋	151
3	高崎市	138	三ツ寺公園	138
4	長野原町	132	応桑貯水池	132
5	高崎市	110	倉賀野駅北の池(矢島池)	129

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	館林市	76	多々良沼	952
2	館林市	75	城沼	693
3	渋川市	8	真壁ダム	558
4	太田市	113	金山長手(上の池・下の池)	191
5	長野原町	132	応桑貯水池	170

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（群馬県）

埼玉県のカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の埼玉県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

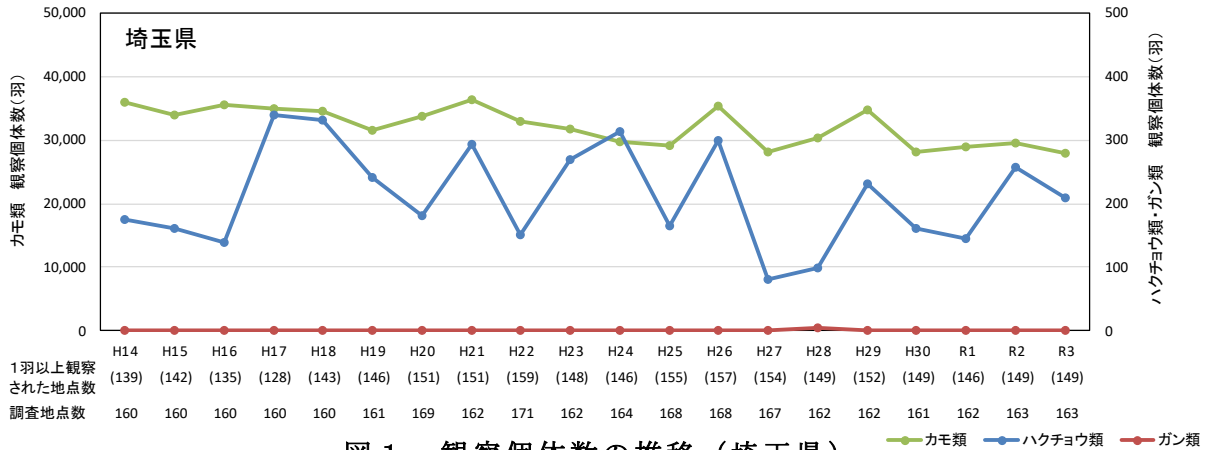
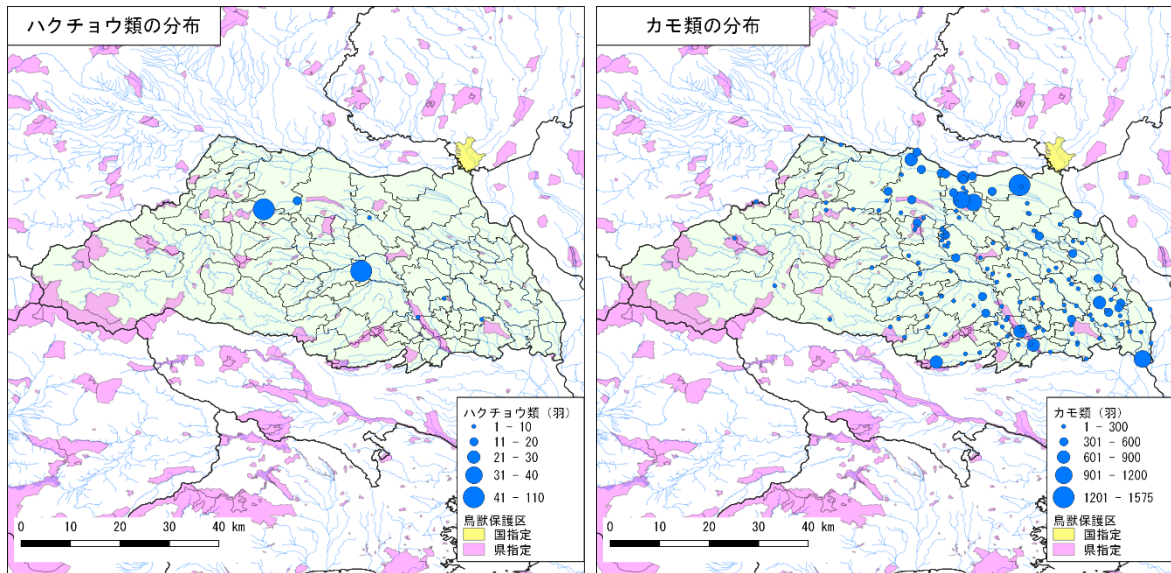


図 1 観察個体数の推移（埼玉県）

2. 県内における類ごとの分布図

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。



【ハクチョウ類、カモ類の観察個体数の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数	No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数		
ハク チ ョ ウ 類	1	深谷市	187	荒川-川の博物館～植松橋	110	カ モ 類	1	羽生市	174	羽生水郷公園遊水池	1,575
	2	川島町	178	越辺川-飯盛川合流点	75		2	行田市	56	行田浄水場遊水池	1,050
	3	深谷市	8	荒川-植松橋下流域	13		3	三郷市	195	三郷公園	965
	4	川口市	115	芝川-芝川第一調節池	5		4	行田市	121	忍川	905
	5	さいたま市	5	荒川-治水橋～羽根倉橋	5		5	越谷市	72	宮内庁埼玉鴨場	757

図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（埼玉県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

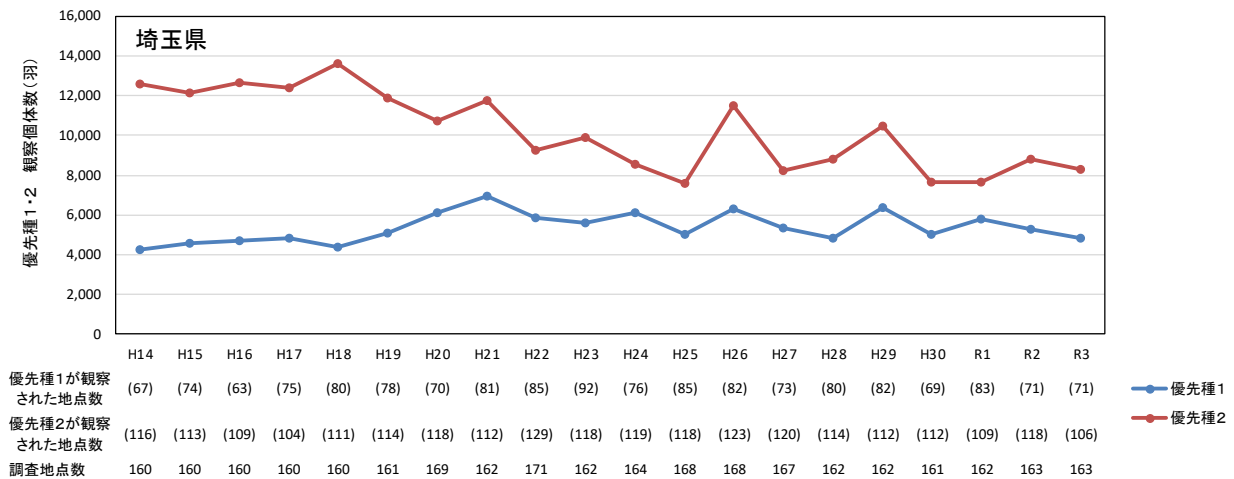
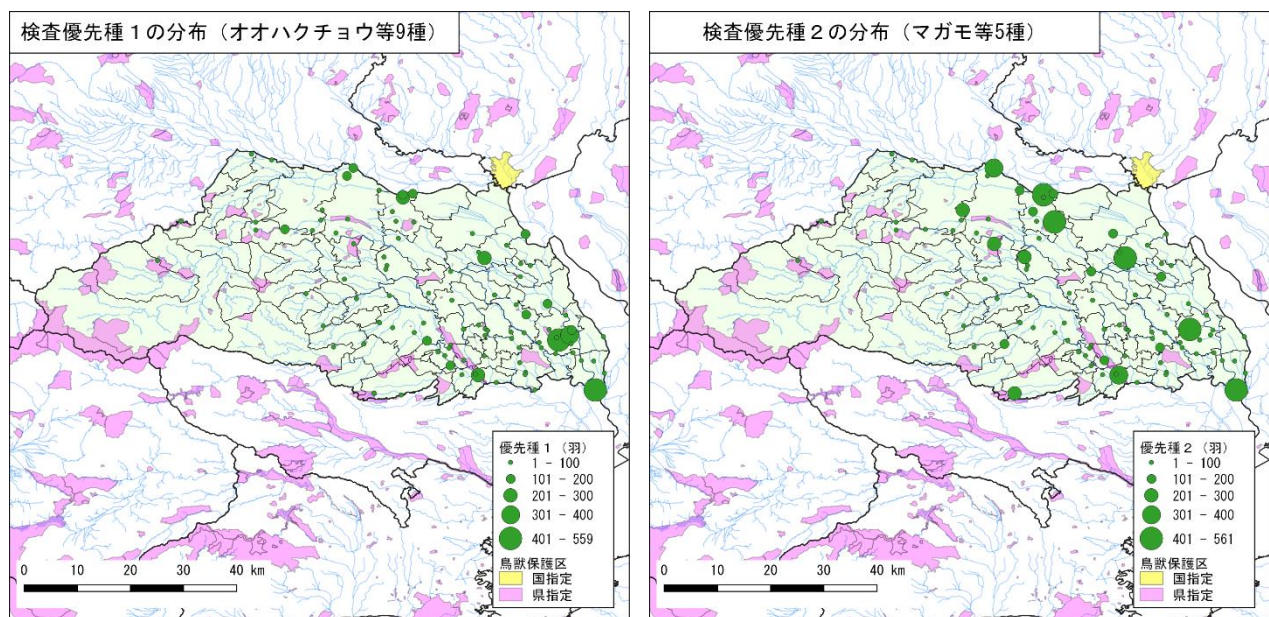


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（埼玉県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	越谷市	150	元荒川-越谷市域	559
2	三郷市	195	三郷公園	448
3	越谷市	153	新方川-戸井橋～中川合流	312
4	戸田市	93	荒川-荒川第一調節池	248
5	行田市	133	武蔵水路沈砂池	231

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	行田市	56	行田浄水場遊水池	561
2	行田市	80	利根川-利根大堰上流部	515
3	久喜市	63	久喜菖蒲公園昭和沼	481
4	三郷市	195	三郷公園	447
5	越谷市	72	宮内庁埼玉鴨場	406

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（埼玉県）

千葉県のカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の千葉県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

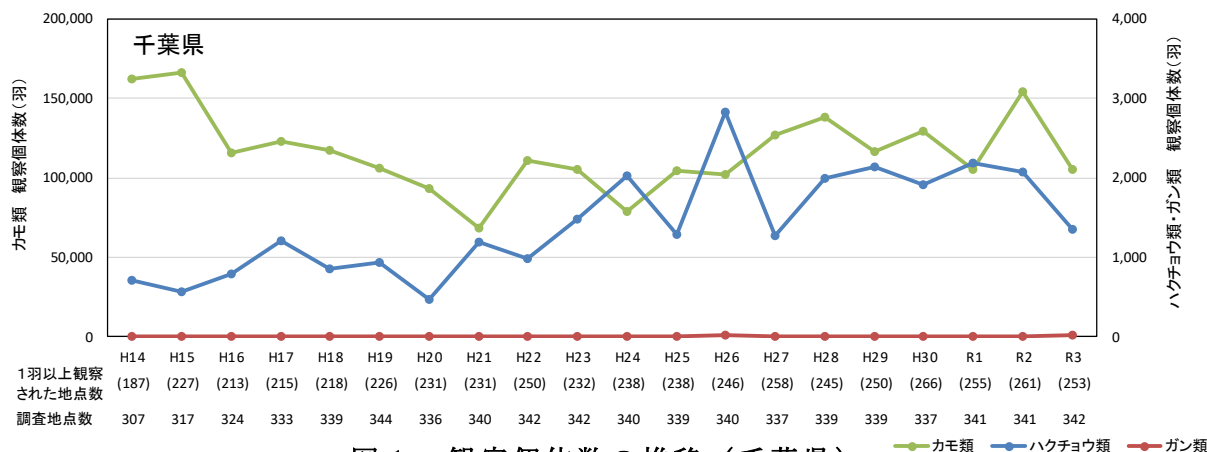


図1 観察個体数の推移（千葉県）

2. 県内における類ごとの分布図

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。

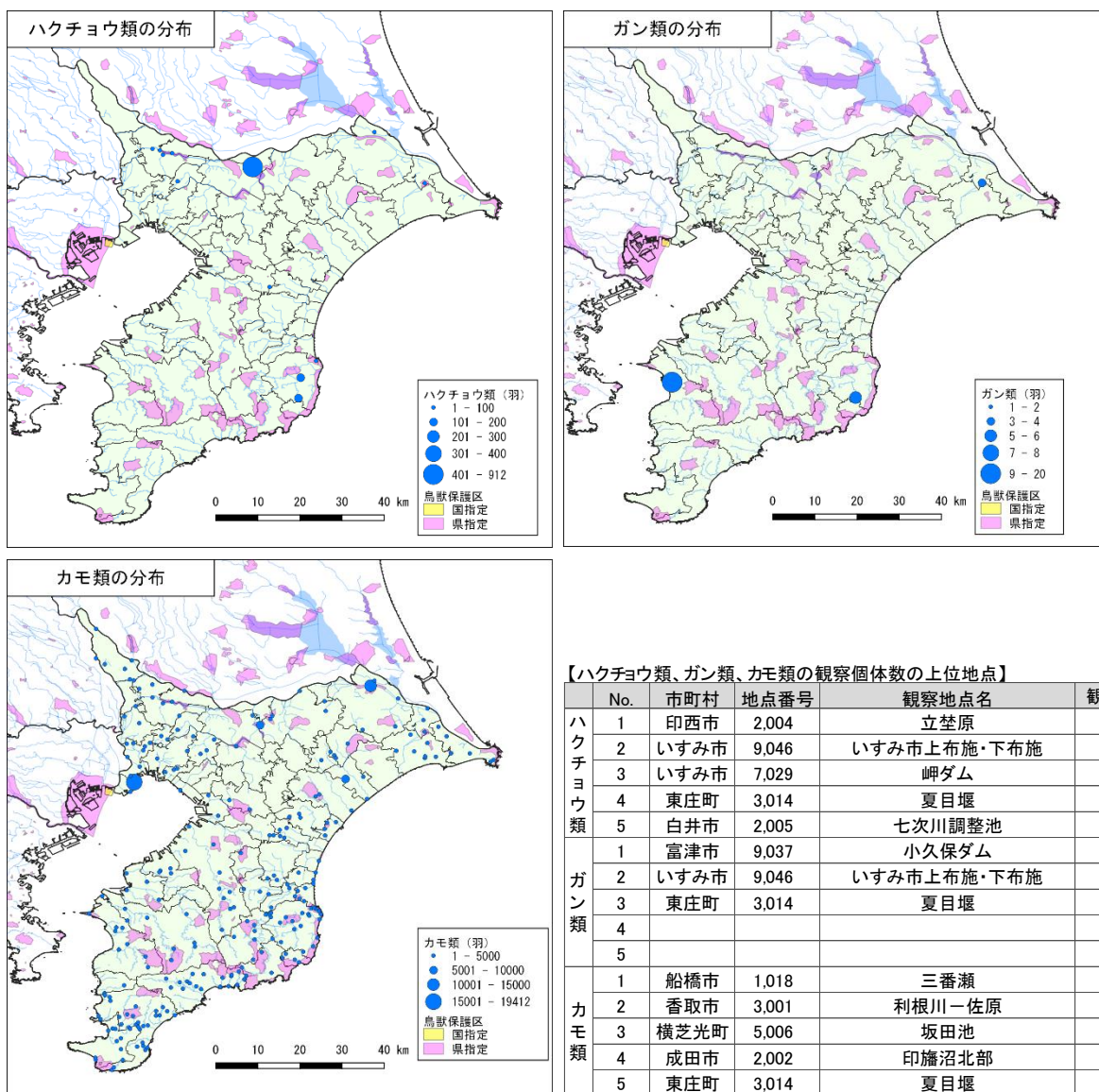


図2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（千葉県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

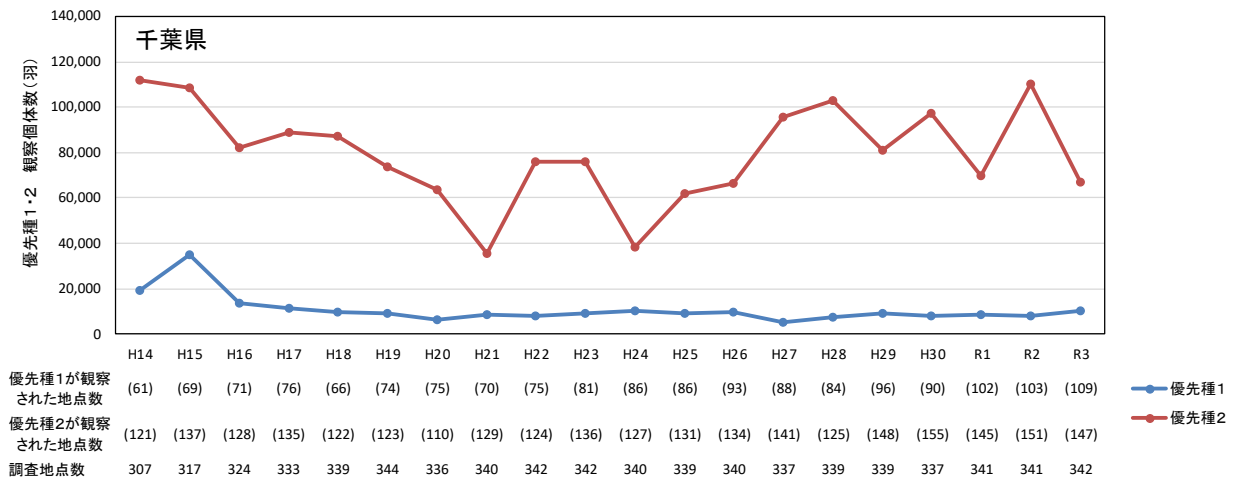
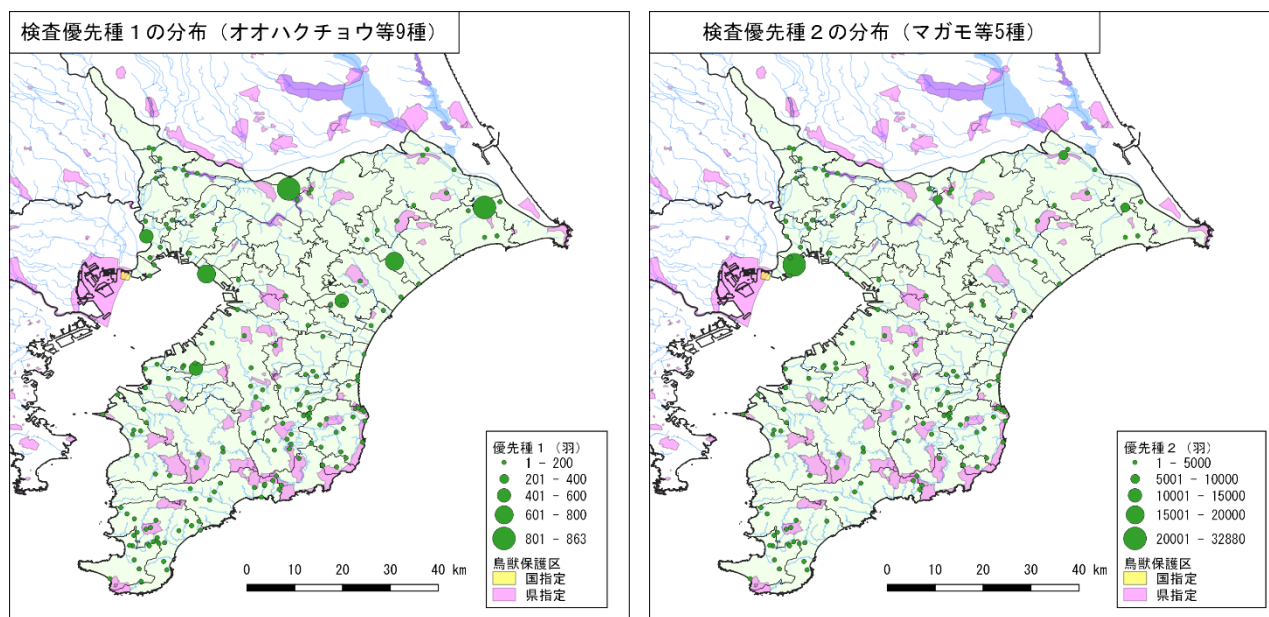


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（千葉県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	東庄町	3014	夏目堰	863
2	印西市	2004	立埜原	807
3	千葉市	1	花見川河口	746
4	横芝光町	5006	坂田池	685
5	袖ヶ浦市	9032	のぞみ野調整池	580

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	船橋市	1018	三番瀬	32,880
2	成田市	2002	印旛沼北部	8,922
3	香取市	3001	利根川-佐原	5,470
4	東庄町	3014	夏目堰	5,180
5	浦安市	1019	浦安沖	2,471

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（千葉県）

東京都のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の東京都での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

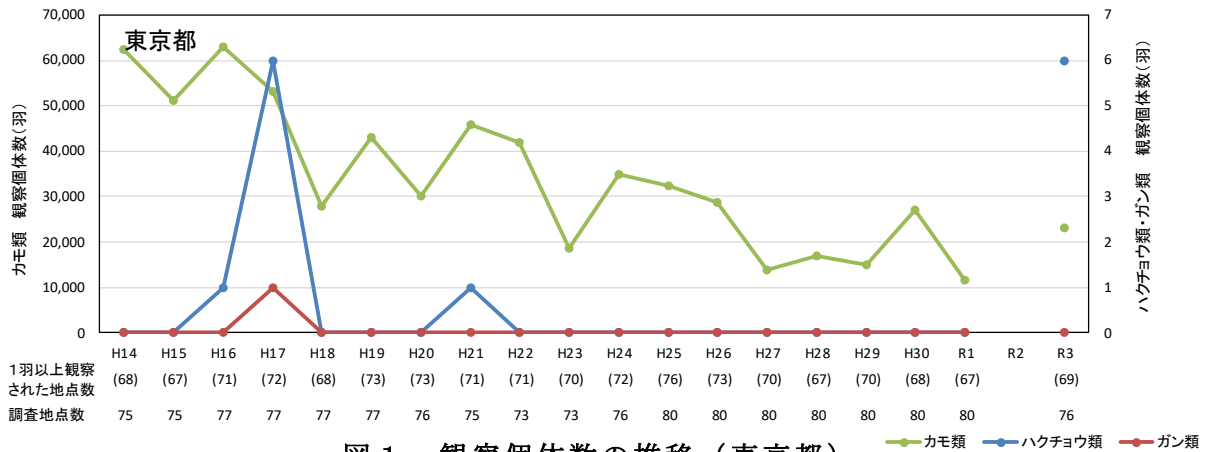
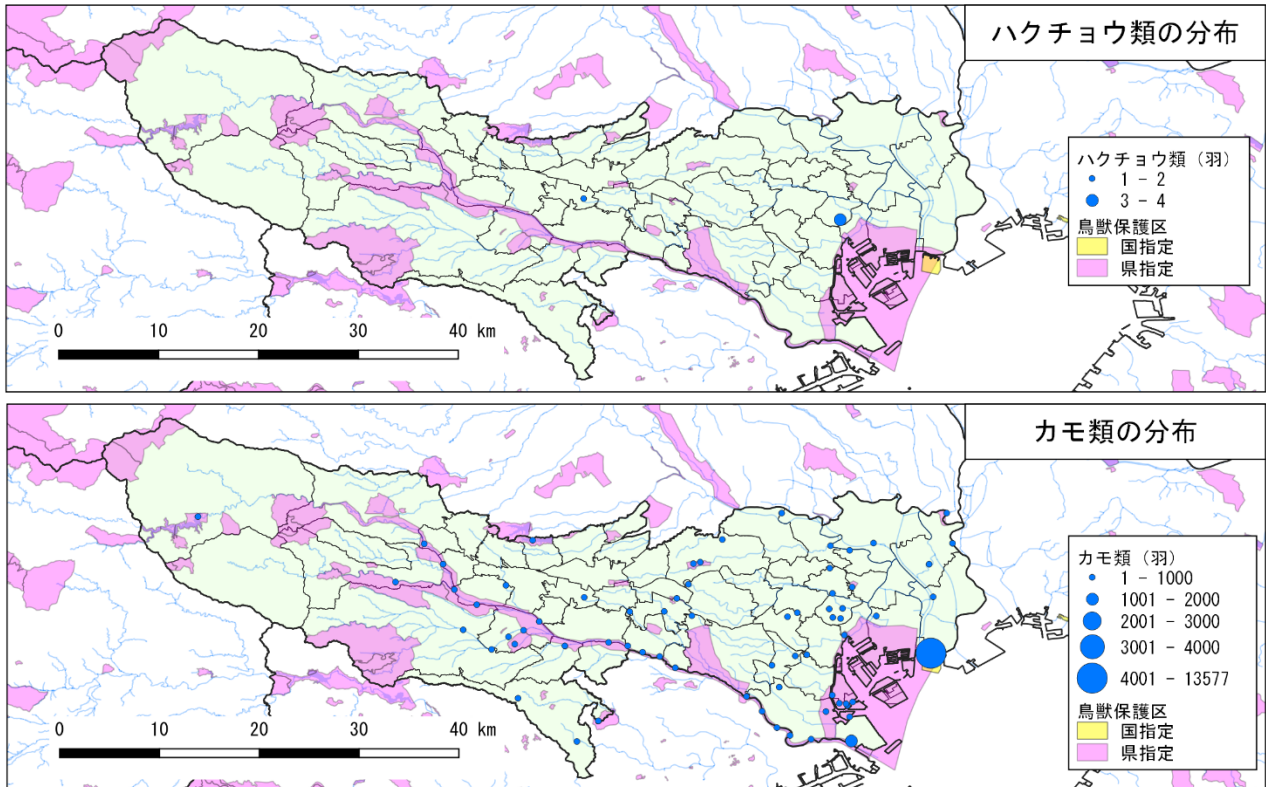


図 1 観察個体数の推移（東京都）

3. 都内における類ごとの分布図

ハクチョウ類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。



【ハクチョウ類、カモ類の観察個体数の上位地点】

	No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数		No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
ハク チ ョ ウ 類	1	千代田区	53	馬場先, 蛤, 桔梗, 日比谷濠	4	カ モ 類	1	江戸川区	40	南葛西(旧三牧州)	13,577
	2	国分寺市	28	東恋ヶ窪(日立製作所)	2		2	大田区	76	多摩川(大師橋~多摩川トンネル)	1,374
	3						3	葛飾区	38	水元公園・大場川	699
	4						4	北区, 板橋区	36	浮間ヶ池	569
	5						5	福生市	5	多摩川-秋川との合流点	534

図 2 ハクチョウ類、カモ類の分布状況（東京都）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

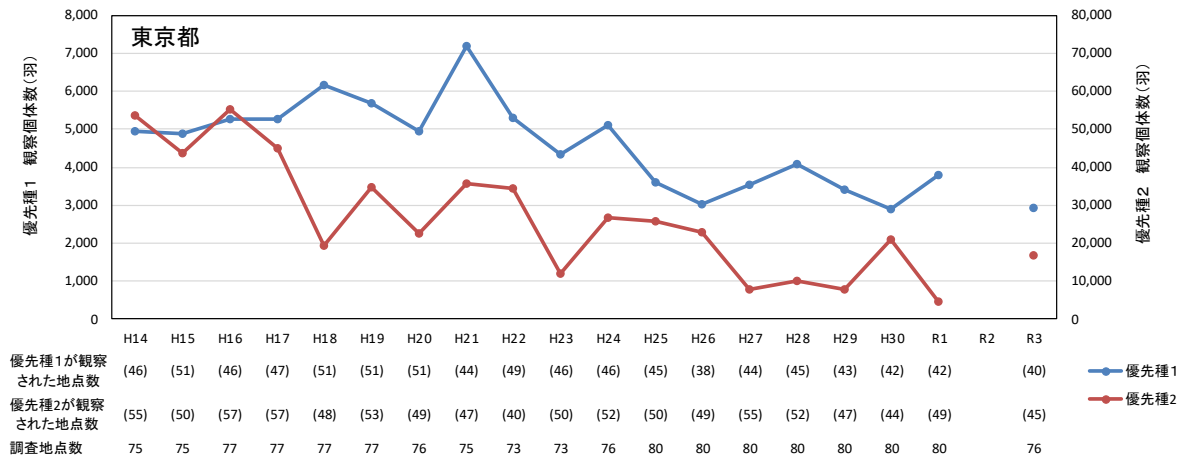
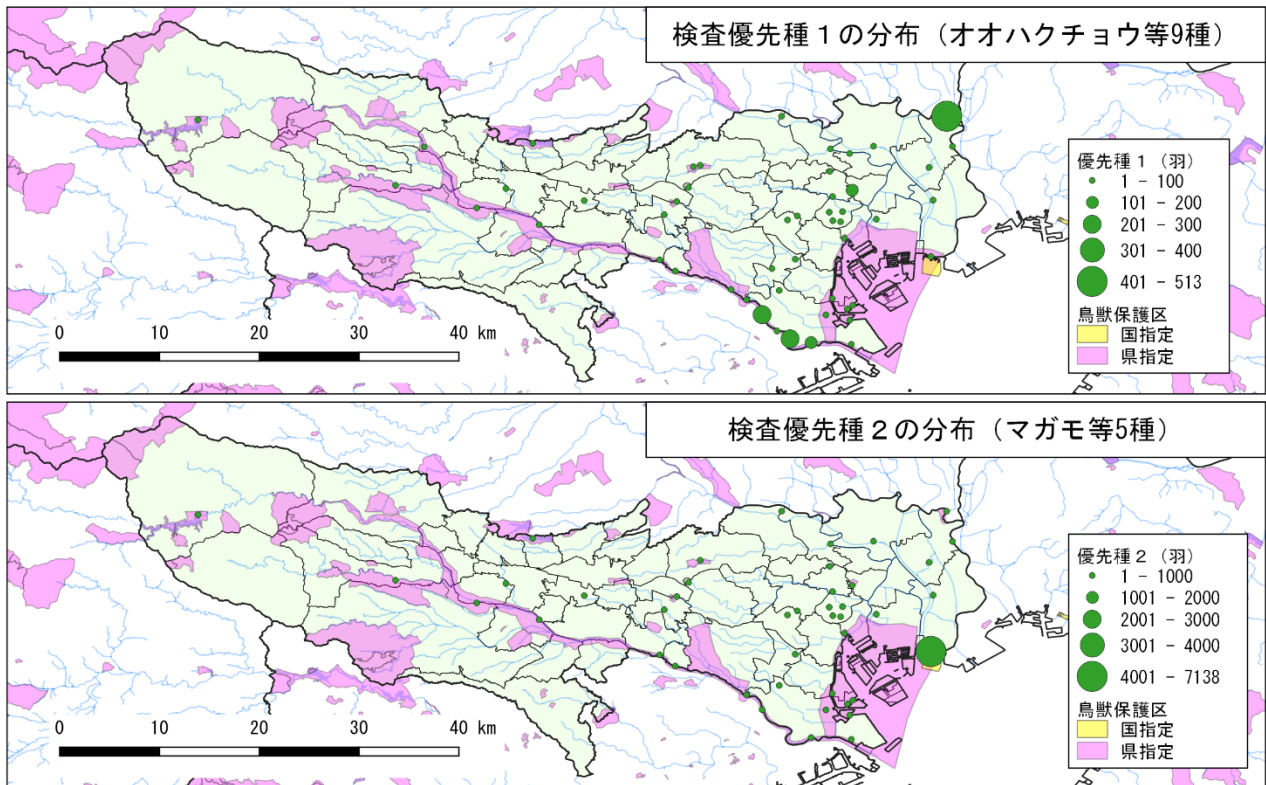


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（東京都）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布(対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの)及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】				【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】					
No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数	No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	葛飾区	38	水元公園・大場川	513	1	江戸川区	40	南葛西(旧三牧州)	7,138
2	大田区	77	多摩川(丸子橋～ガス橋)	280	2	大田区	76	多摩川(大師橋～多摩川トンネル)	905
3	大田区	62	多摩川(多摩川大橋～六郷橋)	253	3	大田区	65	東京港～京浜島	323
4	大田区	63	多摩川(六郷橋～大師橋)	126	4	江戸川区、江東区	35	荒川(葛西橋～木根川橋)	272
5	台東区	32	上野公園不忍池	125	5	北区、板橋区	36	浮間ヶ池	216

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（東京都）

神奈川県のカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の神奈川県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

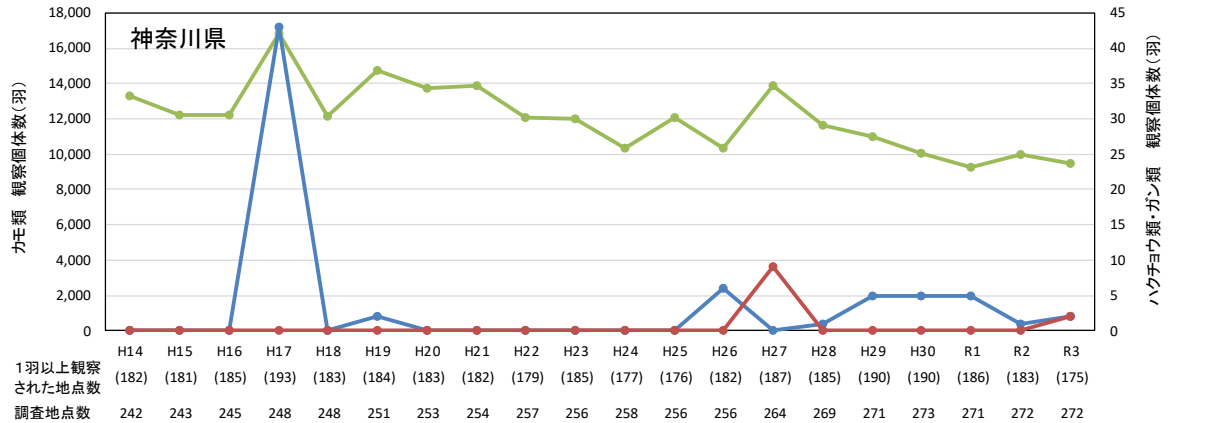


図1 観察個体数の推移（神奈川県）

2. 県内における類ごとの分布図

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。

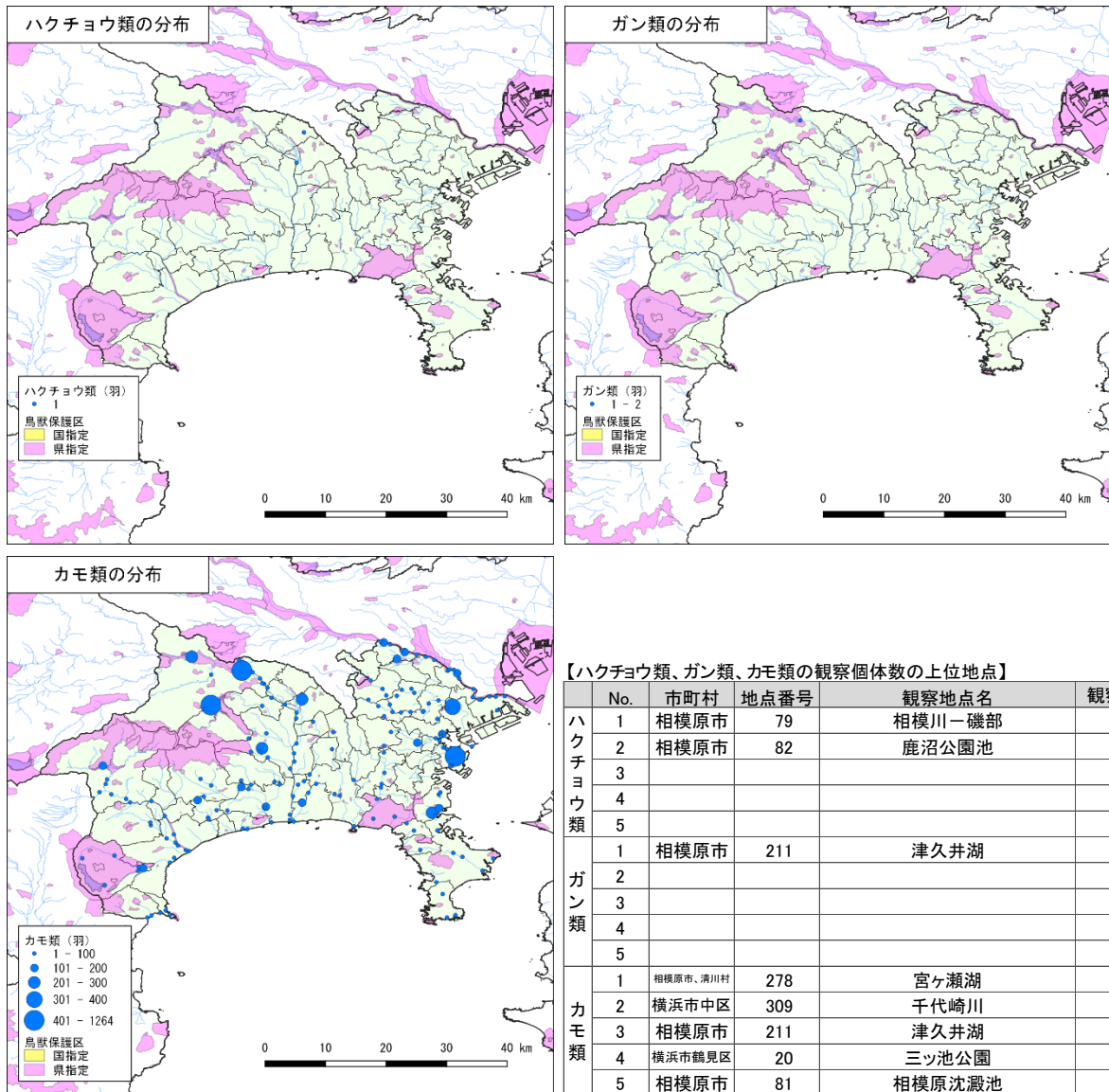


図2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（神奈川県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

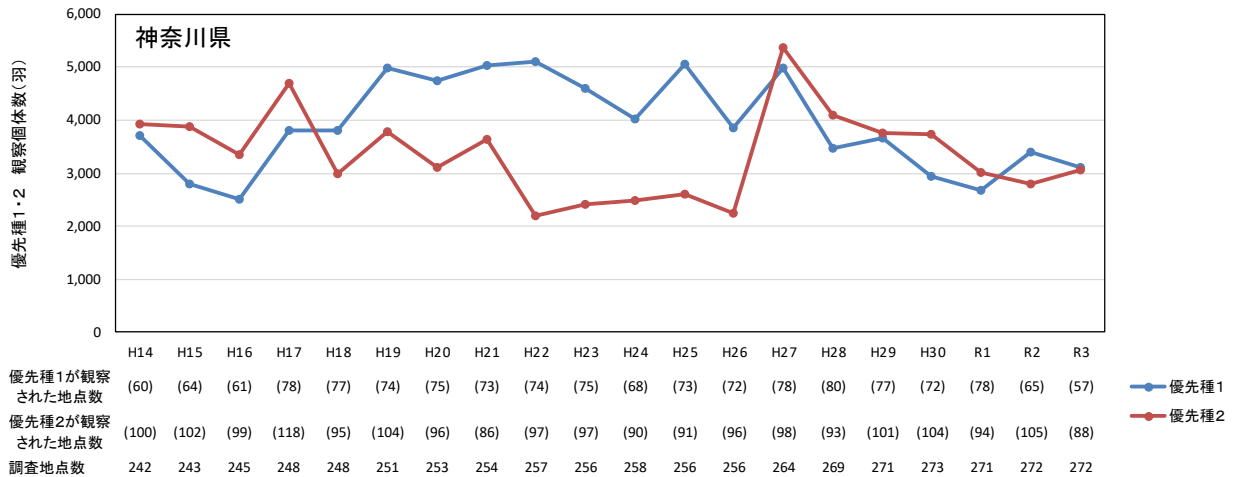
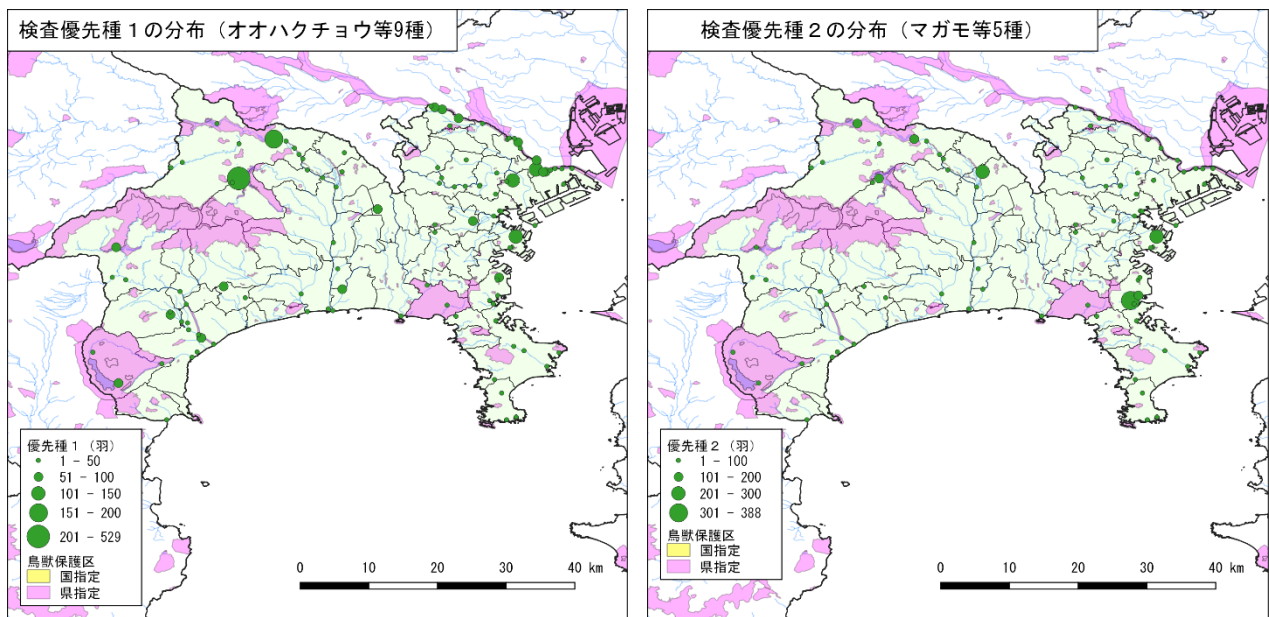


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（神奈川県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	相模原市、清川村	278	宮ヶ瀬湖	529
2	相模原市	211	津久井湖	159
3	横浜市鶴見区	20	三ツ池公園	149
4	横浜市中区	309	千代崎川	115
5	川崎市幸区	273	多摩川一戸手	105

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	横浜市金沢区	36	平潟湾	388
2	横浜市中区	309	千代崎川	262
3	相模原市	81	相模原沈澱池	222
4	相模原市	211	津久井湖	198
5	相模原市	212	相模湖	185

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（神奈川県）

新潟県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の新潟県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

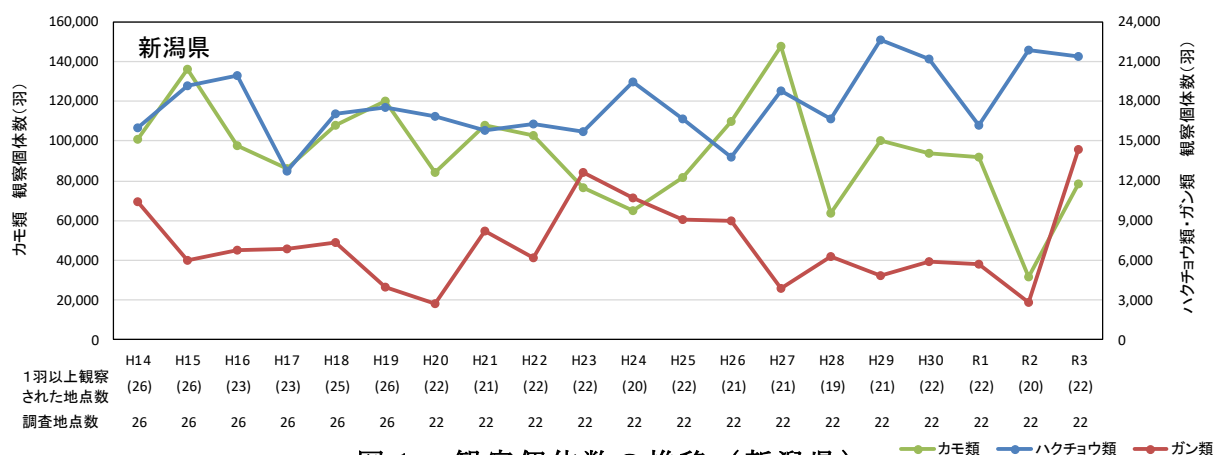


図 1 観察個体数の推移（新潟県）

2. 県内における類ごとの分布

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。

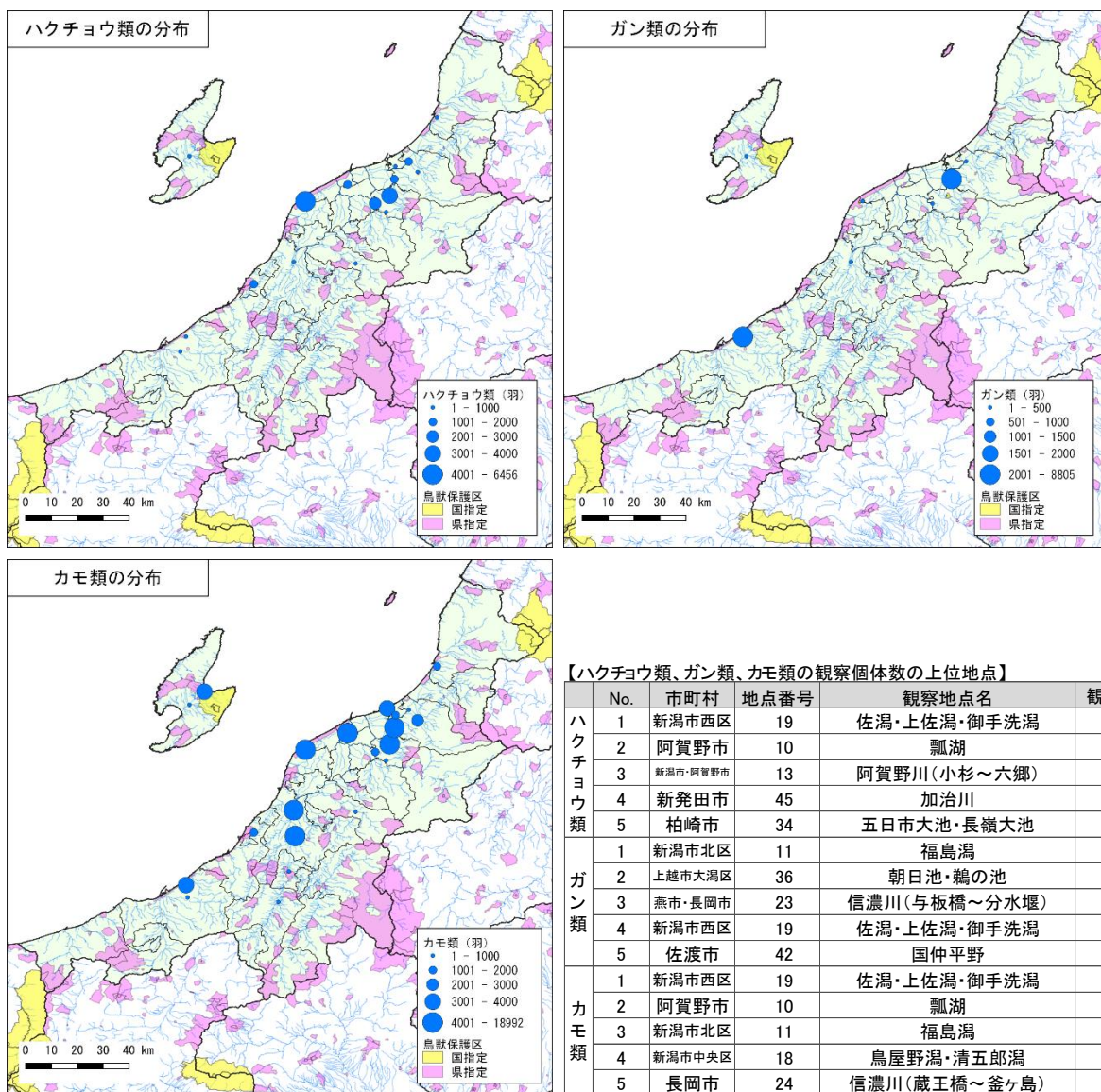


図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（新潟県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

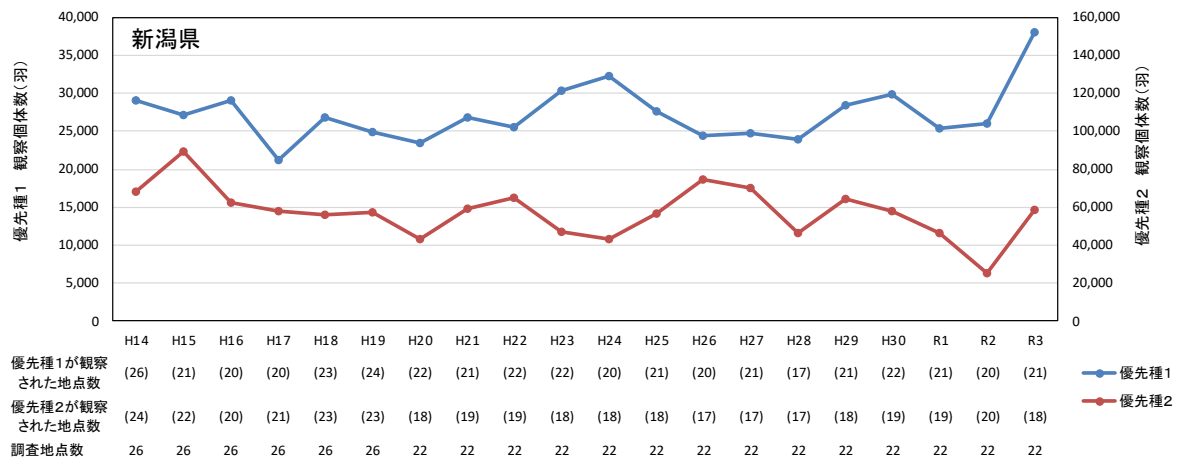
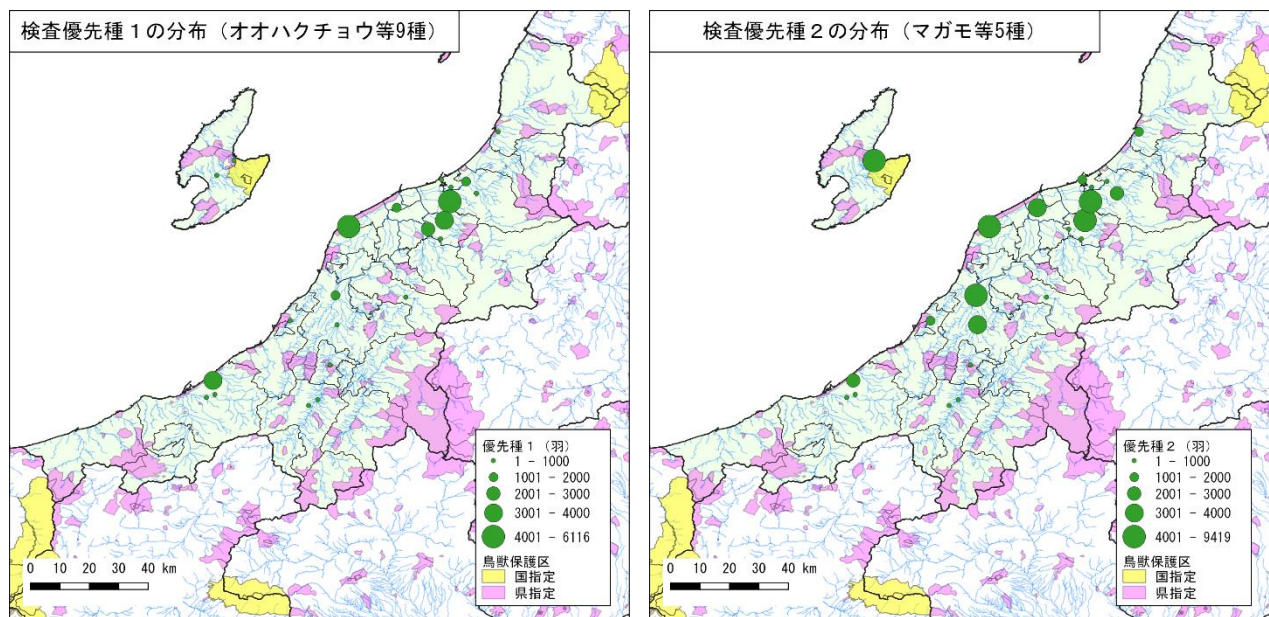


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（新潟県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	新潟市西区	19	佐潟・上佐潟・御手洗潟	6,116
2	新潟市北区	11	福島潟	5,560
3	阿賀野市	10	瓢湖	3,882
4	上越市大潟区	36	朝日池・鶺の池	3,241
5	新潟市・阿賀野市	13	阿賀野川(小杉～六郷)	2,755

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	新潟市西区	19	佐潟・上佐潟・御手洗潟	9,419
2	燕市・長岡市	23	信濃川(与板橋～分水堰)	6,771
3	新潟市北区	11	福島潟	6,340
4	阿賀野市	10	瓢湖	6,158
5	佐渡市	39	加茂湖	4,984

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（新潟県）

富山県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の富山県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

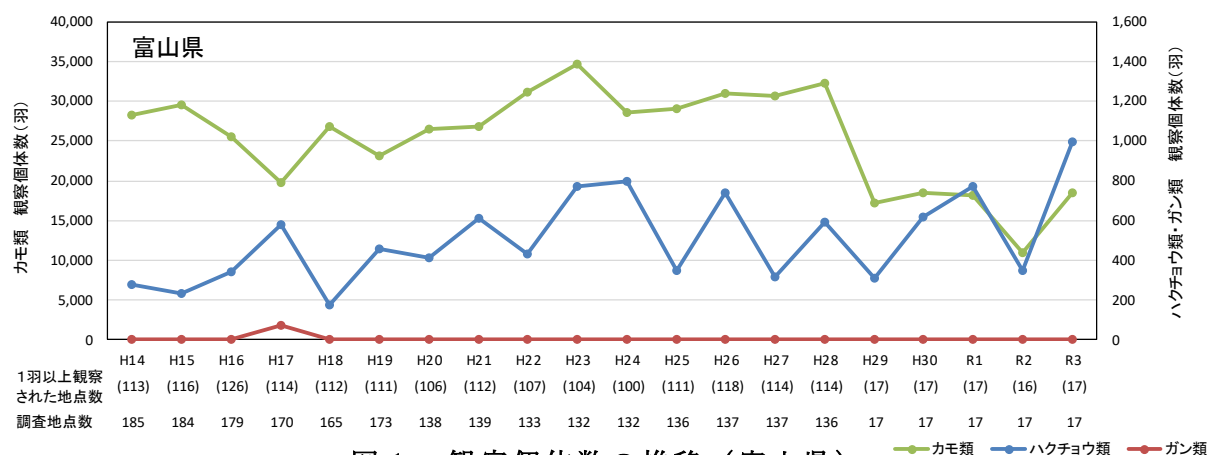
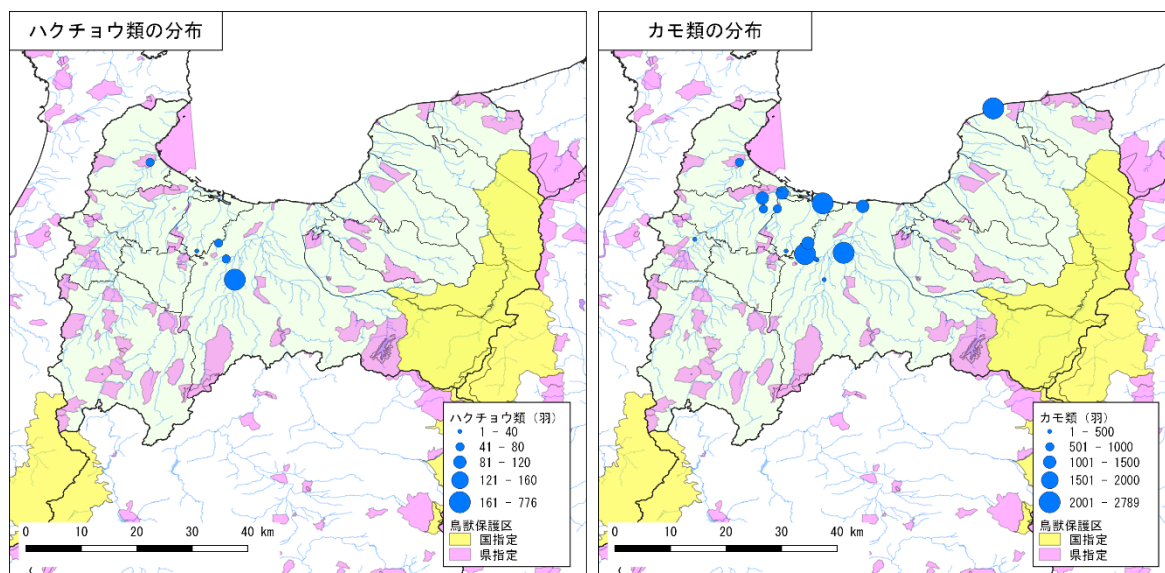


図 1 観察個体数の推移（富山県）

2. 県内における類ごとの分布図

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。



【ハクチョウ類、カモ類の観察個体数の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数	No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数		
ハク チ ョ ウ 類	1	富山市	202	上高善寺地内水田	776	カ モ 類	1	富山市	90	古洞池	2,789
	2	氷見市	189	十二町潟	70		2	入善町	13	八幡	2,550
	3	富山市	77	田尻池	67		3	富山市	186	中央植物園の池	2,441
	4	富山市	197	山田川長沢橋下流	47		4	射水市	142	七美中野	2,202
	5	射水市	191	石畑池	38		5	高岡市	134	庄川一河口	1,320

図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（富山県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

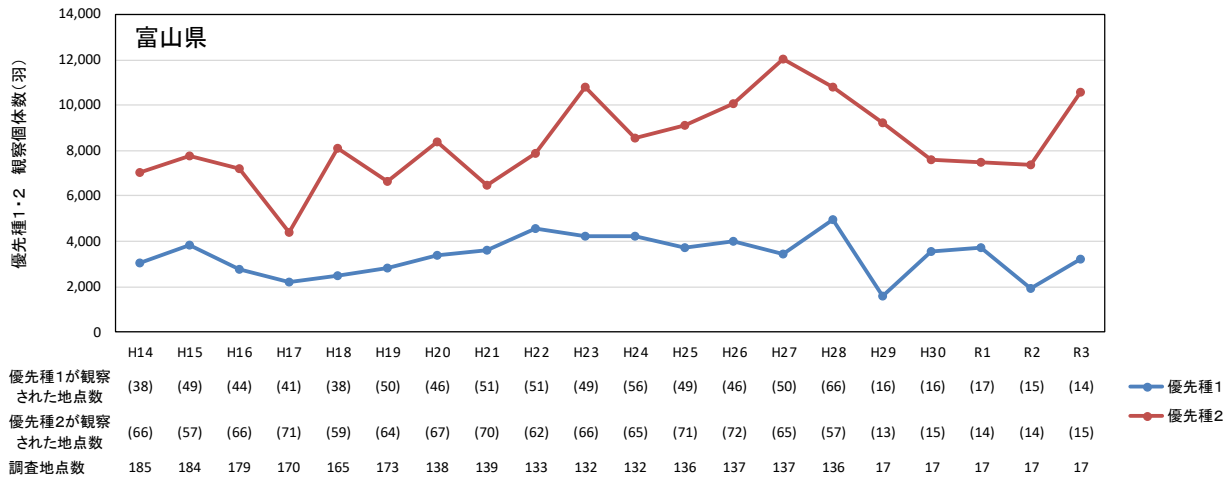
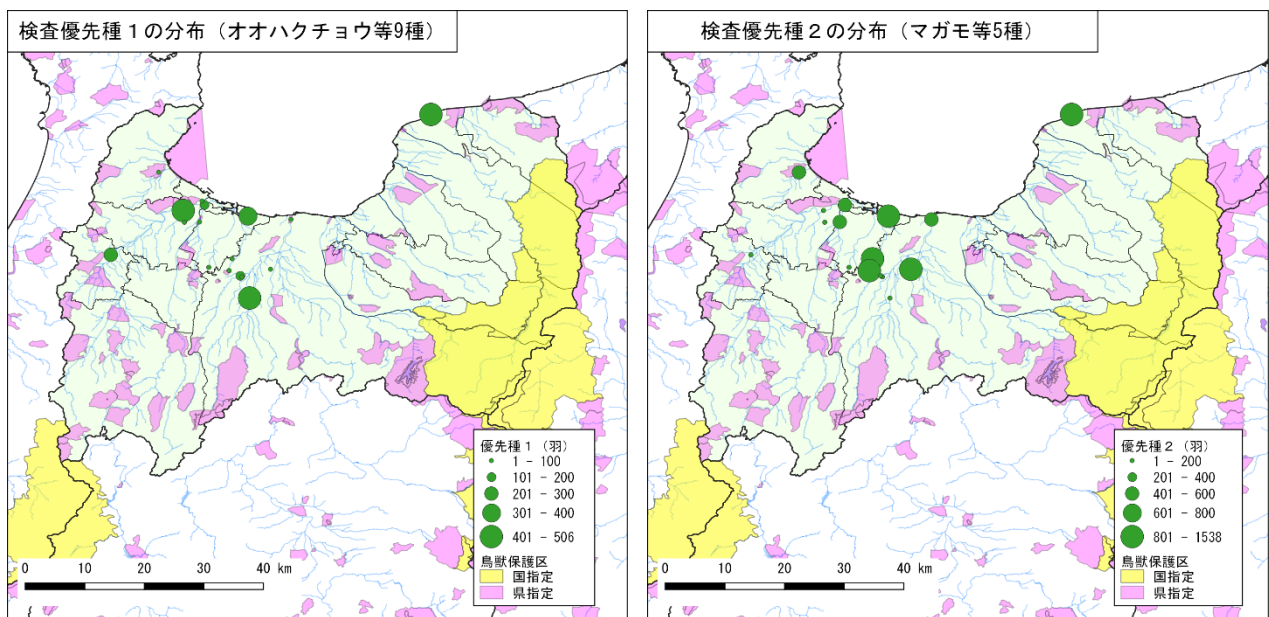


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（富山県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	高岡市	127	小矢部川—守山橋	506
2	入善町	13	八幡	477
3	富山市	202	上高善寺地内水田	450
4	射水市	142	七美中野	352
5	小矢部市	146	小矢部川—福町橋	268

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	富山市	90	古洞池	1,538
2	入善町	13	八幡	1,302
3	富山市	186	中央植物園の池	1,111
4	富山市	77	田尻池	1,039
5	射水市	142	七美中野	992

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（富山県）

石川県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の石川県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

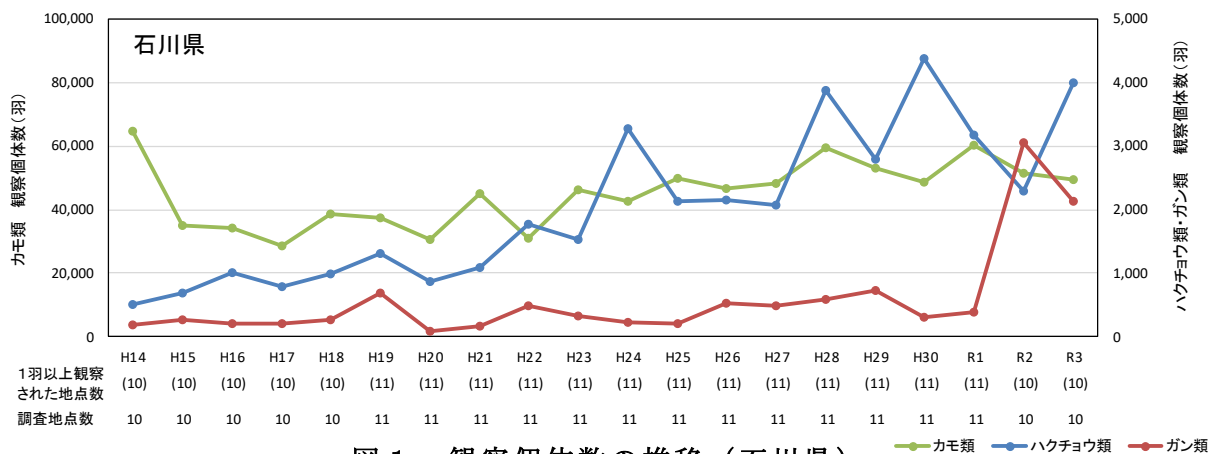


図 1 観察個体数の推移（石川県）

2. 県内における類ごとの分布

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。

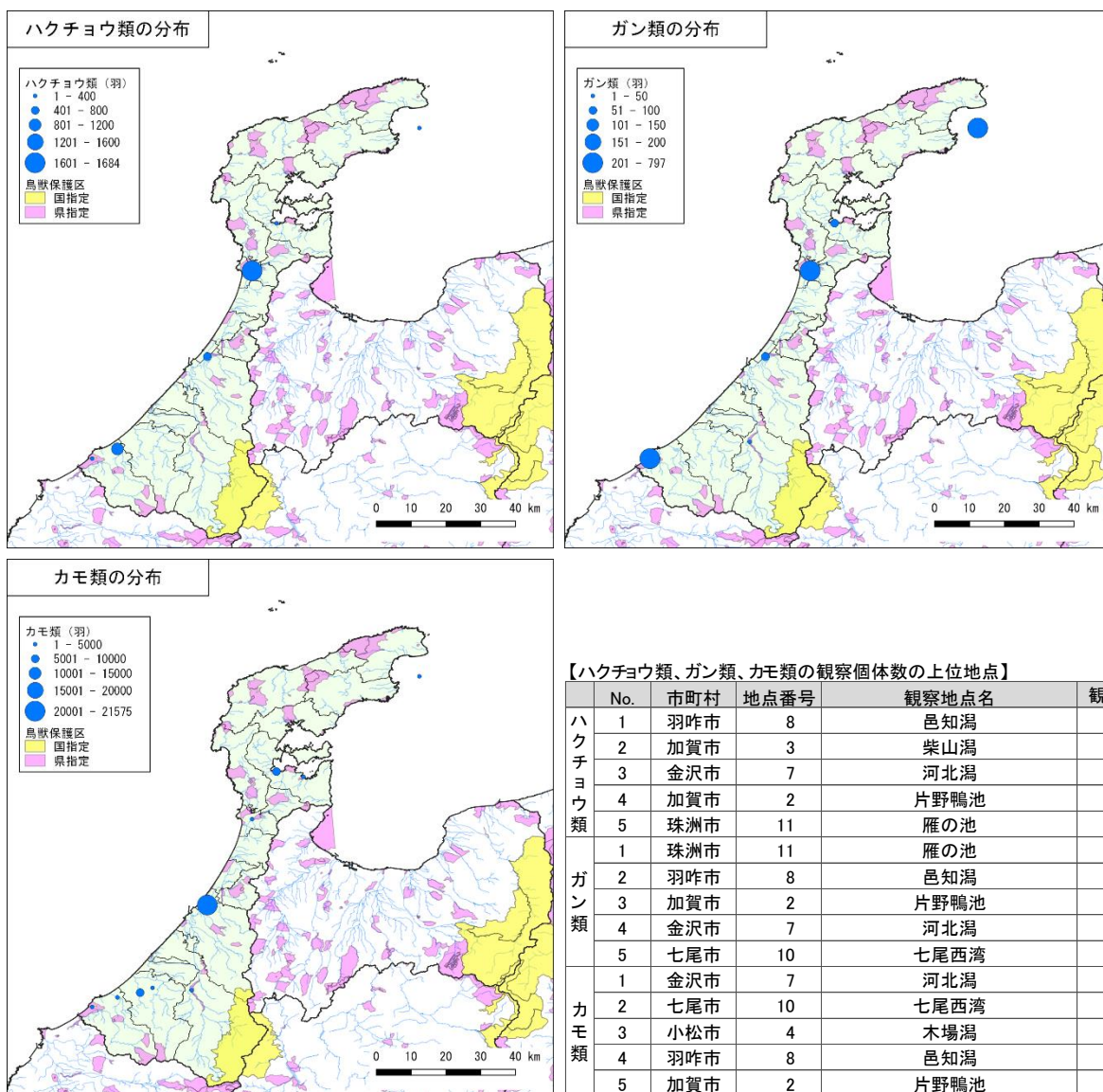


図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（石川県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

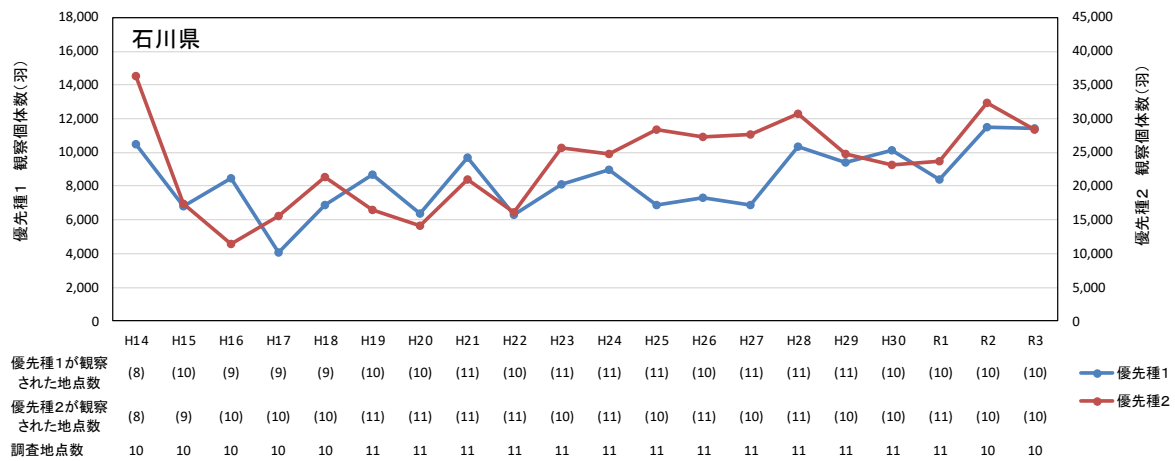
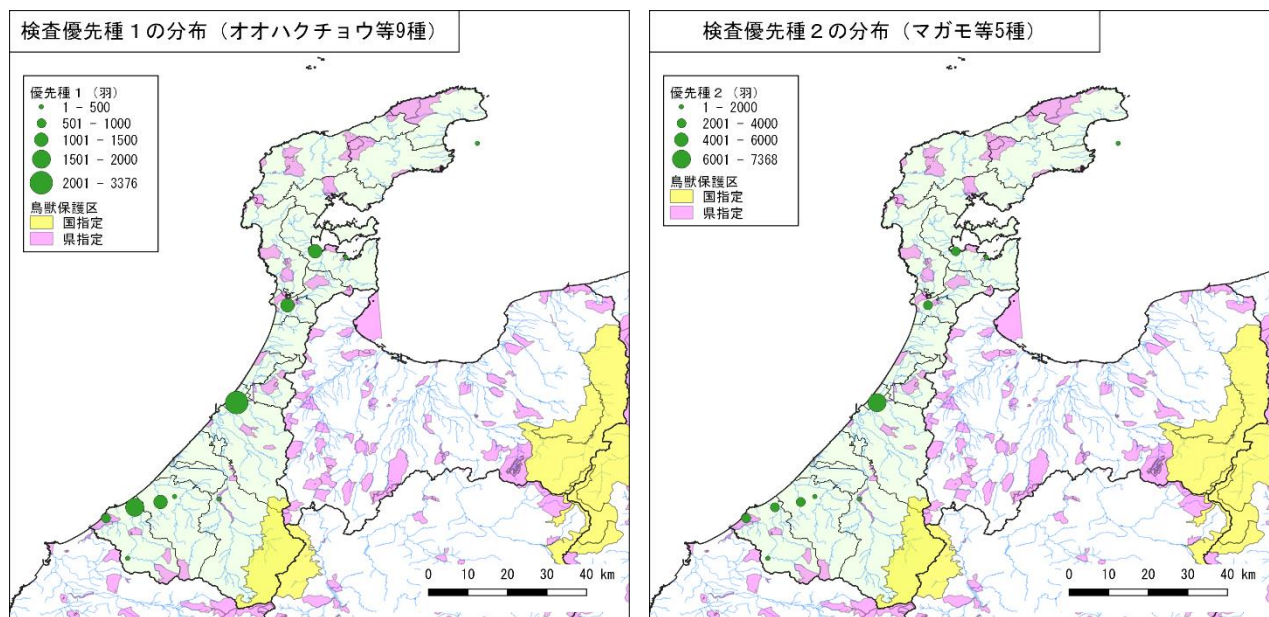


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（石川県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種 1 のうち、合計 9 種の年平均個体数 (H28～R3 年) の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	金沢市	7	河北潟	3,376
2	加賀市	3	柴山潟	1,858
3	羽咋市	8	邑知潟	1,463
4	小松市	4	木場潟	1,070
5	七尾市	10	七尾西湾	1,047

【検査優先種 2 のうち、合計 5 種の年平均個体数 (H28～R3 年) の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	金沢市	7	河北潟	7,368
2	七尾市	10	七尾西湾	3,885
3	加賀市	3	柴山潟	3,542
4	加賀市	2	片野鴨池	3,376
5	羽咋市	8	邑知潟	2,791

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（石川県）

福井県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の福井県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

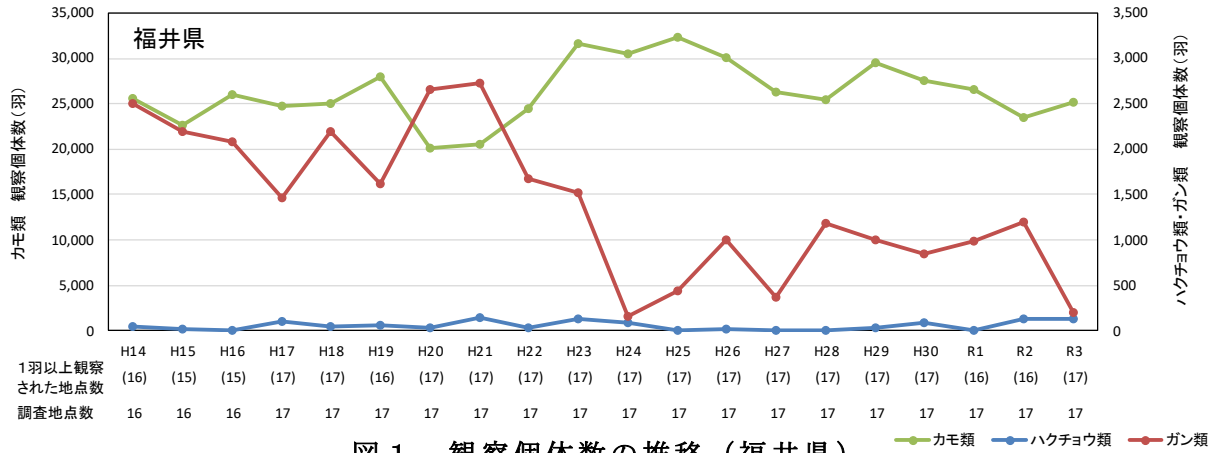


図 1 観察個体数の推移（福井県）

2. 県内における類ごとの分布

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。

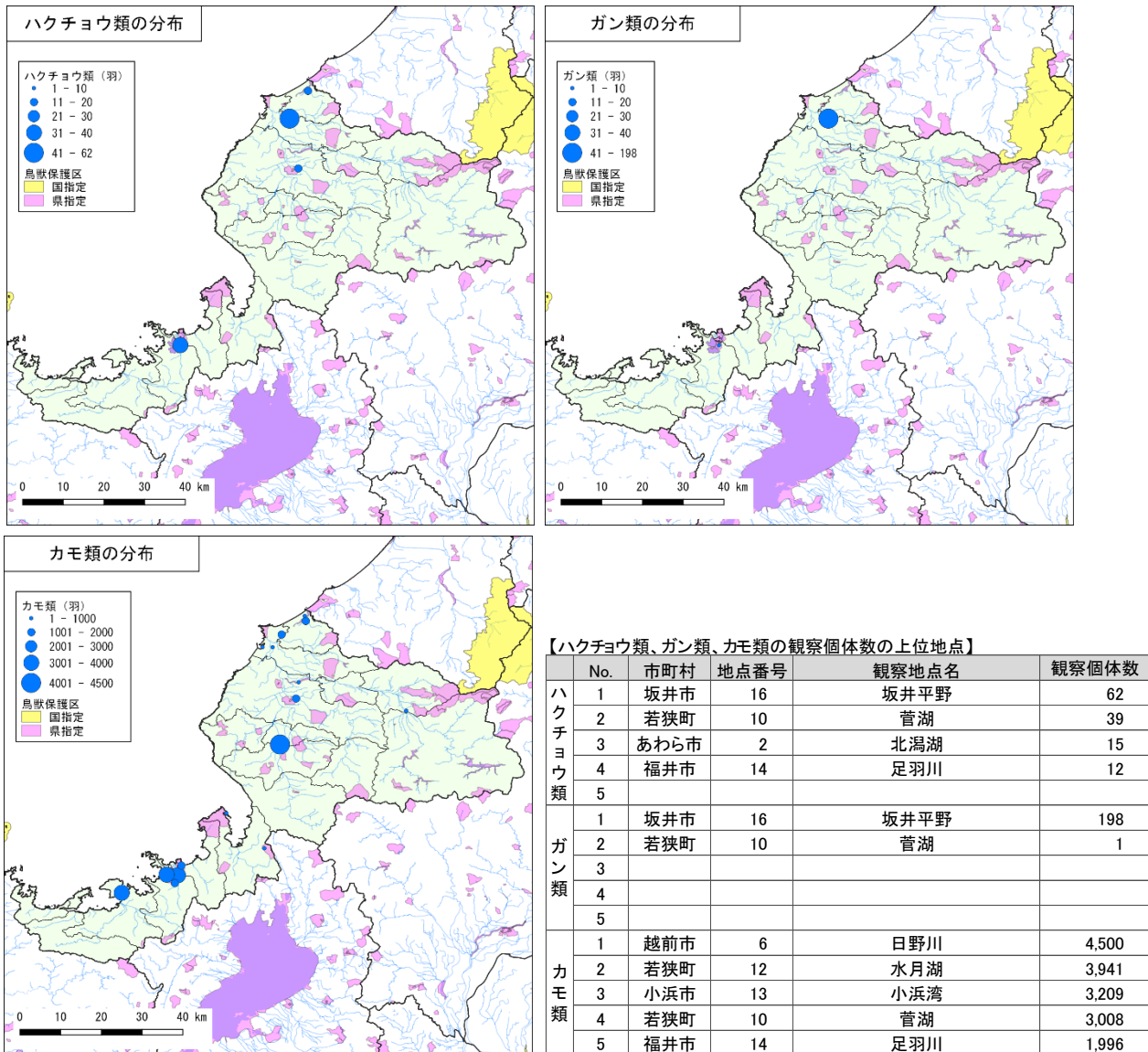


図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（福井県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

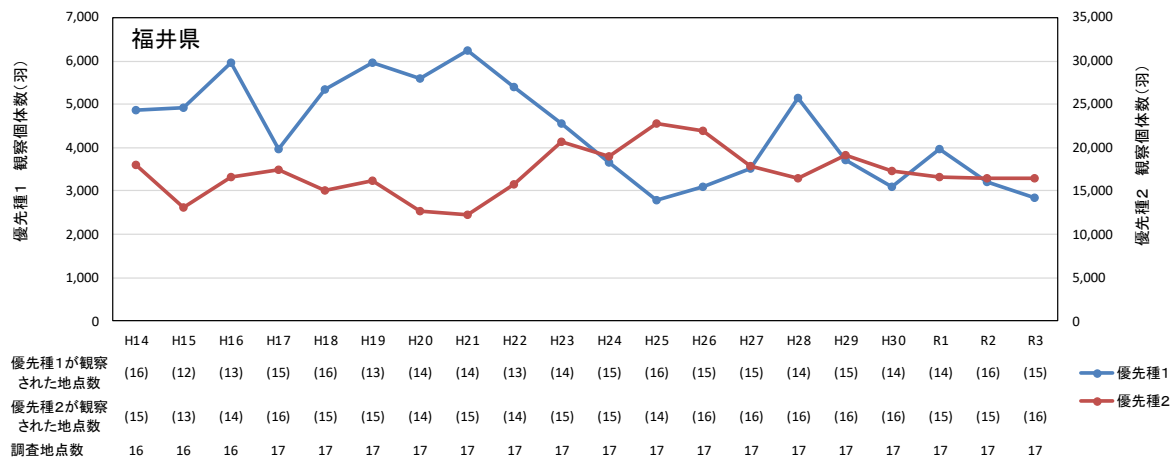
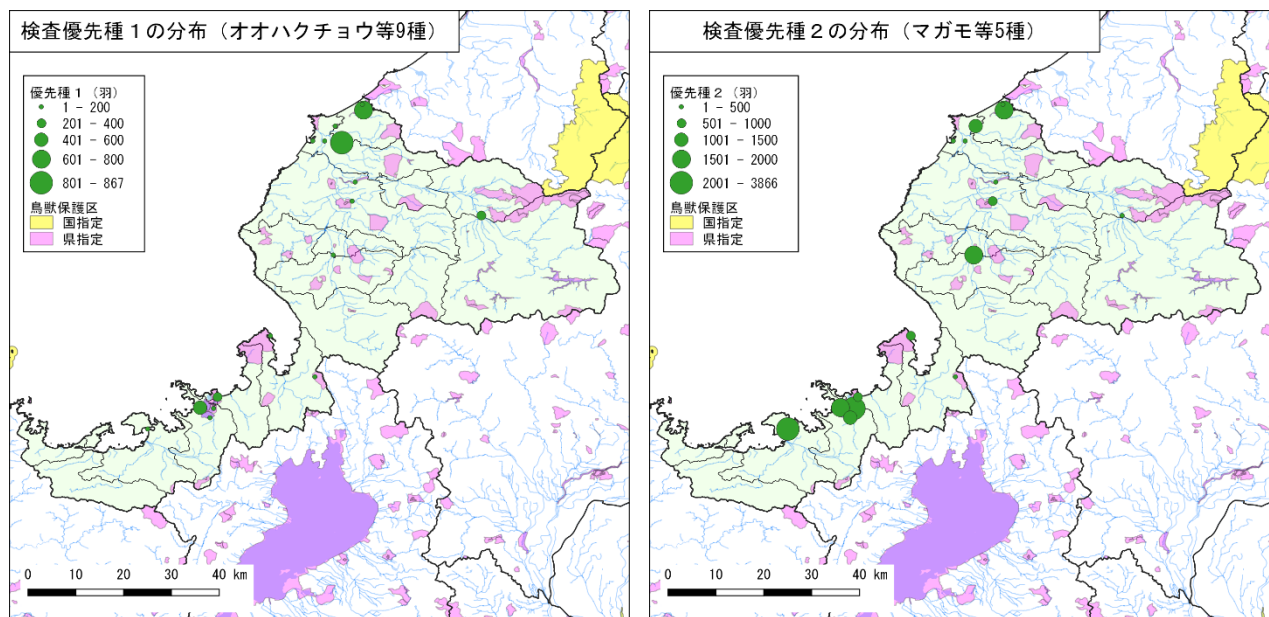


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（福井県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況(対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの)及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	坂井市	16	坂井平野	867
2	あわら市	2	北潟湖	777
3	若狭町	12	水月湖	410
4	勝山市	17	九頭竜川中上流域	237
5	美浜町	9	久々子湖	235

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	若狭町	10	菅湖	3,866
2	小浜市	13	小浜湾	2,501
3	若狭町	12	水月湖	1,979
4	越前市	6	日野川	1,934
5	あわら市	2	北潟湖	1,554

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（福井県）

山梨県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の山梨県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

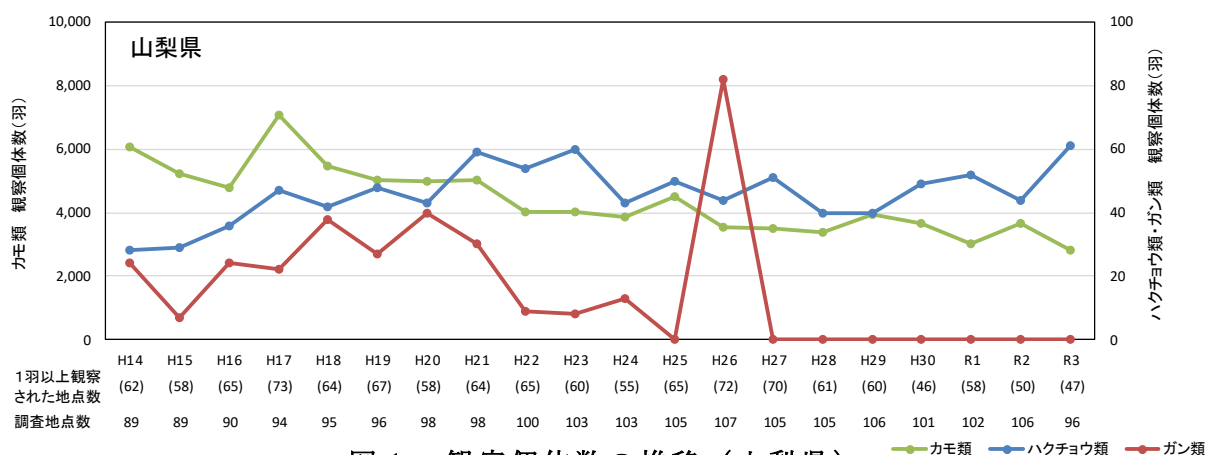
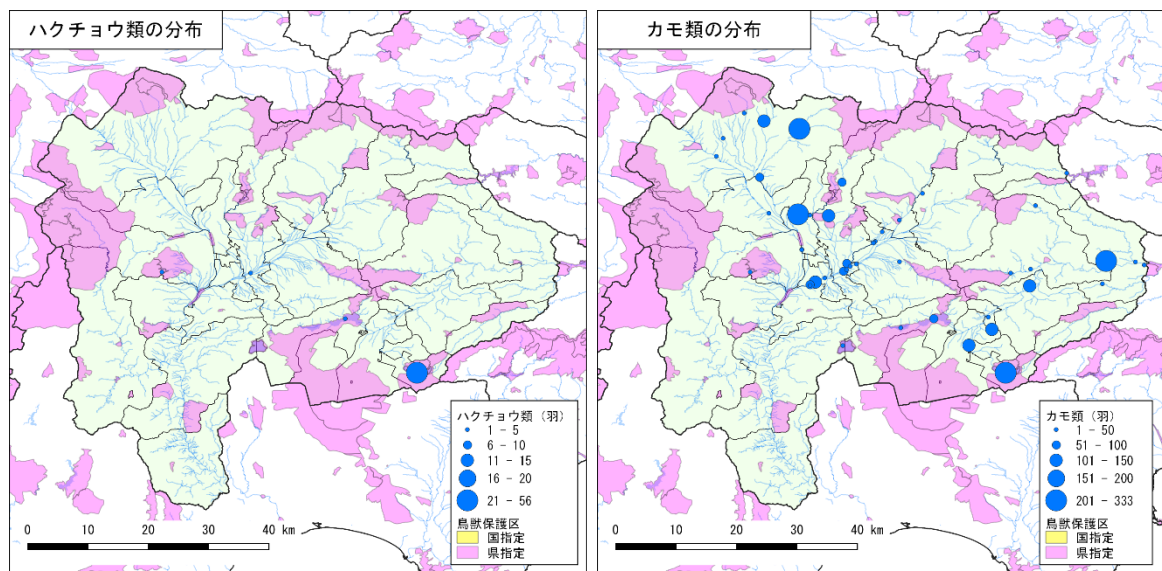


図 1 観察個体数の推移（山梨県）

2. 県内における類ごとの分布図

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。



【ハクチョウ類、カモ類の観察個体数の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数	No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数		
ハク チ ョ ウ 類	1	山中湖村	64	山中湖	56	カ モ 類	1	北社市	92	みずがき湖	333
	2	富士河口湖町	65	河口湖	3		2	上野原市	61	大野貯水池	291
	3	南アルプス市	97	南伊奈ヶ湖	1		3	甲斐市	99	新田溜池	290
	4	甲府市	11	笛吹川下曾根橋下流	1		4	山中湖村	64	山中湖	244
	5						5	北社市	71	清里湖	145

図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（山梨県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

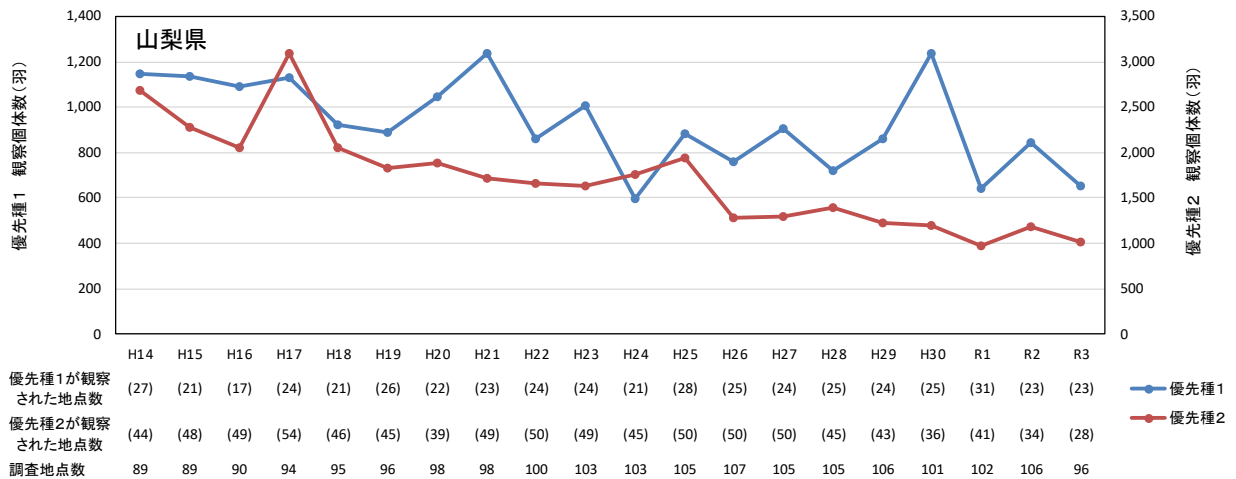
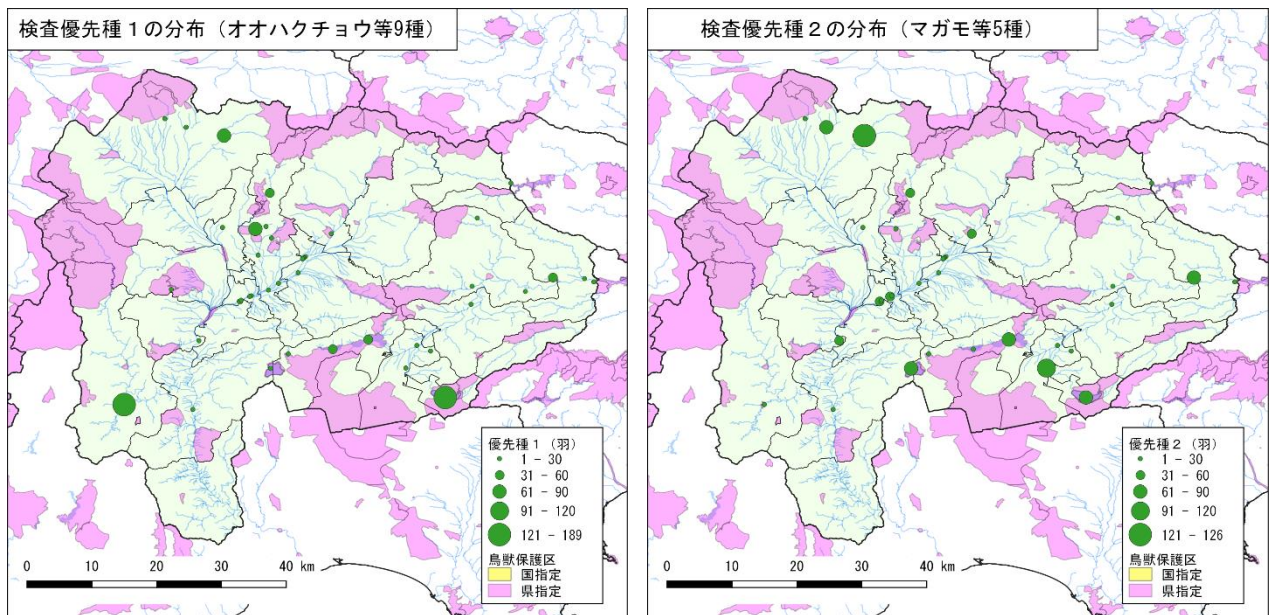


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（山梨県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	早川町	36	雨畑湖	189
2	山中湖村	64	山中湖	156
3	甲府市	20	千代田湖	78
4	北杜市	92	みずがき湖	69
5	上野原市	61	大野貯水池	60

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	北杜市	92	みずがき湖	126
2	富士吉田市	93	上吉田農業用溜池	95
3	北杜市	71	清里湖	78
4	富士河口湖町	66	本栖湖	78
5	上野原市	61	大野貯水池	76

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（山梨県）

長野県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の長野県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

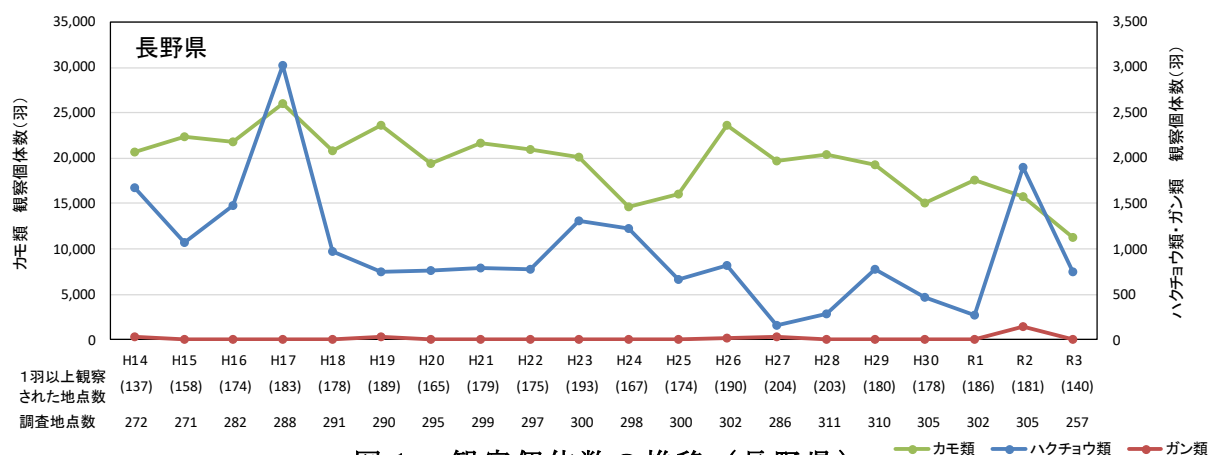
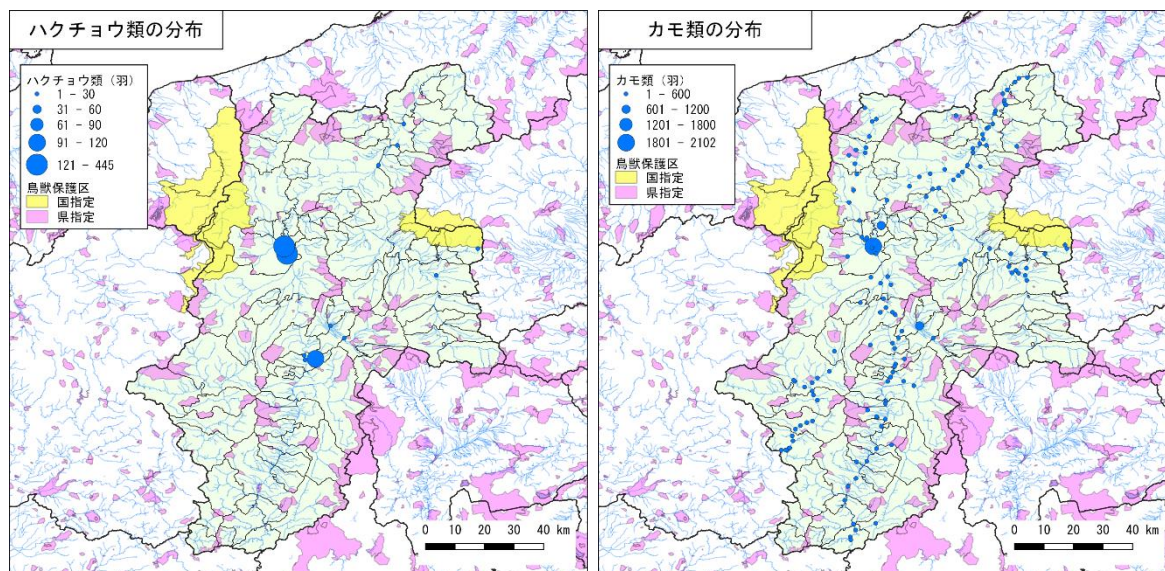


図 1 観察個体数の推移（長野県）

2. 県内における類ごとの分布図

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。



【ハクチョウ類、カモ類の観察個体数の上位地点】

	No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数		No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
ハク チ ョ ウ 類	1	安曇野市	117	犀川一御宝田	445	カ モ 類	1	安曇野市	117	犀川一御宝田	2,102
	2	安曇野市	116	犀川一徳治郎	140		2	岡谷市	33	諏訪湖	995
	3	箕輪町	206	箕輪ダム	103		3	生坂村	95	犀川一坂ダム	832
	4	岡谷市	33	諏訪湖	25		4	安曇野市	116	犀川一徳治郎	584
	5	中野市	144	中川一小沼	9		5	長野市	132	千曲川一津野	583

図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（長野県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

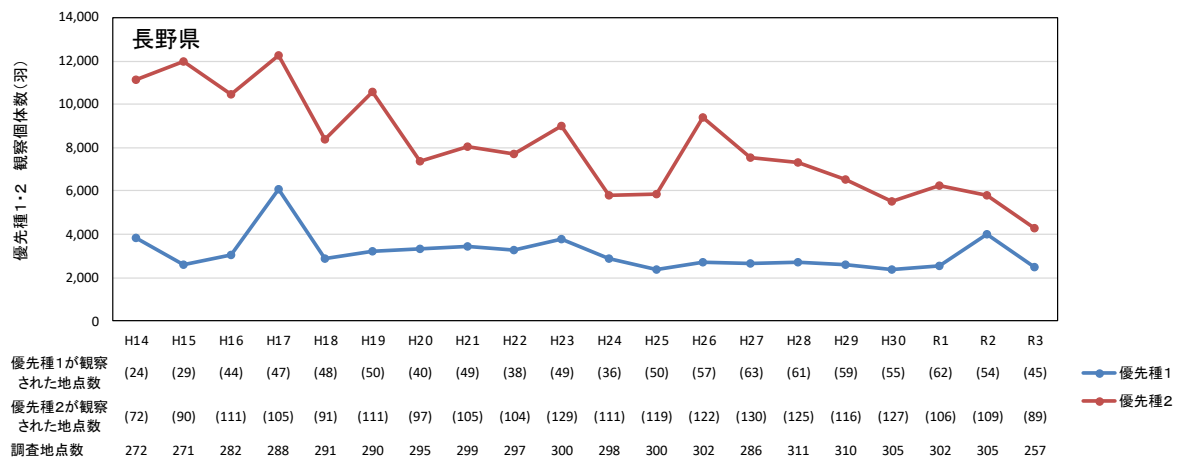
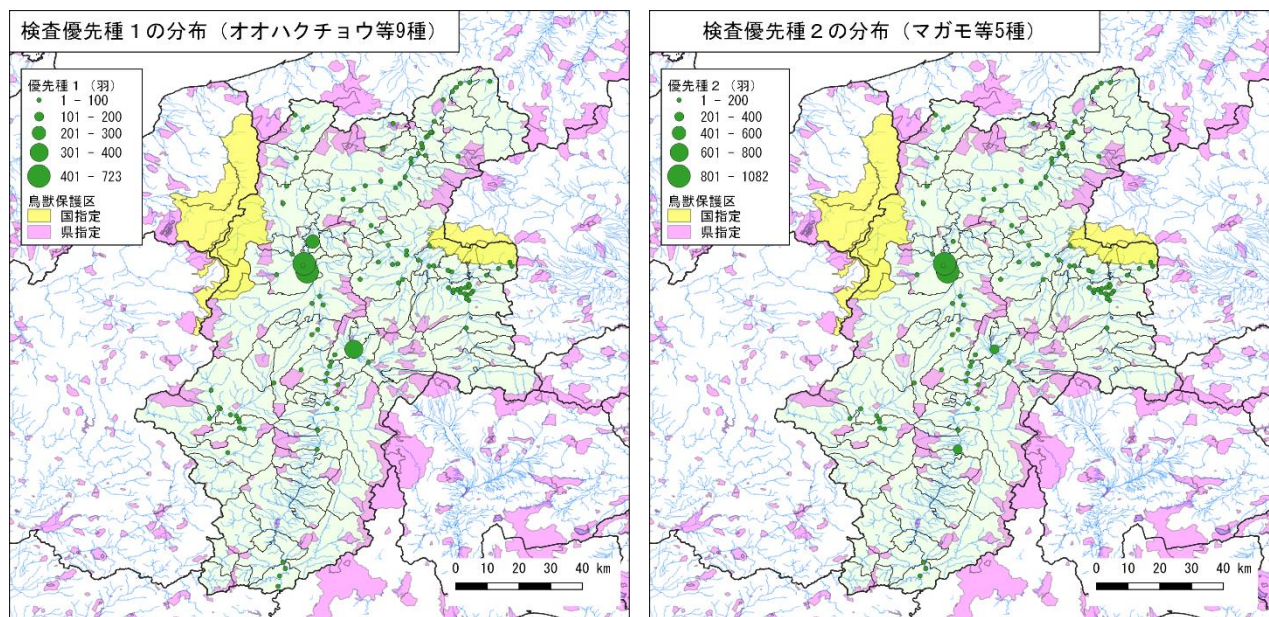


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（長野県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	安曇野市	117	犀川－御宝田	723
2	安曇野市	116	犀川－徳治郎	556
3	岡谷市	33	諏訪湖	301
4	生坂村	95	犀川－生坂ダム	241
5	岡谷市	273	天竜川－天白橋	87

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	安曇野市	116	犀川－徳治郎	1,082
2	安曇野市	117	犀川－御宝田	865
3	駒ヶ根市	36	吉瀬ダム	253
4	岡谷市	33	諏訪湖	233
5	箕輪町	206	箕輪ダム	181

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（長野県）

岐阜県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の岐阜県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

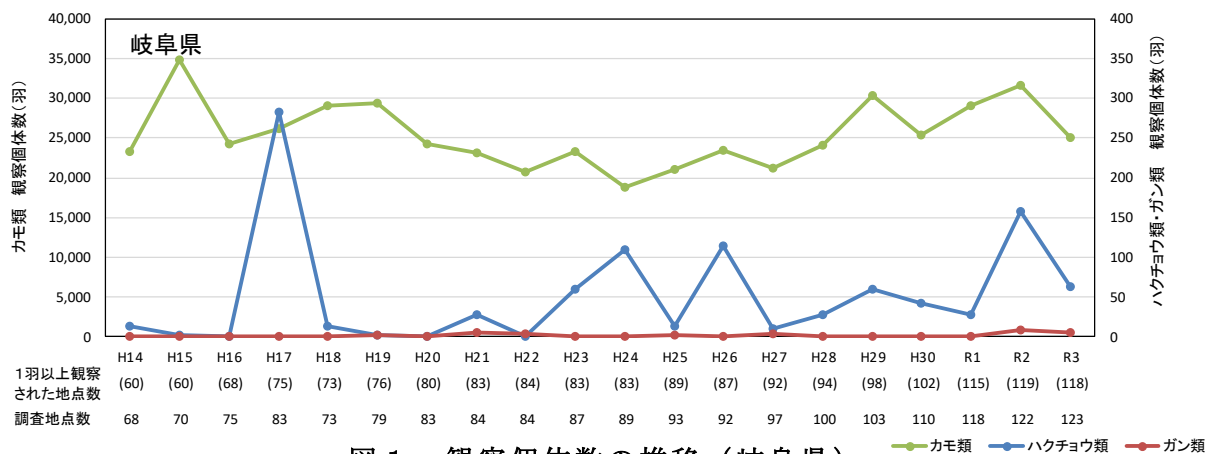


図 1 観察個体数の推移（岐阜県）

2. 県内における類ごとの分布

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。

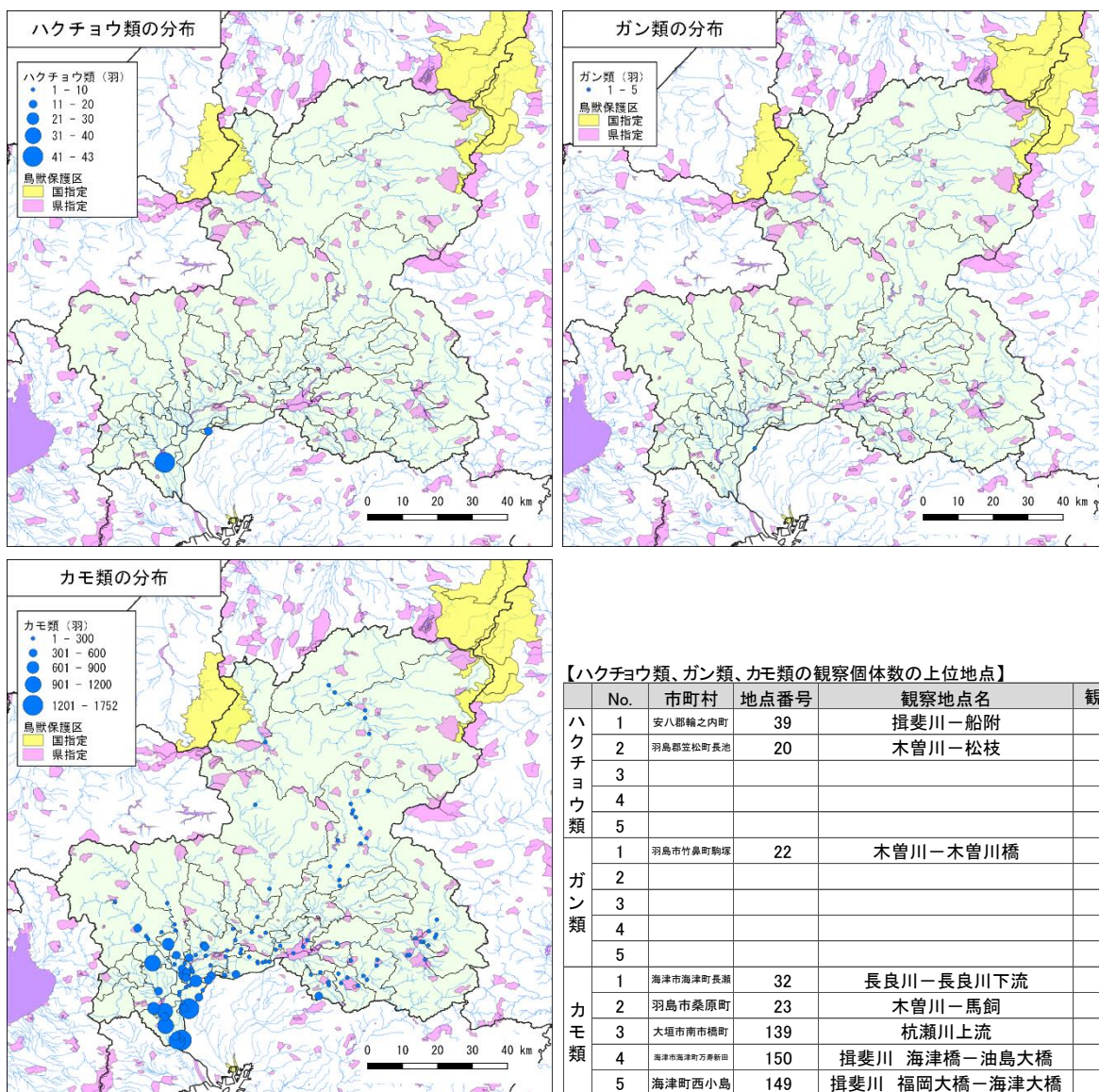


図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（岐阜県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

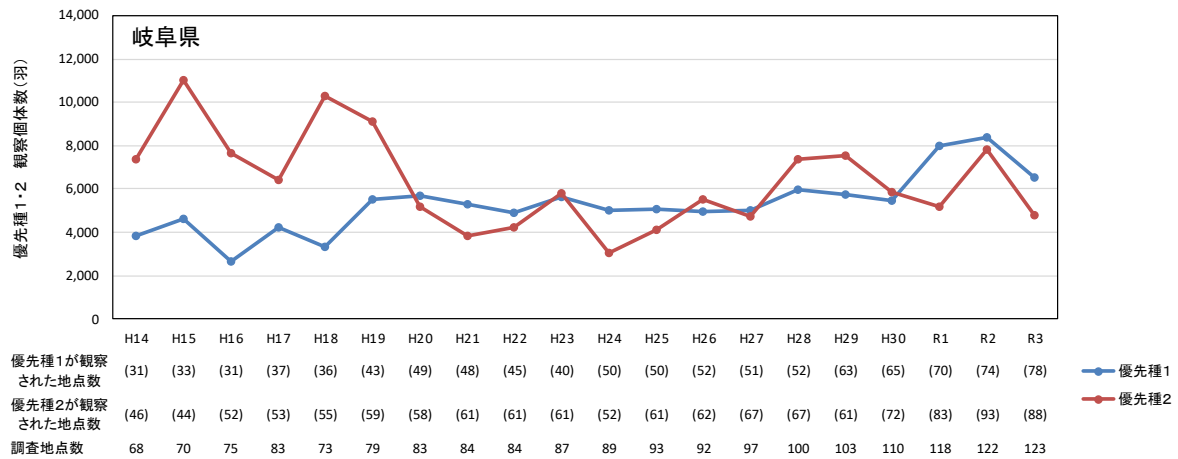
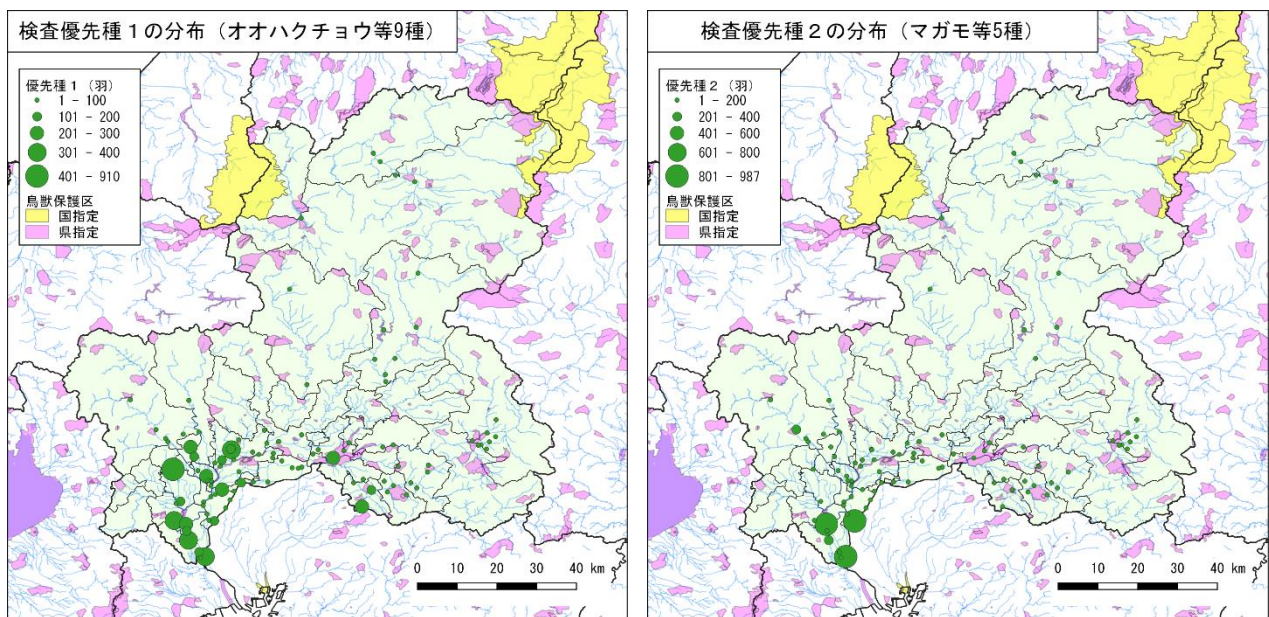


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（岐阜県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	大垣市南市橋町	139	杭瀬川上流	910
2	海津市海津町長瀬	32	長良川一長良川下流	348
3	養老郡養老町田	160	養老郡養老町田旧十三ヶ村川	344
4	海津町西小島	149	揖斐川福岡大橋一海津大橋	319
5	岐阜市正木	114	鳥羽川一北部体育館裏	319

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	羽島市桑原町	23	木曾川一馬飼	987
2	海津市海津町長瀬	32	長良川一長良川下流	939
3	安八郡輪之内町	39	揖斐川一船附	813
4	海津町西小島	149	揖斐川福岡大橋一海津大橋	385
5	揖斐郡揖斐川町	50	揖斐川一西平ダム	298

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（岐阜県）

静岡県のカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の静岡県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

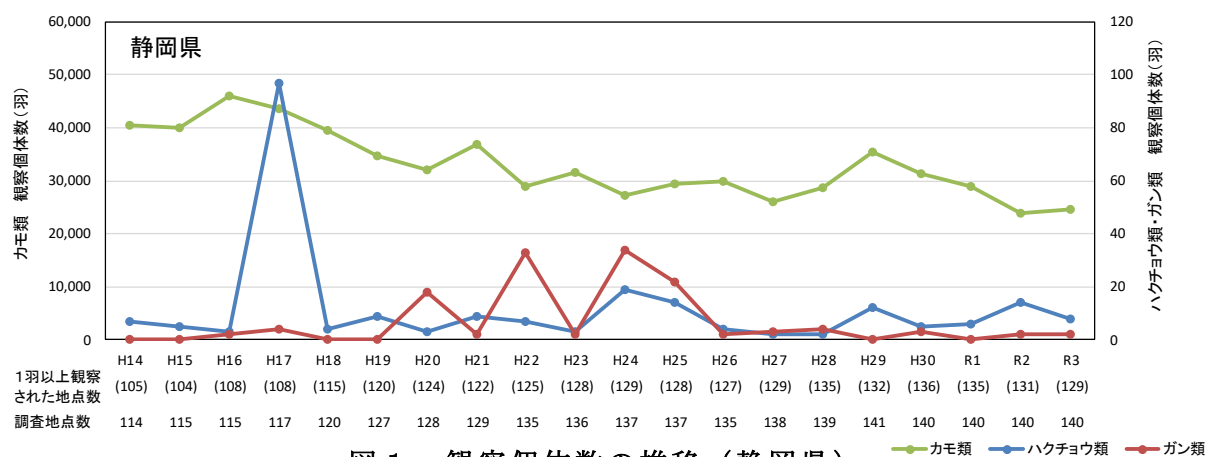


図 1 観察個体数の推移（静岡県）

2. 県内における類ごとの分布

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。

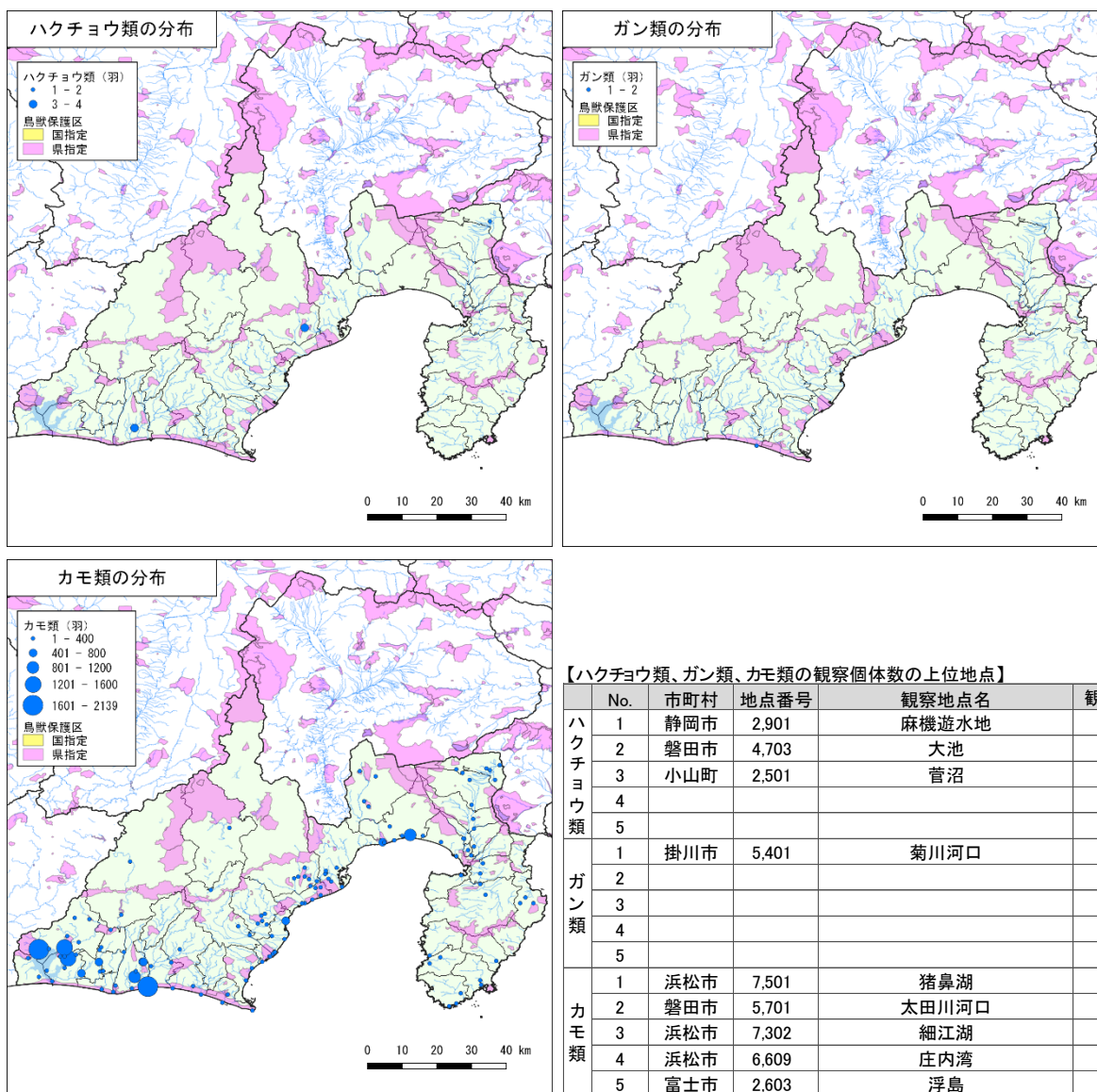


図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（静岡県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

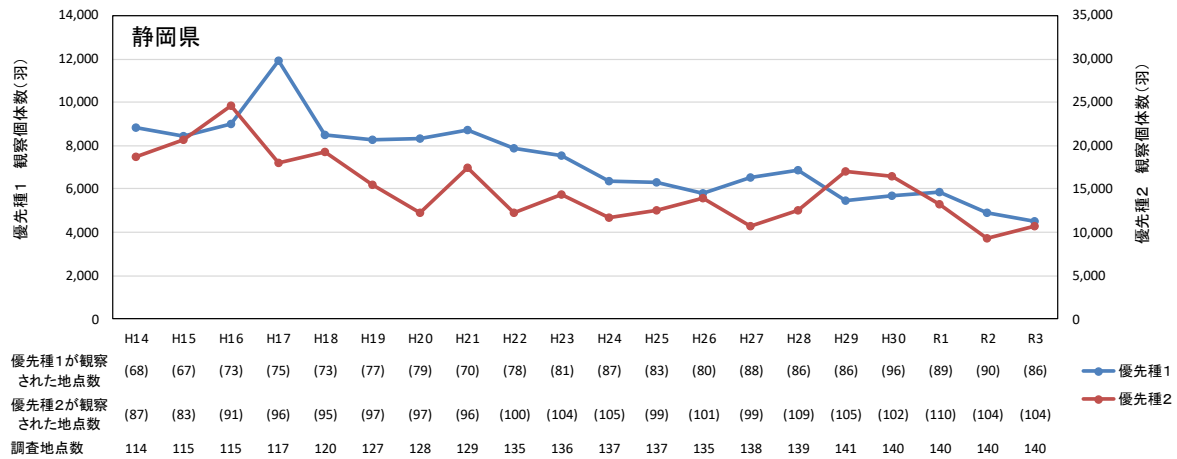
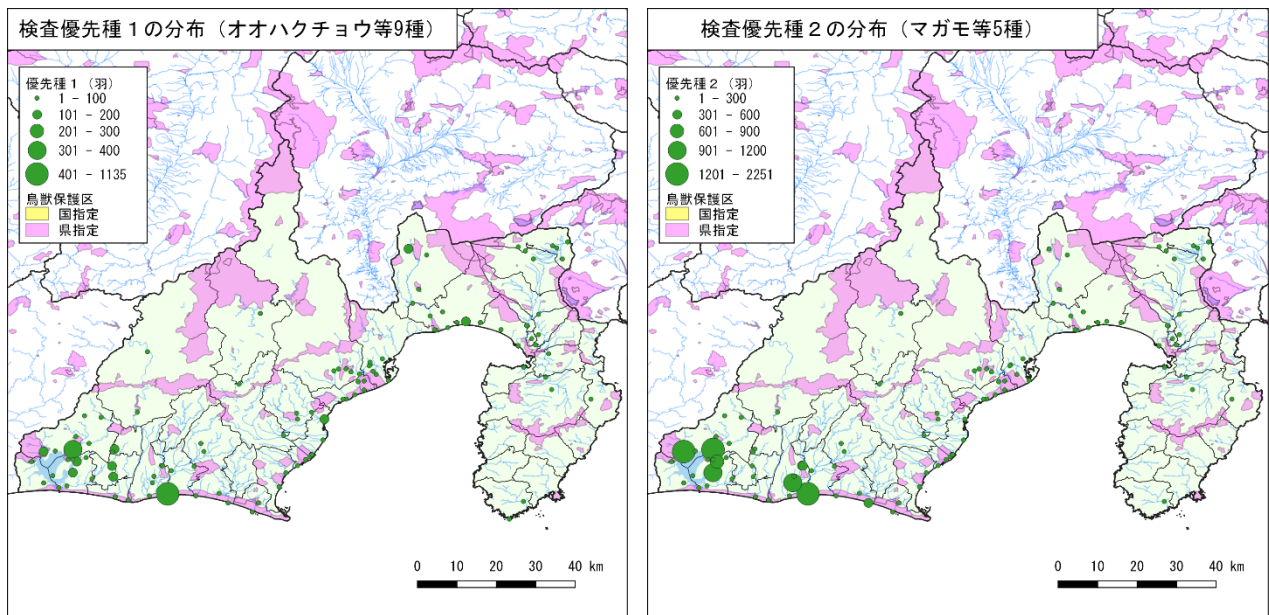


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（静岡県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	磐田市	5701	太田川河口	1,135
2	浜松市	7302	細江湖	338
3	浜松市	6609	庄内湾	188
4	浜松市	7501	猪鼻湖	185
5	浜松市	7651	馬込川中流	180

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	浜松市	7302	細江湖	2,251
2	浜松市	7501	猪鼻湖	1,603
3	磐田市	5701	太田川河口	1,330
4	磐田市	4703	大池	940
5	浜松市	7607	古人見	922

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（静岡県）

愛知県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の愛知県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

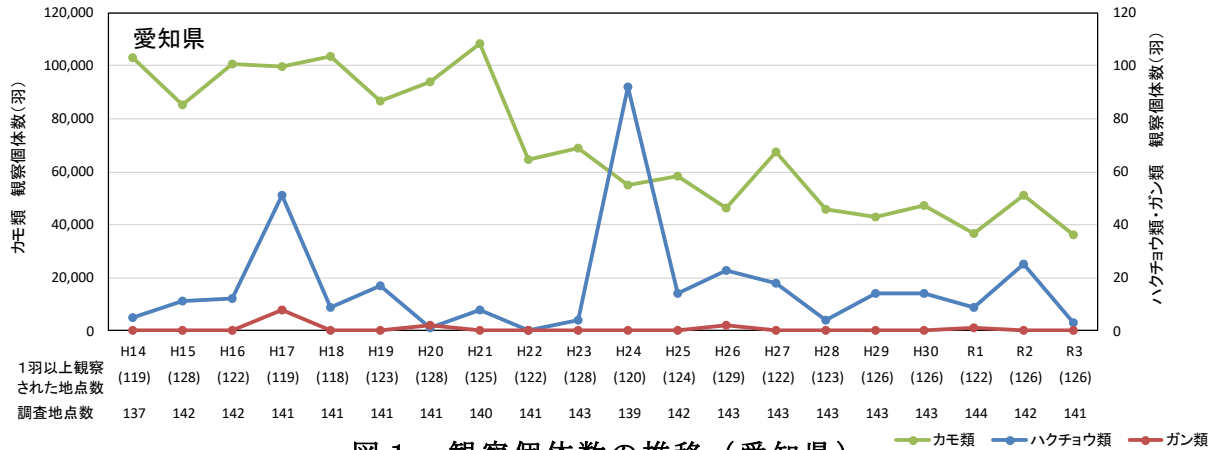
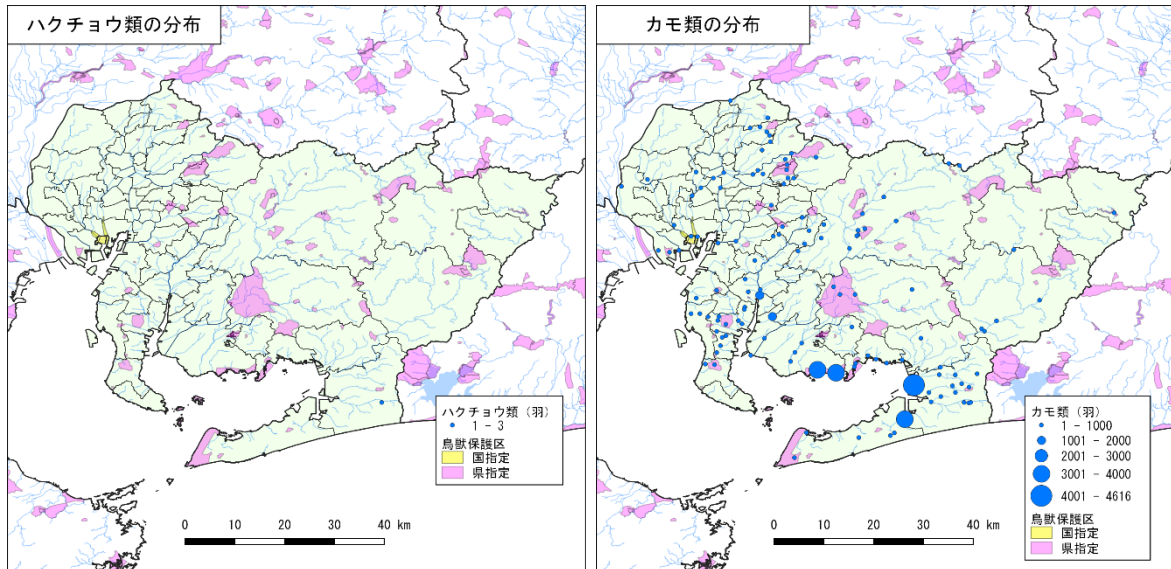


図 1 観察個体数の推移（愛知県）

2. 県内における類ごとの分布図

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。



【ハクチョウ類、カモ類の観察個体数の上位地点】

ハクチョウ類					カモ類				
No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数	No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	豊橋市	123	沢渡池	3	1	豊橋市	122	神野三郷	4,616
2					2	西尾市	168	東幡豆	3,897
3					3	田原市	134	田原湾	3,235
4					4	西尾市	161	鳥羽	3,229
5					5	高浜市	167	衣浦港(新田町)	1,341

図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（愛知県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

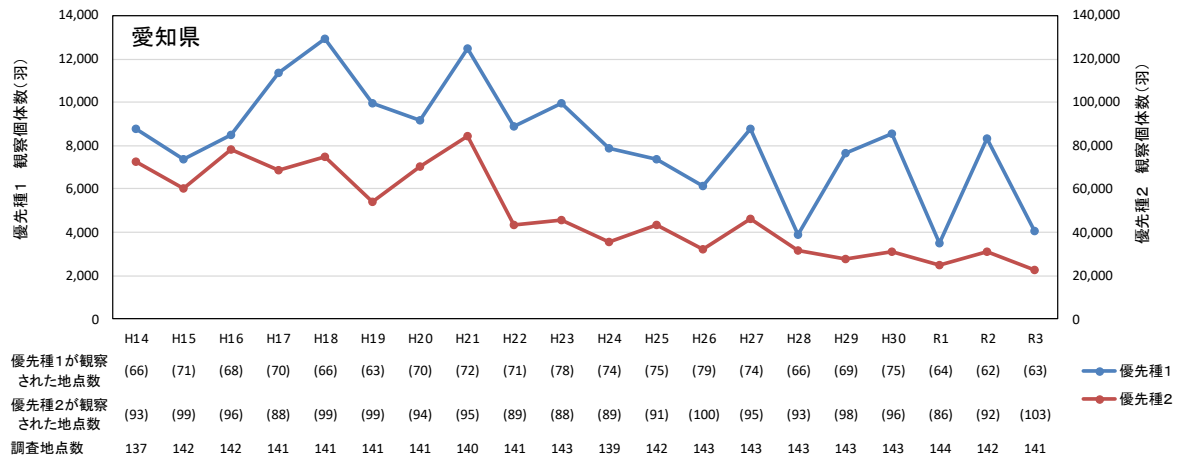
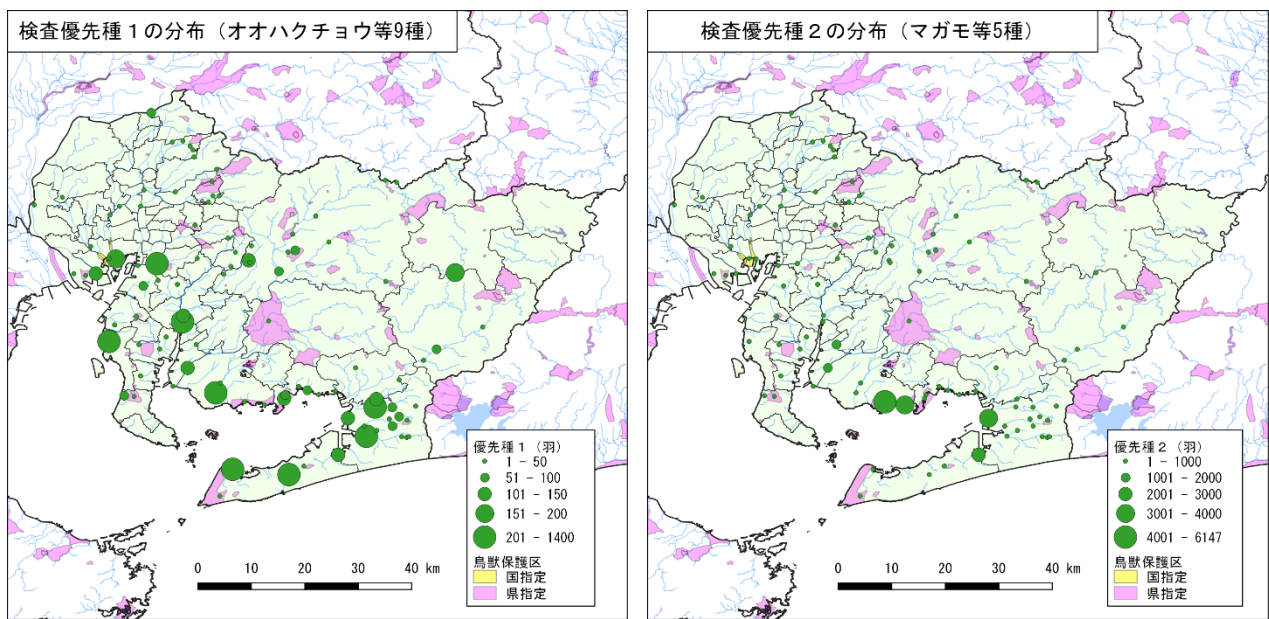


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（愛知県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種 1 のうち、合計 9 種の年平均個体数 (H28～R3 年) の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	田原市	138	立馬池	1,400
2	豊橋市	191	梅田川植田橋下流	431
3	西尾市	70	矢作古川(荻西)	332
4	豊橋市	188	豊川吉田大橋下流	324
5	高浜市	167	衣浦港(新田町)	274

【検査優先種 2 のうち、合計 5 種の年平均個体数 (H28～R3 年) の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	西尾市	161	鳥羽	6,147
2	豊橋市	122	神野三郷	3,935
3	西尾市	168	東幡豆	3,168
4	田原市	134	田原湾	2,228
5	碧南市	62	矢作川(前浜町)	1,805

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（愛知県）

三重県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の三重県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

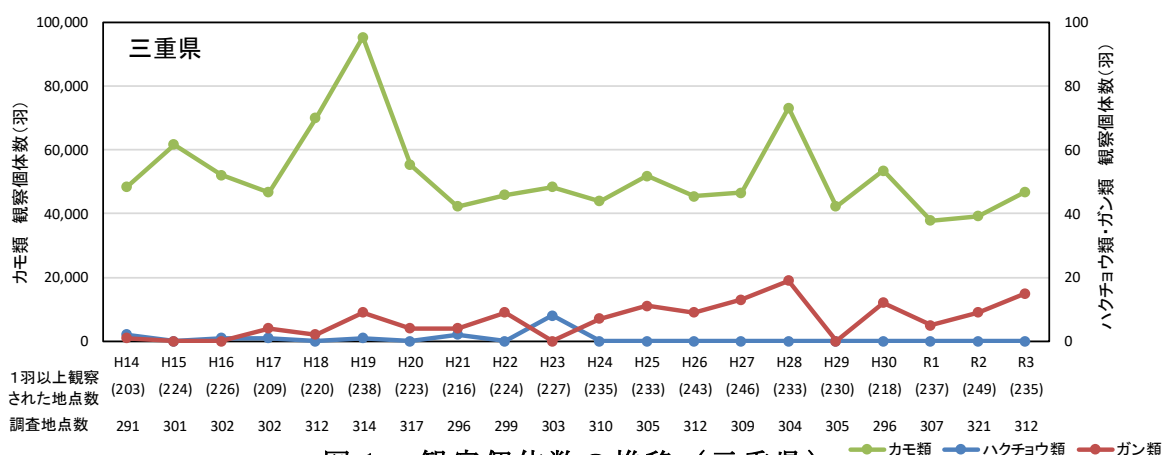
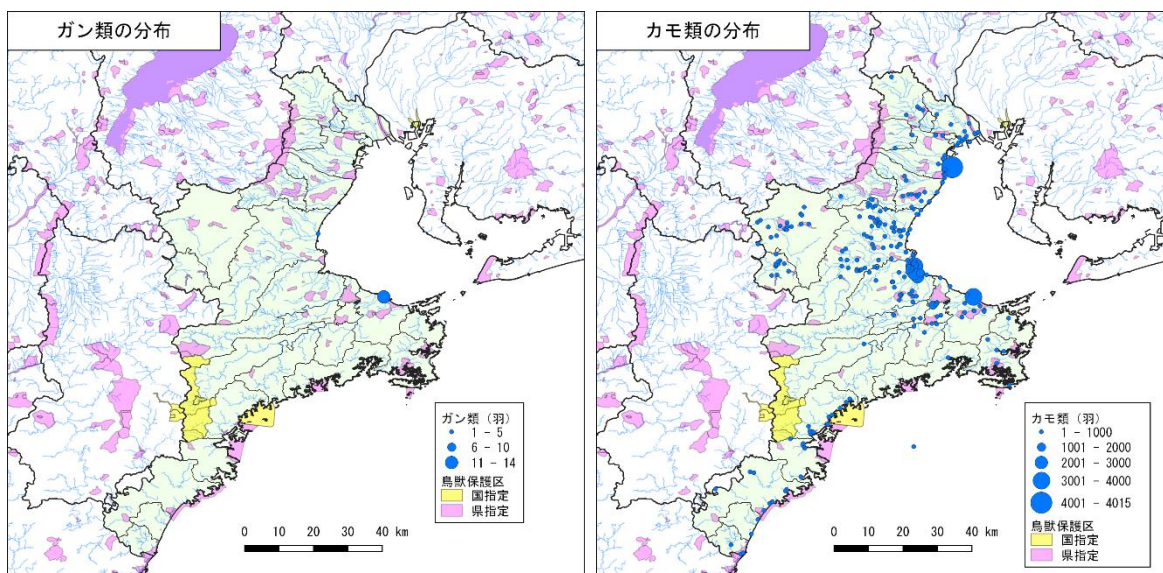


図 1 観察個体数の推移（三重県）

2. 県内における類ごとの分布図

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。



【ガン類、カモ類の観察個体数の上位地点】

	No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数		No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
	ガン類	1	伊勢市	67	宮川河口		14	カモ類	1	四日市市	258
2		津市	33	安濃川志登茂川河口	1	2	伊勢市		67	宮川河口	3,579
3						3	松阪市		132	五主海岸北	3,141
4						4	松阪市		60	金剛川河口	2,870
5						5	松阪市		297	阪内川河口部	2,045

図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（三重県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

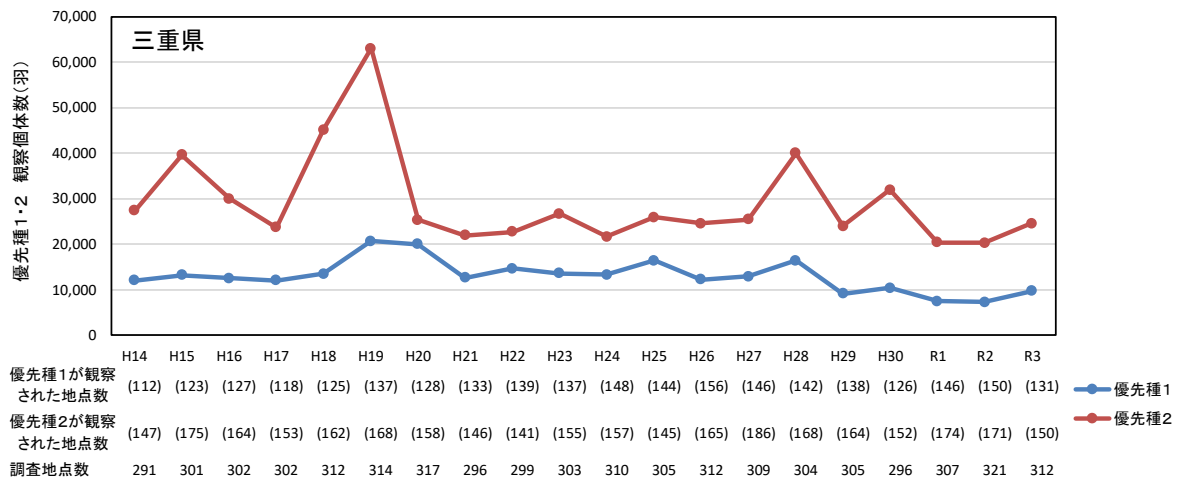
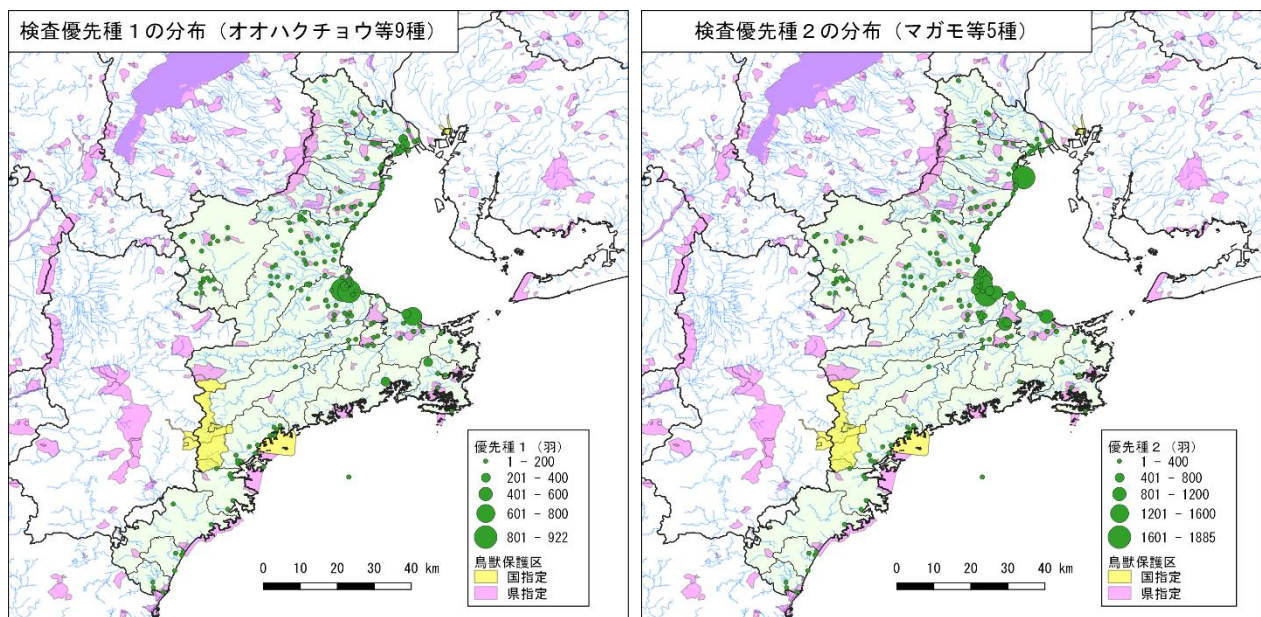


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（三重県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	松阪市	59	三渡川河口	922
2	松阪市	297	阪内川河口部	821
3	伊勢市	67	宮川河口	778
4	松阪市	53	曾原	369
5	伊勢市	122	外城田川河口	353

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	松阪市	60	金剛川河口	1,885
2	四日市市	258	石原産業沖埋立地	1,665
3	津市	51	香良洲沖	1,422
4	松阪市	132	五主海岸北	1,411
5	松阪市	50	雲出川河口	1,212

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（三重県）

滋賀県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の滋賀県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

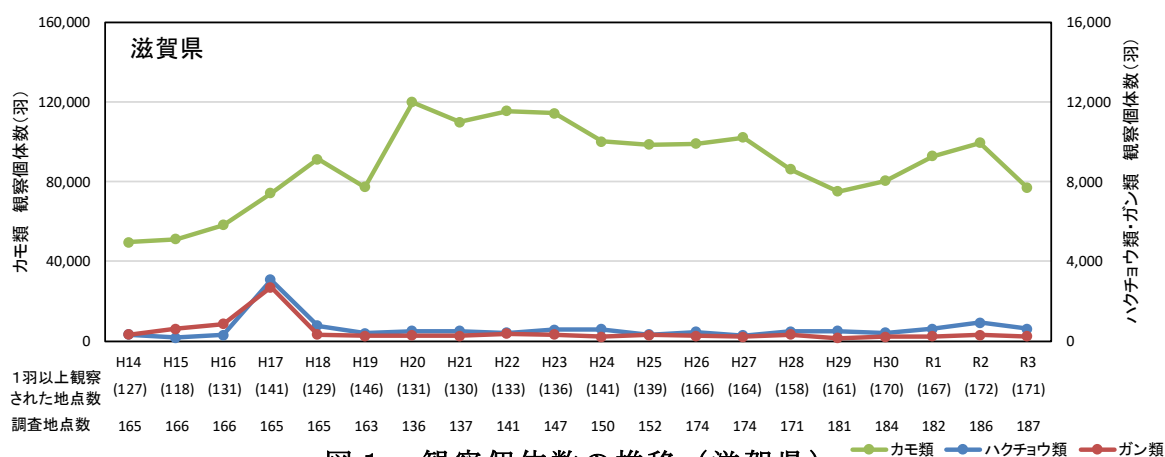


図 1 観察個体数の推移（滋賀県）

2. 県内における類ごとの分布

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。

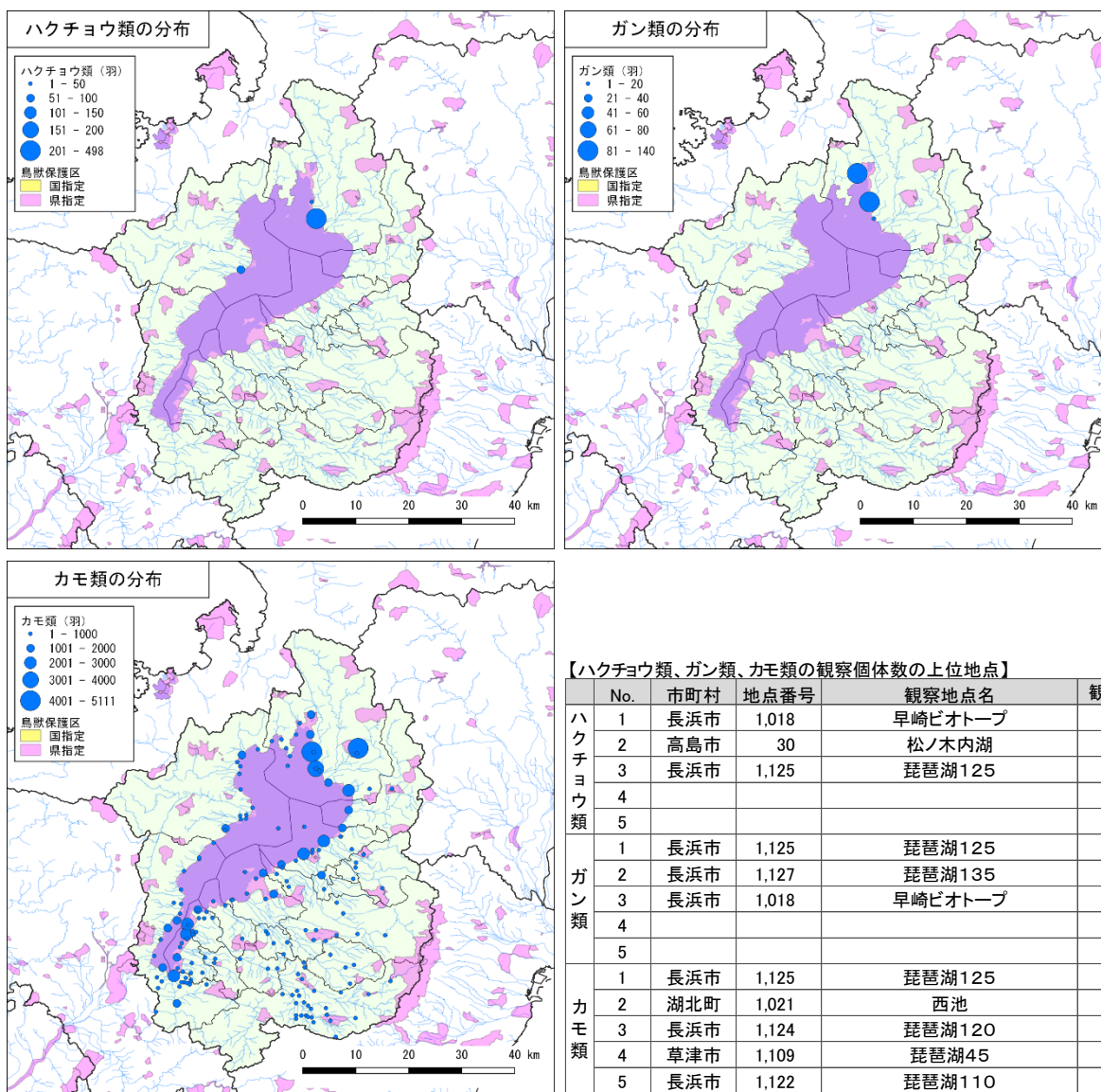


図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（滋賀県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

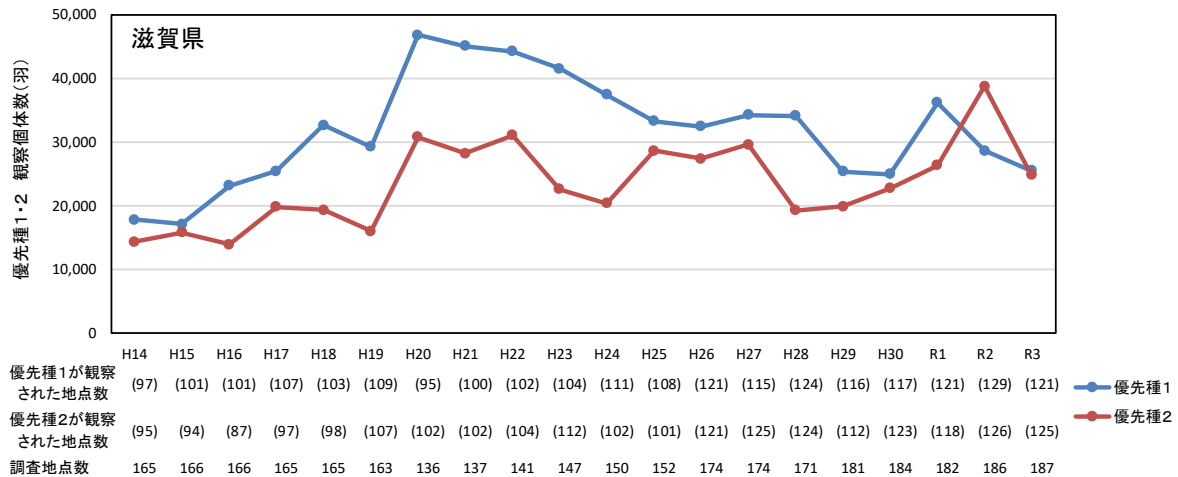
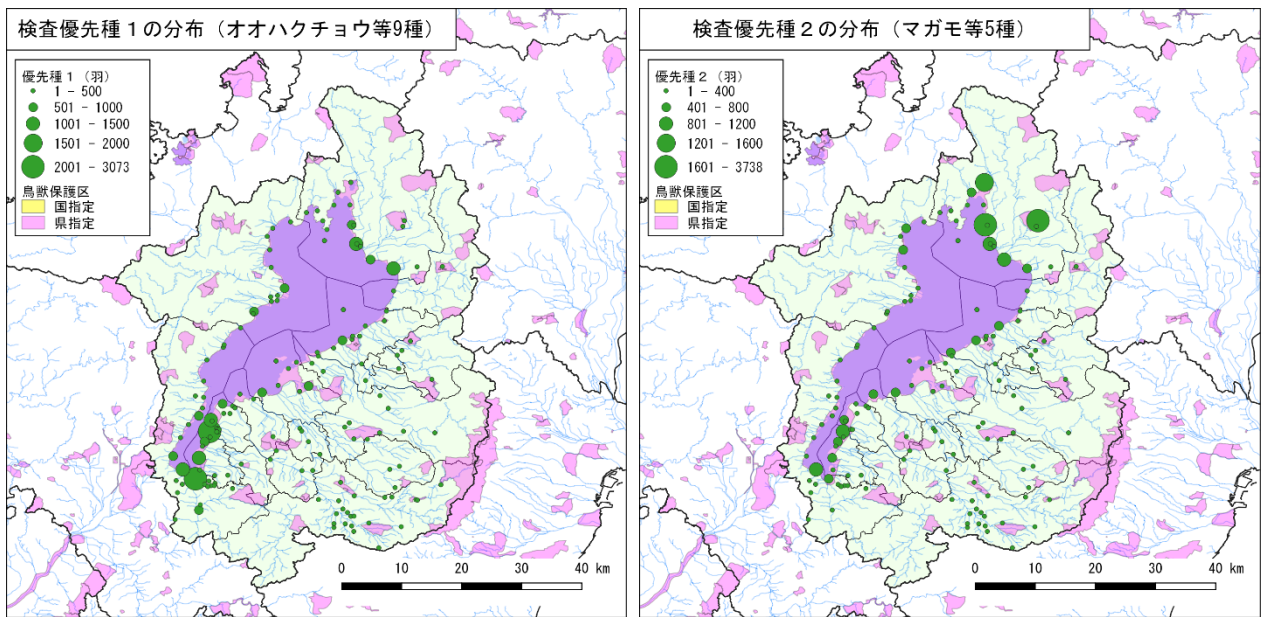


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（滋賀県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種 1 のうち、合計 9 種の年平均個体数 (H28～R3 年) の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	草津市	1109	琵琶湖45	3,073
2	大津市	1106	琵琶湖30	2,439
3	守山市	1110	琵琶湖50	1,309
4	草津市	1107	琵琶湖35	1,251
5	長浜市	1122	琵琶湖110	1,249

【検査優先種 2 のうち、合計 5 種の年平均個体数 (H28～R3 年) の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	湖北町	1021	西池	3,738
2	長浜市	1125	琵琶湖125	2,602
3	長浜市	49	余呉湖	1,480
4	大津市	1105	琵琶湖25	1,129
5	長浜市	1124	琵琶湖120	995

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（滋賀県）

京都府のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の京都府での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

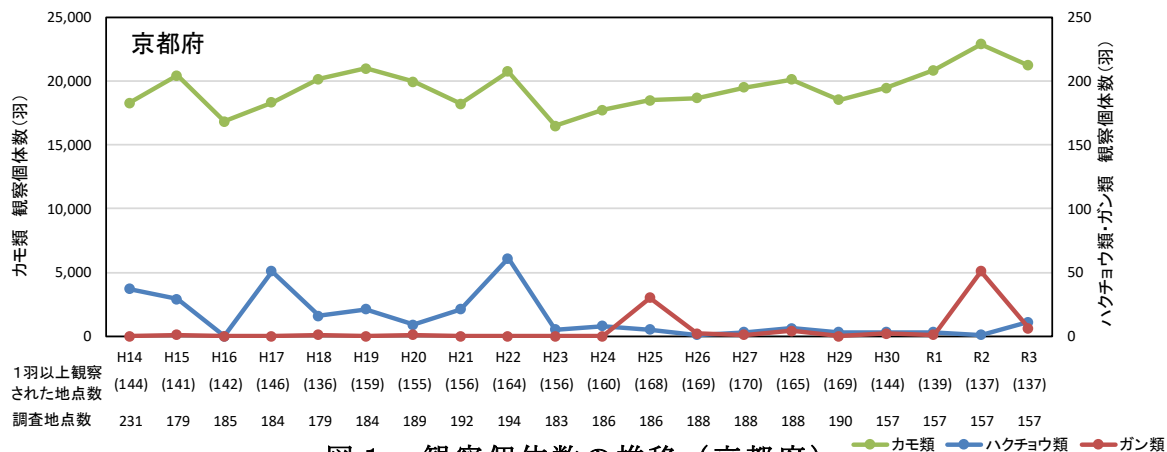


図 1 観察個体数の推移（京都府）

2. 府内における類ごとの分布図

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。

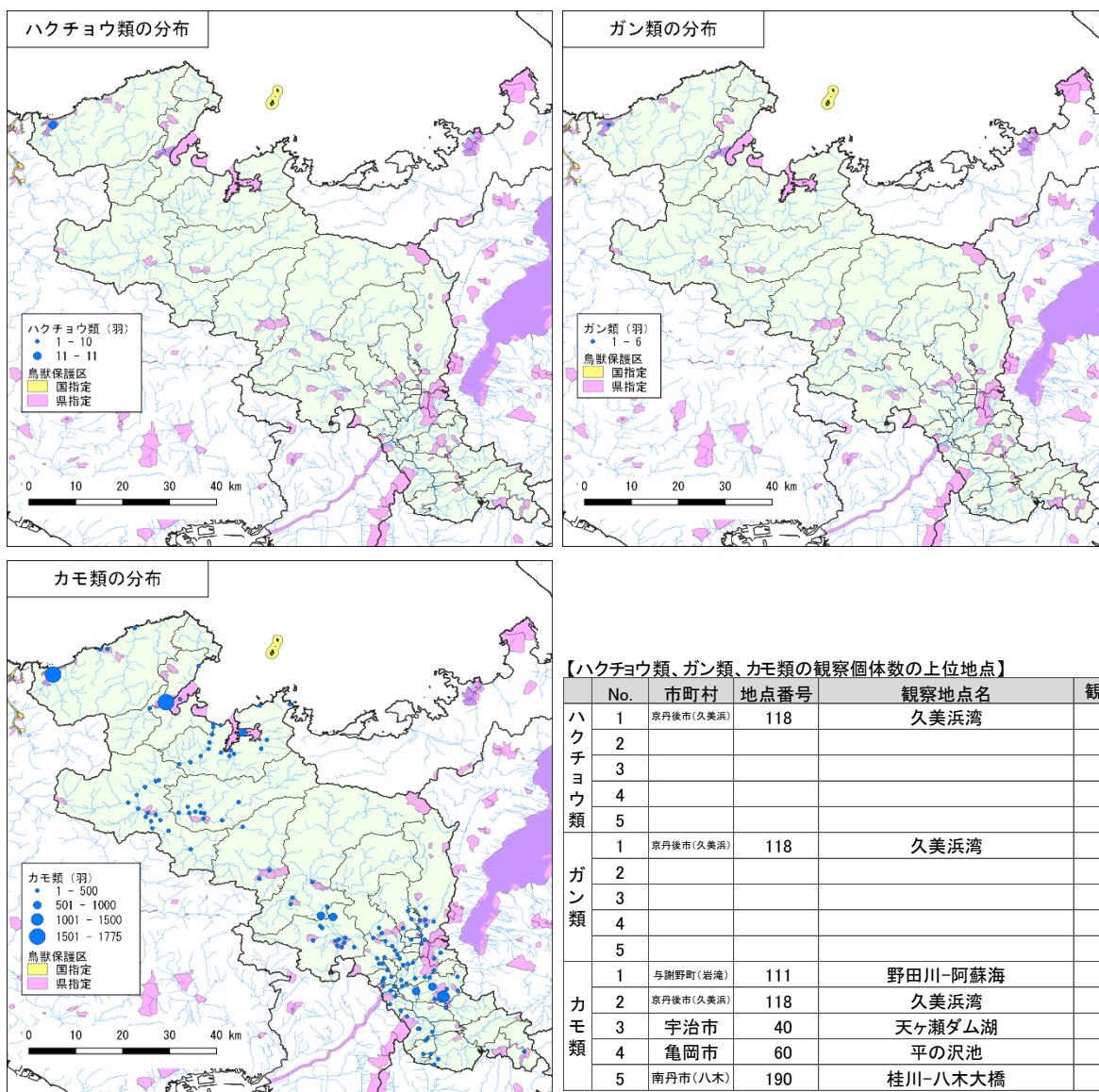


図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（京都府）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

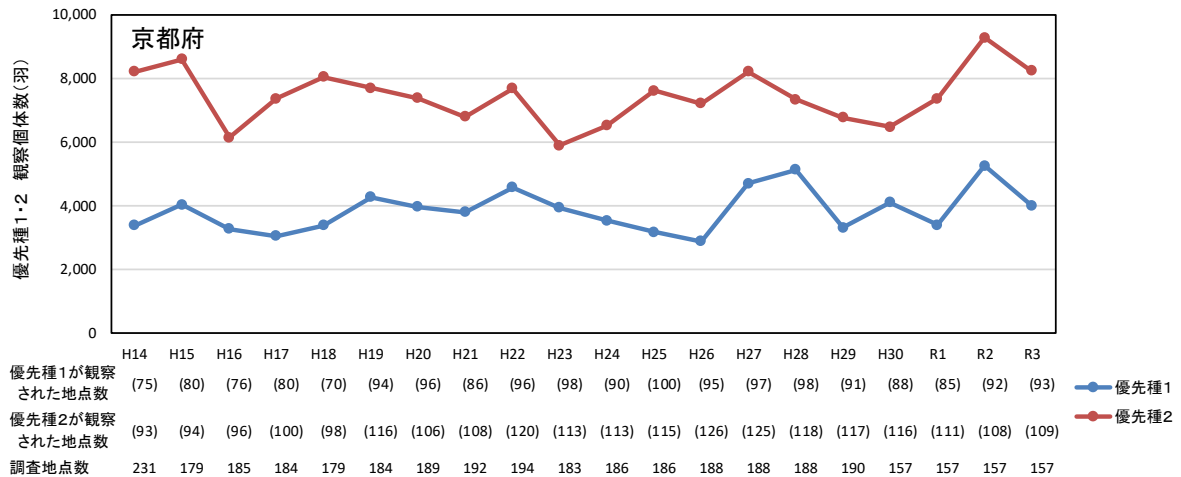
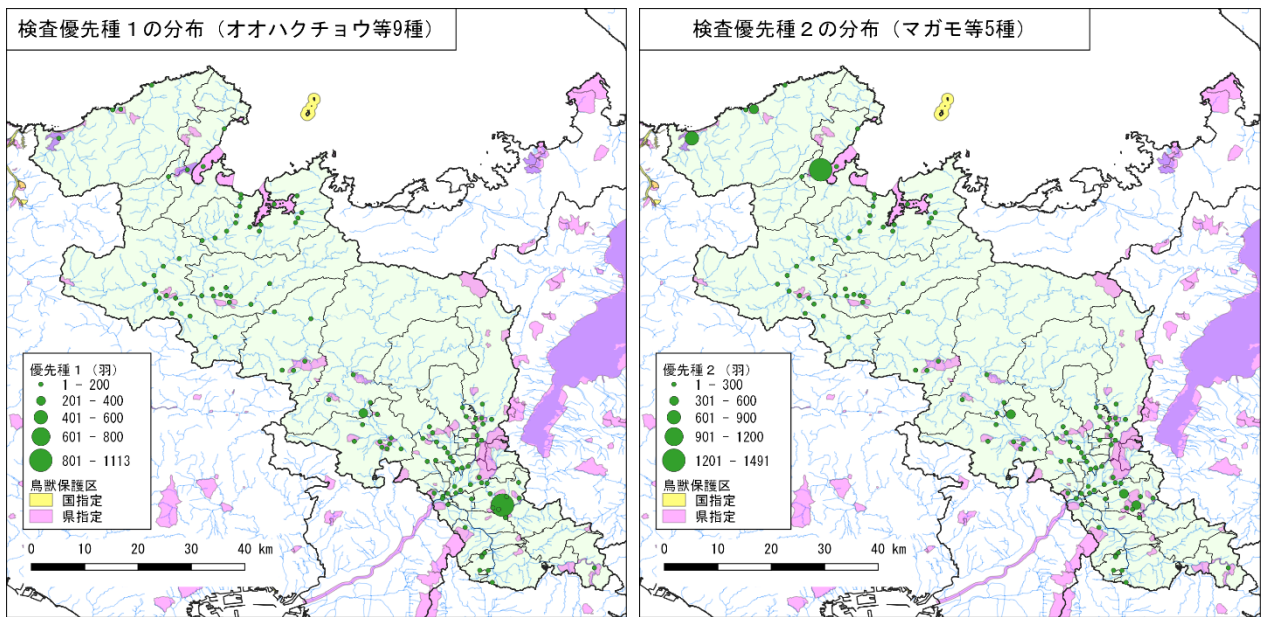


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（京都府）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	宇治市	40	天ヶ瀬ダム湖	1,113
2	南丹市(八木)	190	桂川-八木大橋	255
3	京都市	139	西高瀬川-南区上鳥羽	176
4	与謝野町(岩滝)	111	野田川-阿蘇海	144
5	京都市	138	鴨川-東山区七条大橋	141

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	与謝野町(岩滝)	111	野田川-阿蘇海	1,491
2	京丹後市(久美浜)	118	久美浜湾	664
3	亀岡市	60	平の沢池	466
4	宇治市	40	天ヶ瀬ダム湖	386
5	京丹後市(網野)	120	離湖	309

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（京都府）

大阪府のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の大阪府での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

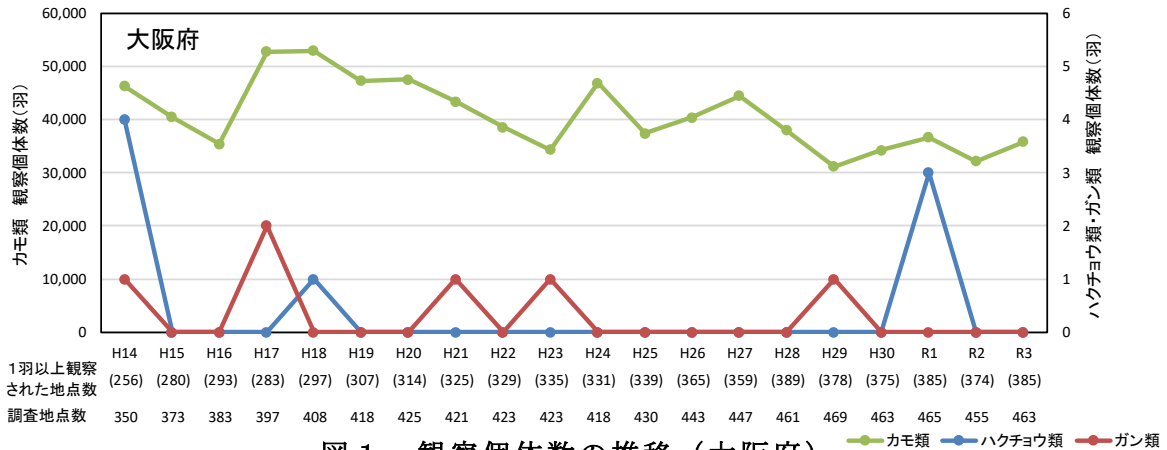
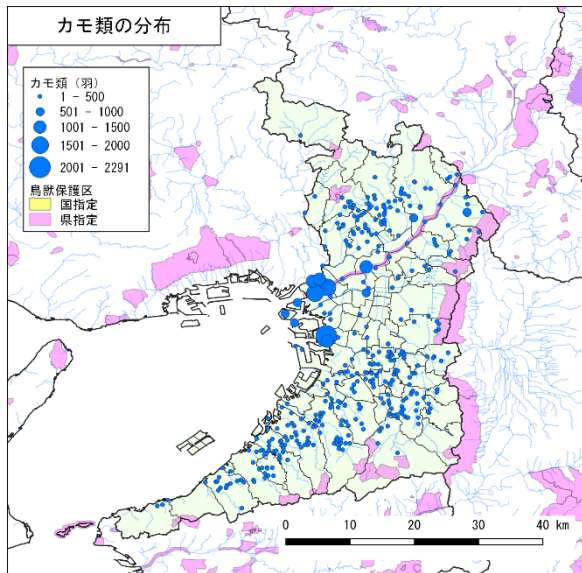


図1 観察個体数の推移（大阪府）

2. 府内における類ごとの分布

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。



【カモ類の観察個体数の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	大阪市	632	平林貯木場	2,291
2	大阪市	912	淀川(淀川大橋～伝法大橋)	1,895
3	大阪市	913	淀川(伝法大橋～河口)	1,799
4	大阪市	626	神崎川(佃)	1,337
5	大阪市	531	神崎川河口	1,145

図2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（大阪府）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

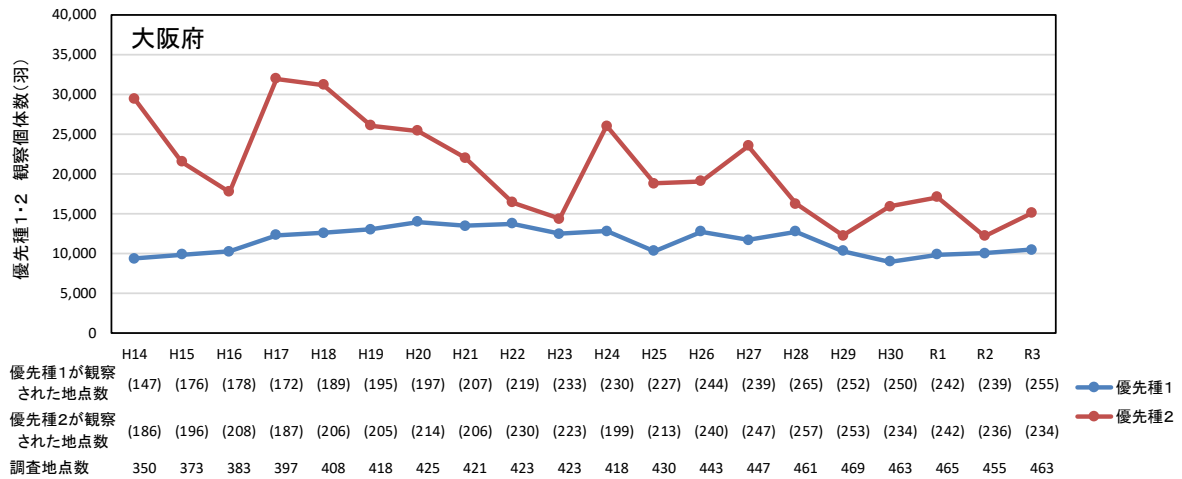


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（大阪府）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。

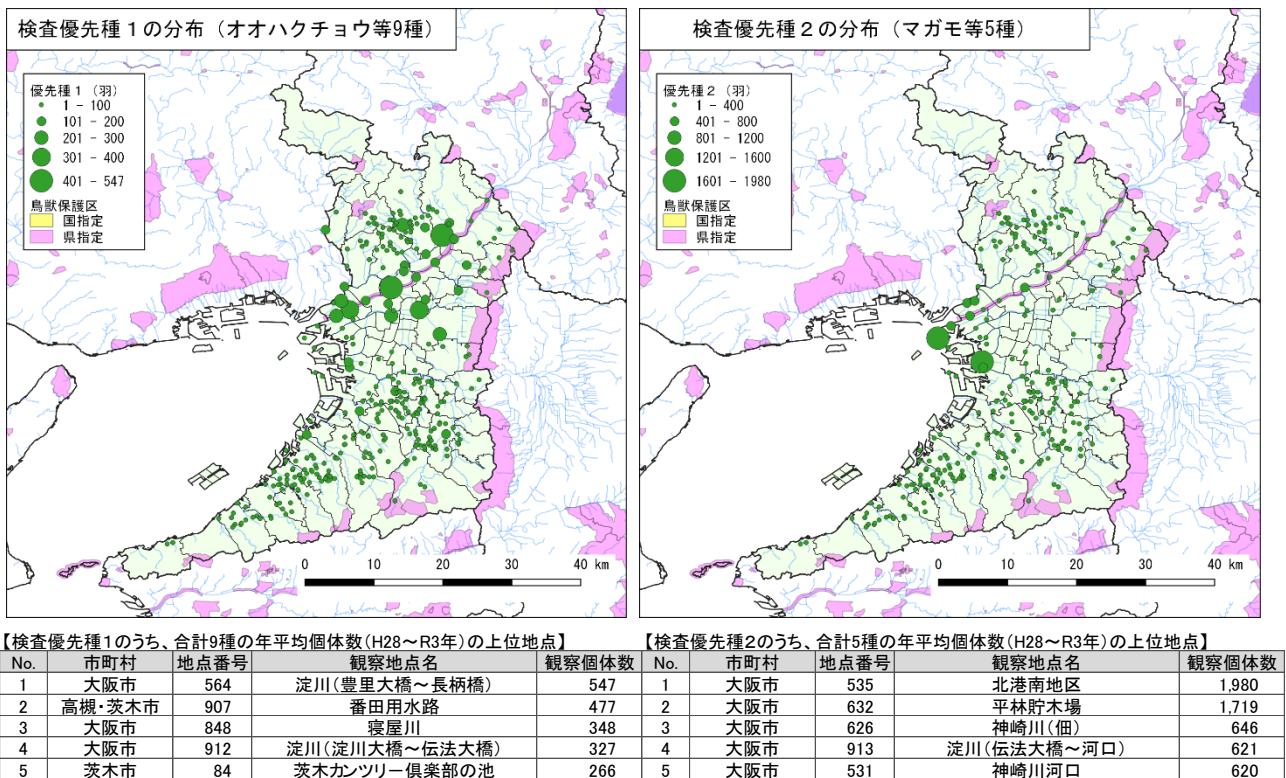


図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（大阪府）

兵庫県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の兵庫県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

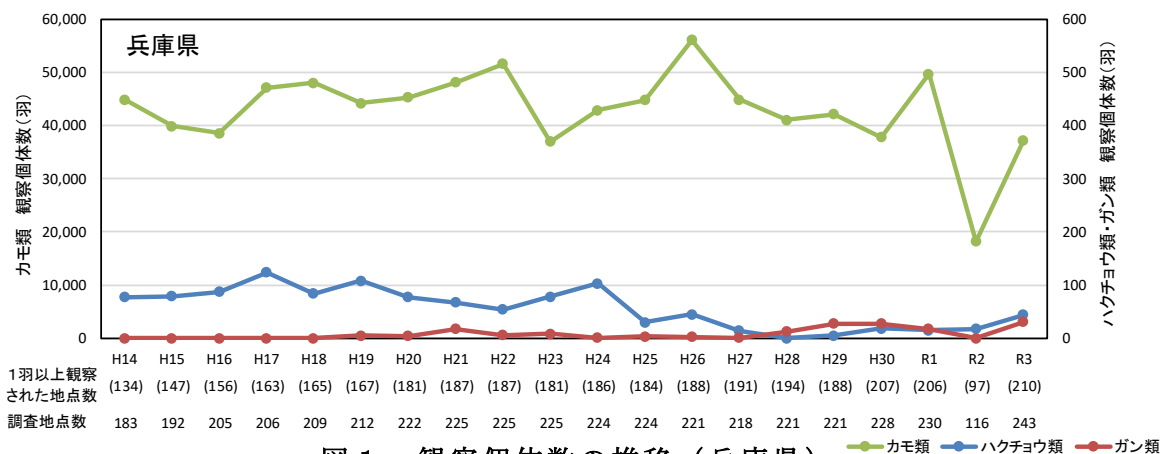


図1 観察個体数の推移（兵庫県）

2. 県内における類ごとの分布

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。

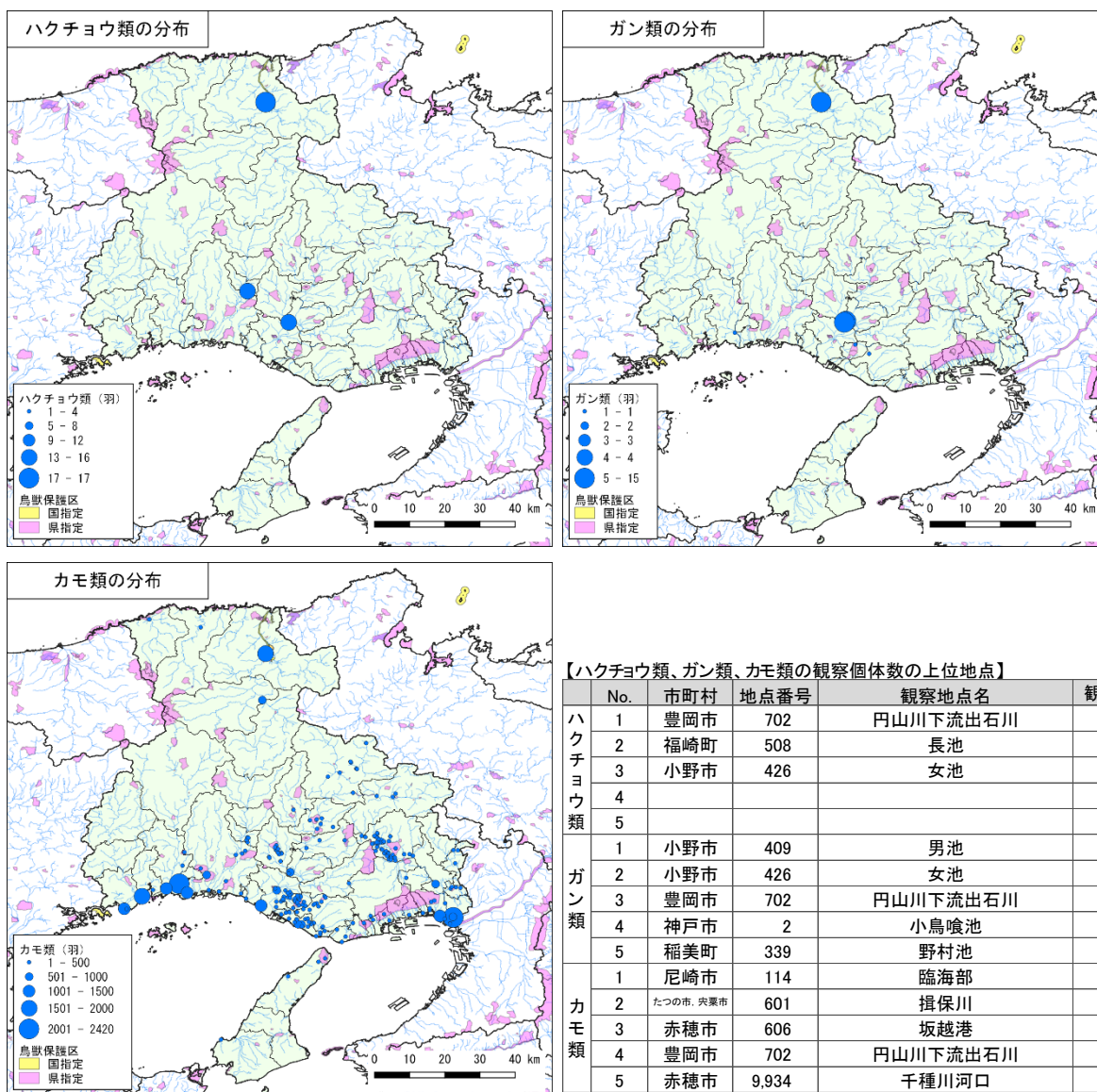


図2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（兵庫県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

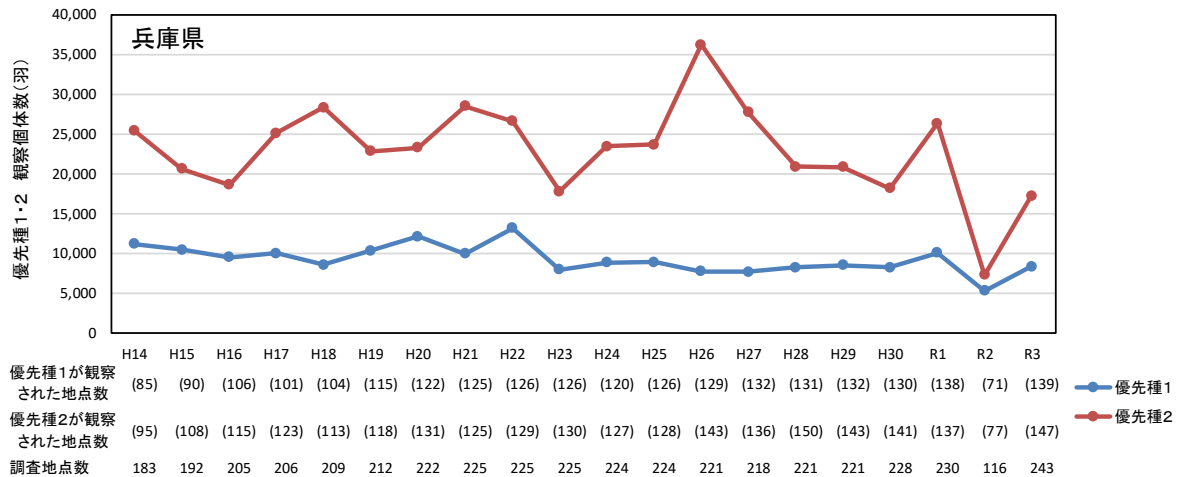
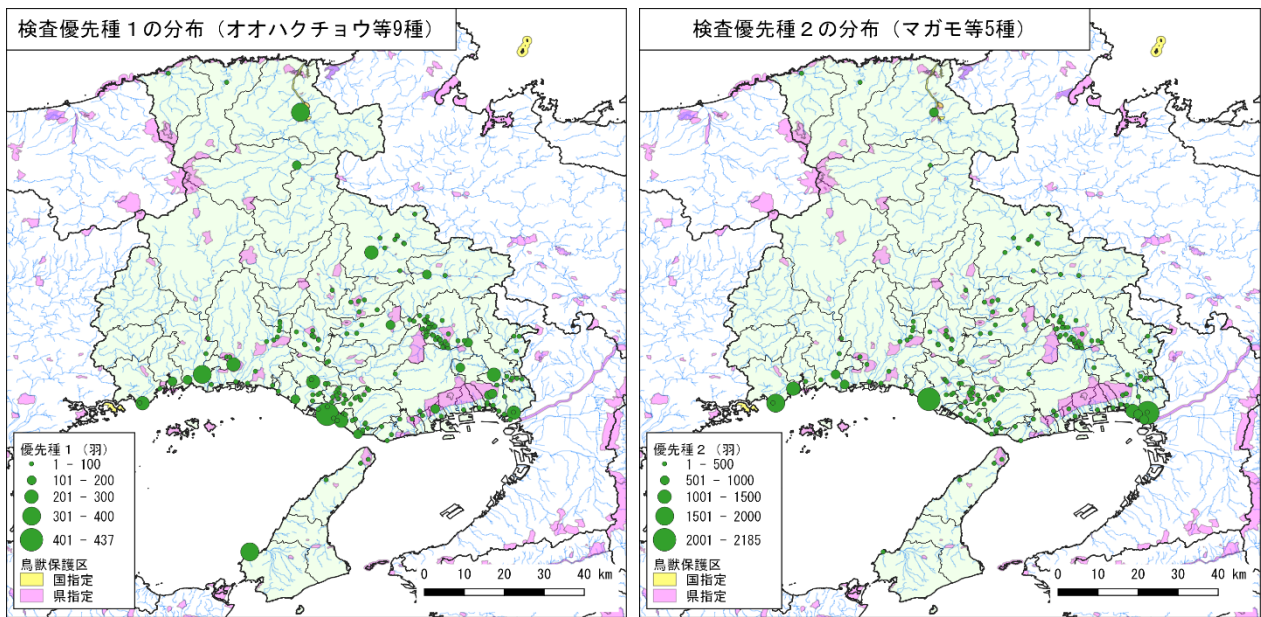


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（兵庫県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種 1 のうち、合計 9 種の年平均個体数 (H28～R3 年) の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	明石市	364	瀬戸川河口	437
2	たつの市、宍粟市	601	揖保川	376
3	洲本市	901	西浦海岸	325
4	豊岡市	702	円山川下流出石川	322
5	赤穂市	603	赤穂海浜公園	299

【検査優先種 2 のうち、合計 5 種の年平均個体数 (H28～R3 年) の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	尼崎市	114	臨海部	2,185
2	加古川市	9914	加古川河口	2,038
3	赤穂市	603	赤穂海浜公園	1,729
4	西宮市	104	浜甲子園	1,380
5	赤穂市	606	坂越港	1,113

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（兵庫県）

奈良県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の奈良県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

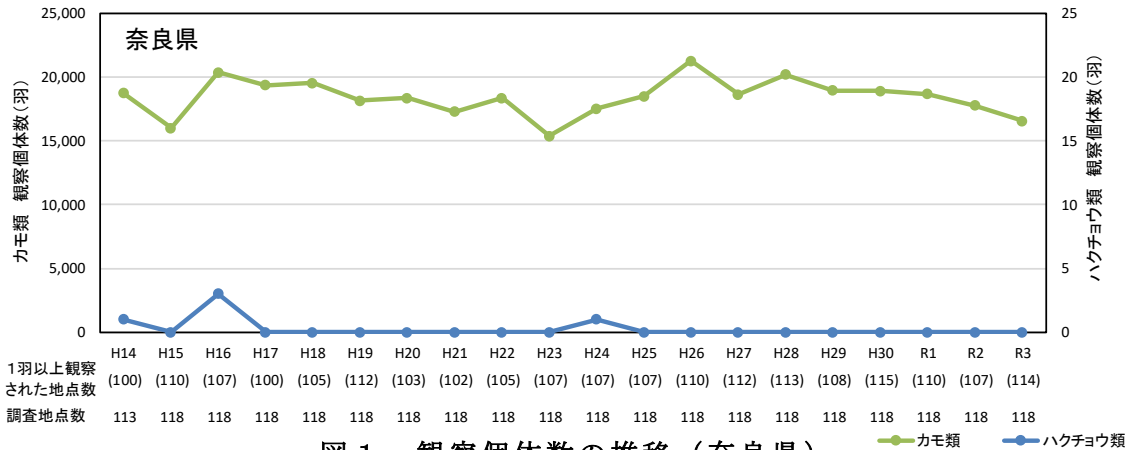
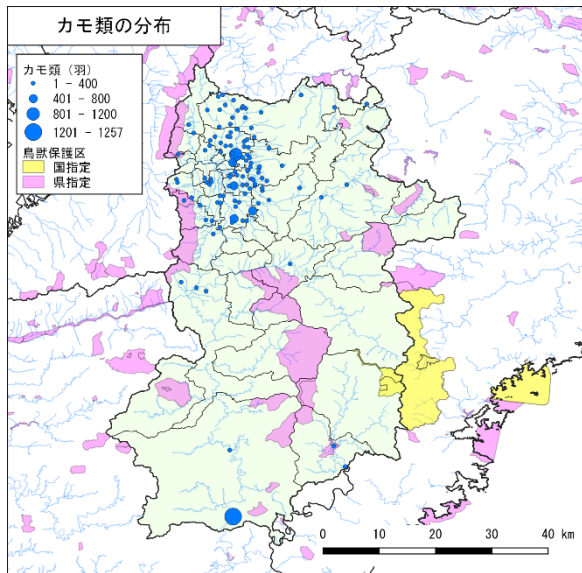


図 1 観察個体数の推移（奈良県）

2. 県内における類ごとの分布図

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。



【カモ類の観察個体数の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	十津川村	44	二津野ダム	1,257
2	大和郡山市・奈良市	120	佐保川	835
3	田原本町	93	薬王寺池	763
4	王寺町・安堵町・川西町	43	大和川	722
5	橿原市	27	東池尻古池	524

図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（奈良県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

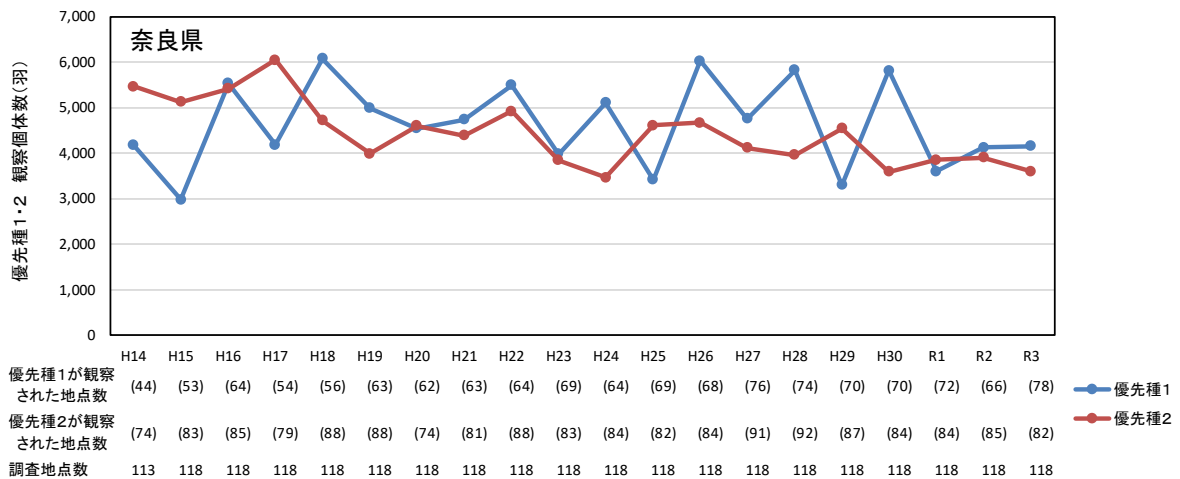
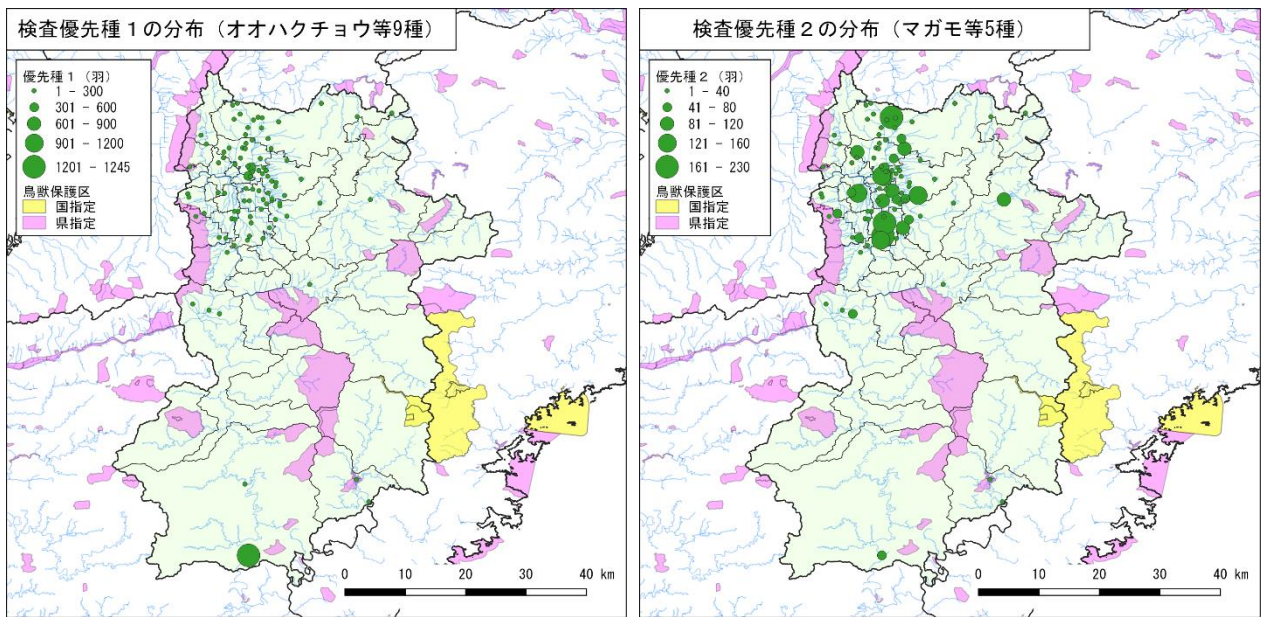


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（奈良県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種 1 のうち、合計 9 種の年平均個体数 (H28～R3 年) の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	十津川村	44	二津野ダム	1,245
2	玉寺町・安堵町・川西町	43	大和川	380
3	大和郡山市・奈良市	120	佐保川	338
4	下北山村	45	七色ダム	278
5	十津川村	111	風屋貯水地	249

【検査優先種 2 のうち、合計 5 種の年平均個体数 (H28～R3 年) の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	橿原市	24	深田池	230
2	奈良市	2	水上池	188
3	橿原市	114	小綱池	167
4	川西町	36	下永池	158
5	天理市	17	崇神天皇陵の濠	147

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（奈良県）

和歌山県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の和歌山県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

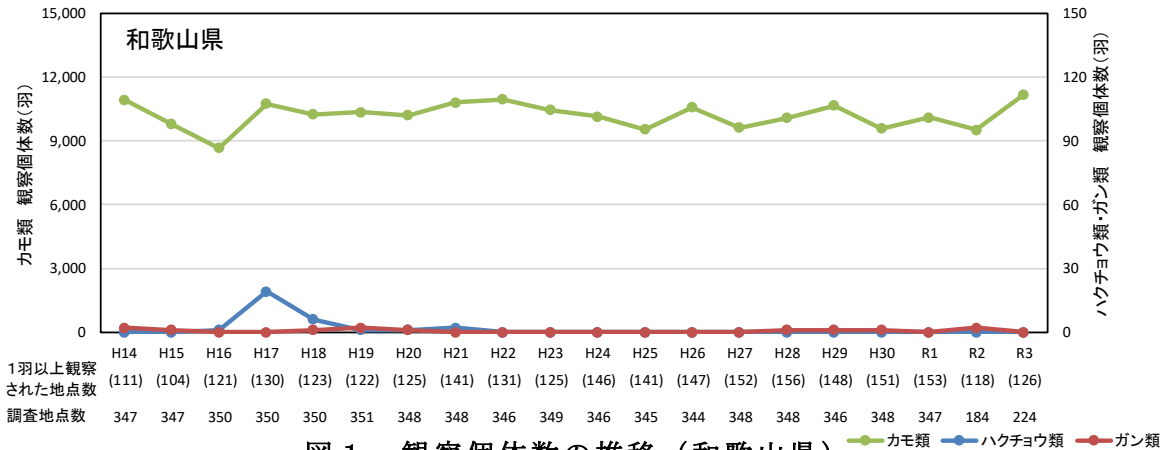
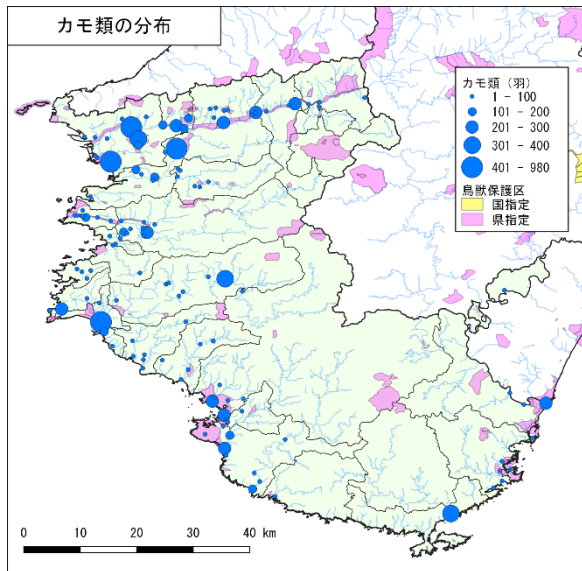


図 1 観察個体数の推移（和歌山県）

2. 県内における類ごとの分布図

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。



【カモ類の観察個体数の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
カモ類	1	紀の川市(貴志川町)	2,501 平池-貴志川	980
	2	和歌山市	1,123 和歌川	876
	3	和歌山市	1,101 紀の川一下流域	807
	4	御坊市	5,111 日高川下流域	512
	5	串本町(古座町)	8,401 古座川河口-古座地点	398

図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（和歌山県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

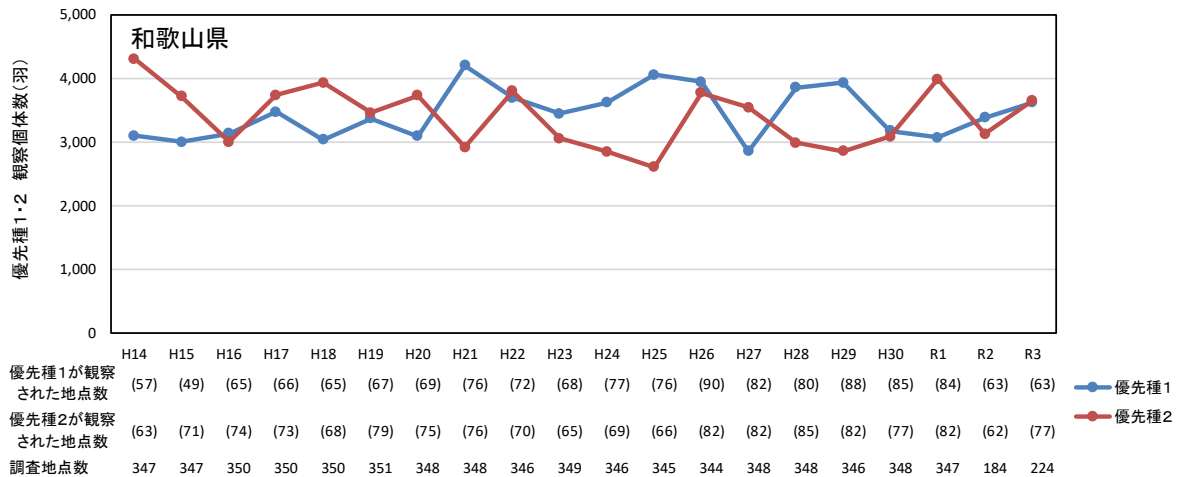
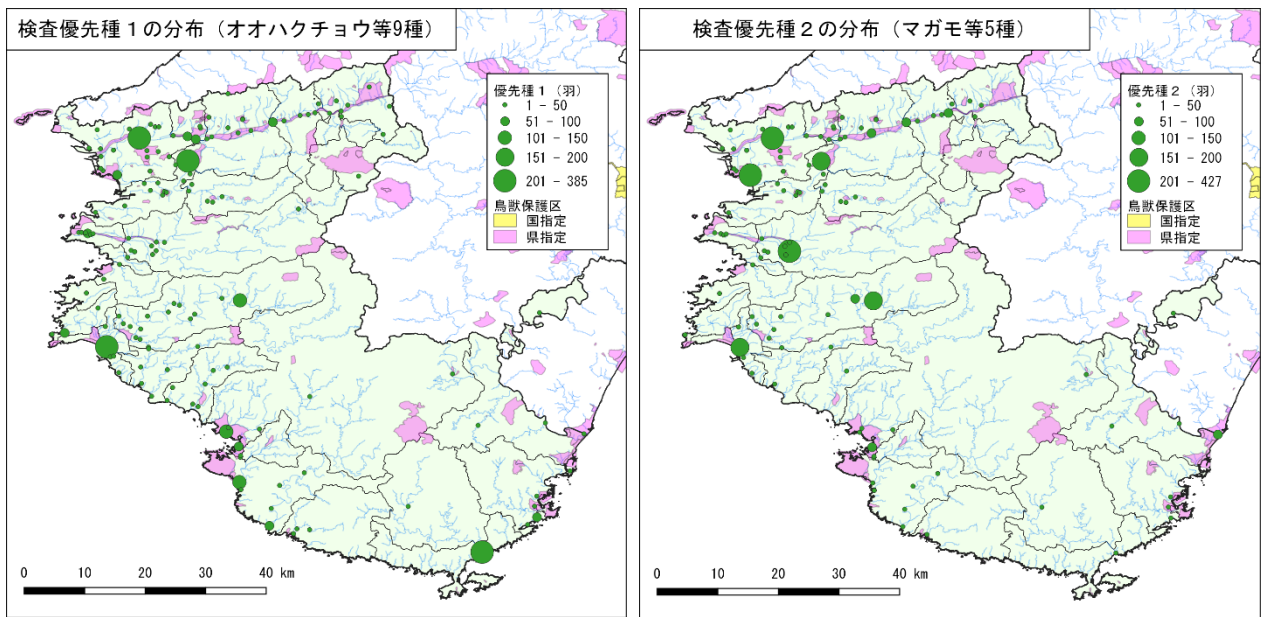


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（和歌山県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種 1 のうち、合計 9 種の年平均個体数 (H28～R3 年) の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	御坊市	5111	日高川下流域	385
2	串本町(古座町)	8401	古座川河口-古座地点	270
3	和歌山市	1101	紀の川-下流域	254
4	紀の川市(貴志川町)	2501	平池-貴志川	248
5	白浜町	7202	富田川-河口	134

【検査優先種 2 のうち、合計 5 種の年平均個体数 (H28～R3 年) の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	和歌山市	1123	和歌川	427
2	和歌山市	1101	紀の川-下流域	280
3	有田川町(吉備町)	4408	平池-徳田	213
4	紀の川市(貴志川町)	2501	平池-貴志川	171
5	御坊市	5111	日高川下流域	170

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（和歌山県）

鳥取県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の鳥取県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

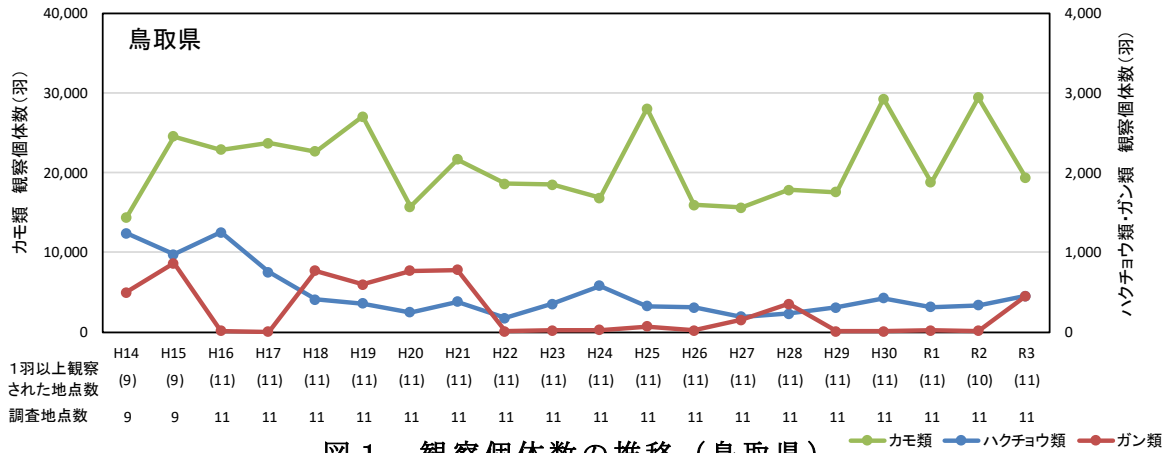
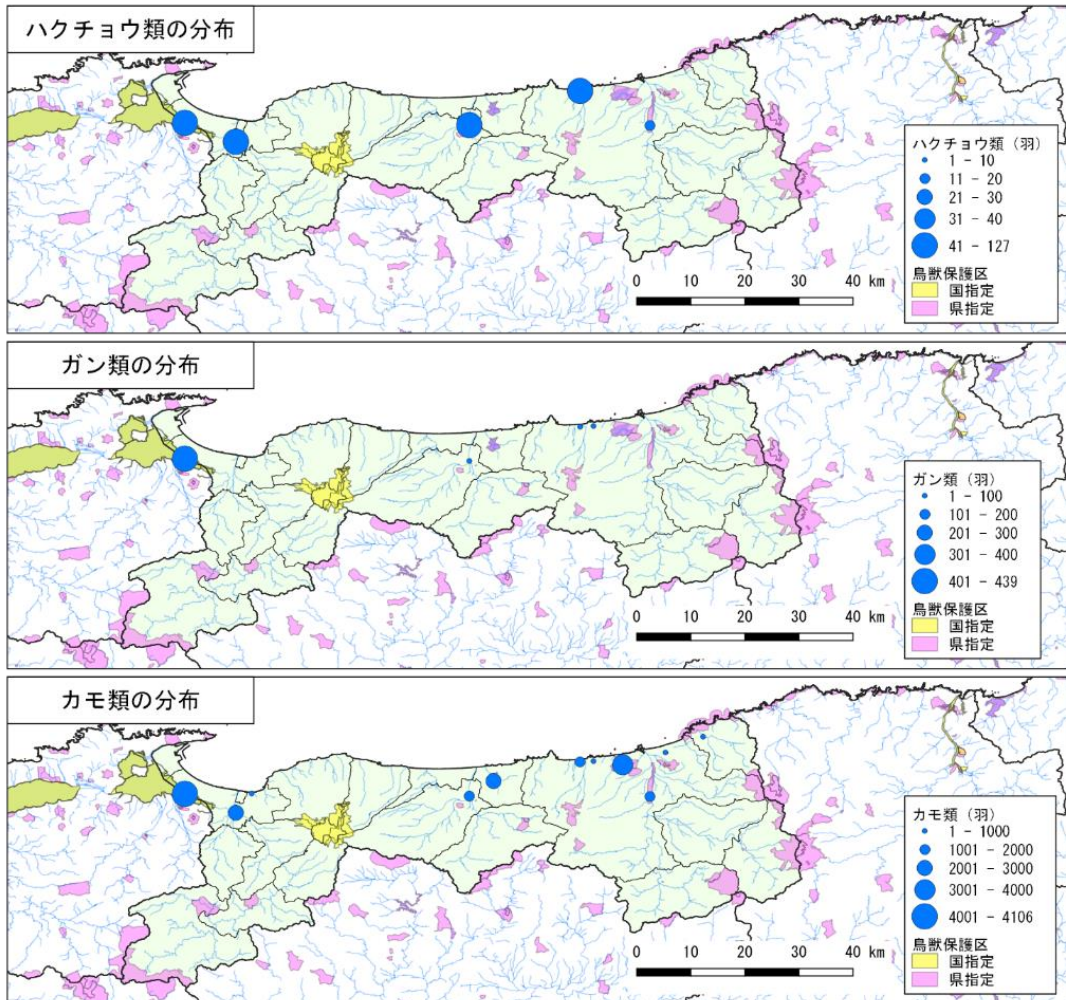


図 1 観察個体数の推移（鳥取県）

2. 県内における類ごとの分布

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。



【ハクチョウ類、ガン類、カモ類の観察個体数の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数	No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数	No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数			
ハク チ ョ ウ 類	1	鳥取市	11	日光池	127	ガ ン 類	1	米子市ほか	9	中海	439	カ モ 類	1	米子市ほか	9	中海	4,106
	2	倉吉市ほか	7	天神川	121		2	鳥取市	11	日光池	9		2	鳥取市	4	湖山池	3,341
	3	米子市ほか	9	中海	100		3	鳥取市	5	水尻池	7		3	米子市ほか	8	日野川	2,577
	4	米子市ほか	8	日野川	89		4	倉吉市ほか	7	天神川	1		4	湯梨浜町	6	東郷池	2,180
	5	鳥取市ほか	3	千代川	18		5						5	倉吉市ほか	7	天神川	1,925

図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（鳥取県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

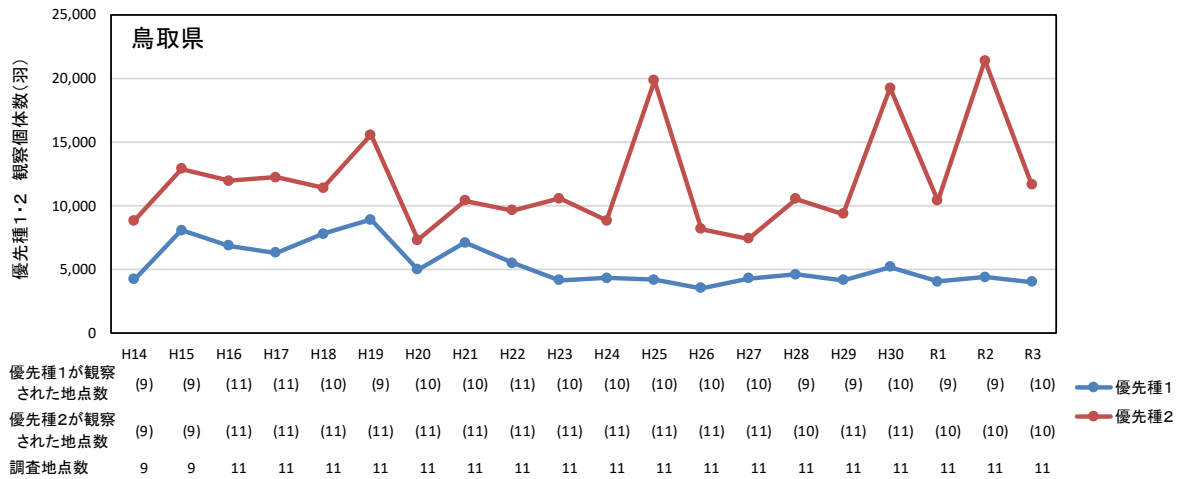
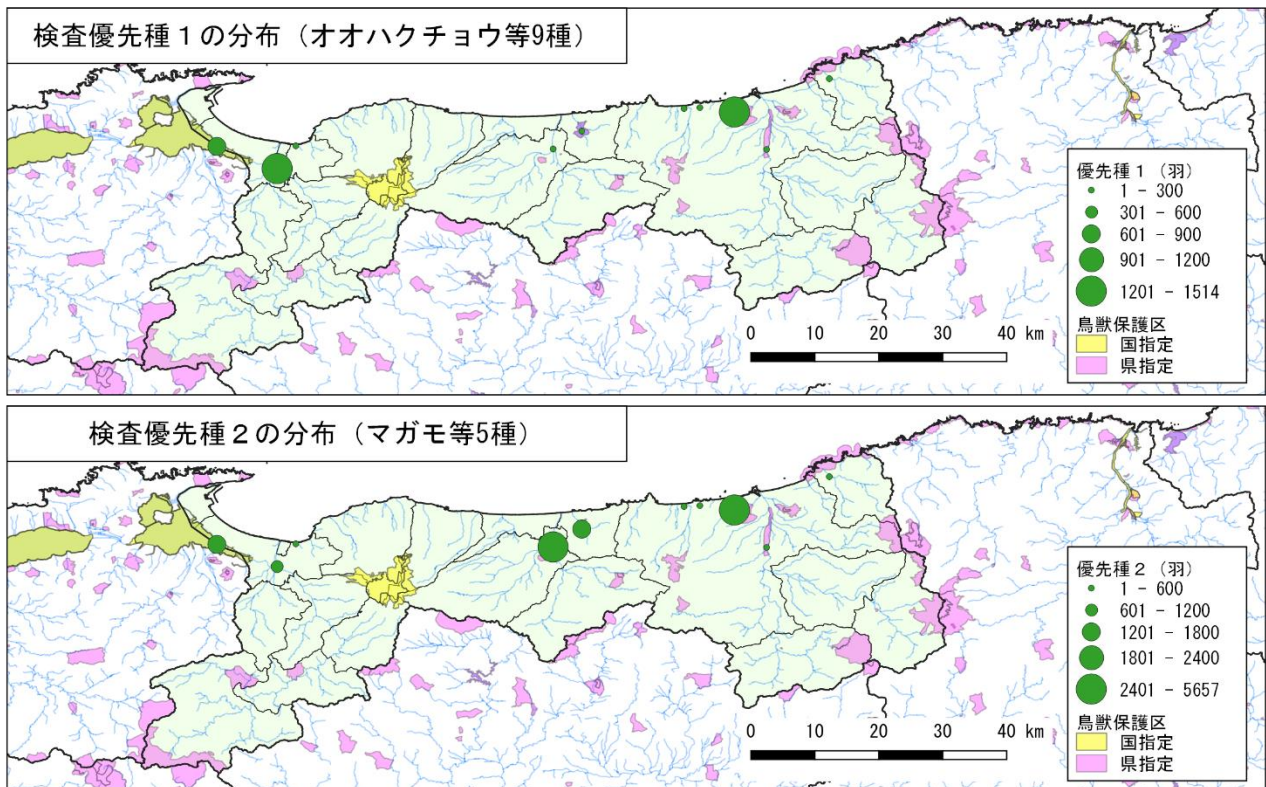


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（鳥取県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	鳥取市	4	湖山池	1,514
2	米子市ほか	8	日野川	1,282
3	米子市ほか	9	中海	718
4	鳥取市ほか	3	千代川	242
5	倉吉市ほか	7	天神川	200

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	倉吉市ほか	7	天神川	5,657
2	鳥取市	4	湖山池	2,749
3	米子市ほか	9	中海	1,682
4	湯梨浜町	6	東郷池	1,274
5	米子市ほか	8	日野川	917

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（鳥取県）

島根県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の島根県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

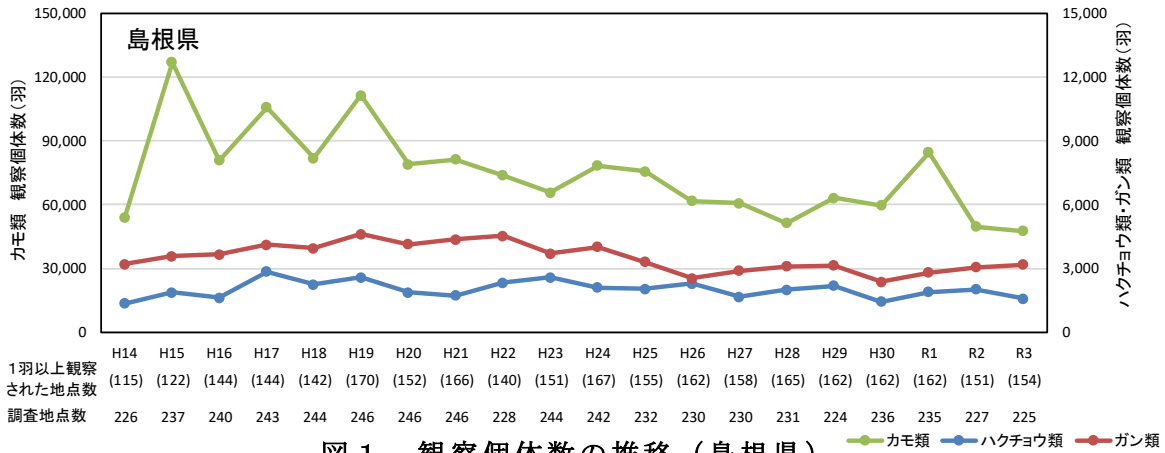


図 1 観察個体数の推移（島根県）

2. 県内における類ごとの分布

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。

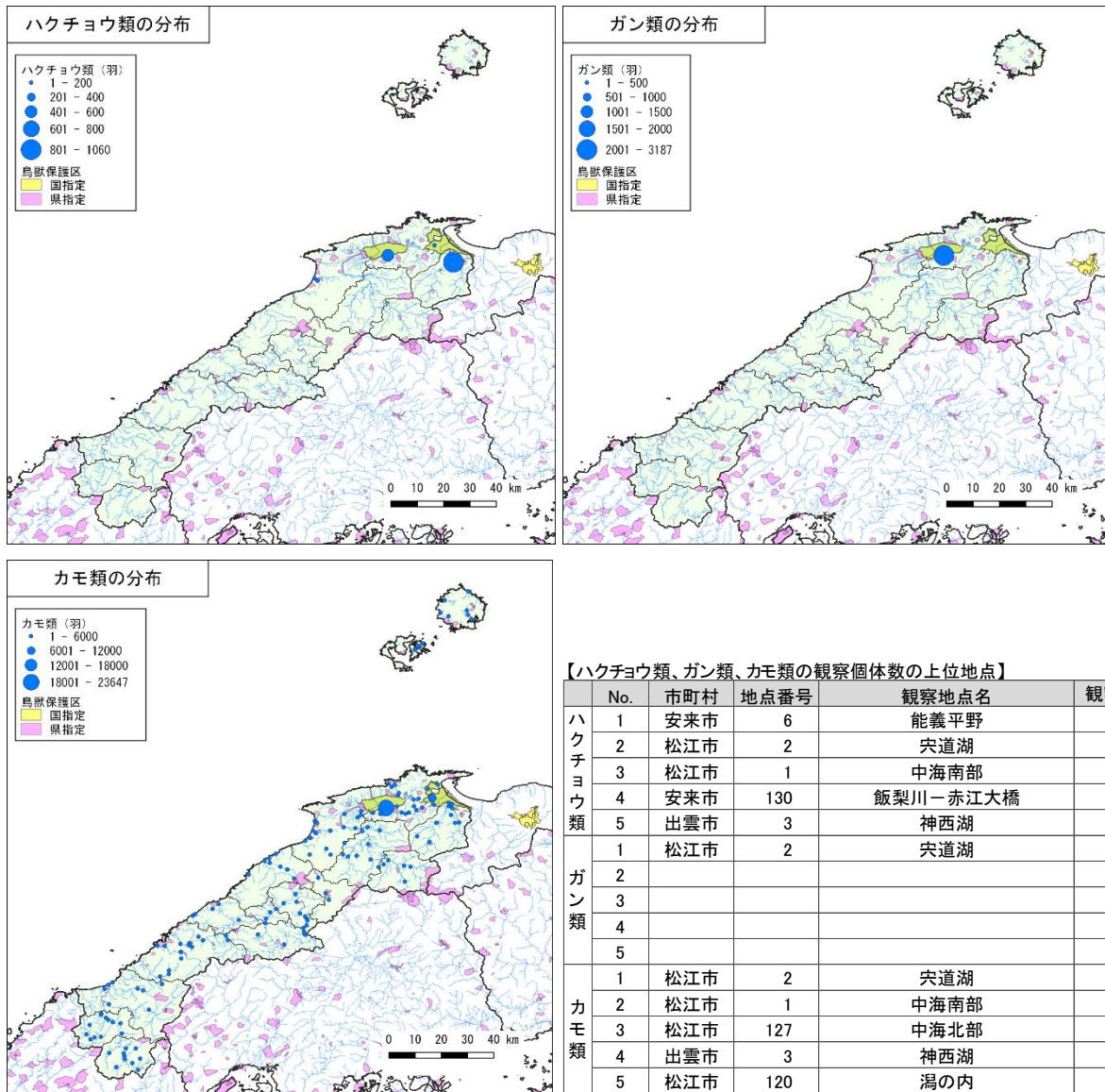


図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（島根県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

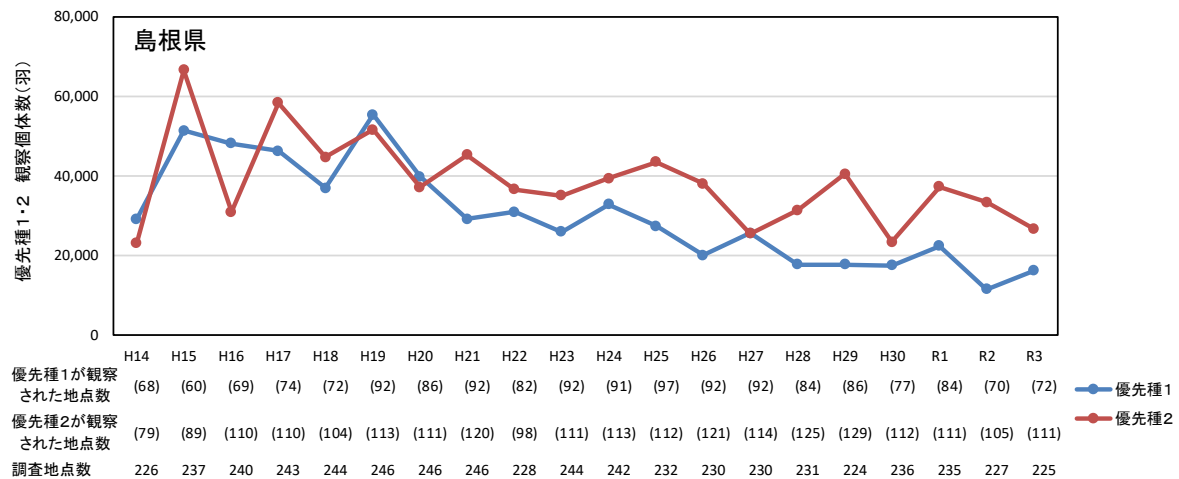
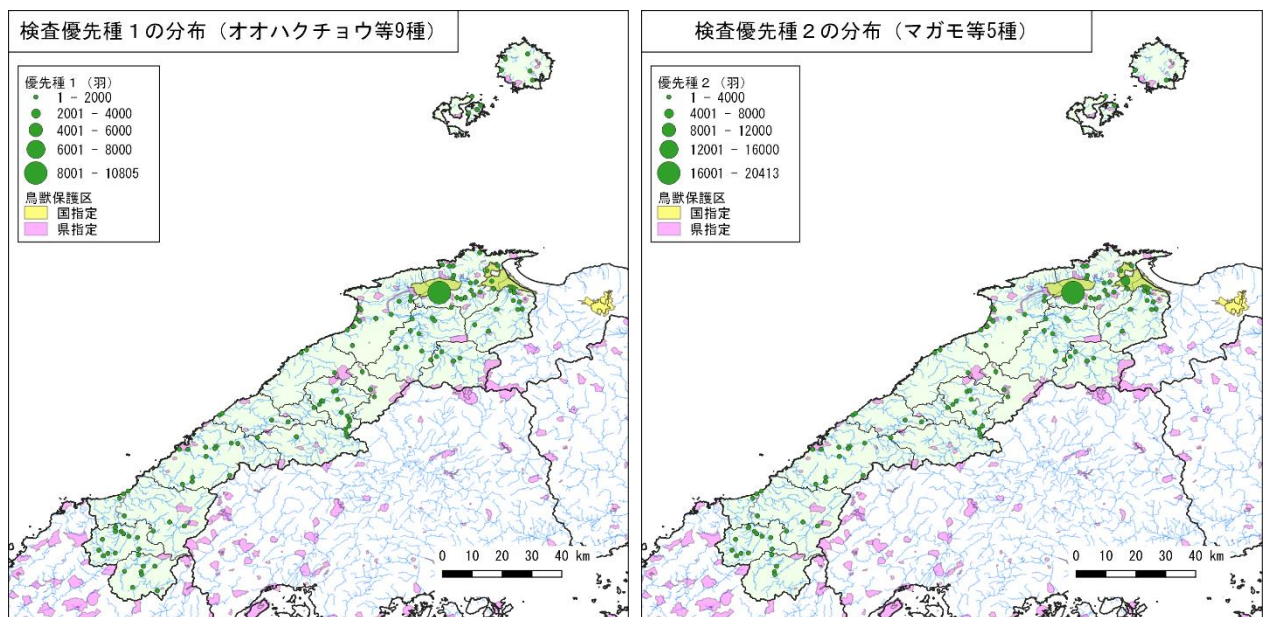


図3 検査優先種1、2の観察個体数の推移（島根県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	松江市	2	宍道湖	10,805
2	松江市	1	中海南部	1,701
3	安来市	6	能義平野	1,148
4	出雲市	3	神西湖	732
5	松江市	127	中海北部	307

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	松江市	2	宍道湖	20,413
2	松江市	1	中海南部	5,369
3	出雲市	3	神西湖	1,064
4	松江市	127	中海北部	685
5	出雲市	352	斐伊川—今在家	651

図4 検査優先種1、2の分布状況及び観察個体数上位地点（島根県）

岡山県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の岡山県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

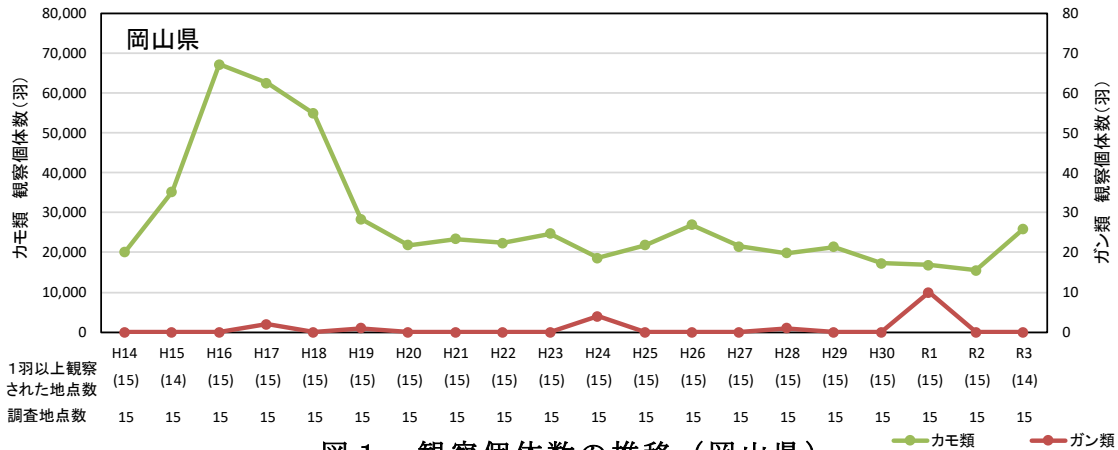
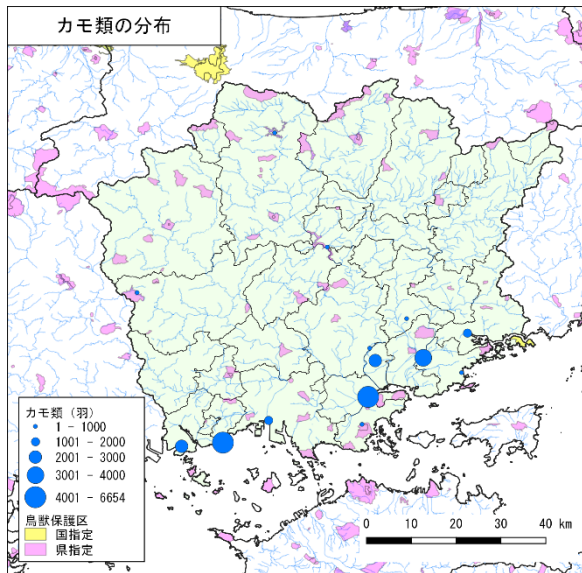


図 1 観察個体数の推移（岡山県）

2. 県内における類ごとの分布図

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。



【カモ類の観察個体数の上位地点】

	No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
カモ類	1	浅口市	15	寄島干拓	6,654
	2	岡山市	1	児島湖・阿部池	4,733
	3	岡山市	13	吉井川	3,699
	4	岡山市	2	百間川	2,781
	5	笠岡市	7	笠岡湾干拓地	2,213

図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（岡山県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

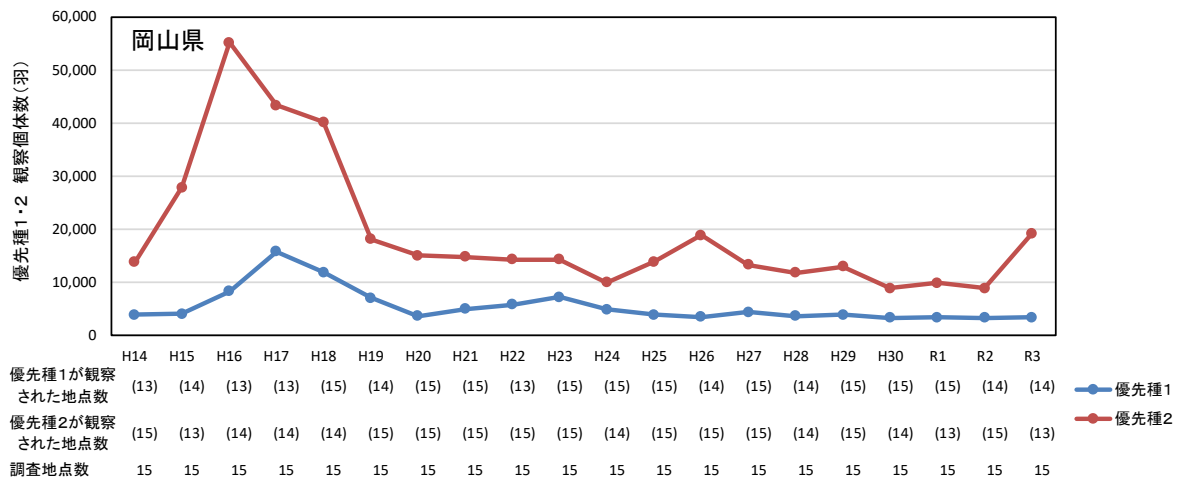
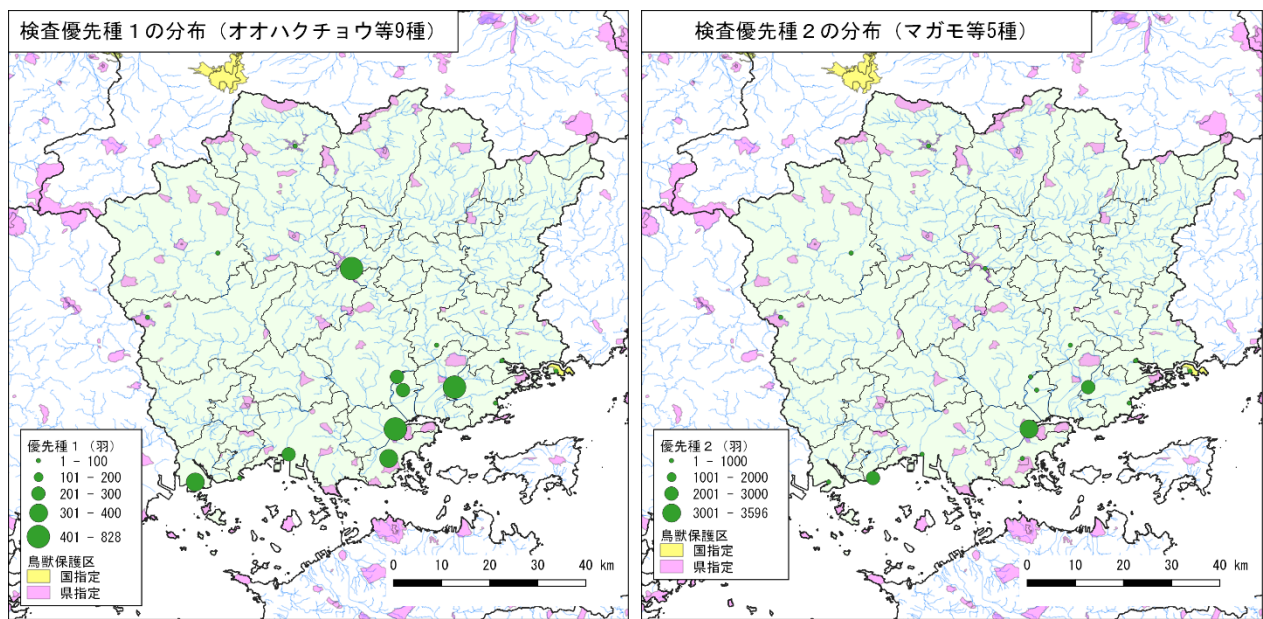


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（岡山県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種 1 のうち、合計 9 種の年平均個体数 (H28～R3 年) の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	岡山市	1	児島湖・阿部池	828
2	岡山市	13	吉井川	472
3	美咲町	4	旭川ダム	410
4	玉野市	11	深山公園	350
5	笠岡市	7	笠岡湾干拓地	306

【検査優先種 2 のうち、合計 5 種の年平均個体数 (H28～R3 年) の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	岡山市	1	児島湖・阿部池	3,596
2	岡山市	13	吉井川	2,942
3	浅口市	15	寄島干拓	2,037
4	笠岡市	7	笠岡湾干拓地	630
5	岡山市	2	百間川	595

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（岡山県）

広島県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の広島県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

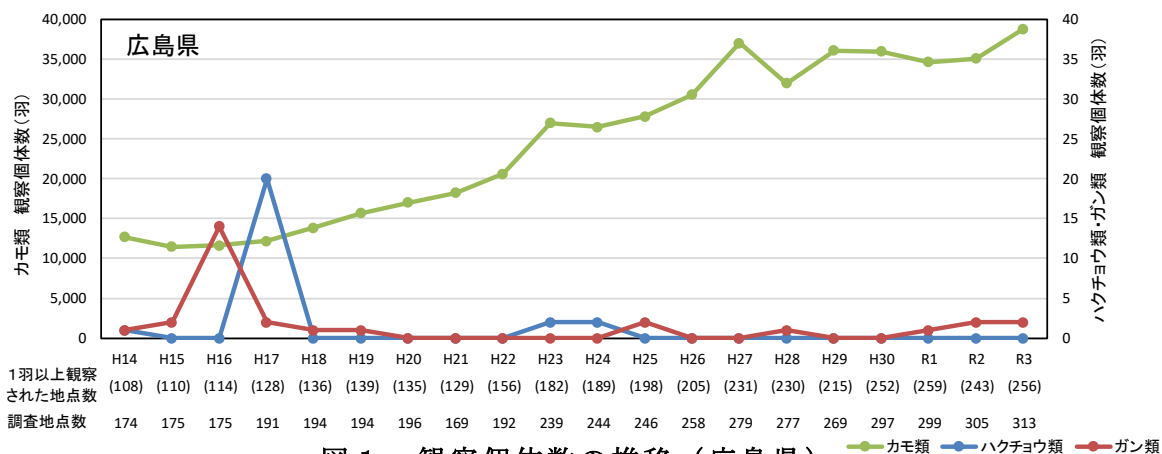
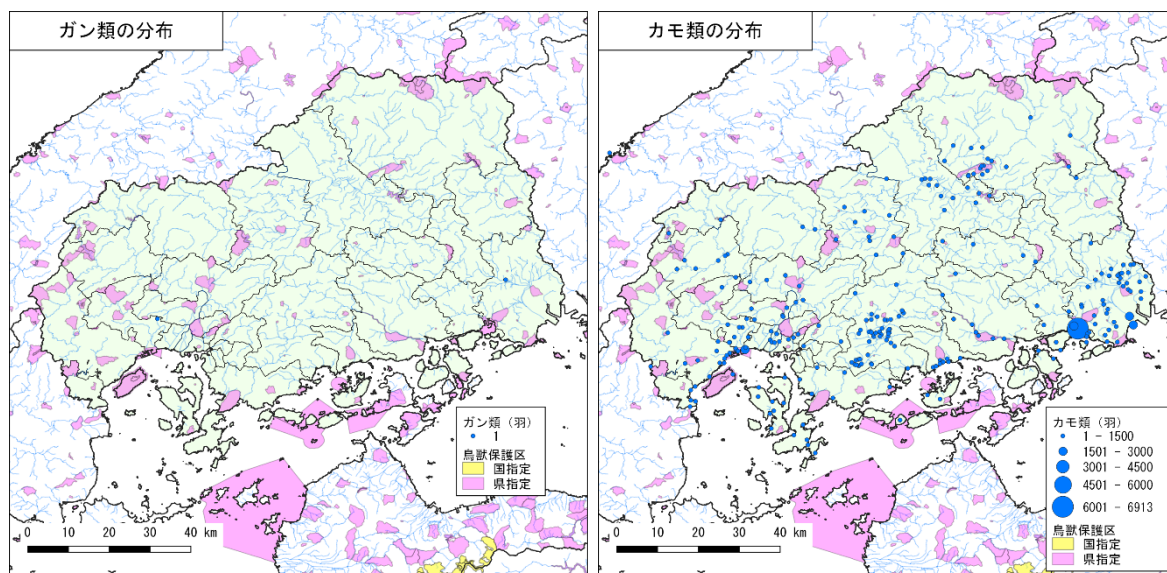


図 1 観察個体数の推移（広島県）

2. 県内における類ごとの分布

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。



【ガン類、カモ類の観察個体数の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数	No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数		
ガン類	1	福山市	5,002	芦田川上流—上前原橋～大渡橋	1	カモ類	1	福山市	5,003	松永湾	6,913
	2	広島市	9,010	梶毛ダム	1		2	福山市	5,039	田尻町沖	2,105
	3						3	広島市	37	八幡川河口埋立地	2,015
	4						4	福山市	5,001	芦田川下流—大渡橋～河口大橋	1,954
	5						5	尾道市	4,003	東尾道地先	1,563

図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（広島県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

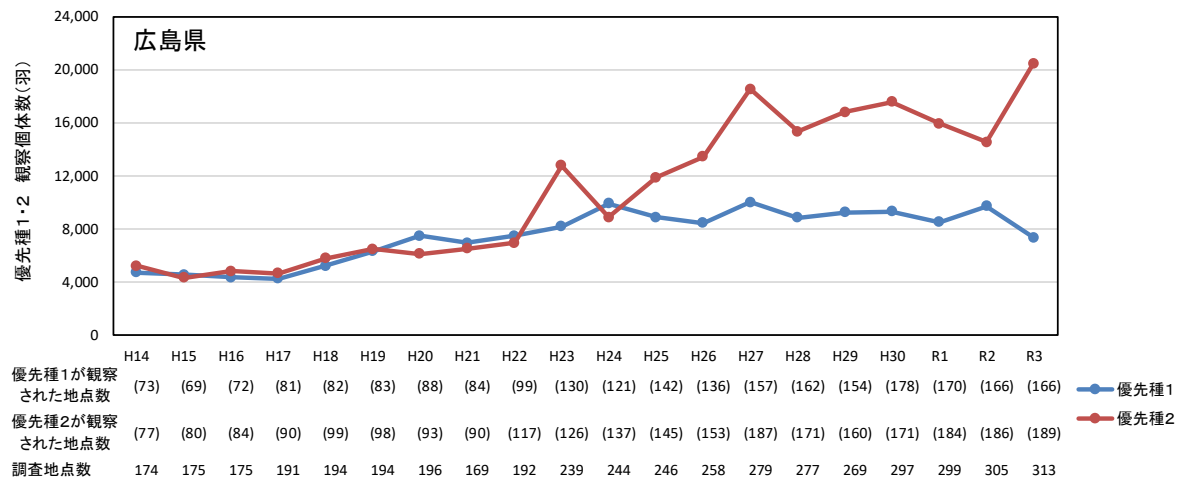
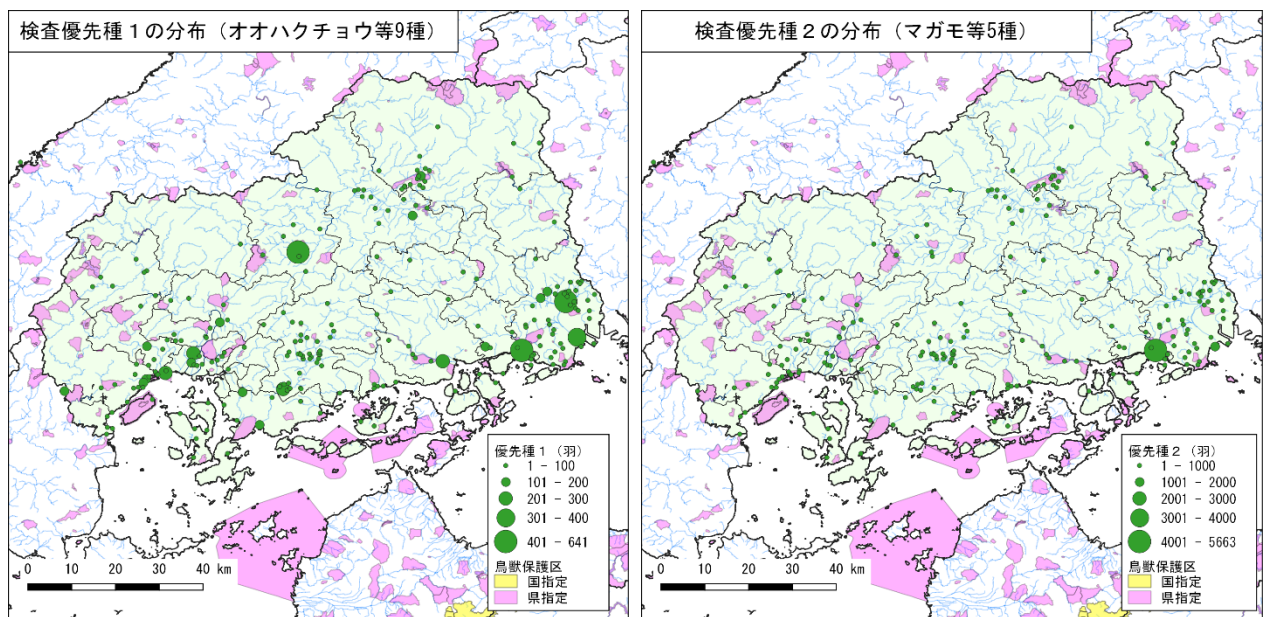


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（広島県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	安芸高田市	2011	江の川－安芸高田市	641
2	福山市	5033	高屋川－芦田川合流地点～岡山県境	442
3	福山市	5003	松永湾	437
4	福山市	5001	芦田川下流－大渡橋～河口大橋	319
5	広島市	9004	太田川(放水路)	290

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	福山市	5003	松永湾	5663
2	福山市	5039	田尻町沖	1,326
3	大崎上島町	1011	入相池(大串)	954
4	福山市	5001	芦田川下流－大渡橋～河口大橋	764
5	三原市	4019	沼田川－納所橋～河口	534

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（広島県）

山口県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の山口県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

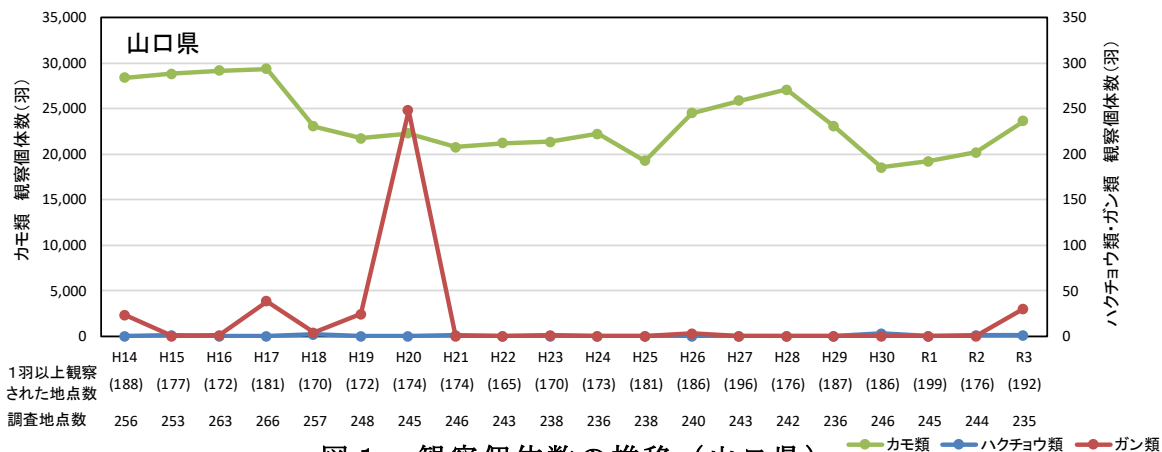


図 1 観察個体数の推移（山口県）

2. 県内における類ごとの分布

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。

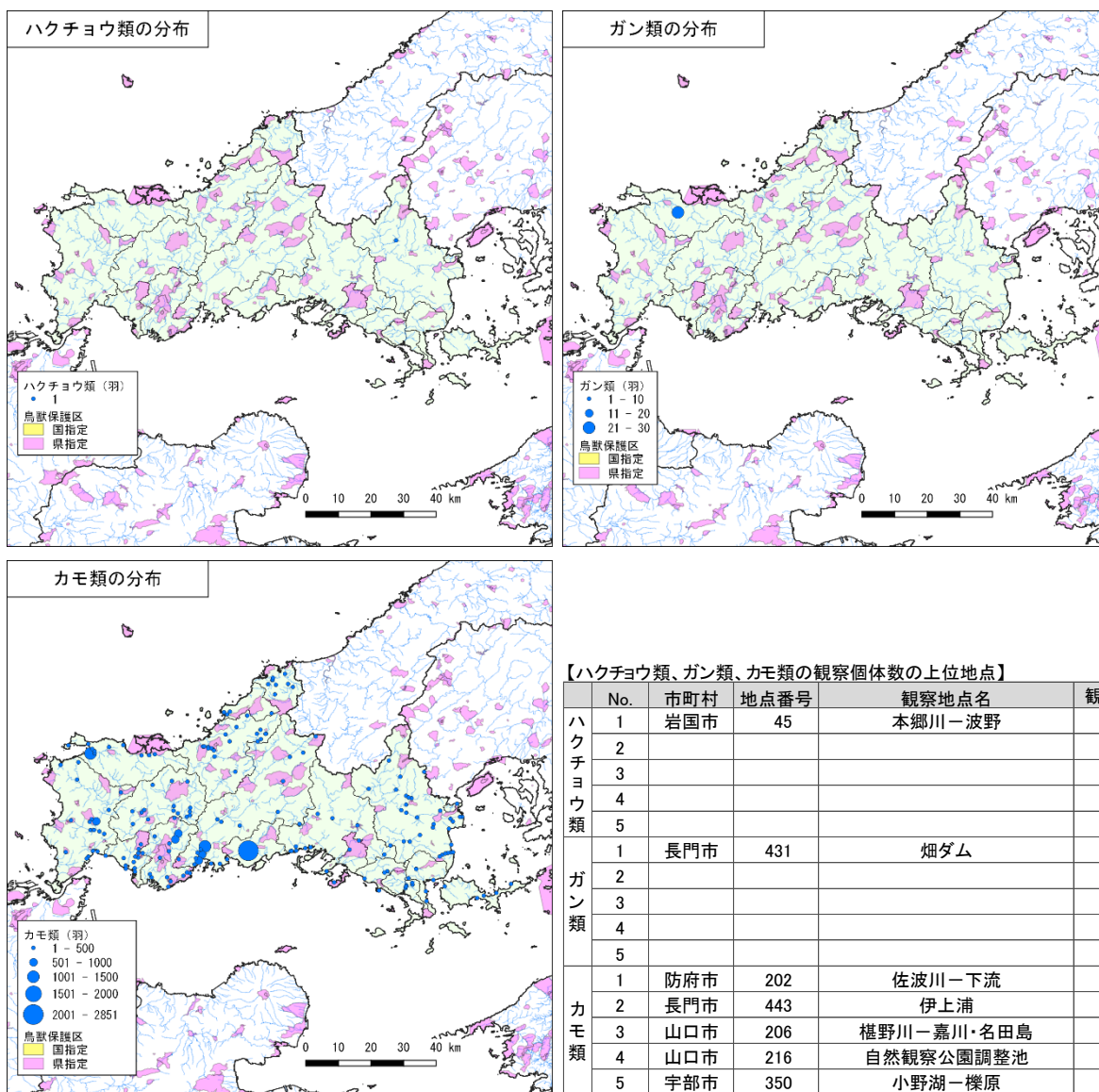


図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（山口県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

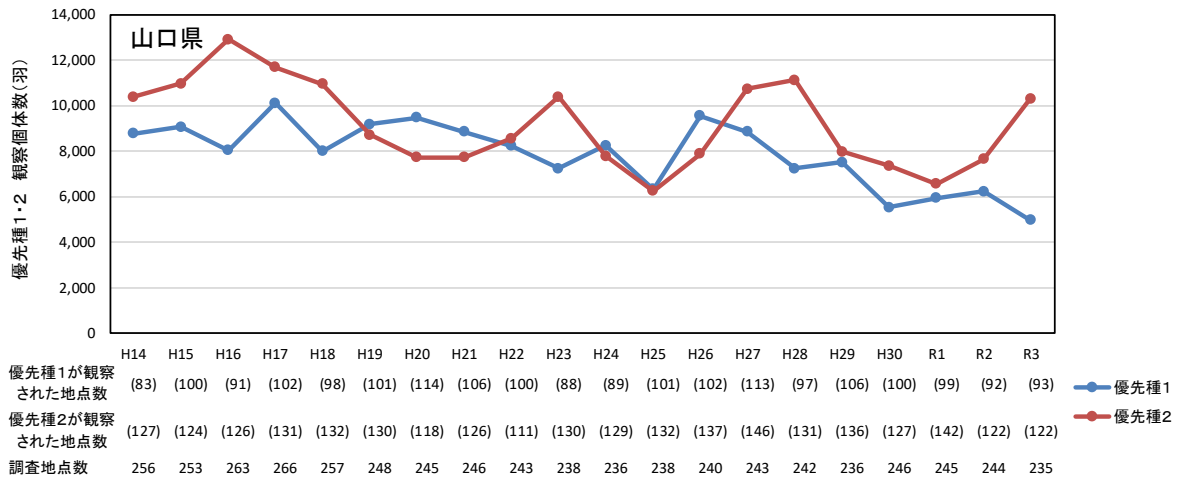
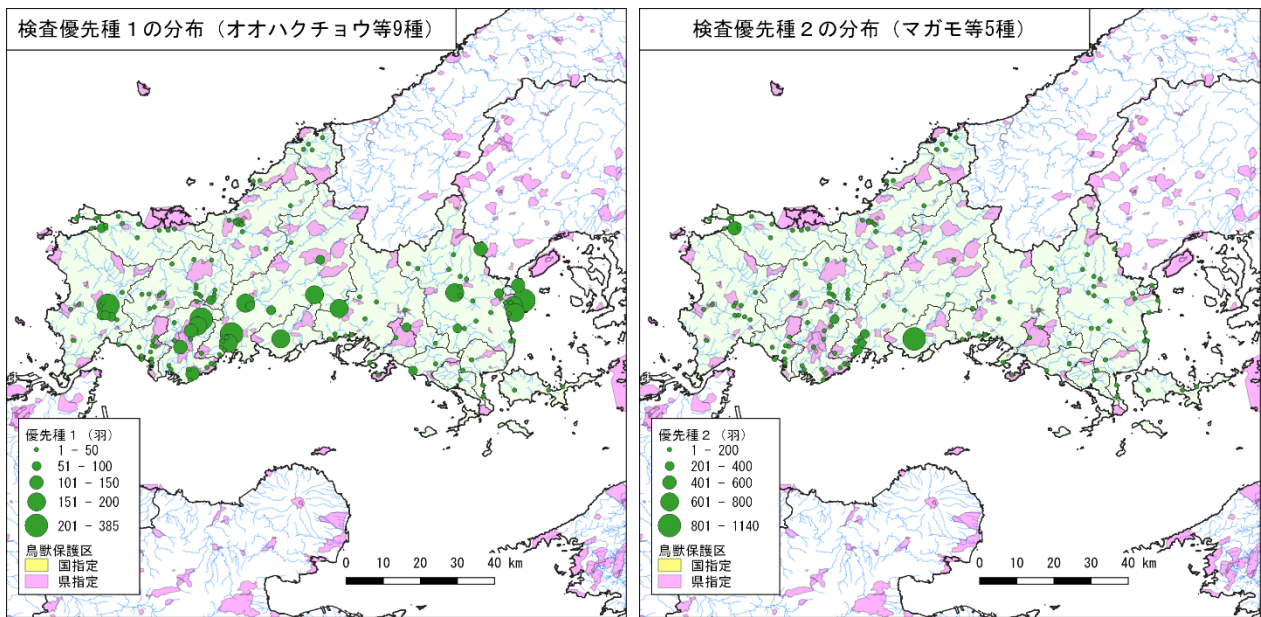


図3 検査優先種1、2の観察個体数の推移（山口県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	山口市	206	榎野川-嘉川-名田島	385
2	宇部市	349	小野湖-両川	306
3	下関市	419	湯の原ダム	293
4	岩国市	13	錦川-今津河口	272
5	岩国市	15	門前川-門前	190

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	防府市	202	佐波川-下流	1,140
2	長門市	443	伊上浦	454
3	山口市	206	榎野川-嘉川-名田島	380
4	山口市	207	山口湾-秋穂二島	287
5	宇部市	349	小野湖-両川	274

図4 検査優先種1、2の分布状況及び観察個体数上位地点（山口県）

徳島県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の徳島県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

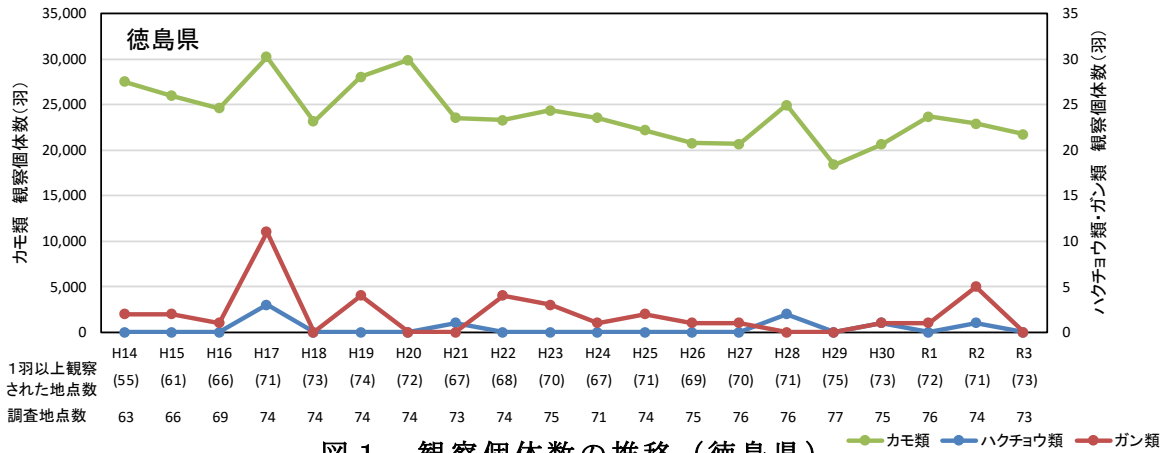
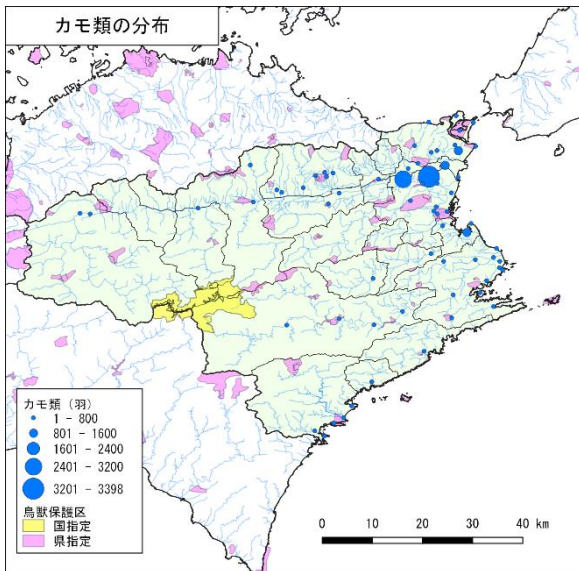


図 1 観察個体数の推移（徳島県）

2. 県内における類ごとの分布

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。



【カモ類の観察個体数の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
カモ類	徳島市、北島町、松茂町	3	今切川	3,398
	徳島市、藍住町	6	吉野川(JR鉄橋～第十堰)	2,946
	小松島市	32	小松島湾	1,276
	鳴門市、松茂町、北島町	1	旧吉野川(河口～今切川合流)	1,153
	鳴門市	45	新池川	1,023

図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（徳島県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

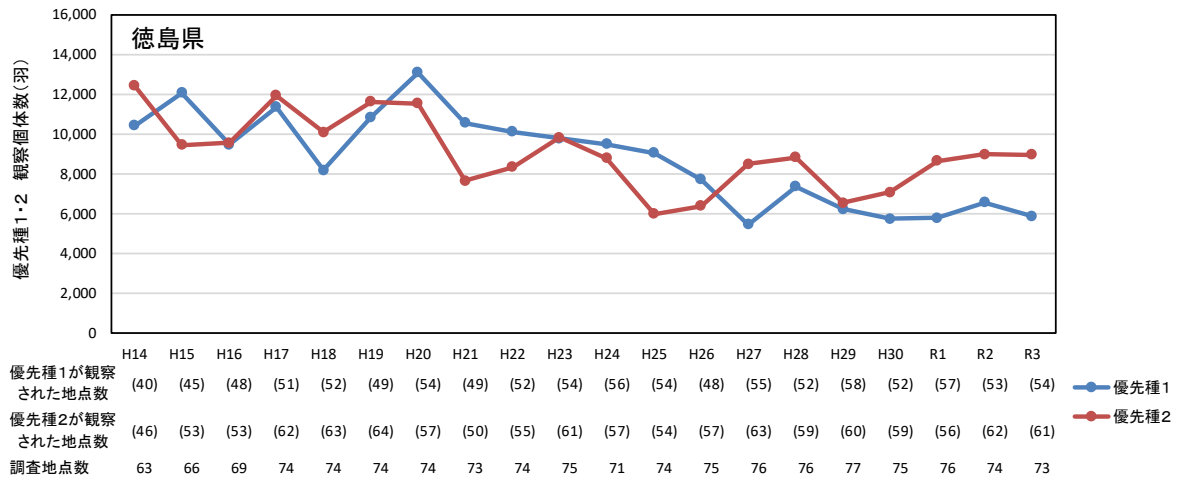
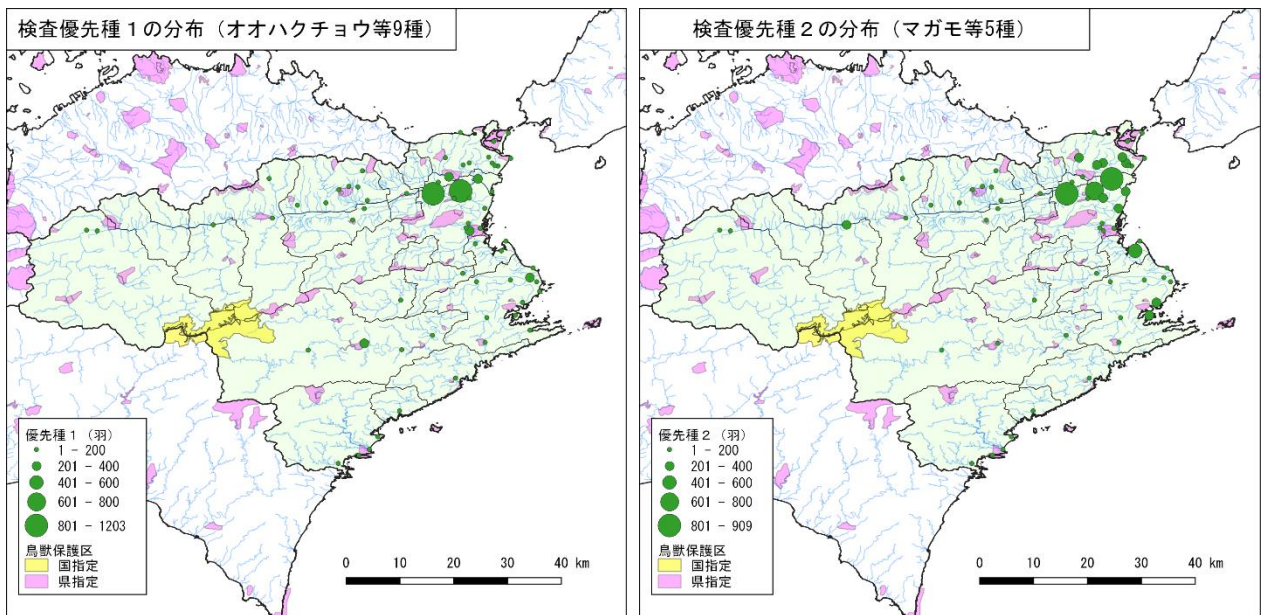


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（徳島県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	徳島市、藍住町	6	吉野川(JR鉄橋～第十堰)	1,203
2	徳島市、北島町、松茂町	3	今切川	863
3	阿南市	16	那賀川河口	311
4	那賀郡(那賀町)	25	長安ロダム	273
5	鳴門市、松茂町、北島町	1	旧吉野川(河口～今切川合流)	232

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	徳島市、藍住町	6	吉野川(JR鉄橋～第十堰)	909
2	鳴門市、松茂町、北島町	1	旧吉野川(河口～今切川合流)	811
3	徳島市、北島町、松茂町	3	今切川	683
4	小松島市	32	小松島湾	428
5	徳島市	5	吉野川(大橋～JR鉄橋)	357

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（徳島県）

香川県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の香川県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

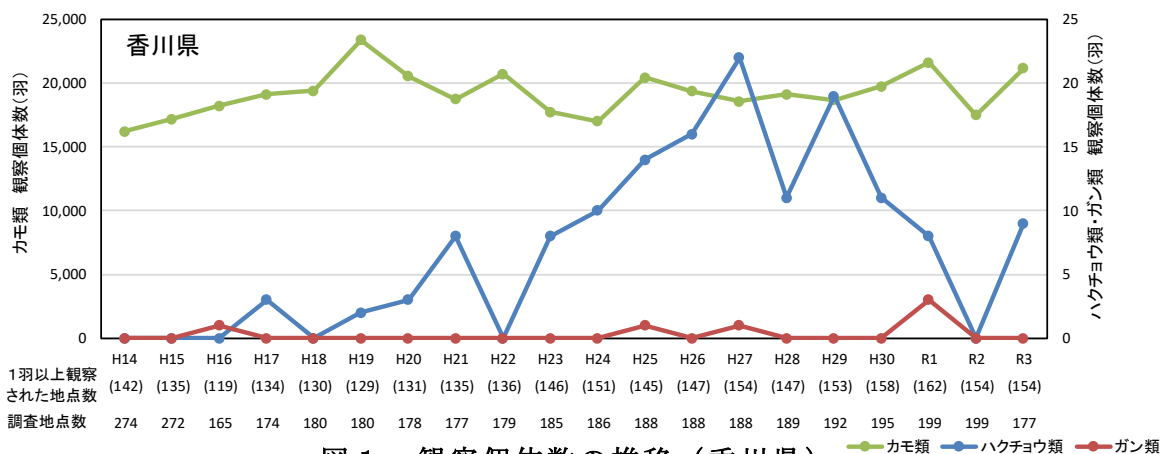
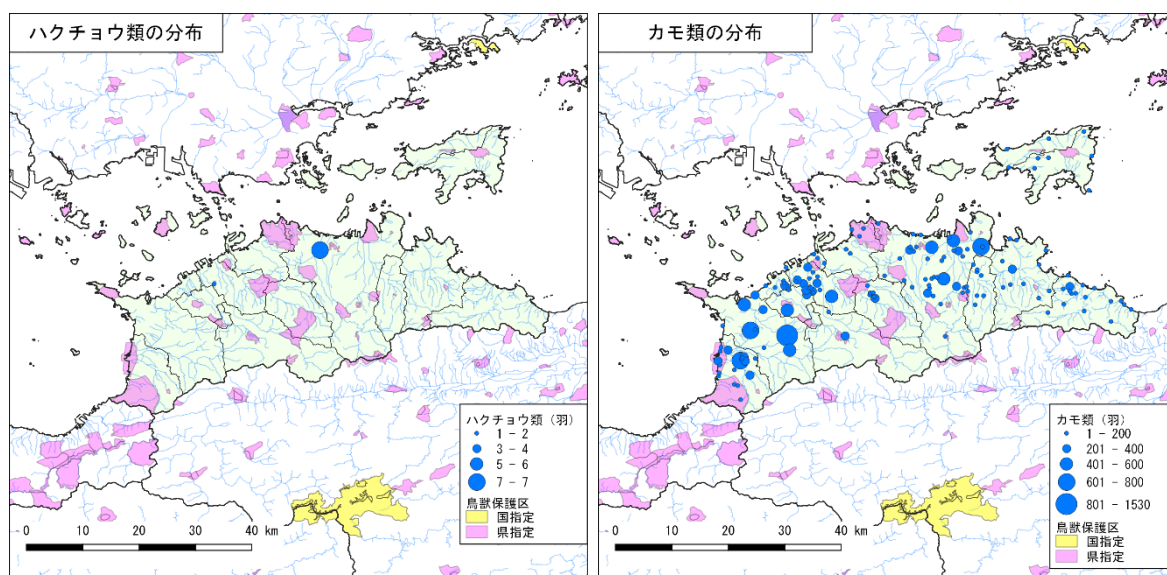


図 1 観察個体数の推移（香川県）

2. 県内における類ごとの分布

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。



【ハクチョウ類、カモ類の観察個体数の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数	No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数		
ハク チ ョ ウ 類	1	高松市	303	高月池	7	カ モ 類	1	高瀬町	125	岩瀬池	1,530
	2	丸亀市	38	太井池	2		2	高松市	89	羽間上池	798
	3						3	観音寺市	159	観音寺池・出作池	680
	4						4	三豊市	14	勝田池	672
	5						5	山本町	322	宝山湖	471

図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（香川県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

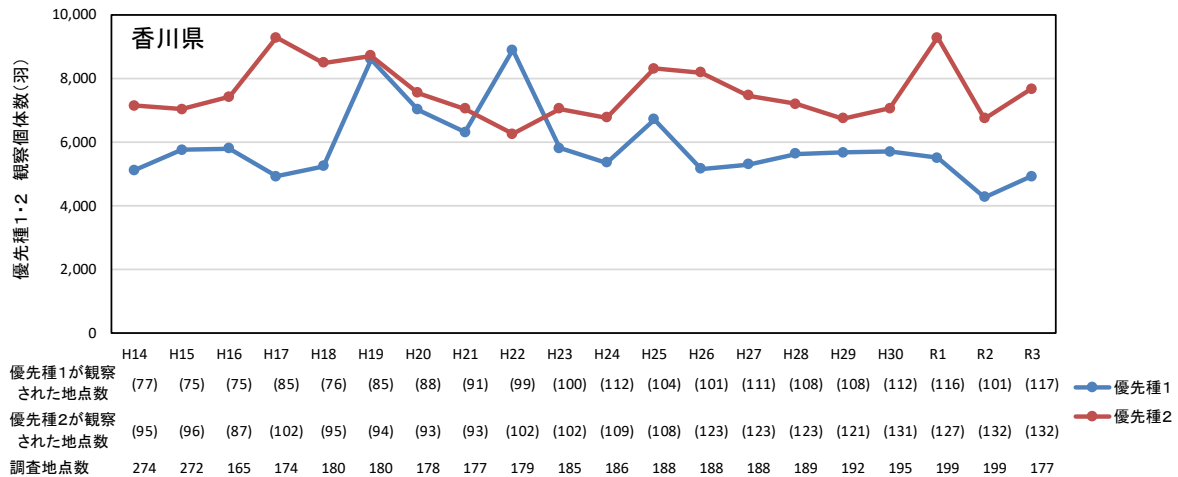
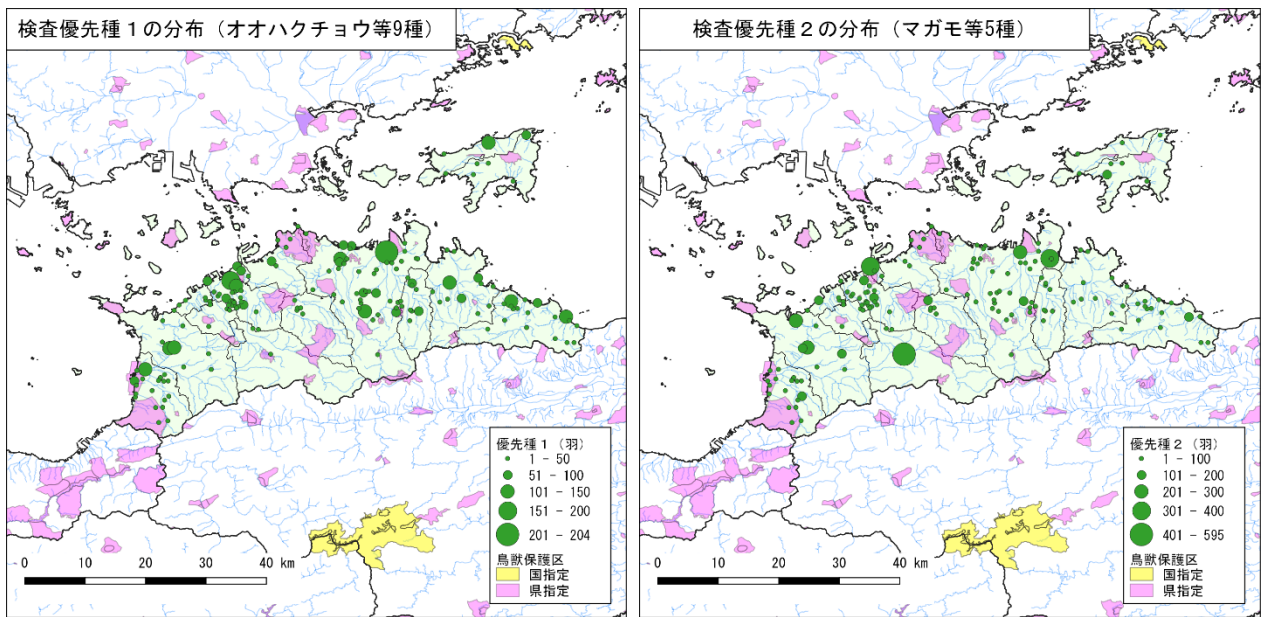


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（香川県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	高松市	70	新川、春日川河口	204
2	丸亀市	128	土器川－蓬萊橋	187
3	さぬき市	177	野間池	146
4	三豊市	15	国市池	131
5	東かがわ市	307	小海川河口	127

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	まんのう町	55	満濃池	595
2	宇多津町	239	大東川－河口	365
3	高松市	89	羽間上池	320
4	高松市	320	栗林公園	304
5	三豊市	29	高瀬川下流	287

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（香川県）

愛媛県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の愛媛県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

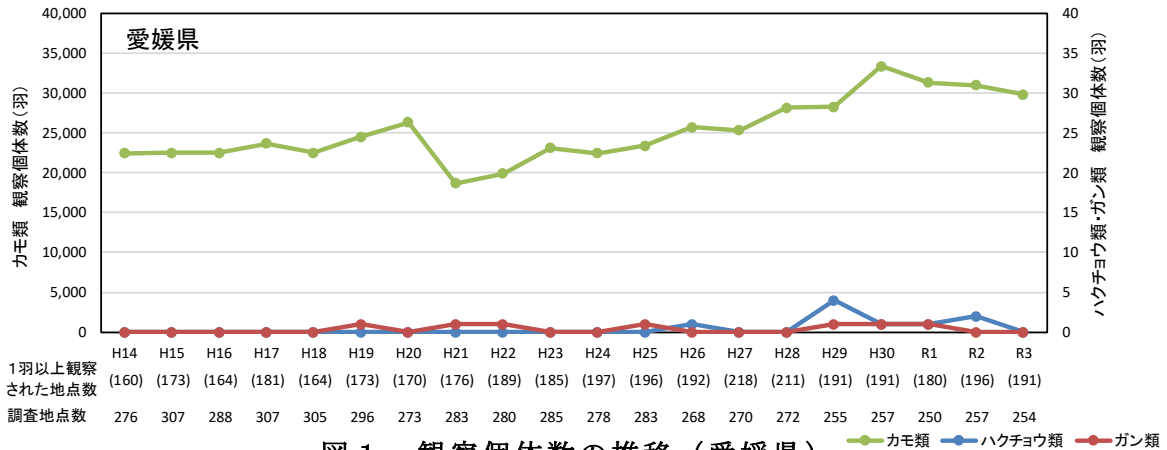
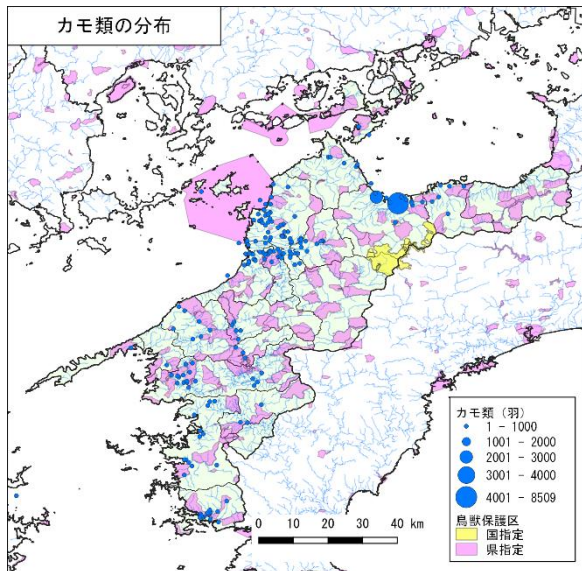


図 1 観察個体数の推移（愛媛県）

2. 県内における類ごとの分布

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。



【カモ類の観察個体数の上位地点】

		No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
カモ類	1		西条市	3	加茂川河口(河口～新加茂川大橋)	8,509
	2		西条市	435	新川河口 燧灘海域	2,336
	3		西条市	4	黒瀬ダム	984
	4		西条市	286	燧灘海域(東予港)	969
	5		宇和島市	387	岩松川(河口～山財ダム堰堤)	833

図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（愛媛県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

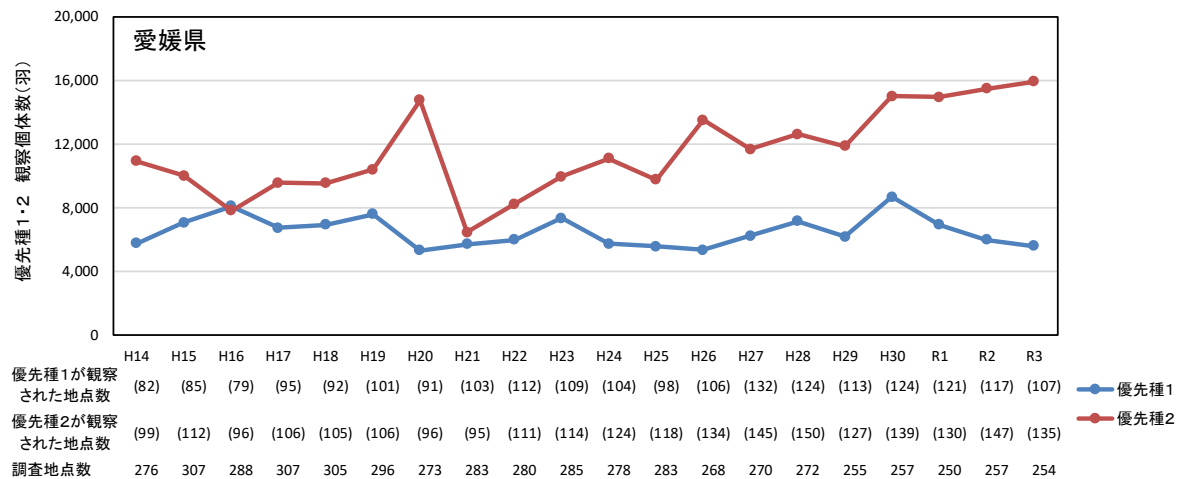
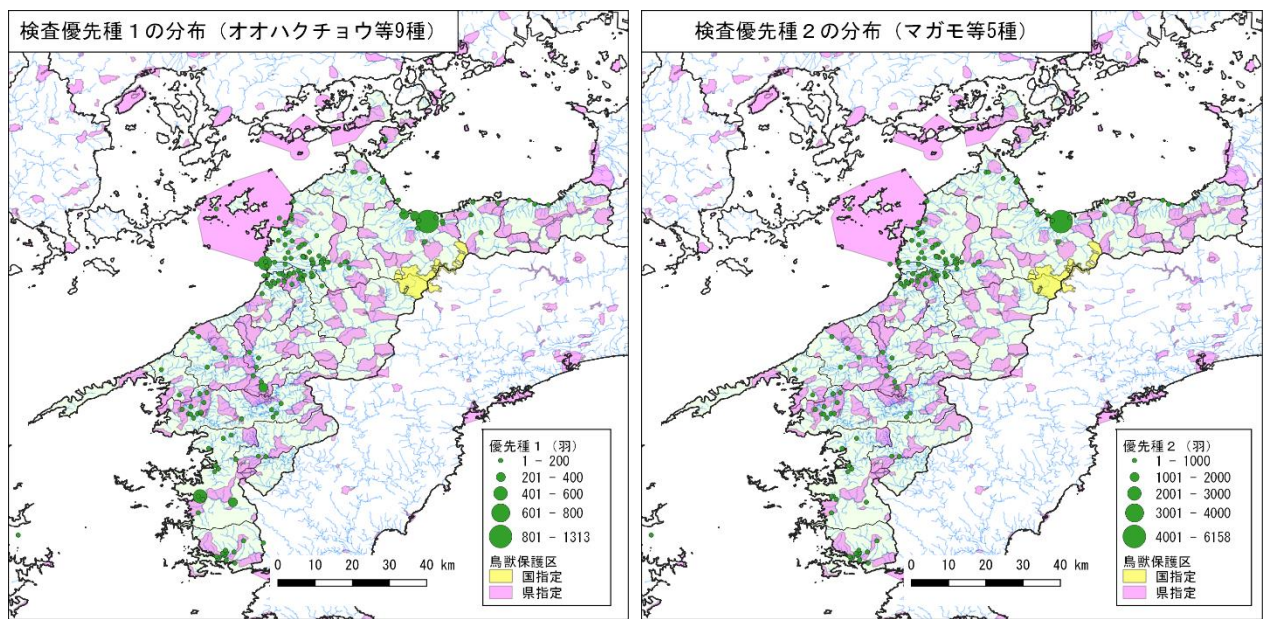


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（愛媛県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種 1 のうち、合計 9 種の年平均個体数 (H28～R3 年) の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	西条市	3	加茂川河口-(加茂川河口～新加茂川大橋)	1,313
2	宇和島市	387	岩松川-(河口～山財ダム堰堤)	522
3	松山市	47	重信川河口-(河口～川口大橋)	430
4	宇和島市	280	山財ダム	283
5	西条市	286	燧灘海域-(東予港)	241

【検査優先種 2 のうち、合計 5 種の年平均個体数 (H28～R3 年) の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	西条市	3	加茂川河口-(加茂川河口～新加茂川大橋)	6,158
2	西条市	435	燧灘海域-(新川河口)	969
3	西条市	286	燧灘海域-(東予港)	620
4	西条市	347	中山川河口-(河口～新中山川大橋)	580
5	西条市	4	黒瀬ダム	543

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（愛媛県）

高知県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高知県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

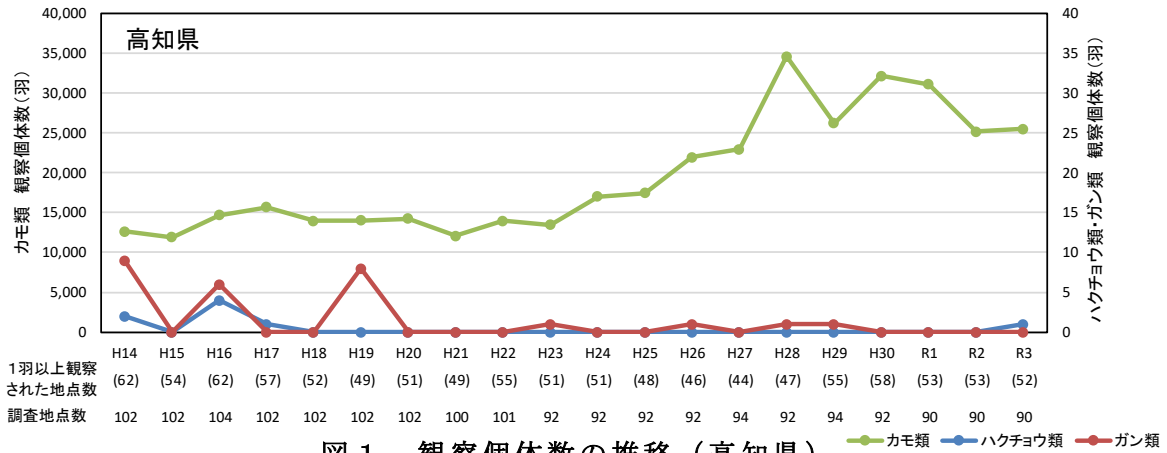
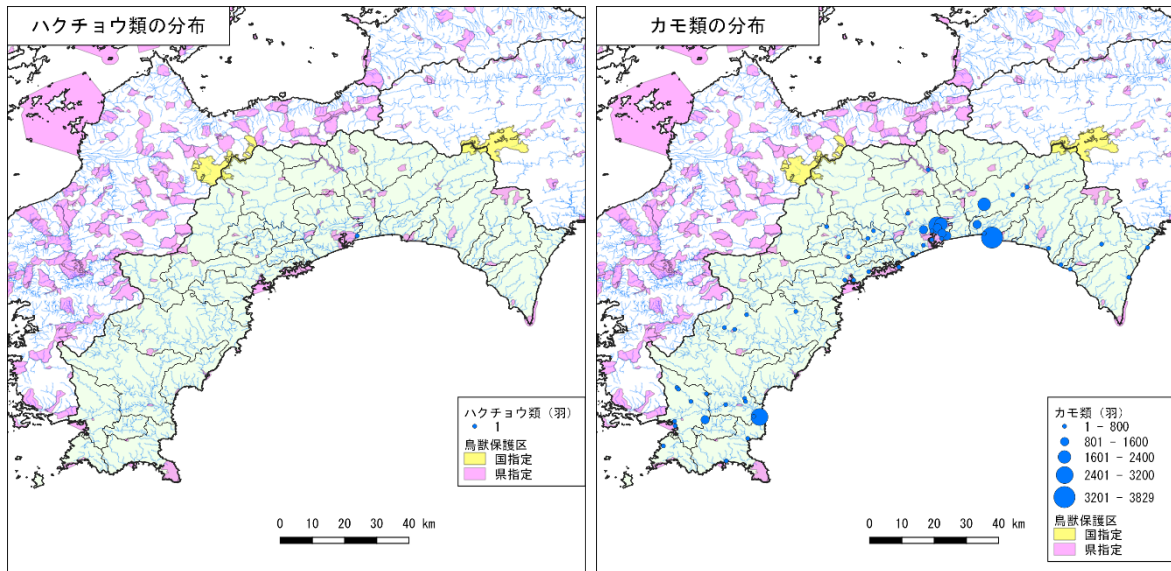


図 1 観察個体数の推移（高知県）

2. 県内における類ごとの分布

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。



【ハクチョウ類、カモ類の観察個体数の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数	No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数		
ハク チ ョ ウ 類	1	南国市	24	石土池	1	カ モ 類	1	香南市	109	手結港	3,829
	2				2		四万十市	74	四万十川河口	2,502	
	3				3		高知市	17	国分川河口	2,482	
	4				4		香美市	32	物部川杉田ダム	2,165	
	5				5		高知市	19	国分川布師田	1,792	

図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（高知県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

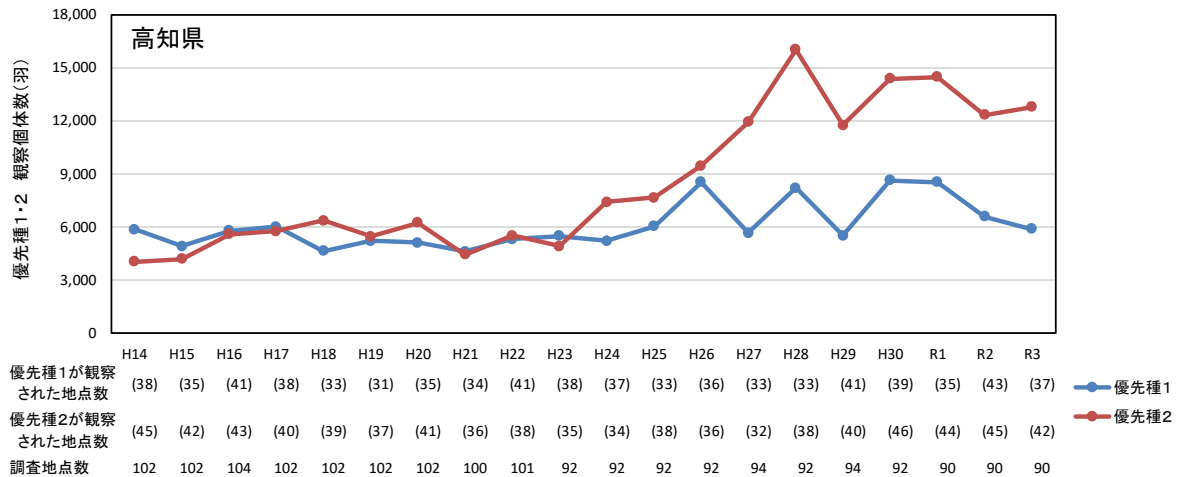
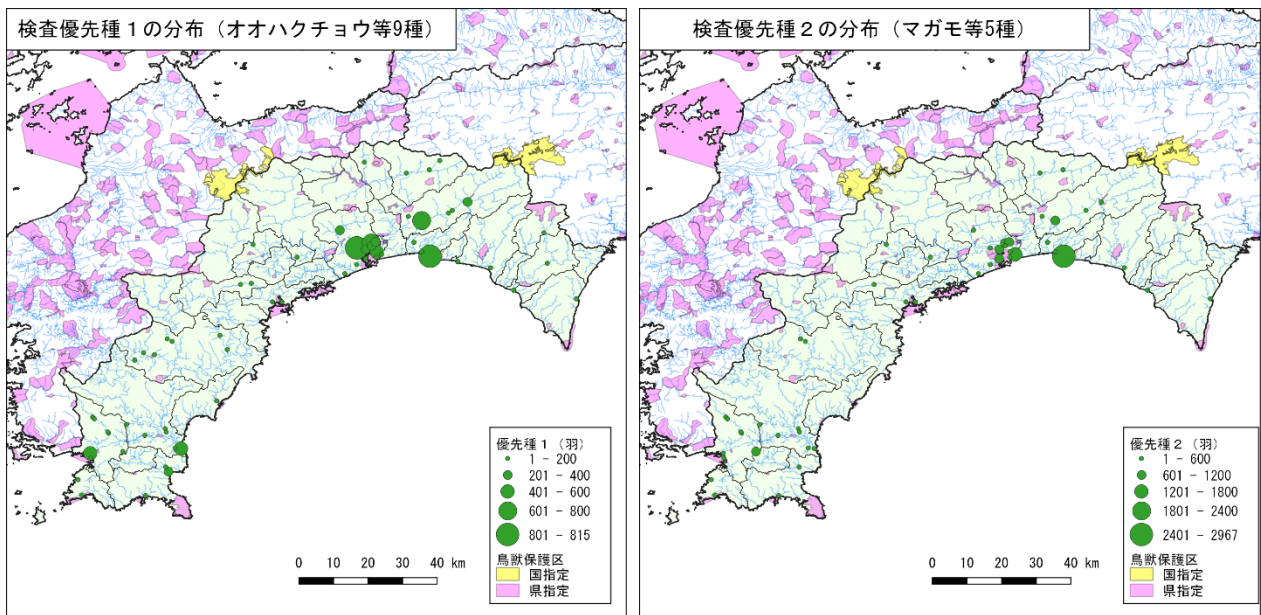


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（高知県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種 1 のうち、合計 9 種の年平均個体数 (H28～R3 年) の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	香南市	109	手結港	815
2	高知市	15	鏡川	805
3	高知市	17	国分川河口	662
4	香美市	32	物部川杉田ダム	608
5	高知市	106	下田川	502

【検査優先種 2 のうち、合計 5 種の年平均個体数 (H28～R3 年) の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	香南市	109	手結港	2,967
2	南国市	24	石土池	1,222
3	高知市	17	国分川河口	1,043
4	香美市	32	物部川杉田ダム	1,004
5	宿毛市	104	中節川ダム	999

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（高知県）

福岡県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の福岡県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

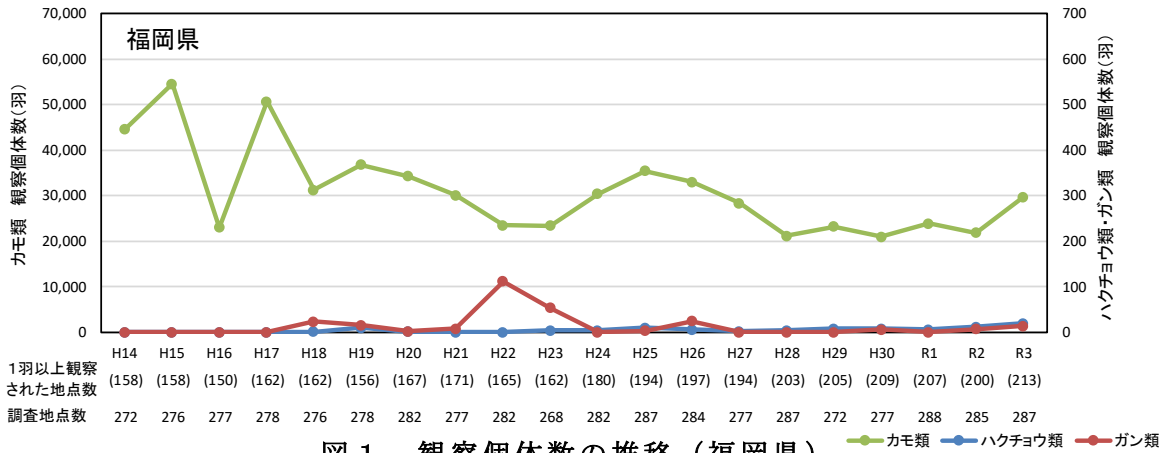


図 1 観察個体数の推移（福岡県）

2. 県内における類ごとの分布

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。

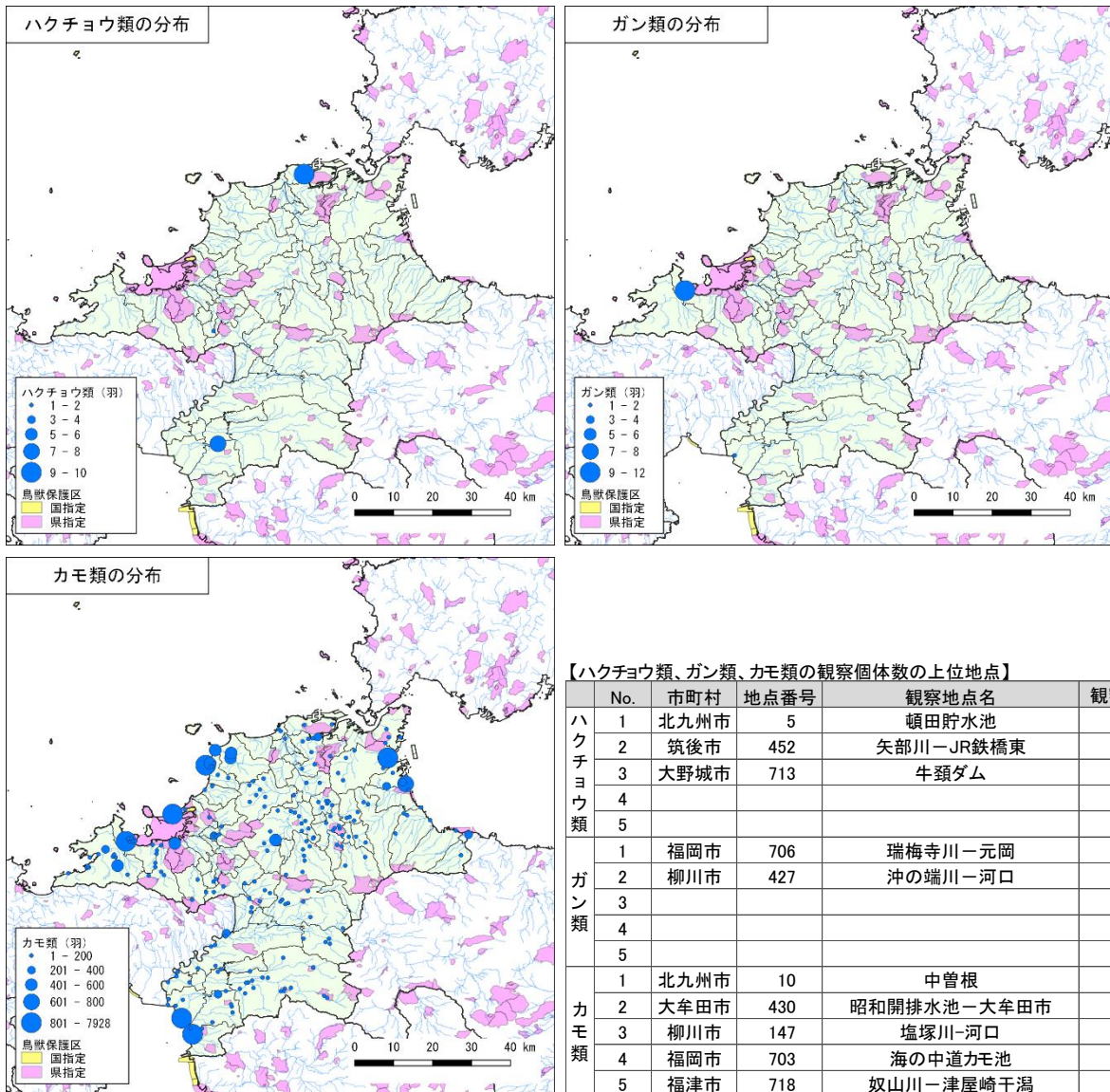


図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（福岡県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

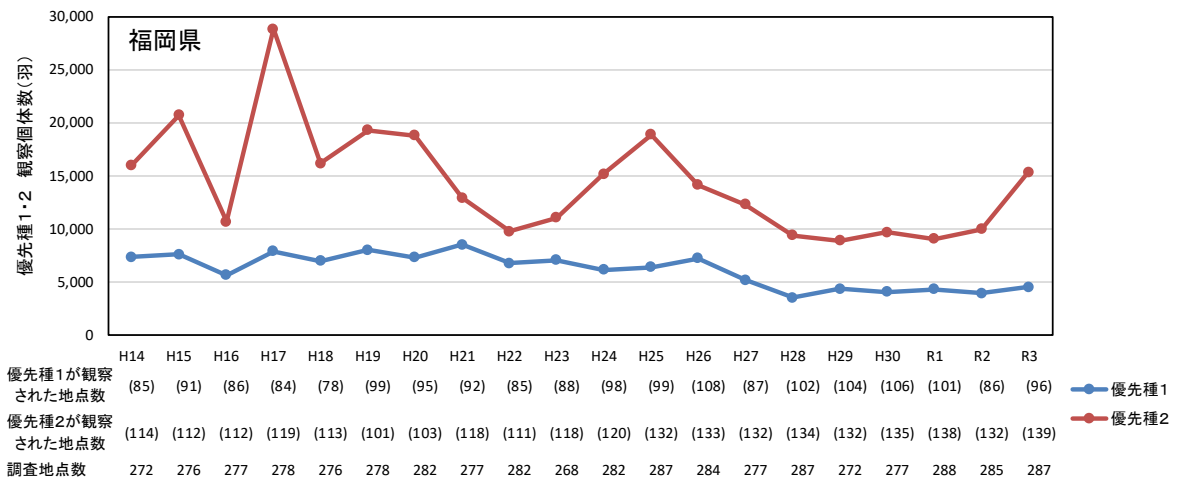
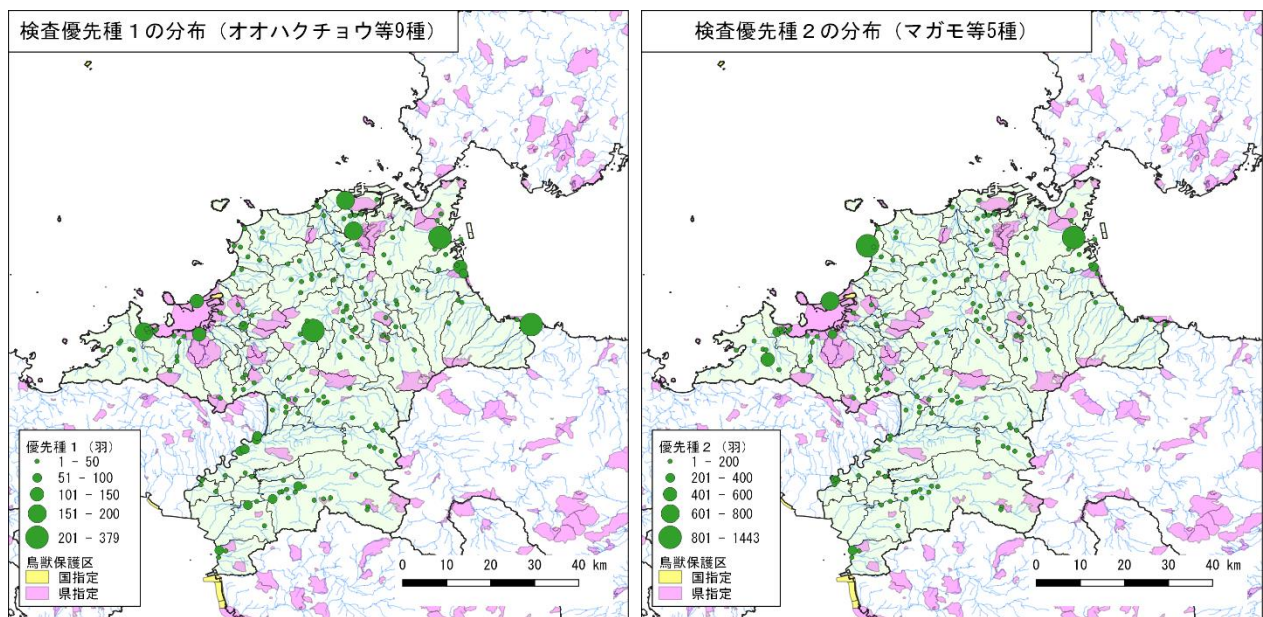


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（福岡県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	北九州市	10	中曽根	379
2	吉富町	73	山国川河口	267
3	飯塚市	52	久保白ダム	221
4	福岡市	706	瑞梅寺川一元岡	181
5	北九州市	5	頓田貯水池	176

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	北九州市	10	中曽根	1,443
2	福津市	718	奴山川一津屋崎干潟	1,063
3	福岡市	703	海の中道カモ池	772
4	柳川市	147	塩塚川-河口	636
5	糸島市	702	雷山大溜池	427

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（福岡県）

佐賀県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の佐賀県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

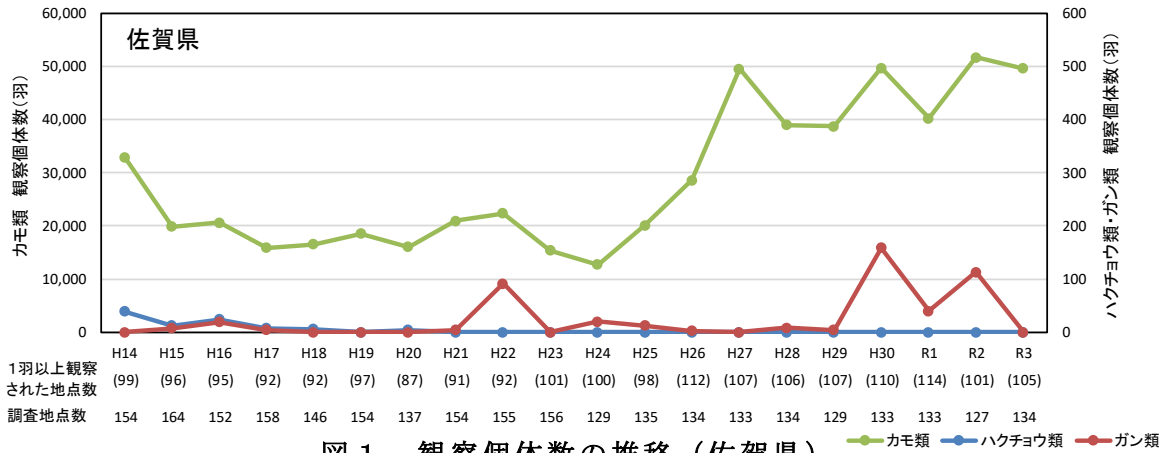
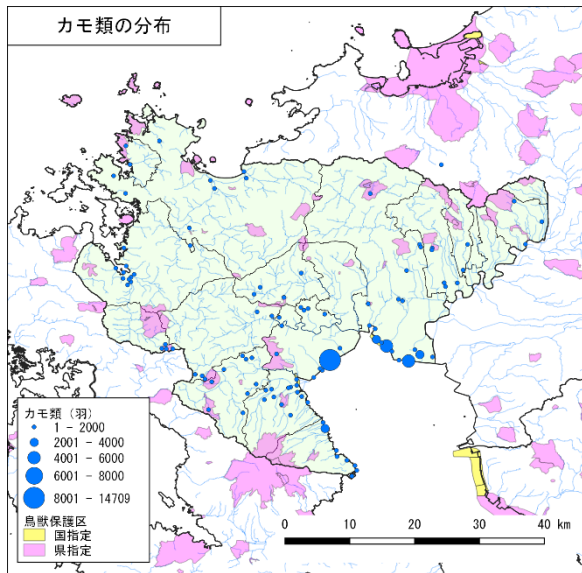


図 1 観察個体数の推移（佐賀県）

2. 県内における類ごとの分布

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。



【カモ類の観察個体数の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	白石町	51	有明干拓溜池	14,709
2	佐賀市	24	大授1区	4,600
3	佐賀市	19	平和瀬	4,280
4	太良町	233	栄町	3,368
5	佐賀市	105	早津江川 大正瀬江湖	2,650

図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（佐賀県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

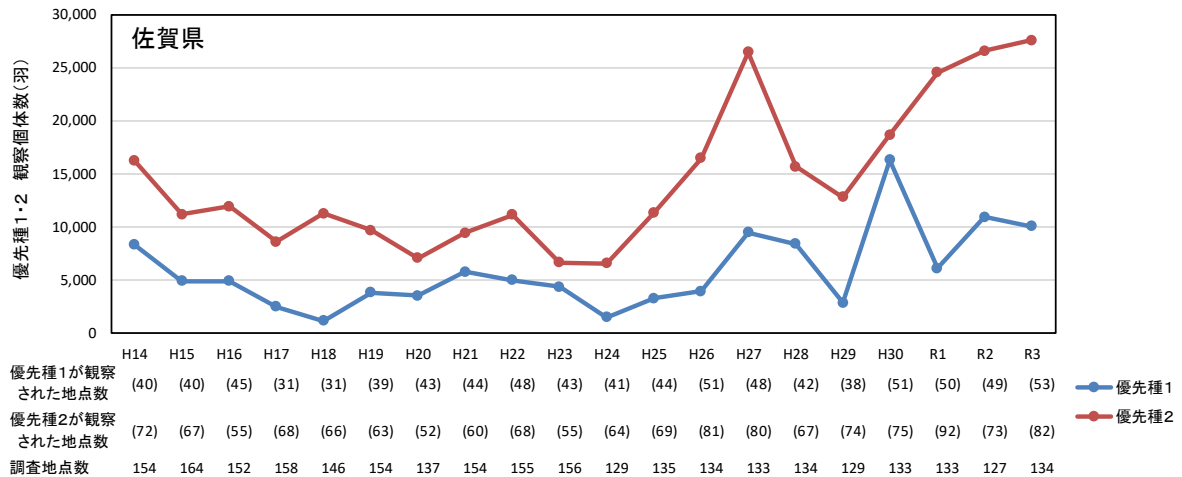
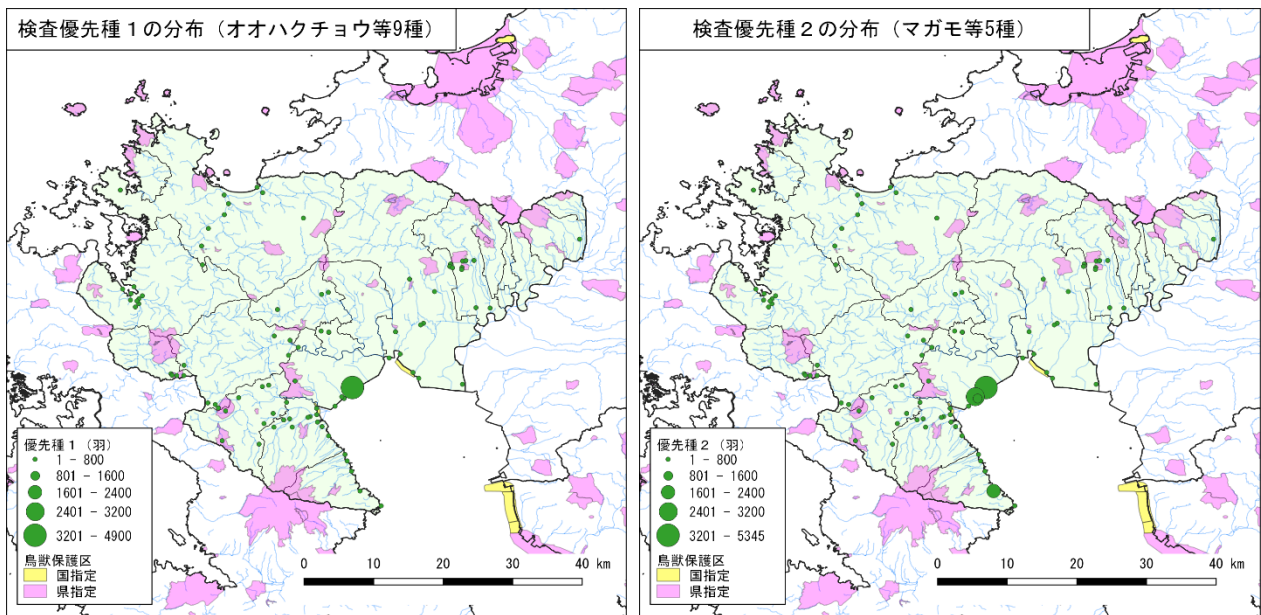


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（佐賀県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	白石町	51	有明干拓溜池	4,900
2	佐賀市	179	嘉瀬川大堰	489
3	太良町	233	栄町	312
4	神埼市	238	城原耕地堤	301
5	佐賀市	15	嘉瀬川河口	286

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	白石町	51	有明干拓溜池	5,345
2	白石町	54	只江川河口	2,908
3	太良町	159	里	1,827
4	白石町	52	有明干拓地先有明漁港	1,386
5	佐賀市	19	平和瀬	960

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（佐賀県）

長崎県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の長崎県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

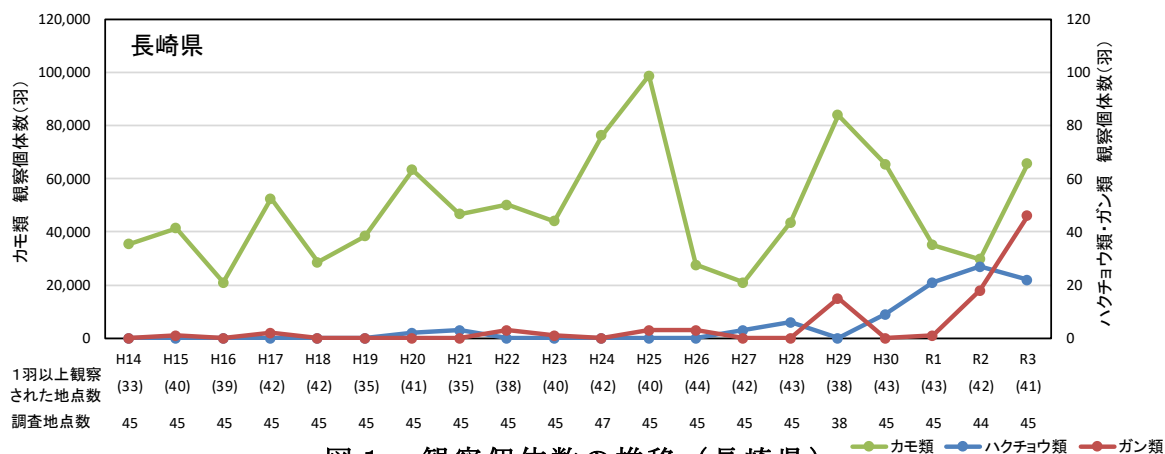


図 1 観察個体数の推移（長崎県）

2. 県内における類ごとの分布

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。

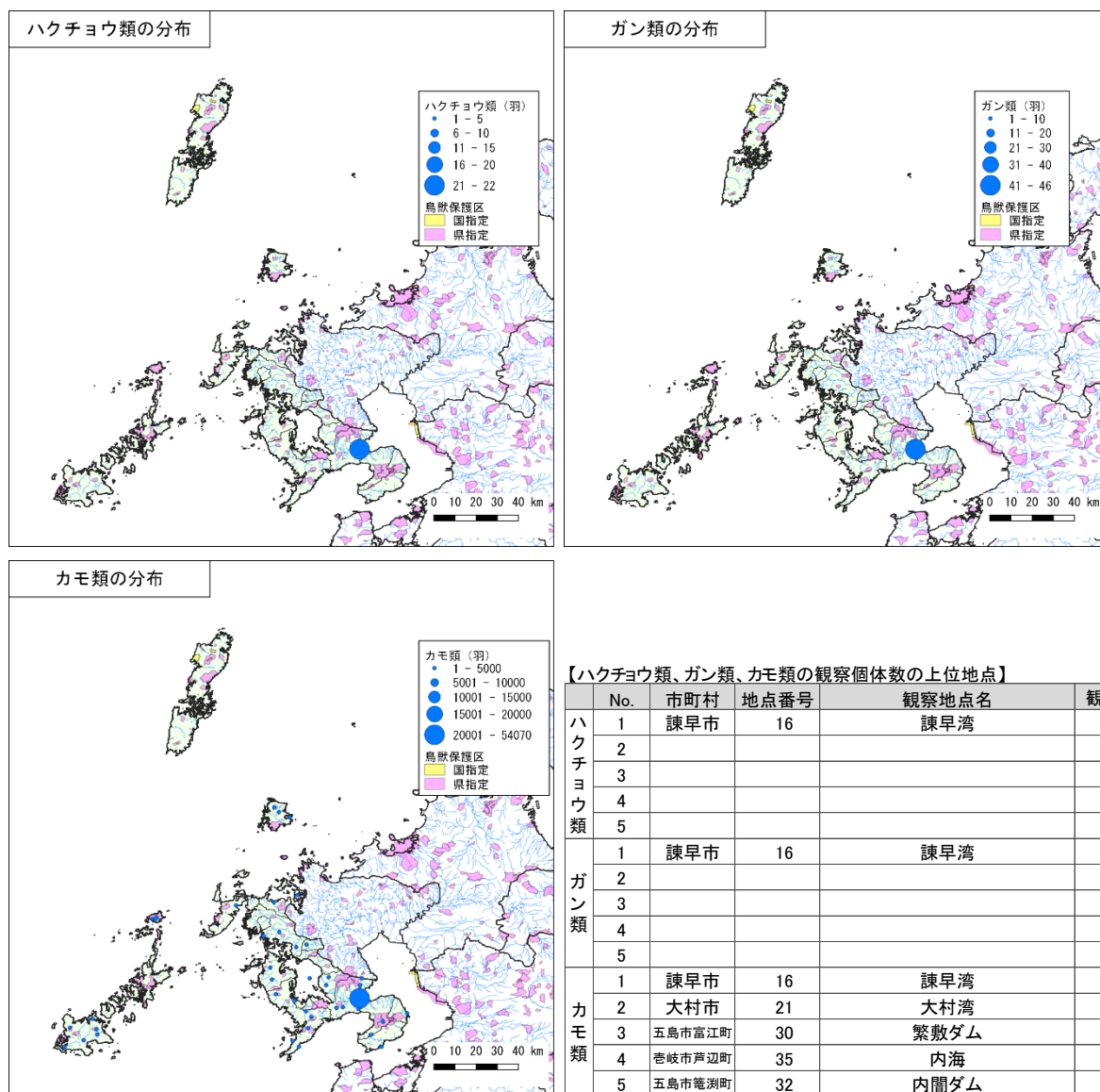


図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（長崎県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

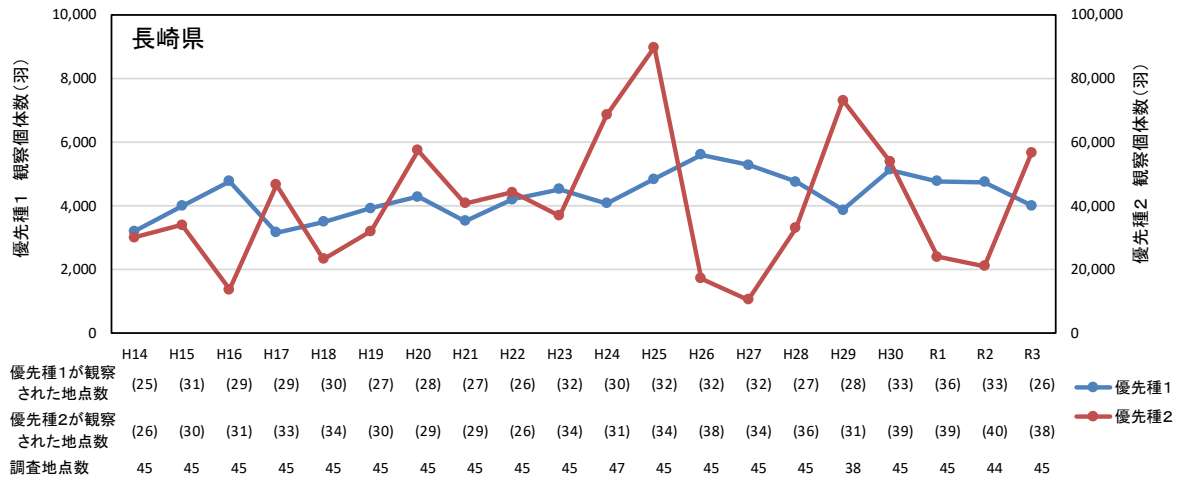
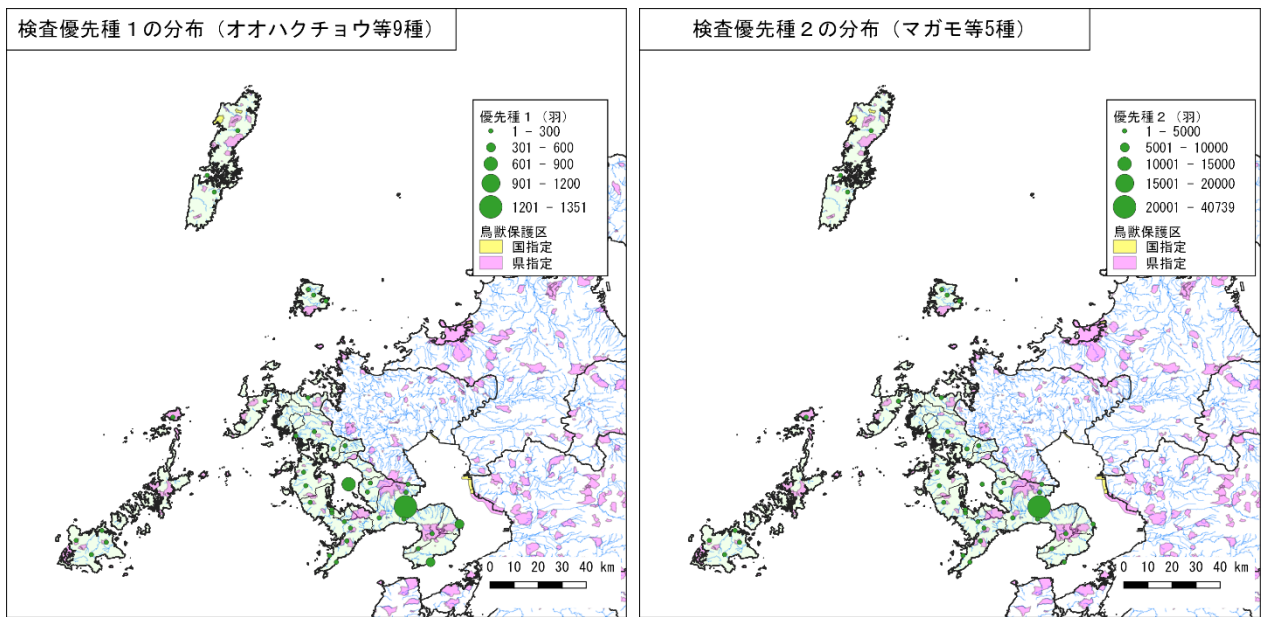


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（長崎県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種 1 のうち、合計 9 種の年平均個体数 (H28～R3 年) の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	諫早市	16	諫早湾	1,351
2	大村市	21	大村湾	710
3	島原市高島町	15	大手浜	373
4	南島原市南有馬町	12	原城海岸	355
5	壱岐市芦辺町	35	内海	197

【検査優先種 2 のうち、合計 5 種の年平均個体数 (H28～R3 年) の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	諫早市	16	諫早湾	40,739
2	大村市	21	大村湾	1,373
3	諫早市森山町	52	杉谷溜池	578
4	五島市富江町	30	繁敷ダム	384
5	壱岐市芦辺町	35	内海	296

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（長崎県）

熊本県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の熊本県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

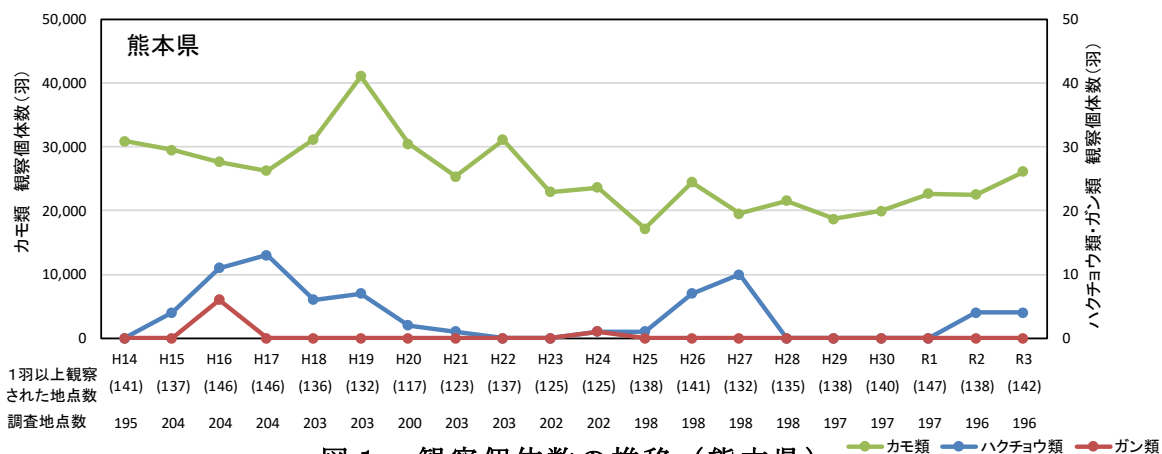
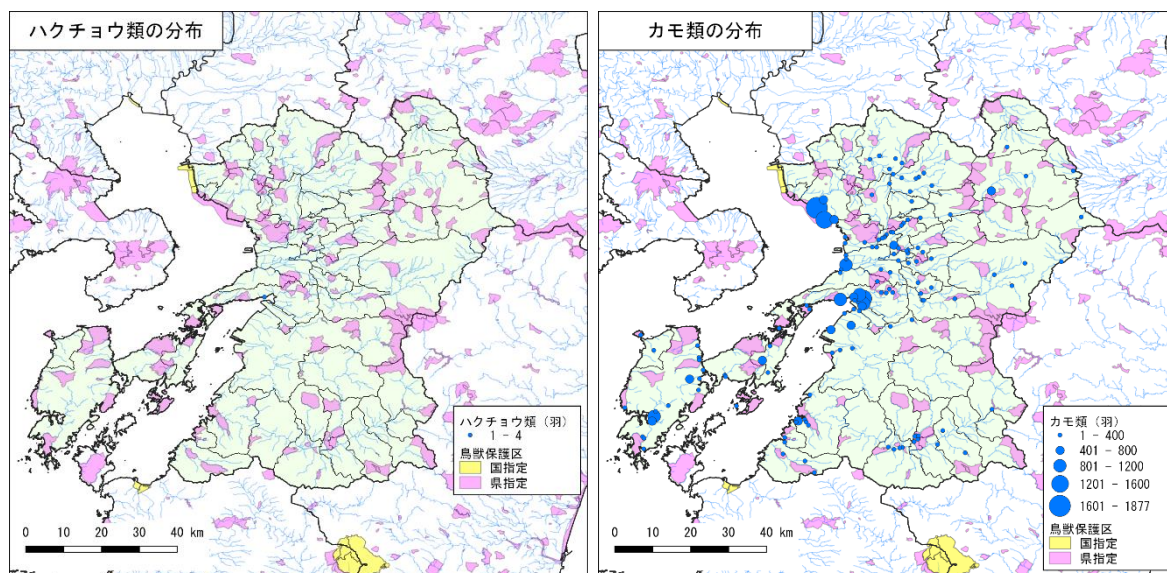


図 1 観察個体数の推移（熊本県）

2. 県内における類ごとの分布

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。



【ハクチョウ類、カモ類の観察個体数の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数	No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数		
ハク チ ョ ウ 類	1	宇城市	275	永尾海岸	4	カ モ 類	1	玉名市	303	菊池川河口	1,877
	2				2		宇城市	277	御船海岸	1,500	
	3				3		玉名市	305	横島干拓	1,352	
	4				4		天草市	1,159	久留	1,070	
	5				5		熊本市	125	学料	1,000	

図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（熊本県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

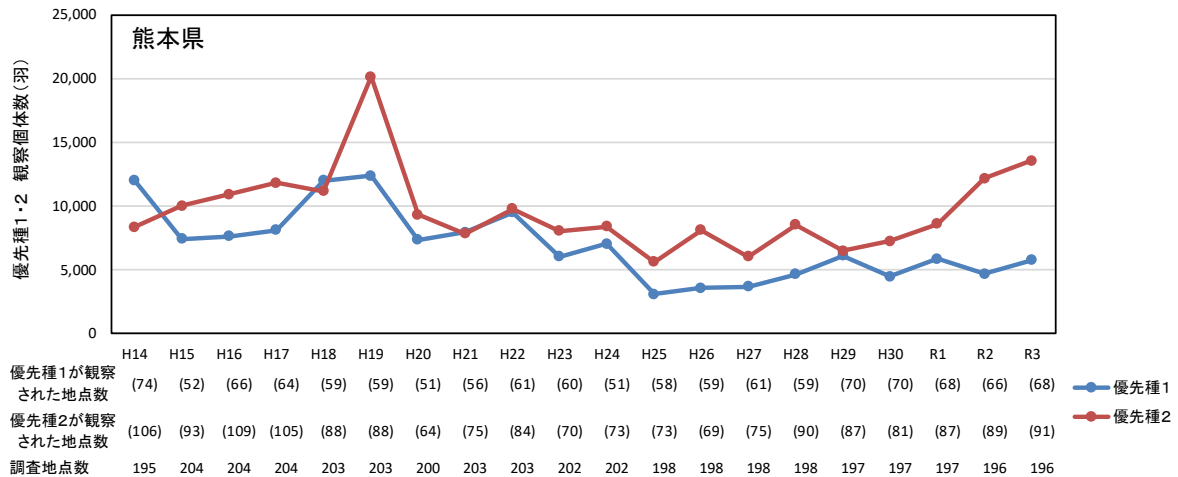
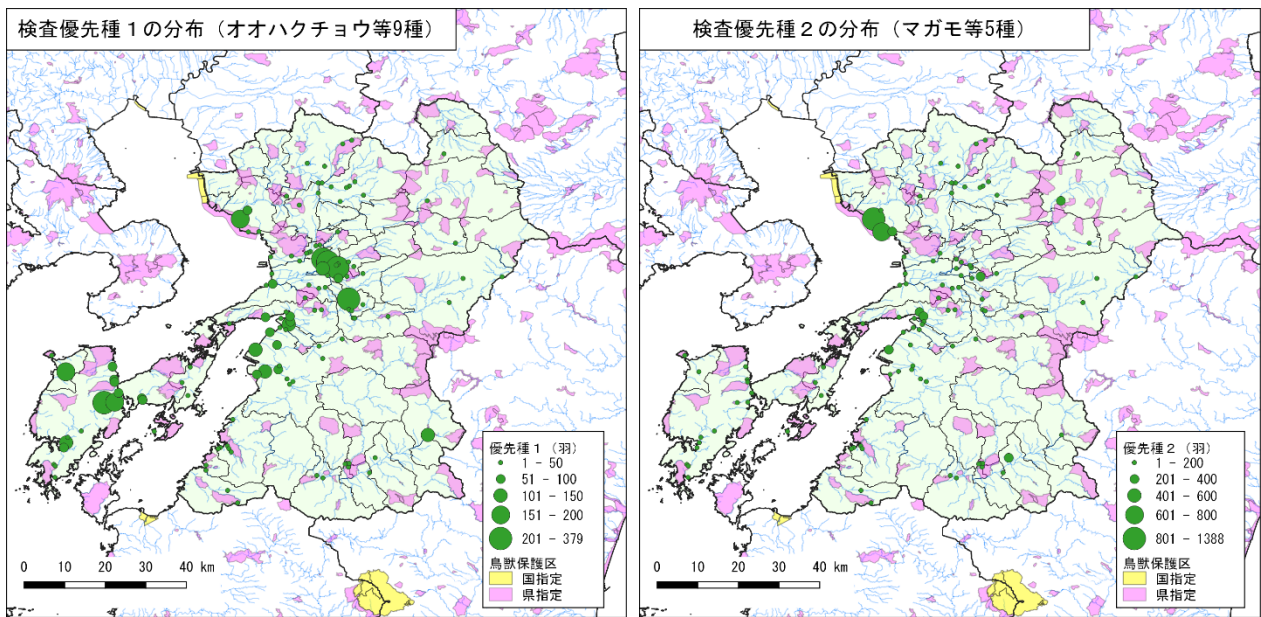


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（熊本県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	嘉島町	704	浮島周辺水辺公園内の池	379
2	熊本市	101	上江津湖	375
3	甲佐町	718	緑川一麻生原堰	317
4	熊本市	102	下江津湖	277
5	天草市	1101	映柑湖	210

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	玉名市	303	菊池川河口	1,388
2	玉名市	305	横島干拓	675
3	熊本市	127	唐人川河口	382
4	阿蘇市	601	市の川(池)	365
5	熊本市	125	学料	352

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（熊本県）

大分県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の大分県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

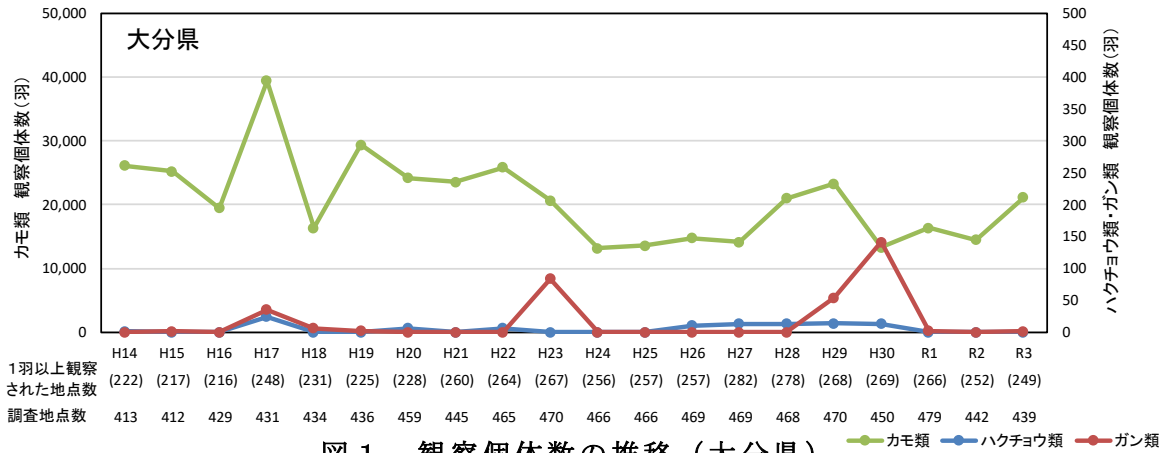
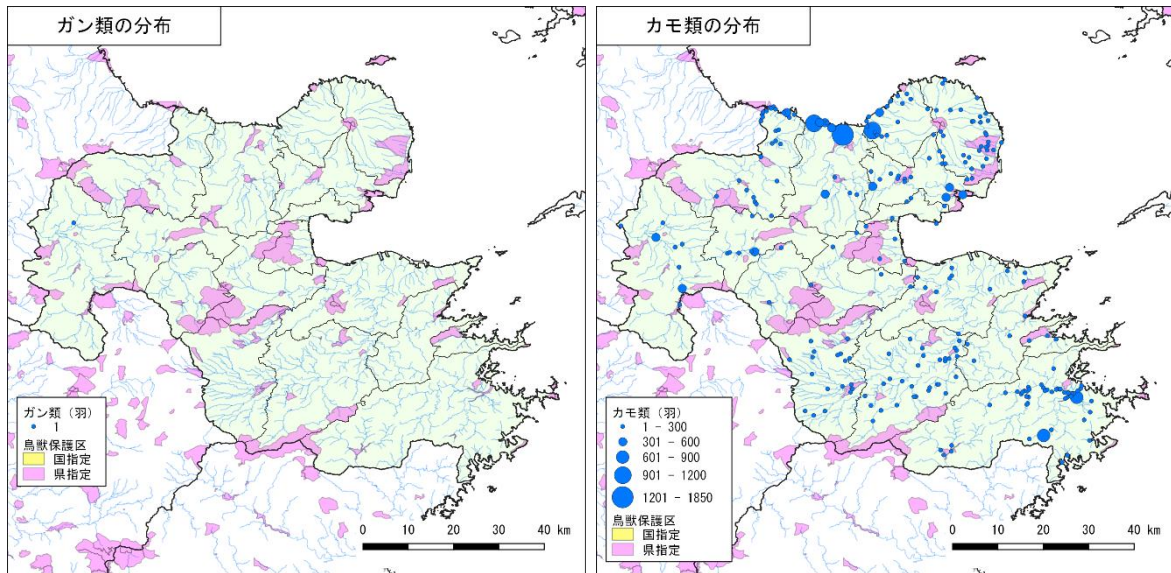


図 1 観察個体数の推移（大分県）

2. 県内における類ごとの分布

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。



【ガン類、カモ類の観察個体数の上位地点】

	ガン類					カモ類				
	No.	市町村	地点番号	観察地点名		観察個体数	No.	市町村	地点番号	観察地点名
ガン類	1	日田市	915	花月川	1	1	宇佐市	1,101	駅館川	1,850
	2					2	豊後高田市	2	桂川河口	1,095
	3					3	宇佐市	1,103	伊呂波川河口	1,038
	4					4	佐伯市	524	須留木	654
	5					5	佐伯市	502	黒沢ダム	650

図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（大分県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

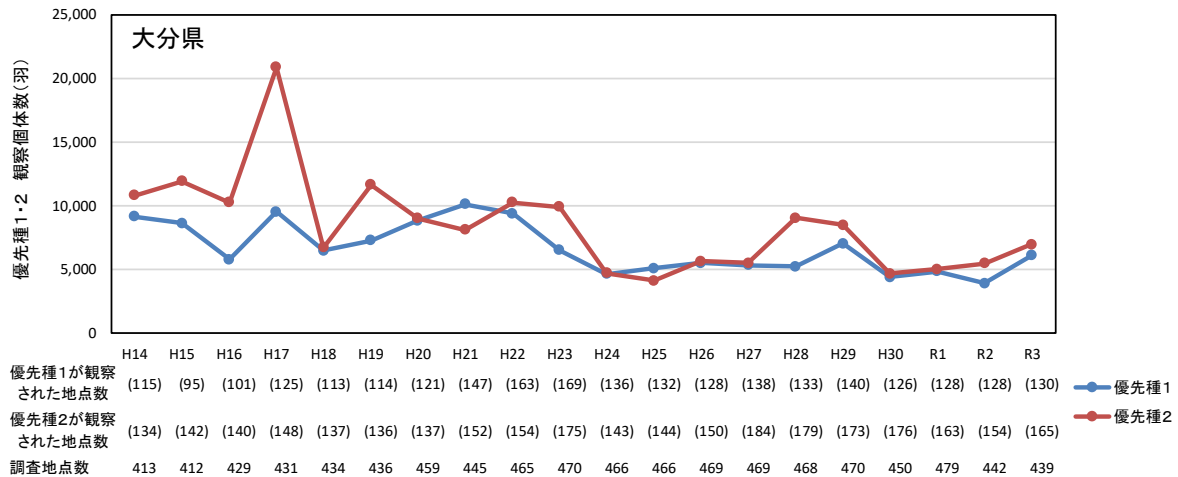
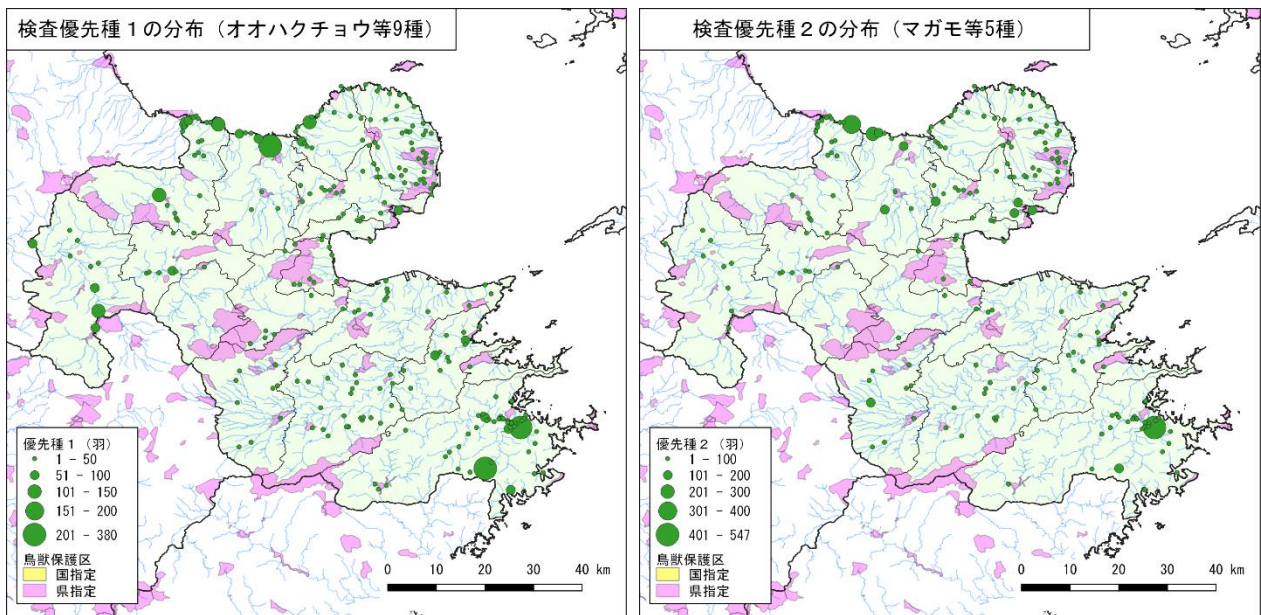


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（大分県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	佐伯市	502	黒沢ダム	380
2	宇佐市	1101	駅館川	336
3	佐伯市	524	須留木	323
4	中津市	1002	耶馬溪ダム	119
5	日田市	918	松原ダム	113

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	佐伯市	524	須留木	547
2	中津市	1019	和間	396
3	宇佐市	1103	伊呂波川河口	229
4	宇佐市	3766	浜高家	184
5	佐伯市	502	黒沢ダム	160

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（大分県）

宮崎県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の宮崎県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

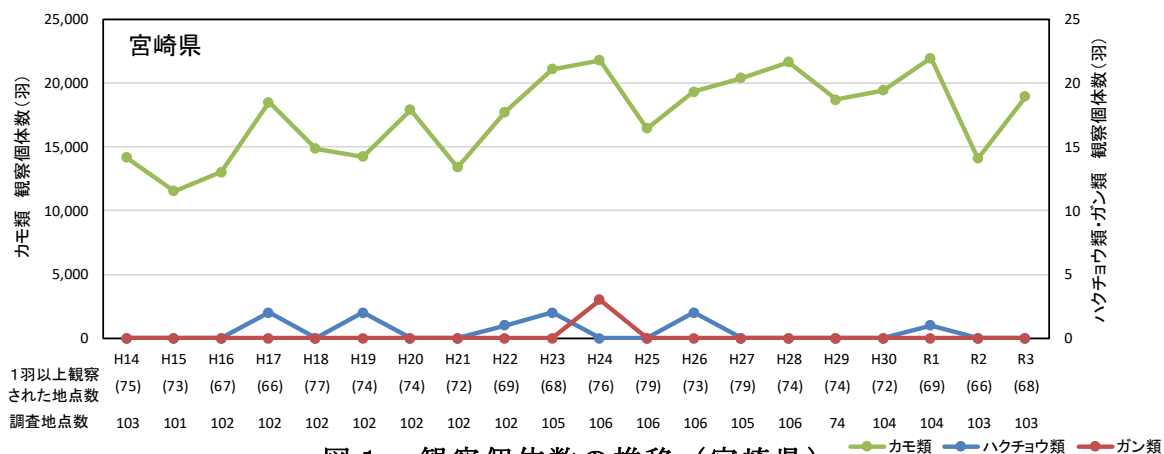
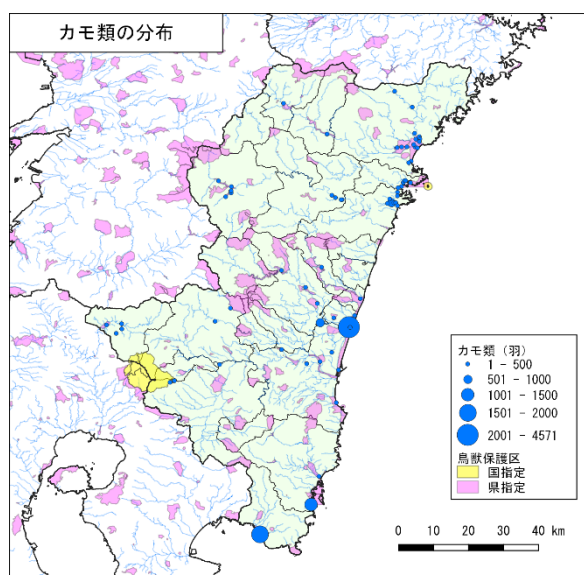


図 1 観察個体数の推移（宮崎県）

2. 県内における類ごとの分布図

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。



【カモ類の観察個体数の上位地点】

	No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
カモ類	1	新富町	52	下富田	4,571
	2	串間市	86	一里崎	1,800
	3	日南市	85	狼ヶ鼻	1,028
	4	宮崎市	65	巨田	990
	5	日向市	27	富高1	514

図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（宮崎県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

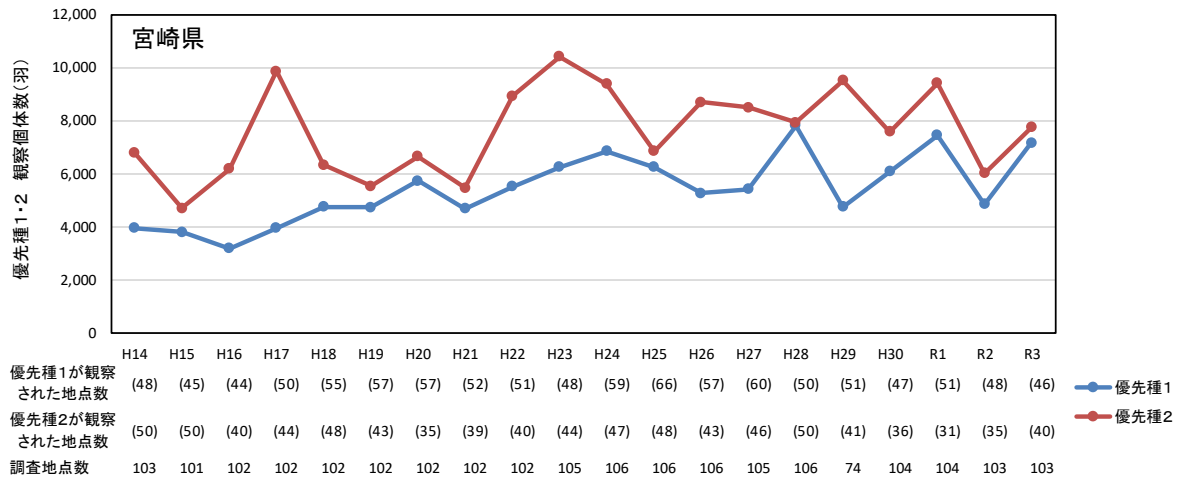
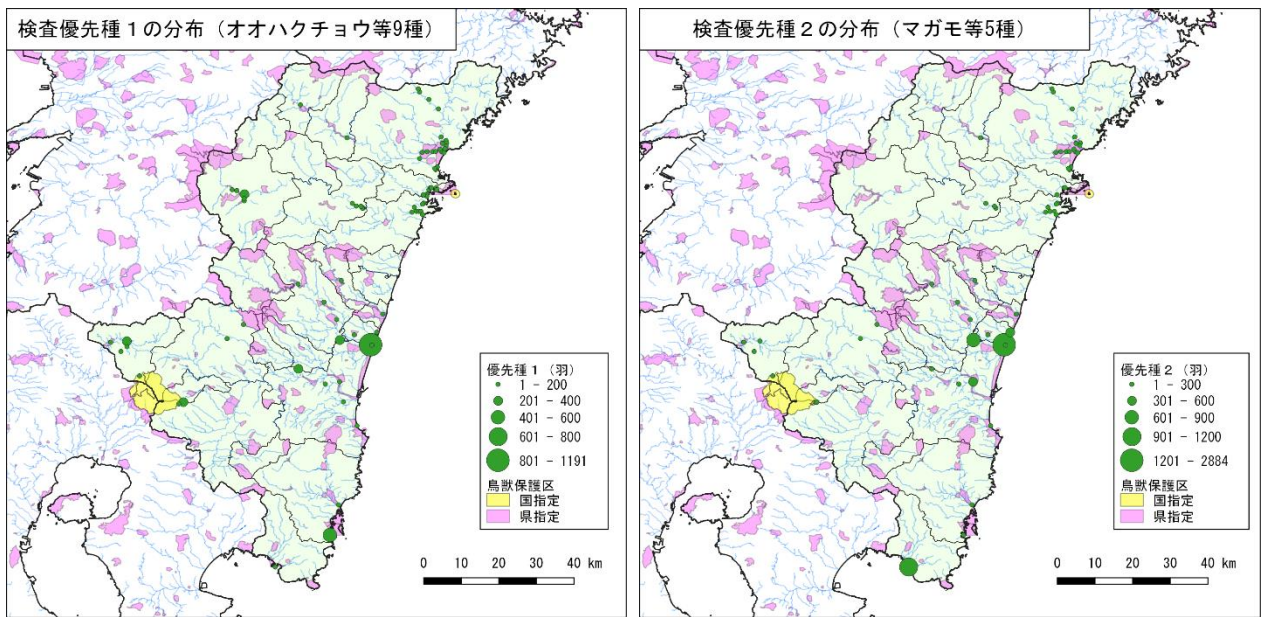


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（宮崎県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	新富町	52	下富田	1,191
2	日南市	85	狼ヶ鼻	439
3	えびの市	73	川内川ー湯田	331
4	宮崎市	68	冷窪	285
5	椎葉村	114	椎葉湖8	280

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	新富町	52	下富田	2,884
2	串間市	86	一里崎	996
3	宮崎市	65	巨田	840
4	宮崎市	57	大淀川	490
5	宮崎市	59	住吉	461

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（宮崎県）

鹿児島県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の鹿児島県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

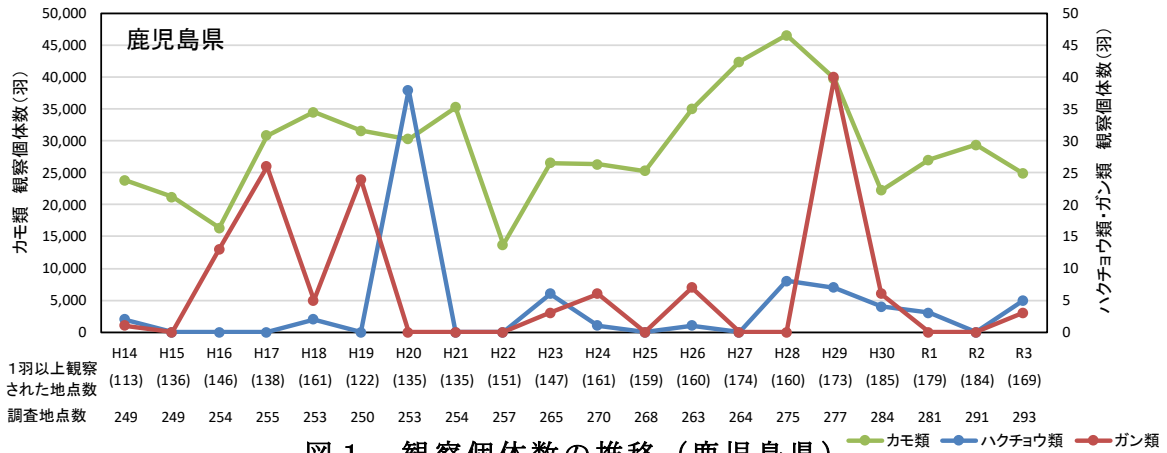


図 1 観察個体数の推移（鹿児島県）

2. 県内における類ごとの分布

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。

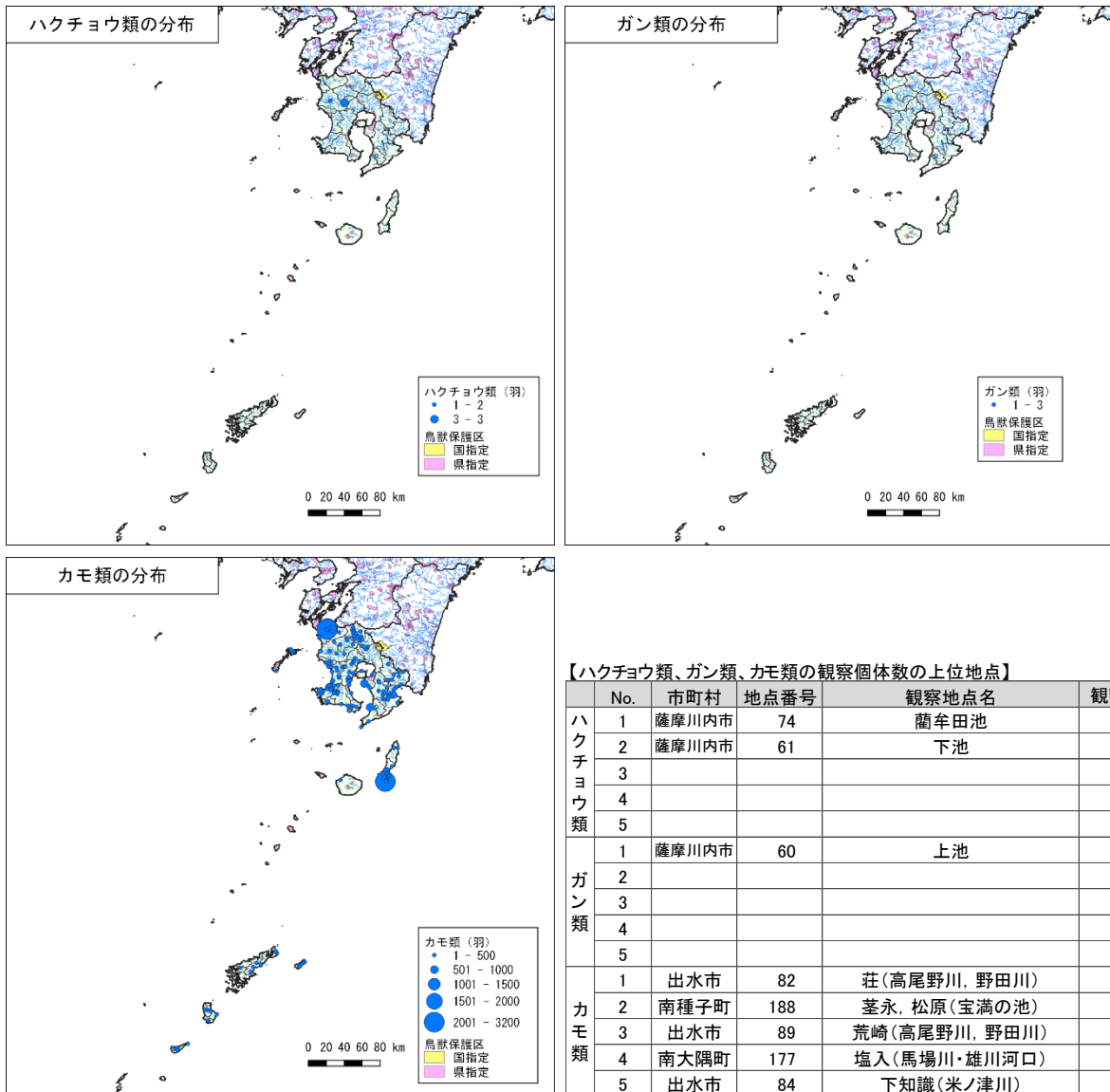


図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（鹿児島県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

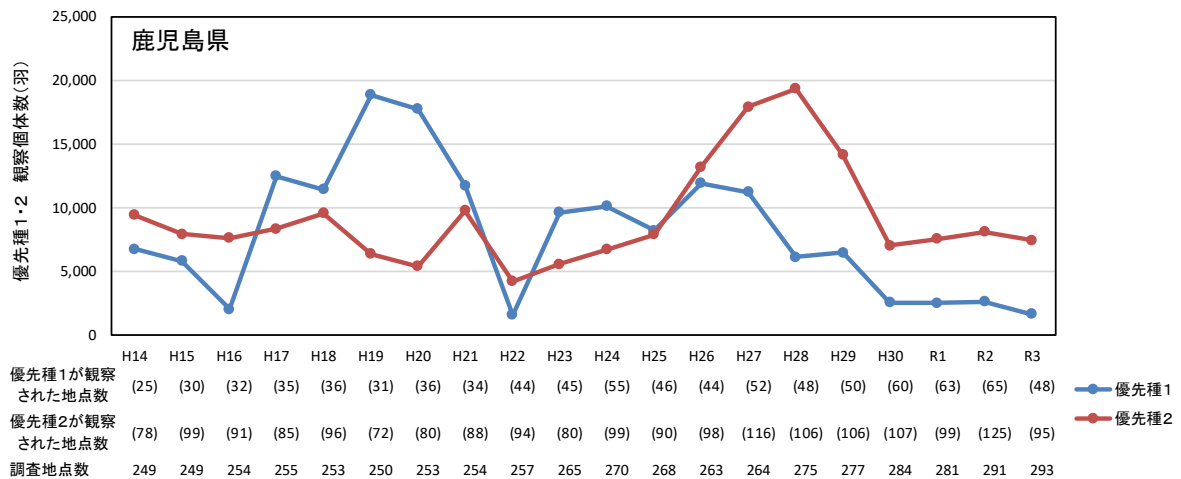
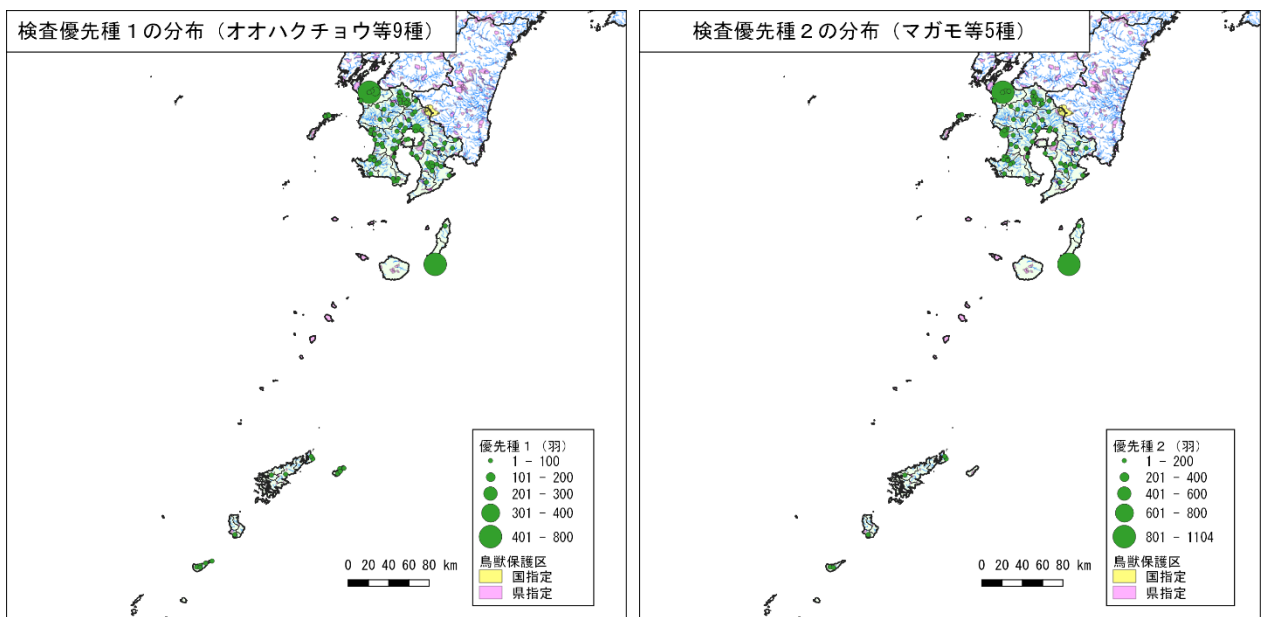


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（鹿児島県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	出水市	89	荒崎(高尾野川, 野田川)	800
2	南種子町	188	荃永, 松原(宝満の池)	500
3	出水市	84	下知識(米ノ津川)	159
4	鹿屋市	150	川東	129
5	霧島市	109	天降川～新川橋～野口橋	128

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	出水市	89	荒崎(高尾野川, 野田川)	1,104
2	南種子町	188	荃永, 松原(宝満の池)	1,040
3	南大隅町	177	塩入(馬場川・雄川河口)	679
4	出水市	82	荘(高尾野川, 野田川)	508
5	南さつま市	284	清水(笠石川及び清水ため池)	404

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（鹿児島県）

沖縄県のガンカモ類の生息調査結果

1. 過去 20 年間の類別観察個体数の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の沖縄県での類別の観察個体数の推移を以下に示す。

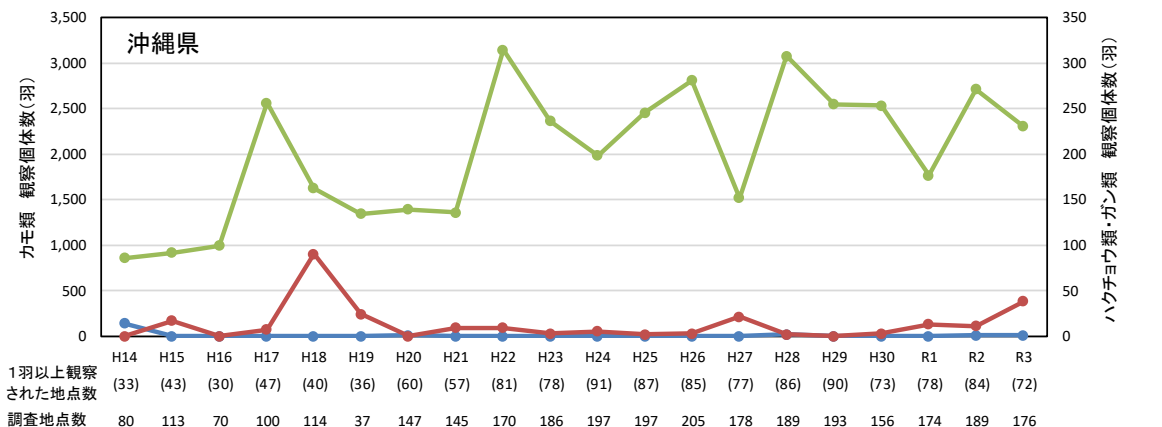


図 1 観察個体数の推移（沖縄県）

2. 県内における類ごとの分布

ハクチョウ類、ガン類、カモ類の直近令和 3 年 1 月の分布状況は以下のとおりである。

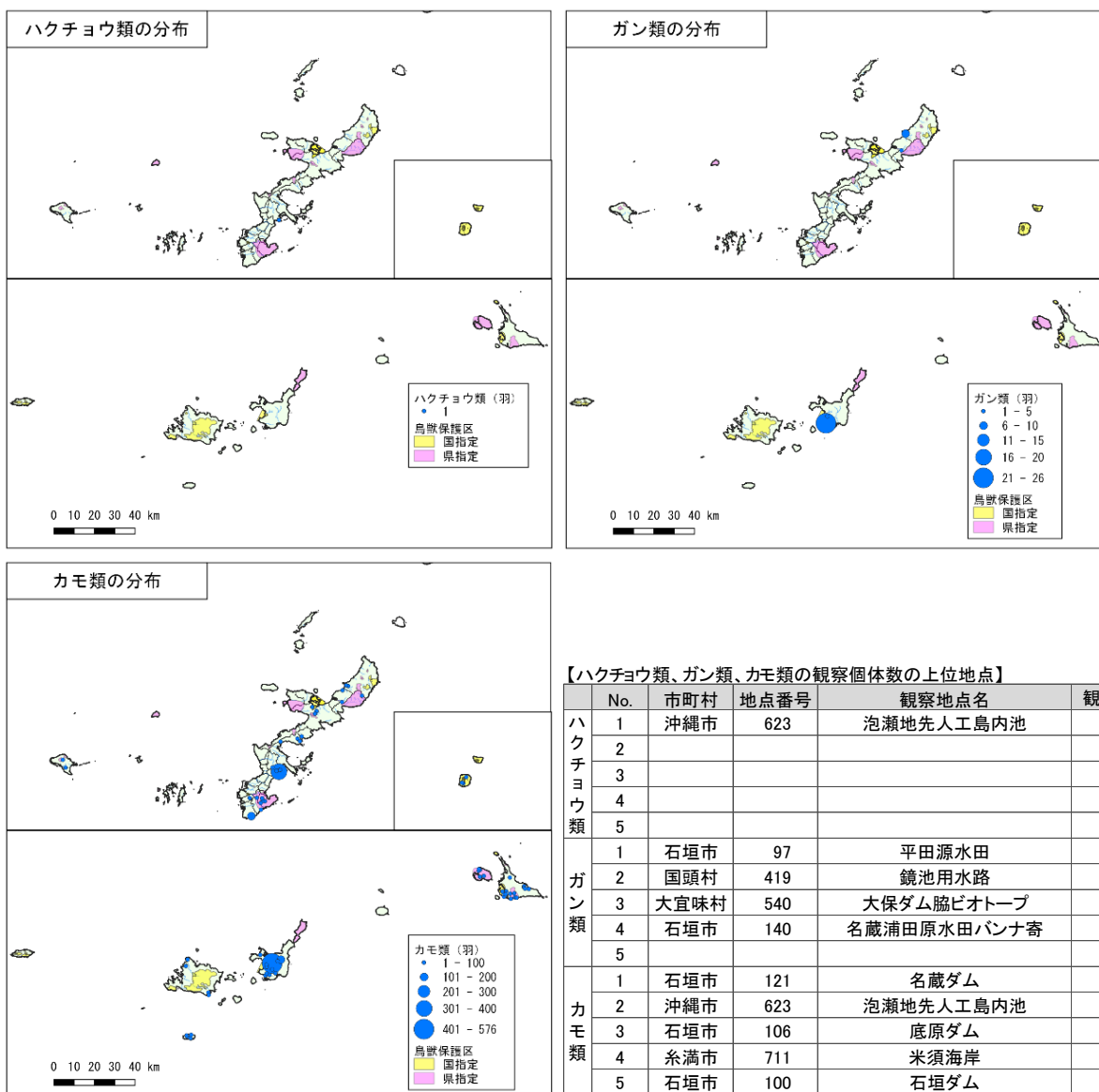


図 2 ハクチョウ類、ガン類、カモ類の分布状況（沖縄県）

3. 過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の推移（平成 14～令和 3 年度）

過去 20 年間の高病原性鳥インフルエンザ検査優先種 1・2 の観察個体数の推移を以下に示す。

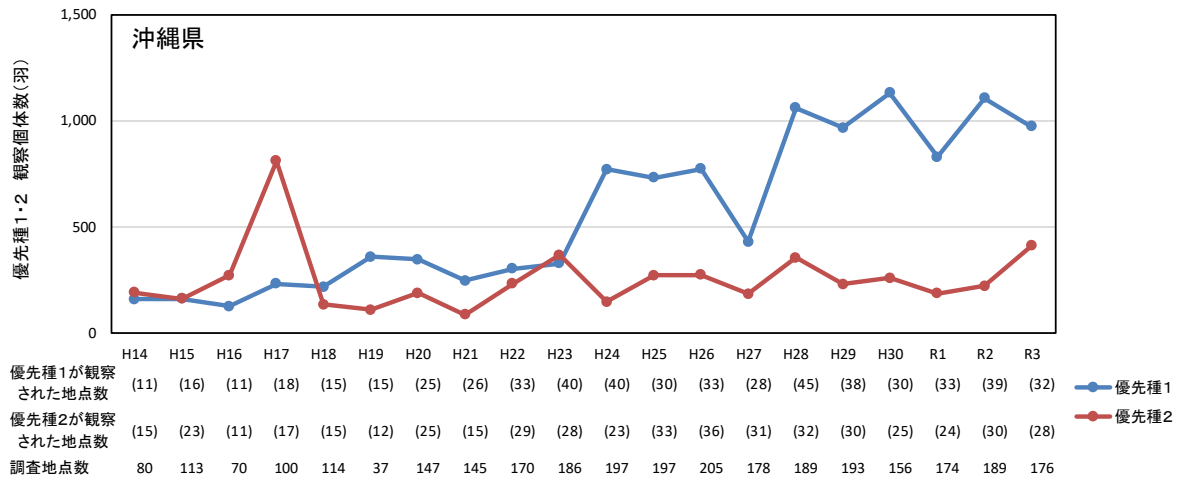
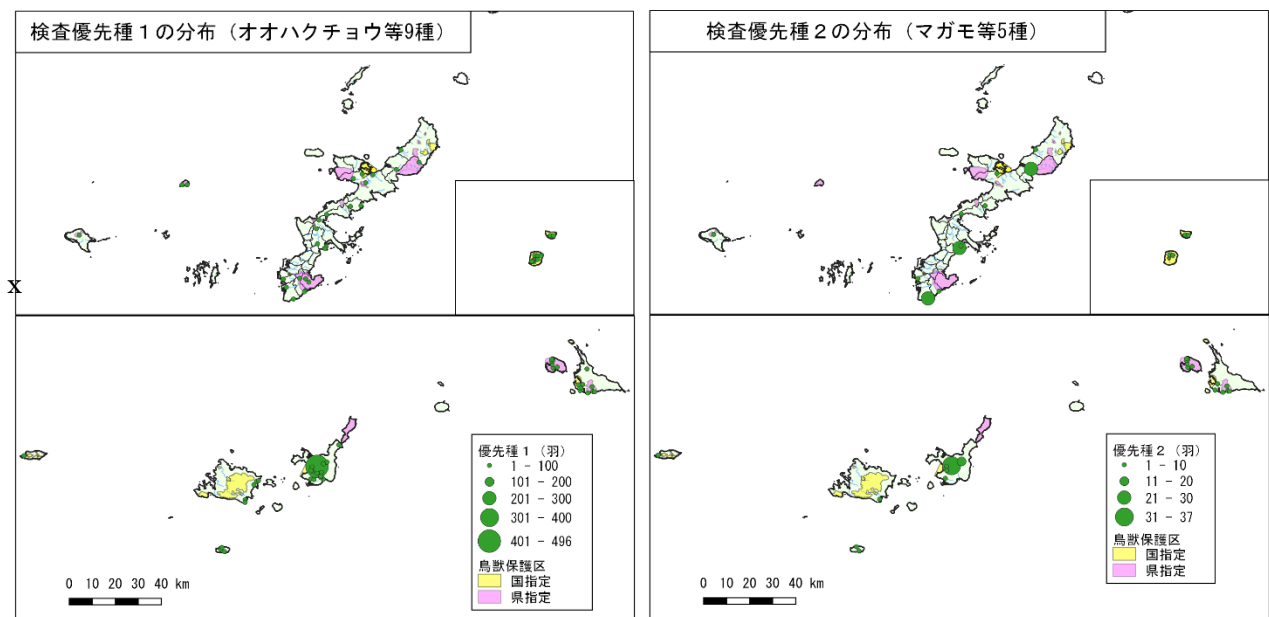


図 3 検査優先種 1、2 の観察個体数の推移（沖縄県）

4. 高病原性鳥インフルエンザ検査優先種の分布状況（平成 29 年度～令和 3 年度平均）

至近 5 年間の調査で観察された検査優先種 1・2 のうち、本調査の対象種の平均的な分布状況（対象種の H29～R3 年度の合計個体数を 5 分割して年平均個体数を算出し、その数値を分布図として示したもの）及び観察個体数が多かった地点の上位 5 地点を以下に示す。



【検査優先種1のうち、合計9種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	石垣市	121	名蔵ダム	496
2	与那国町	1	久部良大池	61
3	沖縄市	606	沖縄こどもの国の池	39
4	竹富町	80	電業所横の貯水池	32
5	糸満市	711	米須海岸	23

【検査優先種2のうち、合計5種の年平均個体数(H28～R3年)の上位地点】

No.	市町村	地点番号	観察地点名	観察個体数
1	石垣市	121	名蔵ダム	37
2	大宜味村	540	大保ダム脇ビオトープ	25
3	糸満市	711	米須海岸	22
4	沖縄市	623	泡瀬地先人工島内池	21
5	石垣市	106	底原ダム	15

図 4 検査優先種 1、2 の分布状況及び観察個体数上位地点（沖縄県）

(参考) 第 53 回ガンカモ類の生息調査実施要領

■ 第 53 回ガンカモ類の生息調査実施要領 一覧

- 1) 第 53 回ガンカモ類の生息調査実施要領
- 2) 別紙 1 - 1 ガンカモ類の生息調査 調査項目
- 3) 別紙 1 - 2 日本産鳥類目録第 7 版 (平成 24 年改訂) 抜粋 改変版
- 4) 別紙 1 - 3 1989~2022 年ガンカモ調査地点リスト
- 5) 別紙 2 - 1 2023 都道府県報告様式 a-c
- 6) 別紙 2 - 2 都道府県報告様式記入上の留意事項
- 7) 参考 1 2023 現地調査員報告様式例
- 8) 参考 2 現地調査員報告様式例記入上の留意事項等

第53回ガンカモ類の生息調査

実施要領

令和3（2021）年10月

環境省自然環境局
生物多様性センター

第1章 調査の趣旨

1. 目的

日本におけるガン・カモ・ハクチョウ類の冬期生息状況を把握し、野生動物保護管理行政（鳥獣の保護管理、希少種の保全、外来種・鳥インフルエンザ対策等）に有用な情報を得ることを目的としています。

2. 調査の主体

調査は各都道府県が主体となって実施をお願いいたします。

3. 調査区域

各都道府県の区域（海域を含む。）です。

なお、2つ以上の都道府県にわたる調査地（複数の都道府県にわたる河川、湖沼、湾の場合等）の調査については、あらかじめ関係都道府県で相互に協議するなどして、重複カウント及び調査漏れの防止に努めていただきますようお願いいたします。

第2章 調査方法

1. 調査地の選定手順

- ①過去の調査結果及び鳥類保護団体、狩猟団体等からの情報に基づき、原則としてガン・カモ・ハクチョウ類のすべての渡来地について、その位置、地点名等を把握してください。
- ②ガン類及びハクチョウ類の渡来地については原則としてすべての渡来地を調査地としてください。
- ③カモ類のみの渡来地については、各都道府県の状況（調査体制、調査人数等）に応じて、各都道府県に飛来しているガンカモ類の生息状況を概ね把握できるよう、主要な渡来地を調査地として選定してください。

2. 調査日

- ・一斉調査日：令和4（2022）年1月16日（日）
- ・調査期間：令和4（2022）年1月9日（日）～23日（日）

重複カウントを避け、全国に飛来するガンカモ類の個体数をより正確に把握するため、できる限り一斉調査日の前後数日以内で調査を実施いただきますようお願いいたします。

都合がつかない場合は、調査期間のいずれか1日を都道府県ごとに指定いただき、実施してください。

3. 調査項目

調査地点の基礎情報（地況、鳥獣保護区等、天候、環境コード）、調査体制（調査人数、調査者属性）、ハクチョウ類・ガン類・カモ類の個体数等について、記録をお願いします。

また、ガンカモ類の生息調査の各調査地点において観察されたカワウの個体数についても記録をお願いします。

詳細は、別紙1-1「ガンカモ類の生息調査 調査項目」のとおりです。

4. 現地調査員の調査結果とりまとめ

都道府県の担当者の方は、調査実施後、現地調査員の調査報告をとりまとめてください。

なお、参考資料1「現地調査員報告様式例」は、現地調査員が調査結果を報告するための記入様式の一例ですので、適宜参考にしてください。

また、現地調査員報告様式例を用いる場合には、参考資料2「現地調査員報告様式例記入上の留意事項等」を御参照ください。

5. 都道府県担当者からの環境省への報告

都道府県の担当者の方は、別紙2-1「都道府県報告様式a～c」（様式aには前年度調査時の地点情報が記載されています）に調査結果を入力し、電子メールに添付して令和4年2月24日（木）までにガンカモ類の生息調査及びカワウカウント共通アドレス（gankamo_kawau@env.go.jp）までお送りください。なお、書面による御報告は必須ではありません。

それぞれの様式の報告内容と提出方法は、以下のとおりです。

様式名	報告内容	提出方法
様式 a	調査地点ごとのハクチョウ類、ガン類、カモ類、カワウの個体数を記入 ※今年度調査の様式より、カワウの個体数記入欄を追加しました	必須
様式 b	様式 a に載っていない種及び亜種を発見した場合に記入	任意
様式 c	現地調査員の実人数や所属を記入	必須

必須：報告内容の有無にかかわらず、必ず御提出をお願いいたします。

任意：御提出は任意となりますが、報告すべき情報があった場合は、御提出をお願いいたします。

なお、別紙2-1「都道府県報告様式a～c」を入力する際は、別紙2-2「都道府県報告様式記入上の留意事項」を御参照ください。

また、提出の前に、入力内容の一通りの御確認をお願いいたします。

6. 環境省からの各都道府県担当者へのエラー照会・事実確認

各都道府県からお送りいただいた電子様式a～cについては、環境省で論理チェック（空欄、誤記等の単純なエラーチェック）及び生物学的チェック（個体数データに係る誤同定・誤報告等のエラーチェック）を実施し、各都道府県担当者へのエラー照会・事実確認を行わせていただく場合がありますので、御協力をお願いいたします。

なお、生物学的チェックでは、ガンカモ類の専門家の意見を踏まえ作成した「生物学的チェック表」に準拠してエラーデータを抽出し、専門家確認を経た上で、必要に応じて都道府県へ再確認をお願いしております。生物学的チェック表（令和3年度版）は下記のとおりとなりますので、調査結果報告前の確認をしていただく際に、御参照ください。

生物学的チェック表（令和3年度版）

概要	対象種	チェック内容
個体数そのものが少ない希少種	カリガネ、サカツラガン、シジュウカラガン、カナダガン、ハイイロガン、ハクガン、アカツクシガモ、アカハシハジロ、アカハジロ、アラナミキンクロ、オオホシハジロ、クビワキンクロ、ケワタガモ、コウライアイサ、コケワタガモ、ヒメハジロ、メジログアモ、リュウキュウガモ、シマアジ	都道府県に限らず1羽以上報告された場合にチェック
内陸にいるのが稀な種	アラナミキンクロ、ウミアイサ、クロガモ、ケワタガモ、コオリガモ、コケワタガモ、シノリガモ、ピロードキンクロ、スズガモ、シマアジ	地況コードが 1:海岸、2:河口以外で報告された場合にチェック ※都道府県よりチェック対象外指定された地点および海岸から 500m 以内の地点は除く
生息が稀な地域で出現①	オオハクチョウ	東京都・神奈川県・山梨県・岐阜県・静岡県・愛知県・三重県・大阪府・奈良県・和歌山県・中国・四国・九州で報告された場合にチェック
生息が稀な地域で出現②	コハクチョウ	四国・九州で報告された場合にチェック
生息が稀な地域で出現③	コクガン、コオリガモ	北海道・東北以外で1羽以上報告された場合にチェック
生息が稀な地域で出現④	マガン、ヒシクイ、ガン種類不明	宮城、秋田、新潟、石川、福井以外で1羽以上報告された場合にチェック
アメリカヒドリとヒドリガモの関係性確認	アメリカヒドリ、ヒドリガモ	【条件】 ①アメリカヒドリのみ観察された地点 ②アメリカヒドリが5羽以上観察された地点 ③上記以外の場合、アメリカヒドリ÷ヒドリガモの比率が 0.03 を超える地点 ①②③いずれかの条件を満たしている場合にチェック
生息が稀な地域で出現⑤	クロガモ	中国・四国・九州で1羽以上報告された場合にチェック
生息が稀な地域で出現⑥	ツクシガモ	近畿地方より北(福井県～岐阜県～愛知県以東)で報告された場合にチェック
生息が稀な地域で出現⑦	シノリガモ	岡山県・広島県・四国・九州で1羽以上報告された場合にチェック

※過去4年以内に観測実績のあるデータは、チェック対象から除外。

7. その他

(1) 重点的な調査地

渡来数の多い調査地及び絶滅のおそれのある種7種（シジュウカラガン、ハクガン、カリガネ、コクガン、ヒシクイ、ツクシガモ、トモエガモ）等の希少なガンカモ類の渡来する調査地については、特に調査精度の向上につき、重点的に配慮をお願いいたします。

(2) 関係団体との協力

調査実施前には、日本野鳥の会、日本鳥類保護連盟、猟友会等の関係民間団体とあらかじめ調査方法等について協議いただきますようお願いいたします。

(3) 識別ガイドについて

ガンカモ類の生息調査において見られる主なカモ類とハクチョウ類等の識別ポイントをまとめた識別ガイドを作成し、下記に公開しておりますので御活用下さい。

●ページ順

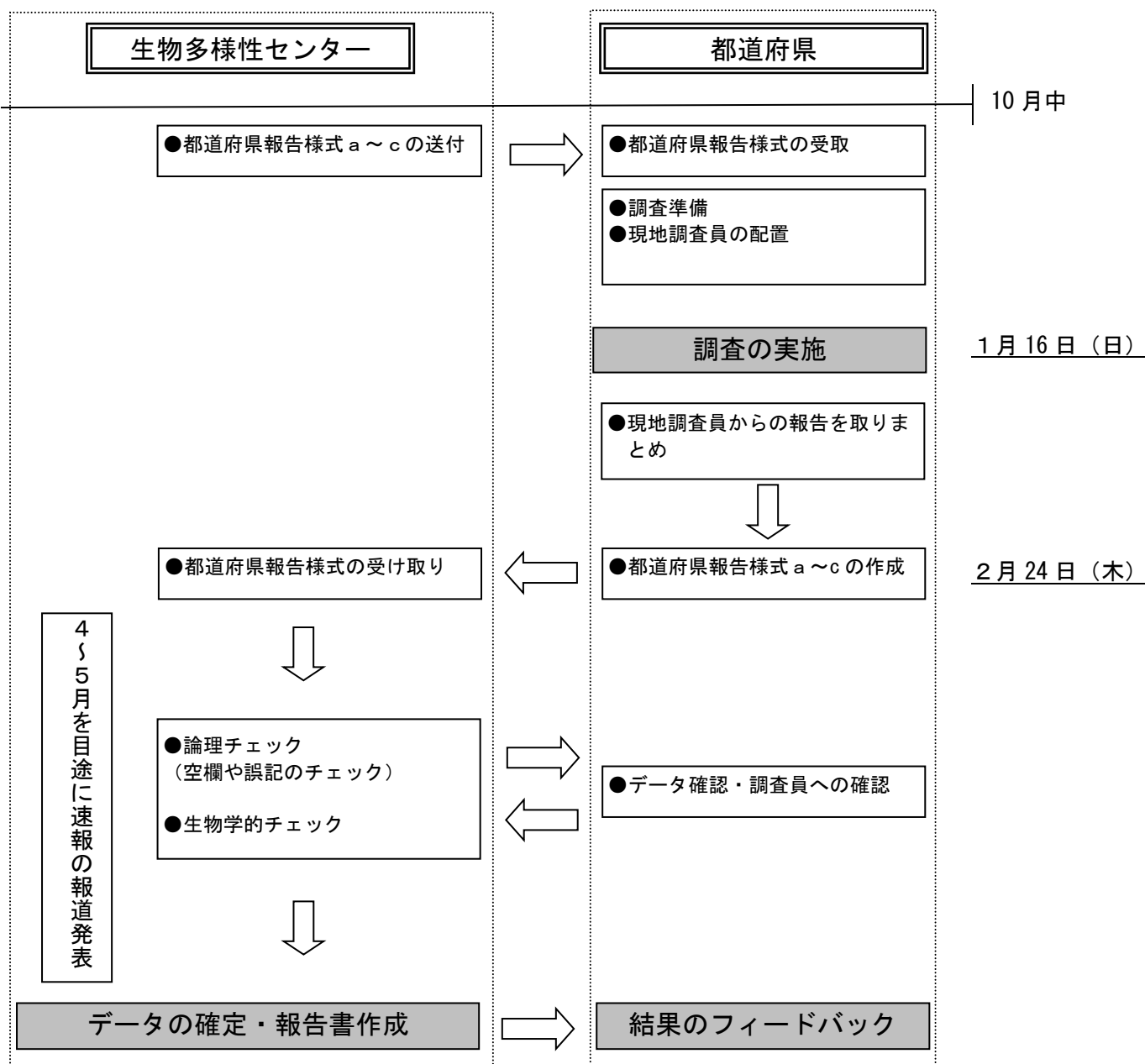
http://www.biodic.go.jp/gankamo/seikabutu/data/report/IdentificationGuide_bypage.pdf

●製本順 ※短辺綴じの両面印刷で出力し、出力された順に重ね、内側に折る

http://www.biodic.go.jp/gankamo/seikabutu/data/report/IdentificationGuide_bi-fold.pdf

第3章 調査全体の流れ・データの受け渡し

調査全体の流れは以下のとおりです。



例年、論理チェック並びに生物学的チェックの結果、再照会を要するデータがあるため、各都道府県ご担当の皆様には大変お手数をお掛けしております。エラーの低減、迅速な処理及び確定データの早期公開に向け、必須項目が空欄になっていないか等につきましては、御提出前に再度ファイルを御確認いただきますよう、御協力をお願いいたします。

ガンカモ類の生息調査 調査項目

1 調査地点（都道府県報告様式 a、現地調査員報告様式例 1）

ガンカモ類の渡来の有無に関わらず、調査を実施した調査地はすべて記録してください。
なお、「都道府県報告様式 a」及び「現地調査員報告様式例 1」については、前年度の調査地点情報をあらかじめ記載してあります。

（1）地点情報コード（調査継続状況の把握）

各調査地点が、下記選択肢のいずれに該当するかを確認してください。

- 0（継続）：前年度から継続して調査を実施した地点
- 1（復活）：前年度には調査を実施しなかったが、1989年（昭和63年度調査）以降1度でも調査を実施したことがある地点
 - ※ 昭和63（1988）年度以降の全調査地点については、環境省から電子メールに添付してお送りする別紙1-3「1989-2021年ガンカモ調査地点リスト」に整理しておりますので、御参照ください。
- 2（新規）：新規の調査地点
- 3（休止）：今年度調査を実施しなかった地点

（2）調査地点番号

調査地の番号は、1調査地に1つずつ与えられています。これまで、過去とは異なる番号が記録されたり、既に登録されている番号が新たな地点の番号として記録されている事例がありましたので、御注意ください。

- ア 前年度からの継続調査地は、既存番号を変更しないこと。
- イ 昭和63（1988）年度～令和元（2019）年度のいずれかの年度に調査を行ったが、令和2（2020）年度には調査を行わず、今年度再び調査を行った場合は、過去に使用した番号を記録すること（別紙1-3「1989-2020年ガンカモ調査地点リスト」参照）。
 - ただし、昭和62（1987）年度以前のいずれかの年度に調査を行ったが、その後調査を行わず、今年度再び調査を行った場合は、新規の場合と同様に取り扱うこと。
- ウ 新規調査地の調査地点番号については、現地調査員が都道府県の取りまとめ担当者に、これまで一度も使用していない番号であるかどうかを確認したうえで記録すること。

- 6 (その他人造湖) : 調査地域がダム湖を除く人造湖の場合
(ため池、公園の池、ゴルフ場の池、堀等)
- 7 (その他) : 調査地域が1～6に該当しない場合
(貯木場、運河、水田、湿原、塩田跡等)

(7) 面積

湖沼、ダム湖、その他人造湖の開放水面の場合はその面積を、海岸、河口、河川、その他の場合は調査範囲の面積を、それぞれ ha 単位で記録してください(小数点以下第1位までとし、第2位は四捨五入)。

(8) 緯度、経度、測地系、調査地点位置図

(1)で新規に該当する調査地点、又は復活に該当し、緯度・経度が別紙1～3「1989-2021年ガンカモ調査地点リスト」に記載されていない調査地点においては、緯度・経度を秒単位まで記録してください。

調査地点の位置が不明な場合は、現地調査員に確認をしてください。

なお、位置の特定に当たっては調査範囲の中心的な地点を調査地点としてください。

※緯度・経度の記録に当たっては、地理院地図 (<http://maps.gsi.go.jp/>)等を参照してください。

※「測地系」には原則として、世界測地系を用いてください。

※「日本測地系」を用いた場合のみ、その旨を備考欄に記録してください。

※測地系の詳細については、国土地理院 HP (下記 URL)を御参照ください。

■日本の測地系：<https://www.gsi.go.jp/sokuchikijun/datum-main.html>

■世界測地系の導入に関して：<https://www.gsi.go.jp/LAW/jgd2000-AboutJGD2000.htm>

(9) 鳥獣保護区等

下記の区分に従い、コード番号を記録します。なお、2種類以上の区分にかかる場合は最大3区分までとし、面積比率の高い順に左寄せで記録してください。

- 1 (鳥獣) : 調査地域が鳥獣保護区の場合
- 2 (休猟) : 調査地域が休猟区の場合
- 3 (法律) : 調査地域が鳥獣保護管理法施行規則第7条第1項第7号ハからチまでの場所の場合(公道、自然公園法による特別保護地区、都市計画法による園地、自然環境保全法による原生自然環境保全地域、社寺境内、墓地)
- 4 (猟禁) : 調査地域が特定猟具使用禁止区域(銃器)(注:旧銃猟禁止区域)の場合
- 5 (猟制) : 調査地域が特定猟具使用制限区域(銃器)(注:旧銃猟制限区域)の場合
- 6 (猟区) : 調査地域が猟区の場合
- 7 (他) : 調査地域が1～6に該当しない場合

(10) 調査人数

調査人員の延べ人数を、調査地点ごとに記録してください。

(11) 現地調査員代表者名

現地調査員の代表者氏名を記録してください。

(12) 調査月日

調査を実施した月日を記録してください。

(13) 天候

調査実施時の天候を、次の区分に従って記録してください。

なお、例えば「晴ときどき曇、一時雪のち霧」等調査実施中に天候が変化した場合は、調査実施中の主要天候を一つ選んで記録してください。

1 : 晴 2 : 曇 3 : 雨 4 : 雪 5 : 霧

(14) 給餌の実施状況

調査地における給餌の有無を把握し、次の区分に従って記録してください。

なお、給餌の有無は、調査実施中に給餌を行ったか否かではなく、日常的に給餌事業等を行っているか否かを把握した上で記録ください。給餌事業の実施の有無を把握していない場合は不明と記録してください。

1 : 給餌有り 2 : 給餌無し 3 : 不明（給餌の実施状況未把握）

(15) 環境コード

調査地域の生息環境及びその変化が次の区分に当てはまる場合は、該当するコードを記録してください。なお、複数のコードに該当する場合は、そのすべてを記入欄に左寄せで記録してください。

1（全面凍結）： 調査地の水面が全面凍結している場合

2（一部凍結）： 調査地の水面が一部凍結している場合

3（水質悪化）： 調査地の水質が悪化している場合

※ ただし、調査実施中に水質の悪化が見られた場合に限らず、
前回調査時と比較して悪化した場合を含む。

4（水量減少）： 調査地の水量が減少している場合

※ ただし、調査実施中に水量の減少が見られた場合に限らず、
前回調査時と比較して減少した場合を含む。

5（工事）： 調査地で工事等を行っている場合

※ ただし、調査実施中に工事作業を実施している場合に限らず、過去の工事のために環境が変化している場合を含む。

- 6（宅地化）： 調査地が前回調査と比較して宅地化が進んでいる場合
- 7（埋立）： 調査地が前回調査と比較して埋立が進んでいる場合
- 8（その他）： 調査地の環境が1～7以外の特別な状況にある場合

なお、上記「前回調査」とは、前年度調査のほか数年前に調査地とした場合を含め、今年度新規に調査地とした地点の場合は「以前」と読み替えるものとします。

また、8（その他）に該当する場合、その具体的内容、特記事項等を「備考」欄に簡潔に記録してください。

2 ガンカモ類の個体数

（都道府県報告様式 a・b、現地調査員報告様式例 2～5）

（1）個体数調査

ガン・カモ・ハクチョウ類の種ごとの個体数を記録してください。また、ガンカモ類の生息調査の各調査地点において観察されたカワウの個体数についても記録してください。

なお、別紙 1-2 「日本産鳥類目録第 7 版（平成 24 年改訂）抜粋改変版」に記載されている複数の亜種を含む種について、亜種別の個体数が把握できた場合は、都道府県報告様式 b（任意報告）に各亜種の個体数、都道府県報告様式 a（必須報告）に亜種別個体数の合計となる種の個体数を記録してください。

（2）絶滅のおそれのある種及びカウント数の少ないカモ類について

下記に示すガンカモ類については、その種と判断した理由・根拠（識別ポイント）が報告された場合は備考欄に記録してください。

※ 専門家によるデータチェックの際に、さかのぼって確認できるようにしておくためのものです。

① 絶滅のおそれのある種：

シジュウカラガン、ハクガン、カリガネ、コクガン、ヒシクイ、ツクシガモ、トモエガモ

② 過年度調査でカウント数の少ないカモ類：

リュウキュウガモ、アカツクシガモ、シマアジ、アカハシハジロ、オオホシハジロ、メジロガモ、アカハジロ、ケワタガモ、コケワタガモ、アラナミキンクロ、ヒメハジロ、クビワキンクロ、コウライアイサ

(3) 移入種について

カナダガン（平成25年度までシジュウカラガン大型亜種として扱われていましたが、平成26年度より独立種としています。なお、国内に定着が確認されていた個体の防除は平成27年12月に完了しましたが、モニタリングとして国内の目撃情報を収集するための呼びかけを継続して行っています。）やコブハクチョウなどの人為的に持ち込まれた種については、確認された個体数を様式 a（必須報告）に記録してください。

(4) 飼養品種（任意報告項目）について

アヒルやアイガモなどの飼養品種で野外に逸出し繁殖しているおそれのあるものについて報告があった場合は、その個体数を様式 b（任意報告）に記録してください。

3 現地調査員内訳（都道府県報告様式 c、現地調査員報告様式例 6）

各都道府県における現地調査員の実人数を記録してください。

その際、現地調査員が①都道府県職員、②鳥獣保護管理員、③鳥獣保護管理員以外の3項目で分類し、各人数を集計します。②及び③の場合には、「保護団体関係者」、「狩猟団体関係者」、「保護・狩猟団体両団体関係者」、「その他」のいずれかまで区分します。

◆別紙1-2 日本産鳥類目録第7版(平成24年改訂)抜粋 改変版

「日本産鳥類目録第7版(平成24年改訂)抜粋改変版」※分類群順

種名(和名)	データ記入用の様式		コードNo.		属	種	亜種	命名者、年	備考 (レッドリストランク等)
	現地調査 員報告様 式例	都道府県 報告様式	種コード	亜種コード					
鳥綱					AVES				
カモ目					ANSERIFORMES				
カモ科					Anatidae				
ガン類									
シジュウカラガン	3	a	077		<i>Branta</i>	<i>hutchinsii</i>		{Richardson, 1832}	
亜種シジュウカラガン	5	b	077	01	<i>Branta</i>	<i>hutchinsii</i>	<i>leucopareia</i>	{Brandt, 1836}	CR
亜種ヒメシジュウカラガン	5	b	077	02	<i>Branta</i>	<i>hutchinsii</i>	<i>minima</i>	{Ridgway, 1885}	
カナダガン	5	a	13128	01	<i>Branta</i>	<i>canadensis</i>	<i>moffitti</i>		移入
コクガン	3	a	078	01	<i>Branta</i>	<i>bernicla</i>	<i>orientalis</i>	{Tugarinov, 1941}	VU
ハイロガン	3	a	079	01	<i>Anser</i>	<i>anser</i>	<i>rubirostris</i>	{Swinhoe, 1871}	
マガン	3	a	080	01	<i>Anser</i>	<i>albifrons</i>	<i>albifrons</i>	{Scopoli, 1769}	NT
カリガネ	3	a	081		<i>Anser</i>	<i>erythropus</i>		{Linnaeus, 1758}	EN
ヒシクイ	3	a	082		<i>Anser</i>	<i>fabalis</i>		{Latham, 1787}	VU
亜種オオヒシクイ	5	b	082	01	<i>Anser</i>	<i>fabalis</i>	<i>middendorffii</i>	{Severtzov, 1873}	
亜種ヒメヒシクイ	5	b	082	02	<i>Anser</i>	<i>fabalis</i>	<i>curtus</i>	{Lonnberg, 1923}	
亜種ヒシクイ	5	b	082	03	<i>Anser</i>	<i>fabalis</i>	<i>serrirostris</i>	{Swinhoe, 1871}	VU
ハクガン	3	a	083		<i>Anser</i>	<i>caerulescens</i>		{Linnaeus, 1758}	
亜種ハクガン	5	b	083	01	<i>Anser</i>	<i>caerulescens</i>	<i>caerulescens</i>	{Linnaeus, 1758}	CR
亜種オオハクガン	5	b	1128	01	<i>Anser</i>	<i>caerulescens</i>	<i>atlanticus</i>	{Kennard, 1927}	
ミカドガン	5	b	084		<i>Anser</i>	<i>canagicus</i>		{Sevastianov, 1802}	
サカツラガン	3	a	085		<i>Anser</i>	<i>cygnoides</i>		{Linnaeus, 1758}	DD
インドガン	5	b	2128		<i>Anser</i>	<i>indicus</i>		{Latham, 1790}	
ハクチョウ類									
コブハクチョウ	2	a	086		<i>Cygnus</i>	<i>olor</i>		{Gmelin, 1789}	移入
ナキハクチョウ	5	b	087		<i>Cygnus</i>	<i>buccinator</i>		{Richardson, 1832}	
オオハクチョウ	2	a	088		<i>Cygnus</i>	<i>cygnus</i>		{Linnaeus, 1758}	
コハクチョウ	2	a	089		<i>Cygnus</i>	<i>columbianus</i>		{Ord, 1815}	
亜種コハクチョウ	5	b	089	01	<i>Cygnus</i>	<i>columbianus</i>	<i>jankowskyi</i>	{Alpheraky, 1904}	
亜種アメリカコハクチョウ	5	b	089	02	<i>Cygnus</i>	<i>columbianus</i>	<i>columbianus</i>	{Ord, 1815}	
コクチョウ	5	b	11128		<i>Cygnus</i>	<i>atratus</i>		{Latham, 1790}	移入
カモ類									
リュウキュウガモ	4-2, 5	a	090		<i>Dendrocygna</i>	<i>javanic</i>		{Horsfield, 1821}	
アカツクシガモ	4-2, 5	a	091		<i>Tadorna</i>	<i>ferruginea</i>		{Pallas, 1764}	DD
ツクシガモ	4-2	a	092		<i>Tadorna</i>	<i>tadorna</i>		{Linnaeus, 1758}	VU
カンムリツクシガモ	5	b	093		<i>Tadorna</i>	<i>cristata</i>		{Kuroda, 1917}	EX
オシドリ	4-1	a	094		<i>Aix</i>	<i>galericulata</i>		{Linnaeus, 1758}	DD
マガモ	4-1	a	095	01	<i>Anas</i>	<i>platyrhynchos</i>	<i>platyrhynchos</i>	{Linnaeus, 1758}	
カルガモ	4-1	a	096		<i>Anas</i>	<i>zonorhyncha</i>		{Swinhoe, 1866}	
コガモ	4-1	a	097		<i>Anas</i>	<i>crecca</i>		{Linnaeus, 1758}	
亜種コガモ	5	b	097	01	<i>Anas</i>	<i>crecca</i>	<i>crecca</i>	{Linnaeus, 1758}	
亜種アメリカコガモ	5	b	097	02	<i>Anas</i>	<i>crecca</i>	<i>carolinensis</i>	{Gmelin, 1789}	
トモエガモ	4-2	a	098		<i>Anas</i>	<i>formosa</i>		{Georgi, 1775}	VU
ヨシガモ	4-1	a	099		<i>Anas</i>	<i>falcata</i>		{Georgi, 1775}	
オカヨシガモ	4-1	a	100	01	<i>Anas</i>	<i>strepera</i>	<i>strepera</i>	{Linnaeus, 1758}	
ヒドリガモ	4-1	a	101		<i>Anas</i>	<i>penelope</i>		{Linnaeus, 1758}	
アメリカヒドリ	4-2, 5	a	102		<i>Anas</i>	<i>americana</i>		{Gmelin, 1789}	
オナガガモ	4-1	a	103		<i>Anas</i>	<i>acuta</i>		{Linnaeus, 1758}	
シマアジ	4-2, 5	a	104		<i>Anas</i>	<i>querquedula</i>		{Linnaeus, 1758}	
ハシビロガモ	4-1	a	105		<i>Anas</i>	<i>clypeata</i>		{Linnaeus, 1758}	
ミカツキシマアジ	5	b	4128		<i>Anas</i>	<i>discors</i>		{Linnaeus, 1766}	
アカハシハジロ	4-2, 5	a	106		<i>Netta</i>	<i>rufina</i>		{Pallas, 1773}	
ホシハジロ	4-1	a	107		<i>Aythya</i>	<i>ferina</i>		{Linnaeus, 1758}	
アメリカホシハジロ	5	b	108		<i>Aythya</i>	<i>americana</i>		{Eytton, 1838}	
オオホシハジロ	4-2, 5	a	109		<i>Aythya</i>	<i>valisineria</i>		{Wilson, 1814}	
クビワキンクロ	4-2	a	110		<i>Aythya</i>	<i>collaris</i>		{Donovan, 1809}	
メジロガモ	4-2, 5	a	111		<i>Aythya</i>	<i>nyroca</i>		{Guldenstadt, 1770}	
アカハジロ	4-2, 5	a	112		<i>Aythya</i>	<i>baeri</i>		{Radde, 1863}	DD
キンクロハジロ	4-1	a	113		<i>Aythya</i>	<i>fulgula</i>		{Linnaeus, 1758}	
スズガモ	4-1	a	114	01	<i>Aythya</i>	<i>marila</i>	<i>mariloides</i>	{Vigors, 1839}	
コスズガモ	5	b	115		<i>Aythya</i>	<i>affinis</i>		{Eytton, 1838}	

種名(和名)	データ記入用の様式		コードNo.		属	種	亜種	命名者、年	備考 (レッドリストランク等)
	現地調査 員報告様 式例	都道府県 報告様式	種コード	亜種コード					
コケワタガモ	4-2, 5	a	116		<i>Polysticta</i>	<i>stelleri</i>		(Pallas, 1769)	
ケワタガモ	4-2, 5	a	117		<i>Somateria</i>	<i>spectabilis</i>		(Linnaeus, 1758)	
クロガモ	4-1	a	118		<i>Melanitta</i>	<i>nigra</i>		(Swainson, 1832)	
ビロードキンクロ	4-2	a	119	01	<i>Melanitta</i>	<i>fusca</i>	<i>stejnegeri</i>	(Ridgway, 1887)	
アラナミンクロ	4-2, 5	a	120		<i>Melanitta</i>	<i>perspicillata</i>		(Linnaeus, 1758)	
シノリガモ	4-2	a	121		<i>Histrionicus</i>	<i>histrionicus</i>		Brooks, 1915	
コオリガモ	4-2	a	122		<i>Clangula</i>	<i>hyemalis</i>		(Linnaeus, 1758)	
ホオジロガモ	4-2	a	123	01	<i>Bucephala</i>	<i>clangula</i>	<i>clangula</i>	(Linnaeus, 1758)	
ヒメハジロ	4-2, 5	a	124		<i>Bucephala</i>	<i>albeola</i>		(Linnaeus, 1758)	
ミコアイサ	4-2	a	125		<i>Mergus</i>	<i>albellus</i>		Linnaeus, 1758	
ウミアイサ	4-2	a	126		<i>Mergus</i>	<i>serrator</i>		Linnaeus, 1758	
コウライアイサ	4-2, 5	a	127		<i>Mergus</i>	<i>squamatus</i>		Gould, 1864	DD
カワアイサ	4-2	a	128		<i>Mergus</i>	<i>merganser</i>		Linnaeus, 1758	
亜種カワアイサ	5	b	128	01	<i>Mergus</i>	<i>merganser</i>	<i>merganser</i>	Linnaeus, 1758	
亜種コカワアイサ	5	b	128	02	<i>Mergus</i>	<i>merganser</i>	<i>comatus</i>	Salvadori, 1895	
飼養品種									
サカツラガンが原種					<i>Anser</i>	<i>cygnoides</i>		(Linnaeus, 1758)	
シナガチョウ	5	b	6128	01	<i>Anser</i>	<i>cygnoides</i>	<i>domesticus</i>	(Linnaeus, 1758)	移入、飼養
ハイイロガンが原種					<i>Anser</i>	<i>anser</i>		(Linnaeus, 1758)	
セイヨウガチョウ	5	b	7128	01	<i>Anser</i>	<i>anser</i>	<i>domesticus</i>	(Linnaeus, 1758)	移入、飼養
ノバリケンが原種					<i>Cairina</i>	<i>moschata</i>		(Linnaeus, 1758)	
バリケン	5	b	9128	01	<i>Cairina</i>	<i>moschata</i>	<i>domestica</i>	(Linnaeus, 1758)	移入、飼養
マガモが原種					<i>Anas</i>	<i>platyrhynchos</i>		Linnaeus, 1758	
アヒル	5	b	10128	01	<i>Anas</i>	<i>platyrhynchos</i>	<i>domestica</i>	(Linnaeus, 1758)	移入、飼養
アイガモ	5	b	10128	02	<i>Anas</i>	<i>platyrhynchos</i>			雑種

※コードNo.は「生物多様性調査 日本産鳥類目録」(平成12年3月)のコードに準拠します。コードのない種については仮コード(コードNo.1128~13128)を付しています。
 ※備考欄のレッドリストランクは、平成24年8月28日発表のリストに基づいています。

「日本産鳥類目録第7版（平成24年改訂）抜粋改変版」※アイウエオ順

種名(和名)	データ記入用の様式		コードNo.		属	種	亜種	命名者、年	備考 (レッドリストランク等)
	現地調査 員報告様 式例	都道府県 報告様式	種コード	亜種コード					
鳥綱					AVES				
カモ目					ANSERIFORMES				
カモ科					Anatidae				
ガン類									
インドガン	5	b	2128		<i>Anser</i>	<i>indicus</i>		{Latham, 1790}	
カリガネ	3	a	081		<i>Anser</i>	<i>erythropus</i>		{Linnaeus, 1758}	EN
コクガン	3	a	078	01	<i>Branta</i>	<i>bernicle</i>	<i>orientalis</i>	{Tugarinov, 1941}	VU
サカツラガン	3	a	085		<i>Anser</i>	<i>cygnoides</i>		{Linnaeus, 1758}	DD
シジュウカラガン	3	a	077		<i>Branta</i>	<i>hutchinsii</i>		{Richardson, 1832}	
亜種シジュウカラガン	5	b	077	01	<i>Branta</i>	<i>hutchinsii</i>	<i>leucopareia</i>	{Brandt, 1836}	CR
亜種ヒメシジュウカラガン	5	b	077	02	<i>Branta</i>	<i>hutchinsii</i>	<i>minima</i>	Ridgway, 1885	
カナダガン	5	a	13128	01	<i>Branta</i>	<i>canadensis</i>	<i>moffitti</i>		移入
ハイロガン	3	a	079	01	<i>Anser</i>	<i>anser</i>	<i>rubirostris</i>	Swinhoe, 1871	
ハクガン	3	a	083		<i>Anser</i>	<i>caerulescens</i>		{Linnaeus, 1758}	
亜種ハクガン	5	b	083	01	<i>Anser</i>	<i>caerulescens</i>	<i>caerulescens</i>	{Linnaeus, 1758}	CR
亜種オオハクガン	5	b	1128	01	<i>Anser</i>	<i>caerulescens</i>	<i>atlanticus</i>	{Kennard, 1927}	
ヒシクイ	3	a	082		<i>Anser</i>	<i>fabalis</i>		{Latham, 1787}	
亜種オオヒシクイ	5	b	082	01	<i>Anser</i>	<i>fabalis</i>	<i>middendorffii</i>	Severtzov, 1873	
亜種ヒメヒシクイ	5	b	082	02	<i>Anser</i>	<i>fabalis</i>	<i>curtus</i>	Lonnberg, 1923	
亜種ヒシクイ	5	b	082	03	<i>Anser</i>	<i>fabalis</i>	<i>serrirostris</i>	Swinhoe, 1871	VU
マガン	3	a	080	01	<i>Anser</i>	<i>albifrons</i>		{Scopoli, 1769}	
ミカドガン	5	b	084		<i>Anser</i>	<i>canagicus</i>		{Sevastianov, 1802}	
ハクチョウ類									
オオハクチョウ	2	a	088		<i>Cygnus</i>	<i>cygnus</i>		{Linnaeus, 1758}	
コクチョウ	5	b	11128		<i>Cygnus</i>	<i>atratus</i>		Latham, 1790	移入
コハクチョウ	2	a	089		<i>Cygnus</i>	<i>columbianus</i>		{Ord, 1815}	
亜種コハクチョウ	5	b	089	01	<i>Cygnus</i>	<i>columbianus</i>	<i>jankowskyi</i>	Alpheraky, 1904	
亜種アメリカコハクチョウ	5	b	089	02	<i>Cygnus</i>	<i>columbianus</i>	<i>columbianus</i>	{Ord, 1815}	
コブハクチョウ	2	a	086		<i>Cygnus</i>	<i>olor</i>		{Gmelin, 1789}	移入
ナキハクチョウ	5	b	087		<i>Cygnus</i>	<i>buccinator</i>		Richardson, 1832	
カモ類									
アカツクシガモ	4-2	a	091		<i>Tadorna</i>	<i>ferruginea</i>		{Pallas, 1764}	DD
アカハシハジロ	4-2	a	106		<i>Netta</i>	<i>rufina</i>		{Pallas, 1773}	
アカハジロ	4-2	a	112		<i>Aythya</i>	<i>baeri</i>		{Radde, 1863}	DD
アメリカビドリ	4-2	a	102		<i>Anas</i>	<i>americana</i>		{Gmelin, 1789}	
アメリカホシハジロ	5	b	108		<i>Aythya</i>	<i>americana</i>		{Eyton, 1838}	
アラナミキンクロ	4-2	a	120		<i>Melanitta</i>	<i>perspicillata</i>		{Linnaeus, 1758}	
ウミアイサ	4-2	a	126		<i>Mergus</i>	<i>serator</i>		Linnaeus, 1758	
オオホシハジロ	4-2	a	109		<i>Aythya</i>	<i>valisineria</i>		{Wilson, 1814}	
オカヨシガモ	4-1	a	100	01	<i>Anas</i>	<i>strepera</i>	<i>strepera</i>	Linnaeus, 1758	
オシドリ	4-1	a	094		<i>Aix</i>	<i>galericulata</i>		{Linnaeus, 1758}	DD
オナガガモ	4-1	a	103		<i>Anas</i>	<i>acuta</i>		Linnaeus, 1758	
カルガモ	4-1	a	096		<i>Anas</i>	<i>zonorhyncha</i>		Swinhoe, 1866	
カワアイサ	4-2	a	128		<i>Mergus</i>	<i>merganser</i>		Linnaeus, 1758	
亜種カワアイサ	5	b	128	01	<i>Mergus</i>	<i>merganser</i>	<i>merganser</i>	Linnaeus, 1758	
亜種コカワアイサ	5	b	128	02	<i>Mergus</i>	<i>merganser</i>	<i>comatus</i>	Salvadori, 1895	
カンムリツクシガモ	5	b	093		<i>Tadorna</i>	<i>cristata</i>		{Kuroda, 1917}	EX
キンクロハジロ	4-1	a	113		<i>Aythya</i>	<i>fuligula</i>		{Linnaeus, 1758}	
クビワキンクロ	4-2	a	110		<i>Aythya</i>	<i>collaris</i>		{Donovan, 1809}	
クロガモ	4-1	a	118		<i>Melanitta</i>	<i>nigra</i>		{Swainson, 1832}	
ケワタガモ	4-2	a	117		<i>Somateria</i>	<i>spectabilis</i>		{Linnaeus, 1758}	
コウライアイサ	4-2	a	127		<i>Mergus</i>	<i>squamatus</i>		Gould, 1864	DD
コオリガモ	4-2	a	122		<i>Clangula</i>	<i>hyemalis</i>		{Linnaeus, 1758}	
コガモ	4-1	a	097		<i>Anas</i>	<i>crecca</i>		Linnaeus, 1758	
亜種コガモ	5	b	097	01	<i>Anas</i>	<i>crecca</i>	<i>crecca</i>	Linnaeus, 1758	
亜種アメリカコガモ	5	b	097	02	<i>Anas</i>	<i>crecca</i>	<i>carolinensis</i>	Gmelin, 1789	
コケワタガモ	4-2	a	116		<i>Polysticta</i>	<i>stelleri</i>		{Pallas, 1769}	
コスズガモ	5	b	115		<i>Aythya</i>	<i>affinis</i>		{Eyton, 1838}	
シノリガモ	4-2	a	121		<i>Histrionicus</i>	<i>histrionicus</i>		Brooks, 1915	

種名(和名)	データ記入用の様式		コードNo.		属	種	亜種	命名者、年	備考 (レッドリストランク等)
	現地調査 員報告様 式例	都道府県 報告様式	種コード	亜種コード					
シマアジ	4-2	a	104		<i>Anas</i>	<i>querquedula</i>		Linnaeus, 1758	
スズガモ	4-1	a	114	01	<i>Aythya</i>	<i>marila</i>	<i>mariloides</i>	(Vigors, 1839)	
ツクシガモ	4-2	a	092		<i>Tadorna</i>	<i>tadorna</i>		(Linnaeus, 1758)	VU
トモエガモ	4-2	a	098		<i>Anas</i>	<i>formosa</i>		Georgi, 1775	VU
ハシビロガモ	4-1	a	105		<i>Anas</i>	<i>clypeata</i>		Linnaeus, 1758	
ヒドリガモ	4-1	a	101		<i>Anas</i>	<i>penelope</i>		Linnaeus, 1758	
ヒメハジロ	4-2	a	124		<i>Bucephala</i>	<i>albeola</i>		(Linnaeus, 1758)	
ビロードキンクロ	4-2	a	119	01	<i>Melanitta</i>	<i>fusca</i>	<i>stejnegeri</i>	(Ridgway, 1887)	
ホオジロガモ	4-2	a	123	01	<i>Bucephala</i>	<i>clangula</i>	<i>clangula</i>	(Linnaeus, 1758)	
ホシハジロ	4-1	a	107		<i>Aythya</i>	<i>ferina</i>		(Linnaeus, 1758)	
マガモ	4-1	a	095	01	<i>Anas</i>	<i>platyrhynchos</i>	<i>platyrhynchos</i>	Linnaeus, 1758	
ミカヅキシマアジ	5	b	4128		<i>Anas</i>	<i>discors</i>		Linnaeus, 1766	
ミコアイサ	4-2	a	125		<i>Mergus</i>	<i>albellus</i>		Linnaeus, 1758	
メジロガモ	4-2	a	111		<i>Aythya</i>	<i>nyroca</i>		(Guldenstadt, 1770)	
ヨシガモ	4-1	a	099		<i>Anas</i>	<i>fulcata</i>		Georgi, 1775	
リュウキュウガモ	4-2	a	090		<i>Dendrocygna</i>	<i>javanica</i>		(Horsfield, 1821)	
飼養品種									
アイガモ	5	b	10128	02	<i>Anas</i>	<i>platyrhynchos</i>			雑種
アヒル	5	b	10128	01	<i>Anas</i>	<i>platyrhynchos</i>	<i>domestica</i>	(Linnaeus, 1758)	移入、飼養
シナガチョウ	5	b	6128	01	<i>Anser</i>	<i>cygnoides</i>	<i>domesticus</i>	(Linnaeus, 1758)	移入、飼養
セイヨウガチョウ	5	b	7128	01	<i>Anser</i>	<i>anser</i>	<i>domesticus</i>	(Linnaeus, 1758)	移入、飼養
バリケン	5	b	9128	01	<i>Cairina</i>	<i>moschata</i>	<i>domestica</i>	(Linnaeus, 1758)	移入、飼養

※「生物多様性調査 日本産鳥類目録」(平成12年3月)の中でコードが振られていない種については仮コード(コードNo.1128~13128)を付しています。
 ※備考欄のレッドリストランクは、平成24年8月28日発表のリストに基づいています。

◆別紙1-3 1989～2021年ガンカモ調査地点リスト

1989～2021年ガンカモ調査地点リスト項目を以下に示す。

項目名
最終調査実施年
都道府県
調査地点番号
市町村名
地況
調査地点名
調査地域番号
調査地域名称
1次メッシュコード
2次メッシュコード
3次メッシュコード
面積
緯度・度
緯度・分
緯度・秒
経度・度
経度・分
経度・秒
測地系

◆別紙 2 - 1 都道府県報告様式 a~c

都道府県報告様式 a 項目を以下に示す。

項目名	入力必須項目	コード入力項目	入力制限の有無	自動計算
変更の有無			○	
地点情報コード	○	○	○	
年	○			
都道府県	○			
調査地点番号	○			
調査地点名	○			
調査地域番号				
調査地域名称				
市町村名	○			
地況	○	○	○	
面積 (ha)	○			
緯度度	○		○	
緯度分	○		○	
緯度秒	○		○	
経度度	○		○	
経度分	○		○	
経度秒	○		○	
鳥獣保護区等(1)	○	○	○	
鳥獣保護区等(2)		○	○	
鳥獣保護区等(3)		○	○	
調査人員	○ (調査実施時のみ)			
調査員代表者名	○ (調査実施時のみ)			
調査月	○ (調査実施時のみ)		○	
調査日	○ (調査実施時のみ)		○	
天候	○ (調査実施時のみ)	○	○	
給餌コード	○	○	○	
環境コード(1)		○	○	
環境コード(2)		○	○	
環境コード(3)		○	○	
環境コード(4)		○	○	
環境コード(5)		○	○	
備考				
オオハクチョウ				
コハクチョウ				
アメリカコハクチョウ				
コブハクチョウ				
ハクチョウ類種不明				
シジュウカラガン				
カナダガン				
コクガン				
ハイイロガン				
マガン				
カリガネ				
ヒシクイ				
ハクガン				
サカツラガン				
ガン類種不明				

項目名	入力必須項目	コード入力項目	入力制限の有無	自動計算
オシドリ				
マガモ				
カルガモ				
コガモ				
ヨシガモ				
オカヨシガモ				
ヒドリガモ				
オナガガモ				
ハシビロガモ				
ホシハジロ				
キンクロハジロ				
スズガモ				
クロガモ				
トモエガモ				
ピロードキンクロ				
シノリガモ				
コオリガモ				
ホオジロガモ				
ウミアイサ				
カワアイサ				
ミコアイサ				
ツクシガモ				
リュウキュウガモ				
アカツクシガモ				
アメリカヒドリ				
シマアジ				
アカハシハジロ				
オオホシハジロ				
メジロガモ				
アカハジロ				
ケワタガモ				
コケワタガモ				
アラナミキンクロ				
ヒメハジロ				
クビワキンクロ				
コウライアイサ				
カモ種類不明				
ハクチョウ類合計				○
ガン類合計				○
カモ類合計				○
総合計				○
カワウ個体数				

都道府県報告様式 b 項目を以下に示す。

項目名
年
都道府県
調査地点番号
種コード
亜種コード
種名
個体数 羽
備考

都道府県報告様式 c 項目を以下に示す。

項目
年
都道府県
都道府県職員
鳥獣保護管理員 保護団体関係者
鳥獣保護管理員 狩猟団体関係者
鳥獣保護管理員 保護・狩猟両団体関係者
鳥獣保護管理員 その他
鳥獣保護管理員以外 保護団体関係者
鳥獣保護管理員以外 狩猟団体関係者
鳥獣保護管理員以外 保護・狩猟両団体関係者
鳥獣保護管理員以外 その他

都道府県報告様式記入上の留意事項

1. 共通事項

各様式に共通する入力時の注意事項については、次のとおりです。

(1) 数字入力、漢字入力

各様式の 4～5 行目には、各列の調査項目が「数字」と「漢字」のどちらで入力すべきかが表示されています。数字入力の場合は半角数字で、漢字入力の場合は全角の漢字・ひらがな・カタカナで入力してください。

(2) 実施年

調査実施年の「2022」を入力します。年度（2021）ではありませんのでご注意ください。

(3) 調査地点番号

調査地点番号については、別紙 1 - 1 「ガンカモ類の生息調査 調査項目」 1 (2) をご確認のうえ、入力してください。

特に、都道府県報告様式 b（任意提出）においては、調査地点番号が地点を特定する唯一の情報となりますので、調査地点番号に間違いがないか御確認をお願いいたします。

2. 都道府県報告様式 a について【必須提出】

都道府県報告様式 a と現地調査員報告様式例 1～4 の対応は、以下のとおりです。

調査地点	地点情報 (現地調査員報告様式例 1)			ハクチョウ類 (現地調査員報告様式例 2)			ガン類 (現地調査員報告様式例 3)			カモ類 (現地調査員報告様式例 4)			カワウ (現地調査員報告様式例 5)	

入力必須項目

本様式 a に掲載されている種以外の種は
「都道府県報告様式 b」で報告

入力画面イメージ 都道府県報告様式 a

【必須提出】様式 a																	
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
変更の有無	地点情報コード	年	都道府県	調査地点番号	調査地点名	調査地域番号	調査地域名称	市町村名	地況	面積 (ha)	緯度度	緯度分	緯度秒	経度度	経度分	経度秒	鳥獣保護区等(1)
	数字	数字	数字	数字	漢字	数字	漢字	漢字	数字	数字	数字	数字	数字	数字	数字	数字	数字
20**		1		53	千歳川-7	1	千歳川	千歳市	3	50	42	49	42	141	39	33	7
20**		1		55	千歳川-9	1	千歳川	千歳市	3	50	42	50	41	141	40	10	7
20**		1		57	千歳川-11	1	千歳川	千歳市	3	5	42	55	23	141	39	12	7
20**		1		61	千歳川-13	1	千歳川	千歳市	3	0.5	42	52	58	141	40	50	4
20**		1						千歳市	2	30	42	16	25	140	16	41	7
20**		1						千歳市	1	30	42	6	42	140	35	47	7
20**		1						千歳市	1	200	42	2	22	140	49	6	7
20**		1						千歳市	1	50	41	54	27	140	58	34	3
20**		1						千歳市	1	50	41	53	38	141	1	0	7
20**		1						千歳市	1	40	41	45	31	141	5	6	7
20**		2		10				千歳市	2	10	41	45	40	141	4	40	3
20**		1		20				千歳市	1	20	41	44	43	141	4	37	7
20**		1		30				千歳市	1	30	41	44	4	141	3	9	7
20**		1		30				千歳市	1	30	41	43	38	141	2	28	7
20**		1		30				千歳市	1	30	41	43	17	141	0	47	7
20**		1		30				千歳市	1	30	41	42	55	141	0	24	7
20**		1		30				千歳市	1	30	41	43	2	140	59	38	7
20**		1		30				千歳市	1	30	41	42	41	140	57	25	7
20**		1		30				千歳市	1	30	41	44	0	140	56	4	7
20**		1		242	小安			函館市	1	30	41	44	41	140	54	28	7
20**		1		245	古川町			函館市	1	3	41	45	38	140	51	21	7
20**		1		246	志海苔町			函館市	2	3	41	45	47	140	49	22	7
20**				247	松倉川			函館市	3	3	41	46	36	140	47		3
20**								七飯町	4	65	41	58	44	140	46		

「地点情報コード」をプルダウンより選択の上、御入力ください。

- ・0：継続地点（調査実施）
- ・1：復活地点（調査実施）
- ・2：新規地点（調査実施）
- ・3：休止地点（調査未実施）

様式 a にあらかじめ記載されている入力必須項目に変更がある場合は、プルダウンより「あり」を選択してください。変更がない場合は入力不要です。

「鳥獣保護区等(1)」～「備考」を御確認及び御入力ください。

(1) 様式 a 入力時の留意事項

お送りした今年度報告様式は、前年度の地点関連情報の一部があらかじめ記載されています。今後のエラー発生を最小限に抑えるため、必ずお送りした今年度報告様式をご利用ください。

- また、次のようなファイルの体裁を改変する操作は避けていただきますようお願いいたします。
- ・行・列の追加・削除・並べ替え（行の追加は、復活・新規調査地について入力する時のみ可能）
 - ・行・列の非表示化（入力作業に伴う非表示化は問題ありませんが、提出時には全ての行・列を表示した状態にしてください。）
 - ・スペースキーによるセル内容の削除（スペースキーでは完全に削除されないため、セル内容を削除する際にはデリート又はバックスペースを使用してください。）
 - ・シート追加時のシートの移動（報告用シートは常に一番左にしてください。）

(2) エラーチェックについて

報告様式には、以下のエラーチェック機能を付しております。今後のエラー発生を最小限に抑えるに当たって、調査結果報告前に御確認をお願いいたします。

- ・地点関連情報の入力必須項目が空欄の場合、セルが黄色く着色されるよう設定しております。
 - ✓ 調査結果を御提出いただく前に、空欄がないか御確認ください。
- ・地点関連情報に入力範囲外の数値が入力された場合、セルが赤く着色されるよう設定しております。
 - ✓ 入力内容に誤りががないか御確認ください。
- ・地点情報コードが3(休止)となっているものの、観察個体数の合計が1羽以上だった場合、「地点情報コード」のセルが青色に着色されるよう設定しております。
 - ✓ 「地点情報コード」または「観察個体数」に、行ずれや、誤りががないか等、御確認ください。

- ・カモ類のうち、観察が稀である種の個体数記入欄は色づけしております。
- ✓ 調査結果を御提出いただく前に、列ずれや、結果に誤りがないか等、御確認ください。

(3) 変更の有無について

様式 a にあらかじめ記載されている入力必須項目（前年度の地点関連情報）に変更がありましたら、プルダウンより「あり」を選択してください。変更がない場合は空欄で構いません。また、変更箇所は赤字でご記入をお願いいたします。

特に調査地点番号及び調査地点名については、よく御確認いただいた上で、変更してください。
また新規調査地点や復活した調査地点がある場合には、別紙 1 - 3 「1989～2021 年ガンカモ調査地点リスト」を参考に、過去に同一地点で調査が行われていないか確認したうえで、新たに行を追加し、地点関連情報を赤字で御入力ください。

(4) 緯度・経度・測地系

緯度・経度とも“度”“分”“秒”ごとに入力欄が用意されています。分・秒は、必ず 00～59 の間の数値を（60 進法で）入力してください。

【緯度・経度入力例：東経 135 度 8 分 3 秒の場合】

度	分	秒
135	08	03

（上記例のように“08” “03”のような場合は、単に“8” “3”と入力しても構いません。）

また、緯度・経度計測の際に基準となるのが「測地系」ですが、新規調査地の緯度・経度計測に際して、原則として「世界測地系」を用いてください。なお、「日本測地系」を用いた場合は、その旨を備考欄に明記してください。

測地系の詳細については国土地理院の HP（下記 URL）を御参照ください。

■日本の測地系：<https://www.gsi.go.jp/sokuchikijun/datum-main.html>

■世界測地系の導入に関して：<https://www.gsi.go.jp/LAW/jgd2000-AboutJGD2000.htm>

(5) コードを入力する項目について

下記 1)～6) は別紙 1 - 1 「ガンカモ類の生息調査 調査項目」に記載のコードを入力いただくにあたって、プルダウンを設定しております。該当するコードをプルダウンより選択いただき、御入力ください。該当するコード番号を直接御入力いただくことも可能です。

なお、プルダウンの設定用の「コードリスト（変更不可）」シートについては、内容の改変を避けるため編集制限をかけております。

1) 地点情報コード（調査継続状況の把握）

別紙 1 - 1 「ガンカモ類の生息調査 調査項目」 1 (1) を参照し、0～3 のいずれかを入力してください。

2) 地況コード

別紙 1 - 1 「ガンカモ類の生息調査 調査項目」 1 (6) を参照し、1～7 のいずれかを入力してください。

3) 鳥獣保護区等コード

別紙1-1「ガンカモ類の生息調査 調査項目」1(9)を参照し、1～7のいずれか、または空白が入ります。

なお、2種類以上の区分にかかる場合は最大3区分までとし、面積比率の高い順に左寄せで該当する数字を入力してください。

【鳥獣保護区等コード入力例】

鳥獣保護区等		
1	7	

該当区分が2つの場合

4) 天候コード

別紙1-1「ガンカモ類の生息調査 調査項目」1(13)を参照し、1～5のいずれかを入力してください。

5) 給餌コード

別紙1-1「ガンカモ類の生息調査 調査項目」1(14)を参照し、1～3のいずれかを入力してください。

6) 環境コード

環境コード入力欄は5列分あります。別紙1-1「ガンカモ類の生息調査 調査項目」1(15)を参照し、該当する環境コードを左詰で順に入力してください。それ以外の箇所は空白のままとしてください。

【環境コード入力例】

環境コード				
1	3	7		

環境コードの対象が“1” “3” “7” の場合

↓

↓

↓

残りの環境コード欄は空欄のままとします

(6) 観察個体数 (ハクチョウ類、ガン類、カモ類、カワウ)

調査地点番号を基にして報告様式a中の当該箇所に入力していきます。今年度報告様式より、カワウの個体数入力欄を追加しました。

なお、ハクチョウ類、ガン類、カモ類のうち複数の亜種を含む種の個体数は、亜種別個体数(都道府県報告様式bに記録)の合計となりますので、適宜、都道府県報告様式b(任意提出)と照合しつつご確認ください。

3. 都道府県報告様式 b について【任意提出】

入力画面イメージ2 都道府県報告様式 b

【任意提出】 都道府県報告様式 b

1	2	3	4	5	6	7	8
年	都道府県	調査地点番号	種コード	亜種コード	種名	個体数羽	備考
数字	数字	数字	数字	数字	漢字	数字	漢字
20**							

(1) データ報告

別紙1-2「日本産鳥類目録第7版（平成24年改訂）抜粋改変版」に掲載されている種で複数の亜種を含むものを亜種まで同定した場合と、都道府県報告様式 a に記載されていない種が確認された場合に、調査地点別・種別に御報告ください（参考資料1「現地調査員報告様式例」5に対応）。

(2) 調査地点番号

必ず、都道府県報告様式 a に入力されている調査地点番号を入力してください。

(3) 種コード・亜種コード・種名

別紙1-2「日本産鳥類目録第7版（平成24年改訂）抜粋改変版」に掲載されている『種コード』・『亜種コード』・『種名』を入力してください。なお、同じ種内で複数の亜種がいた場合、様式 b における亜種別個体数の合計が、様式 a における種の個体数に相当します。

【報告様式 b 入力例】

調査地点 A（調査地点番号 123）で観察されたヒシクイのうち、亜種オオヒシクイが 100 羽、亜種ヒシクイが 20 羽であった場合

・都道府県報告様式 b には、亜種別の個体数をそれぞれ入力する。

【任意提出】 都道府県報告様式 b

1	2	3	4	5	6	7	8
年	都道府県	調査地点番号	種コード	亜種コード	種名	個体数羽	備考
数字	数字	数字	数字	数字	漢字	数字	漢字
20**	**	123	82	1	亜種オオヒシクイ	100	
20**	**	123	82	3	亜種ヒシクイ	20	

・都道府県報告様式 a におけるヒシクイの個体数は、亜種別個体数の合計（120羽）となる。

4. 都道府県報告様式cについて【必須提出】

入力画面イメージ3 都道府県報告様式c

【必須提出】都道府県報告様式c

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
年	都道府県	都道府県職員	鳥獣保護管理員				鳥獣保護管理員以外			
			保護団体関係者	狩猟団体関係者	保護・狩猟両団体関係者	その他	保護団体関係者	狩猟団体関係者	保護・狩猟両団体関係者	その他
数字	数字	数字	数字	数字	数字	数字	数字	数字	数字	数字
20**										

(1) データ報告

都道府県報告様式cについては、現地調査員に関するデータをまとめます（参考資料1「現地調査員報告様式例」6に対応）。1行分のみのデータ報告となります。本様式については、必ず御提出ください。

◆参考資料1 現地調査員報告様式例1～7

現地調査員報告様式例の構成は下記のとおり。

- 現地調査員報告様式例1 調査地点調査票
- 現地調査員報告様式例2 ハクチョウ類個体数調査票
- 現地調査員報告様式例3 ガン類個体数調査票
- 現地調査員報告様式例4-1 カモ類個体数調査票(1)
- 現地調査員報告様式例4-2 カモ類個体数調査票(2)
- 現地調査員報告様式例5 カワウ個体数調査票
- 現地調査員報告様式例6 その他のガンカモ類個体数調査票
- 現地調査員報告様式例7 調査員内訳調査票

様式例のイメージを次ページ以降に記載した。

現地調査員報告様式例2 ハクチョウ類個体数調査票

調査実施年① _____ 年 (都道府県名② _____ ページ数 - (_____))

(単位：羽)

調査地点番号	オオハクチョウ	コハクチョウ	アメリカ コハクチョウ	コブハクチョウ	ハクチョウ類 種不明	合計
計						

現地調査員報告様式例記入上の留意事項等

第 1 章 現地調査員報告様式例・都道府県報告様式対応

現地調査員報告様式例と都道府県報告様式は、以下のとおり対応しています。

表 1 現地調査員報告様式例・都道府県報告様式対応表

都道府県報告様式	現地調査員報告様式例	内容
a	1 調査地点調査票	調査地点の位置・環境等の基礎情報
	2 ハクチョウ類個体数調査票	地点別ハクチョウ類の個体数
	3 ガン類個体数調査票	地点別ガン類の個体数
	4 カモ類個体数調査票	地点別カモ類の個体数
	5 カワウ個体数調査票	地点別カワウの個体数
b	6 その他のガンカモ類個体数調査票	都道府県報告様式 a（現地調査員報告様式 2～4）に記載のないガンカモ類の個体数
c	7 調査員内訳調査票	調査員の所属内訳

※今年度様式例より、「5 カワウ個体数調査票」を追加いたしました。

第 2 章 各調査票作成に当たっての共通事項

調査票の整理・チェックのため、枠外所定の位置に

調査実施年①（2022年 【注】2021年ではありません）、都道府県名②を記入するとともに、
ページ番号を記入してください。

※文中の①～⑱は現地調査員報告様式例中の①～⑱と対応

第3章 調査地点調査票（現地調査員報告様式例1）の作成

1. 継続調査地及び新規調査地

前年度からの継続調査地については、当該データを2段書きの上段に記入してありますので、変更箇所があれば赤線を引いて下段に赤字で記入してください。

また、新規調査地については、余部の調査票の上段に記入してください。

(記入例)

	③	④	⑤
	調査地点番号	調査地点名	市町村名 (1ヶ所のみ記入)
変更がない場合は記入不要です。	1	霞ヶ関海岸	環境町
変更がある場合は下段に赤字で記入して下さい。	2	千代田ダム	環境町 地球市
新規調査地は、余部の上段に新たに記入して下さい。	401	生物市水田	生物市

2. 地況コード⑥

「ガンカモ類の生息調査 調査項目」1 (6)を確認の上、該当するコード番号に丸印 (○) を付けます。

3. 鳥獣保護区等⑪

「ガンカモ類の生息調査 調査項目」1 (9)を確認の上、該当するコード番号に丸印 (○) を付けます。

4. 天候⑯

「ガンカモ類の生息調査 調査項目」1 (13)を確認の上、“1”～“5”のコード番号を記入します。

5. 給餌コード⑰

「ガンカモ類の生息調査 調査項目」1 (14)を確認の上、1 (有)、2 (無)、3 (不明) のいずれかに丸印 (○) を付けます。

6. 環境コード⑱、備考⑲

「ガンカモ類の生息調査 調査項目」1 (15)を確認の上、該当するコード番号に丸印 (○) を付けます。

8 (その他) に該当する場合、その具体的内容、特記事項等を備考欄に簡潔に記入してください。

第4章 個体数調査票（現地調査員報告様式例2～6）の作成

「別紙1-1 ガンカモ類の生息調査 調査項目」2（2）を確認の上、現地調査員報告様式例4-2右半分の、種名に＊を付けた希少なカモ類について、その種と判断した理由・根拠（識別ポイント）がある場合は、現地調査員報告様式例6にも記入し、「備考・識別ポイント」の欄にその種と判断した理由を記入してください。

1. 調査地点番号

調査地点番号については、調査地点調査票（現地調査員報告様式例1）の作成時に使用した番号(③)に合わせて、記入します。

2. 種別個体数（ハクチョウ類、ガン類、カモ類、カワウ）

調査地点ごとに、種別個体数を記入してください。

3. 亜種（ハクチョウ類、ガン類、カモ類）

ハクチョウ類、ガン類、カモ類のうち、同じ種内に複数の亜種を含む種について、亜種レベルまで個体数が把握できた場合は、現地調査員報告様式例2～4にその合計数を記入し、現地調査員報告様式例6ではその内訳を記入してください。

4. 種コード・亜種コード・種名

現地調査員報告様式例6の「種コード」・「亜種コード」・「種名」は、別紙1-2「日本産鳥類目録第7版（平成24年改訂）抜粋改変版」に記載されているものを記入してください。

第53回ガンカモ類の生息調査報告書

令和5年(2023)年3月

環境省自然環境局
生物多様性センター

〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾 5597-1

電話：0555-72-6033

業務名 令和4年度ガンカモ類の生息調査報告書等作成業務

請負者 株式会社 数理計画

〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町2丁目5番4号 (OGAビル)